

福島県立図書館所蔵

# 朝河貫一資料目録

改訂版



福島県立図書館

福島県立図書館所蔵

# 朝河貫一資料目録

改訂版

福島県立図書館



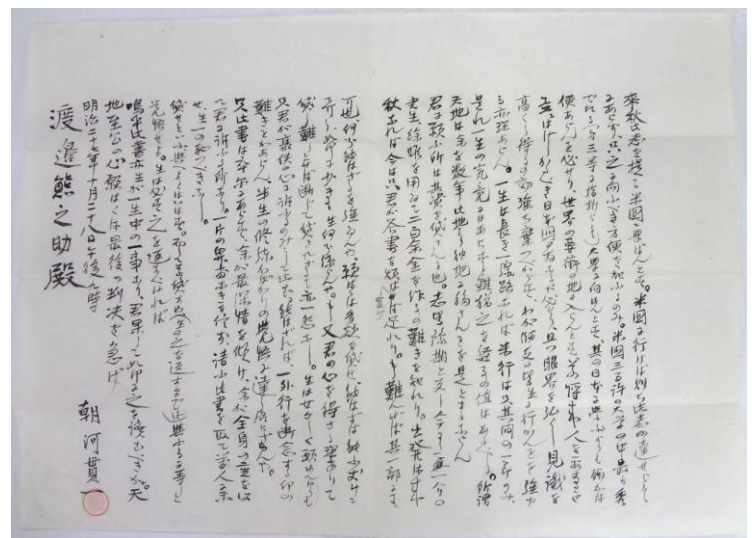
父・正澄



継母・エヒ



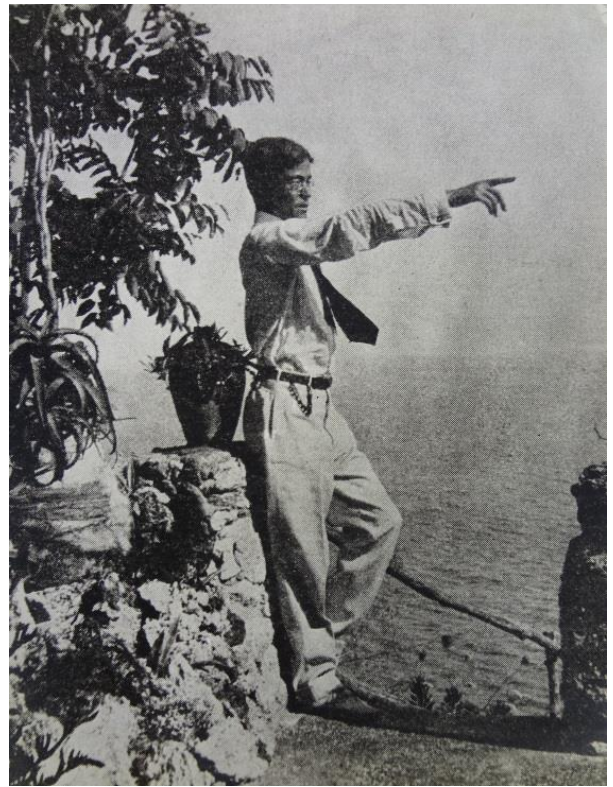
ダートマス大学時代



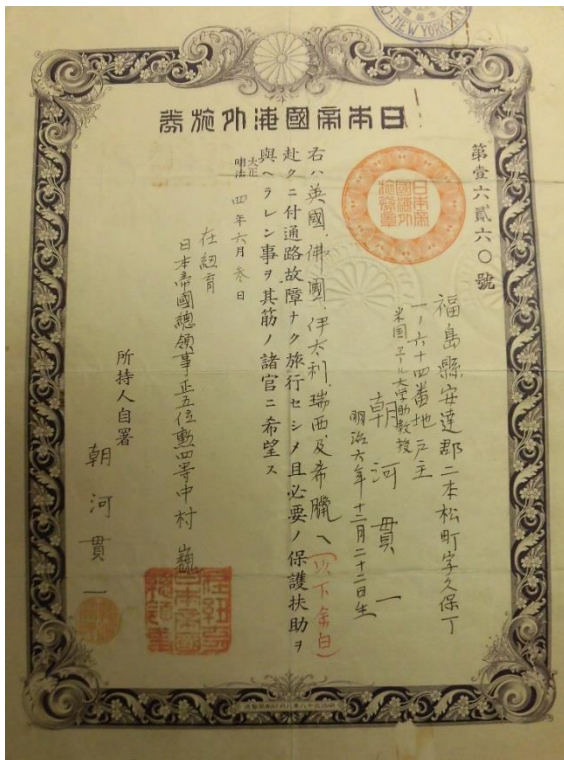
朝河 20 歳の時、故郷の友人・渡邊熊之助へ留学費用の借用を申し入れた書簡【整理番号 A23-1】



妻・ミリアム朝河



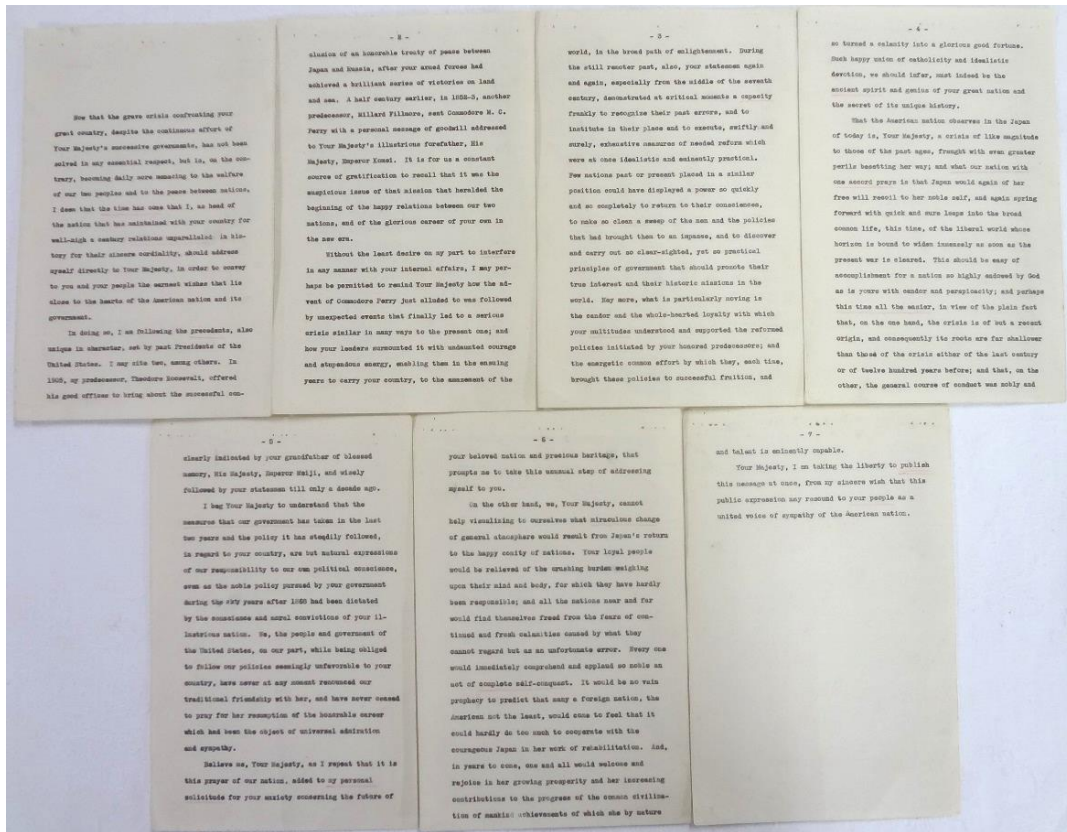
1915年夏、イタリア・カプリ島にて



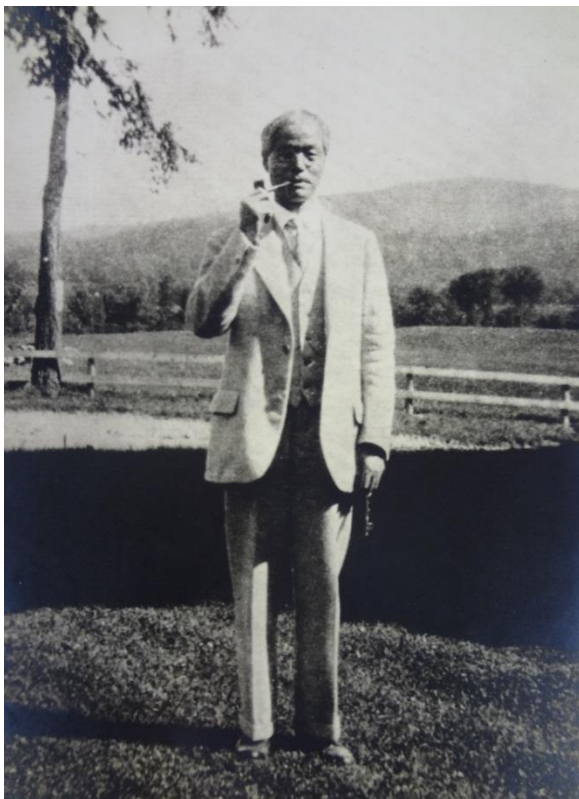
自署入りパスポート (1915年)



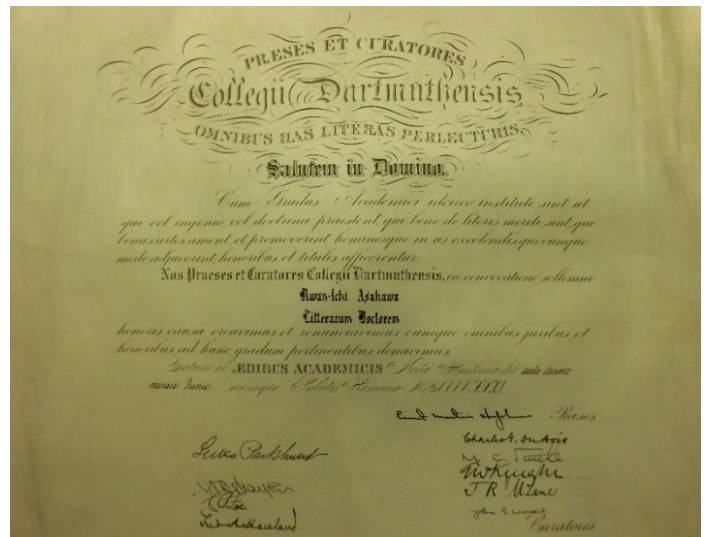
パスポート写真 (1919年)



朝河起草・昭和天皇宛大統領親書草案（所々に朝河による下赤線が見られる）【整理番号 D133-4】



壮年期（撮影時期不明）



ダートマス大学より贈られた名誉文学博士証書



朝河の眠る墓 (アメリカ ニューヘブン市グローブ・ストリート墓地)

## ◆ 朝河貫一資料目録 目次 ◆

序		1
『朝河貫一資料目録』について		2
福島県立図書館所蔵「朝河貫一書簡」の概要 (早稲田大学文学学術院教授 甚野尚志)		3
凡例		5
著作及びその他の資料	<u>262 点</u>	6
書簡	<u>2,555 点</u>	
(1) 和文書簡	626 点	
朝河貫一発信書簡	66 点	8
朝河貫一受信書簡	548 点	10
その他の書簡	12 点	25
(2) 欧文書簡	1,929 点	
朝河貫一発信書簡	467 点	26
朝河貫一受信書簡	1,424 点	52
(うちミリアム夫人受信書簡 5点)		
その他の書簡	38 点	98
朝河貫一略年譜		100

## 序

この度、『朝河貫一資料目録 改訂版』が刊行の運びとなりました。

二本松市出身の朝河貫一博士は、生涯を通じて国際協調と世界平和こそが人類の永遠のテーマであることを訴えてこられた歴史学者であり、アメリカのイェール大学で日本人初の教授に就任され、その功績を世界的に認められた郷土の偉人であります。

博士は、世界を俯瞰する眼を持っており、第二次世界大戦中には、日米開戦の回避には天皇の勅命しかないとの考えに基づき、ルーズベルト米大統領から昭和天皇宛の大統領親書草案を作成されたことは、つとに有名です。

本年度は、博士が昭和 23(1948)年に 74 歳で御逝去されてから 70 年という節目の年であり、博士の功績を顕彰する事業が日本各地で催されました。

当館でも、4 月に ホームページ上に特設のページを開設し、8 月の命日に合わせ企画展示「海を渡ったサムライ 朝河貫一没後 70 年記念展」や講演会等を実施してまいりました。

この目録（改訂版）の発行は、当館における朝河貫一没後 70 年記念事業の集大成となるものです。

改訂に当っては、初版を全面的に見直し、書簡内容に解説を加えるなど利便性の高い目録となるよう改善いたしました。

解説の執筆等、御協力いただきました早稲田大学文学学術院 甚野尚志教授には、深く感謝の意を表しますとともに、関係の方々に厚く御礼申し上げます。

平成 31 年 1 月 18 日

福島県立図書館長 杉浦 孝幸



## 『朝河貫一資料目録』について

朝河貫一博士は、1948（昭和 23）年に逝去されるまで生涯にわたり膨大なメモやノート、日記、書簡を残しています。なぜこれほど多くの書簡などが残っているのか。それは、博士の「記録魔」たる性格が影響していると思われます。

個々の資料を見てみますと、届いた書簡には受け取った日付がメモされ、さらにその内容が自身の日記に記されていたりします。送信する書簡はまず下書きし見直した上清書したものを送り、手元に下書きを残すという具合でした。博士はその生涯を終えるまで、これらの書簡や下書きなどを大切に保存していました。

博士はイエール大学を定年の際、蔵書の多くを大学に寄贈していますが、没後、大学は手元に残された遺産や遺品、日本語で書かれた書簡類などの正当な相続人を求めてアメリカ・ニューヘブンの遺産相続裁判所に調査を依頼し、結果、日本の親せきに当たる方々が判明しました。

1949（昭和 24）年 5 月、福島県伊達市月館に住んでいた甥の斎藤金太郎氏に連絡があり、1953（昭和 28）年には遺品が届けられました。その遺品の中には、明治・大正・昭和に渡る著名人からの書簡など貴重な資料が含まれていました。

同年 9 月、東京日本橋三越本店において「朝河博士顕彰遺品展」が福島県観光物産展上で開催され、福島県が生んだ世界的偉人として紹介、関係文献を含めた遺品が公開されました。

その後、アメリカから贈られた遺品の所有者である斎藤信夫氏（金太郎氏の御子息）や、博士の生涯を描いた『最後の「日本人」』の著者である阿部善雄氏らの研究者の間で、公的な機関での保存・保管が検討され、1981（昭和 56）年に福島県に打診があり、当館が受け入れ先となる方向で話し合いがなされました。1984（昭和 59）年 3 月、正式な寄贈の手続きを経て当館に収蔵されました。

同年 7 月 22 日から 1 か月に渡って現在の地に移転した新館落成記念として、「朝河貫一博士展-福島と二つの祖国-」を開催し、特殊コレクション「朝河貫一資料」をお披露目しました。コレクションは、大きく 4 つに分類され約 2,800 点を数えます。

- (1) 斎藤家伝来の朝河貫一関連資料
- (2) イェール大学より遺品として贈られた和文書簡
- (3) 阿部善雄氏を通じて追加された英文書簡
- (4) 当館で斎藤家以外の遺族により寄贈を受けた和文書簡

当館では、寄贈後コレクションの整理に着手し、1992（平成 4）年に最初の目録を作成していますが、書簡の送受信者や日付を記しただけのシンプルなものでした。

1996（平成 8）年には、書簡類を CD-ROM に収めるなどして活用と保存をはかり、コレクション以外にもイエール大学で所有する資料をまとめた『Kan'ichi Asakawa Papers（マイクロフィルム版）』を購入するなどして博士関連資料の充実を図ってまいりました。

この度の改訂版は、ほぼ全ての書簡に書簡内容などの追加情報を付記しました。欧文書簡には早稲田大学文学学術院 甚野尚志教授の全面的な協力を得て、書簡の内容や人物についての解説が加わり、和文書簡も不明な部分を福島県歴史資料館の協力を得て解説いたしました。今後の研究にこの目録が活用されることを願っています。

## 福島県立図書館所蔵「朝河貫一書簡」の概要

早稲田大学文学学術院教授 甚野尚志

### 朝河貫一の生涯と業績

朝河貫一（1873－1948年）は二本松に生まれ、立子山で育ち、福島県尋常中学（現在の県立安積高校）を卒業した。いうまでもなく郷里・福島が生んだ世界的歴史学者である。朝河は東京専門学校を卒業するとダートマス大学に留学し、その後イエール大学の大学院に進み、1907年にはイエール大学の歴史学講師となり、同時にイエール大学の東アジア図書部長として日本語および中国語図書の収集でも功績を残した。1929年には『入来文書（The Documents of Iriki）』を刊行し、欧米の歴史学界で比較法制史学者としての名声を得て1937年にはイエール大学教授となる。さらに朝河は日本を巻き込んだ国際紛争に際して、著作や書簡を通じて日本の外交に対して警告を発し続けたことでも有名である。すなわち、ポーツマス条約後の日本外交に対し『日本の禍機』（1909年）により厳しく批判し、1941年の日米開戦に際してはルーズベルト大統領から天皇宛の親書案を作成し、親書送付による開戦阻止を試みている。

### 福島県立図書館所蔵の朝河貫一書簡

朝河は1948年8月11日に没したが、その後には書簡、日記、論文の草稿、ノート、メモなどの膨大な遺品が残った。イエール大学では、朝河が残した研究に関するメモ、ノート、日記などの図書館での保管を決め、重要でないといみなされた相当数のメモ、ノート類は廃棄された上で、遺稿は「朝河貫一文書(Kan'ichi Asakawa Papers)」に整理され、スターリング記念図書館(Sterling Memorial Library)の「手稿資料部(Manuscripts and Archives)」に保管された。

一方、遺稿・遺品のうち書簡や写真など朝河の私的な遺産とみなされたものは、福島の遺族に返還され、最終的に福島県立図書館に所蔵されることになった。このように福島県立図書館所蔵の朝河書簡は、朝河没後にイエール大学から親族に返還された書簡を核としているが、またそれだけでなく、書簡の受信者の親族や関係者から直接、福島県立図書館に寄贈されたオリジナル書簡も加えられて構成されている。

また、イエール大学から返還された書簡のうち発信書簡に関して注意すべきことは、その多くが朝河発信書簡の実物ではなく、彼が自筆かタイプで作成した書簡の控えだということである。朝河は自身が書簡を出した際につねに自分用の控えを作成していた。控えを作成した理由は、第一に、誰にどのような書簡を出したか確認するためであったが、それだけでなく、朝河が自身の書簡を丹精込めて綴った一種のエッセーとみなしており、その文章を再読したいと考えたからであろう。したがって福島県立図書館の朝河発信の書簡には、書簡の受信者から返却された朝河書簡と、朝河が作成した書簡の控えとが混在している。また書簡には、友人や研究者との日常生活や研究内容に触れる書簡が多く見出される一方で、書店への注文や支払い、面会の日時取り決めのような事務的な書簡も数多く存在する。

### 和文書簡

次に、朝河貫一書簡のうち和文書簡について説明する。「朝河発信書簡(和文)」は66通あり、朝河がアメリカから日本の親戚、友人たちに送った書簡が中心である。自筆の控えも何通かあるが、

多くは親戚や友人などの受信者が図書館に寄贈したものである。「朝河受信書簡(和文)」は 548 通あり、発信者は、親戚のほか朝河が親交のあった日本の学者・知識人である。具体的には、瀧川政次郎、辻善之助、牧健二、三上参次、三浦周行、徳富蘇峰、高木八尺、坪内逍遥、村田勤など、朝河が親しく文通を行った人物からの書簡が中心である。「その他の書簡 (和文)」は 12 通あるが、それらは朝河没後の遺産問題などについて関係者間で交わされた書簡である。

### 欧文書簡

次に朝河貫一書簡のうち欧文書簡について説明する。「発信書簡 (欧文)」は 467 通あるが、このなかで最も興味深いのは、朝河のイェール大学院時代の文通相手マーガレット・ダイヤモンドに出した 111 通の自筆書簡(D-29-1 から D-29-111)である。朝河は年上のアメリカ人女性のダイヤモンドに対し、イェール大学の大学院入学時から数年間、近況を伝える書簡を送った。これらの手書き書簡からは朝河の青年期の精神的高揚がよく見て取れる。このダイヤモンド宛書簡は、ダイヤモンドの死後に遺族が朝河に返還したため、朝河が自身で保持していた。

「発信書簡 (欧文)」には、このほかに朝河が妻ミリアムに送った数通の書簡原本があるが、それ以外はすべて原本ではなく書簡の控えである。そのなかでも数が多いのは、女性の友人グレッチェン・ウォレン宛の書簡の控えで 50 通ある(D131-1 から D131-51)。なお、このグレッチェン宛書簡の朝河自筆書簡は、グレッチェン死後に遺族がイェール大学のバイネッケ図書館(Beinecke Rare Book and Manuscript Library)に寄贈し、「朝河貫一発グレッチェン・ウォレン宛書簡集(Gretchen Warren Letters from Kan'ichi Asakawa and related Papers)」として保管されている。また、この自筆書簡をタイプで打ち直した版がスターリング記念図書館の「朝河貫一文書(Kan'ichi Asakawa Papers)」にも入っている。このように、朝河の書簡の控えが福島県立図書館に所蔵されている書簡には、その原本やタイプ複製版がイェール大学にも所蔵されているものもある。

さらに「発信書簡 (欧文)」のなかには、朝河が作成した「天皇宛大統領親書案」の控えもある(D-133-4, ラングドン・ウォーナー宛の書簡の控えといっしょにされている)。おそらく、朝河は親書案をタイプでコピーを何通か作り、手元にこの一通を控えとして残したのであろう。

次に「受信書簡 (欧文)」をみれば 1425 通あるが、数が多いのは朝河の恩人タッカー教授の夫人からの書簡で 78 通ある (E-417-1 から E-417-78)。また、G.G.クラーク、L.I.ヒューズ、W.G.スタウトンなどの友人からの書簡、及び歴史学者のマルク・ブロック、オットー・ヒンツェからの書簡もあり、「受信書簡 (欧文)」からは朝河の欧米知識人との広範な交流が見て取れる。

また「その他の書簡 (欧文)」は 38 通あるが、それらは朝河没後の遺産相続などに関する書簡などである。

### 新目録作成の意義

今回の新しい目録は、1992 年に福島県立図書館で作成した『朝河貫一資料目録』の全面改訂版である。以前の目録では送受信の日時や送受信者の名前に誤りが散見され、何よりも欧文書簡に関しては解説がなく、目録として活用するには多くの不備な点があった。今回、我々は、書簡の日付、場所、送受信者の名前などを根本的に点検し、また欧文書簡については、新たに書簡内容の解説を書き加えた。和文書簡の見直しは福島県立図書館の職員が担当し、欧文書簡の見直しと解説の執筆は甚野尚志が行った。今後とも活用していただければ幸いである。

# 凡 例

- 1 この目録は、福島県立図書館が所蔵する「朝河貫一資料」2,817点を収録したものである。
- 2 資料種別・朝河による受発信の別・書簡の言語（和文・欧文）によって7種に分類し、それぞれに下記の整理記号を付した。  
AG : 著作及びその他の資料    A : 朝河発信書簡（和文）  
B : 朝河受信書簡（和文）    C : その他の書簡（和文）  
D : 朝河発信書簡（欧文）    E : 朝河受信書簡（欧文）  
F : その他の書簡（欧文）
- 3 記載事項は基本的に送受信者名、発信年月日、消印年月日、書簡内容、注記等からなるが、構成は資料分類により若干異なる。  
また、『朝河貫一書簡集』（朝河貫一書簡集刊行会、1991）に訳文のある書簡、及び『Kan'ichi Asakawa Papers, Box 3.』（イエール大学スターリング記念図書館蔵）に同一書簡の写しがある書簡については、「他資料掲載」を設けた。  
記載形式は下記のとおりとした。
  - (1) 『朝河貫一書簡集』（朝河貫一書簡集刊行会、1991）  
記載形式：「L-（書簡番号）」
  - (2) 『Kan'ichi Asakawa Papers, Box 3.』（イエール大学スターリング記念図書館蔵）  
記載形式：「P」
- 4 目録内に登場する人名・資料名（図書、雑誌、論文等）については、基本的に書簡内の表記に準じた。資料名の表記形式は、下記のとおりとした。  
書名・雑誌名（和文）：『タイトル』  
（欧文）： *タイトル*（イタリック体）  
論文名（和文）：「論文名」  
（欧文）：“論文名”
- 5 書簡内容は、主に和文書簡を当館職員、欧文書簡を甚野尚志氏が執筆した。
- 6 書簡は、朝河と書簡を取り交わした人物の氏名によって配列した。配列順は和文の場合50音順、欧文の場合アルファベット順とした。
- 7 資料本体には記載されていないが、内容等から推定される事項については [] で補記した。また文章内で強調されている語句に関しては ‘ ’ 内に表示した。

# 著作及びその他の資料

ID	整理番号	資料名	著・編者名	発行所	出版年	資料説明	備考	点数
1	AG-1	荘園研究	朝河貫一	日本学術振興会	1965	朝河の没後発見された遺稿及び寄稿論文を復刻したもの		1
2	AG-2	The Manchurian Conventions	同	Yale Publishing Assoc.	1909	Yale Review No.18	論文抜刷	1
3	AG-3	The New Regime in China	同	American Political Science Assoc.	1909	American Political Science Association	論文抜刷	1
4	AG-4	Some of the Contributions of Feudal Japan to the New Japan	同	The Journal of Race Development	1912	Journal of Race Development	論文抜刷	1
5	AG-5	The Origin of the Feudal Land Tenure in Japan	同	American Historical Review	1914	American Historical Review VolXX, No.1	論文抜刷	1
6	AG-6	Social Reactions of Buddhism in Medieval Japan	同	The Macmillan Co.	1917	Pacific Ocean in History	論文抜刷	1
7	AG-7	Some Aspects of Japanese Feudal Institutions	同	Yale Publishing Assoc.	1918	Transaction of the Asiatic Society of Japan	論文抜刷	1
8	AG-8	Japanese Feudalism	同	The Macmillan Co.	1931	Encyclopedia of the social sciences	論文抜刷	1
9	AG-9	朝河貫一著作・関係文献目録	朝河貫一書簡編集委員会	早稲田大学社会科学研究所	1988			1
10	AG-10	朝河貫一写真帖				この写真帖ははじめミリアム夫人の写真帖であったが、夫人死後、朝河によって葬儀関係の弔慰の手紙その他が加えられた。		1
11	AG-11	朝河貫一関係写真 I - II						183
12	AG-12	住所録					メモ書き5枚 挟み込み有	1
13	AG-13	朝河貫一博士の家系調			1949	星ハナ氏(貫一氏の姉キミの五女)が軍政附の厚意にて貫一氏に依頼し調査したものを、宗形勝雄が借用・謄写したもの(原文より)		1
14	AG-14	朝河家除籍謄本		伊達郡立子山村役場	1948	昭和23年10月8日付		2
15	AG-15	朝河貫一書簡集	朝河貫一書簡編集委員会	早稲田大学出版部	1990			2
16	AG-16	断簡零墨 I - II	朝河貫一			ダートマス大講師時代の試験問題・退職スピーチ草稿及びメモ・新聞切り抜き等		2
17	AG-17	朝河貫一著書刊行記念パーティ出席者名簿				[朝河没後]		1
18	AG-18	朝河博士顕彰遺品展の菜			1953	昭和28年10月6日～11日、東京三越本店7階における遺品点の菜		3
19	AG-19	追悼文(朝河婦人死去に際して)	金子馬治 他7名		1913			1
20	AG-20	故朝河貫一博士告別式会葬者芳名録			1949	法名:英脩院釋智覚超然居士		1
21	AG-21	朝河正澄手記	朝河正澄			父・正澄の経歴を記載したもの(戊辰戦争に従軍した際の記録等)		1
22	AG-22	[新聞切抜] 今日の人 八代八郎						1
23	AG-23	遺産関係重要書類						1
24	AG-24	The Union & New Heaven Trust Company 案内			1949	朝河の遺産を管理していた信託会社		1
25	AG-25	[新聞切抜] 支那の長者番付						1
26	AG-26	証状				ダートマス大学名誉文学博士称号証状・フランス歴史学紋章学会名誉会員証状		2
27	AG-27	Yale Studies for Returning Service Men				学校案内	表紙のみ	1
28	AG-28	イエール大学カレンダー 1930年						1
29	AG-29	英文支出メモ					封筒有	1
30	AG-30	出納帳 1919.11-1921.2					新聞記事切抜挟み込み有	1
31	AG-31	樹皮					内1枚に裏書有	4

# 著作及びその他の資料

ID	整理番号	資料名	著・編者名	発行所	出版年	資料説明	備考	点数
32	AG-32	日本帝国海外旅券			1915, 1919	1915年: フランス・イギリス・イタリア・ギリシャへ赴いた際のもの 1919年: 第2次日本帰国を終え、渡米した際のもの		2
33	AG-33	税付郵便物到着通知書[写]			1950			1
34	AG-34	日本画印刷図版	京都帝室博物館					10
35	AG-35	日本画等印刷図版						14
36	AG-36	Etching "The Return of the Prodigal Son" の切抜	Jean-Louis Forain				封筒有	1
37	AG-37	切抜・メモ等						6
38	AG-38	掛軸 朝河貫一博士精進歌	窪田空穂		1953	朝河の遺詠を作者が掛軸に描いたもの		1
39	AG-39	掛軸 朝河貫一俳句	朝河貫一		1894	郷土の親友であった高橋春吉に送った自作直筆俳句		1
40	AG-40	国民新聞切抜 中山大納言 第1-73回	松林伯圓	国民新聞社	1899		欠: 42回, 64-72回	1
41	AG-41	福島県会に対する建白書	朝河貫一		1892			1
42	AG-42	掛軸 漢詩朝河桜	竹内忠孝[松治]			作者は二本松出身で、朝河とは安積中学校、東京専門学校同期		1
43	AG-43	掛軸 漢詩悼朝河博士	竹内忠孝[松治]					1

# 朝河発信書簡(和文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記	他資料掲載
1	A-1	朝河正澄	1905	12	27	明治38年				無	米国に於て学究生活を続けることが、己の天命であると、父正澄に宛てた書簡の原稿		L-34
2	A-2	伊藤博文	1906	5	28	明治39年				無	憲法制定に用いた資料の整理活用を図るべきことの進言	自筆控え	L-36
3	A-3	井上秀子	1940	1	13	昭和15年				無	日本の支那侵略は米国において、極度の悪評であること、およびその理由について。日本の孤立とそのため日本人の心の歪み僻まめようにするのが困難であること。米国理解の重要性とその難しさについて。	自筆控え	
4	A-4	大隈重信	1913	5	18	大正2年				無	牧野氏著『最近外交事情』の英文に翻訳の件は引受不可能。米国大学における学究生活の多事なる事情を理解して欲しい。また牧野氏の論説は独創に乏しいと考える。	自筆控え	
5	A-5-1	大久保利武	1931	2	10	昭和6年				無	日中事変に関する所見。満州事件ははじめ非難少なかったが、軍事活動が拡大するに及び、批評の声が高くなった。日本側の根本の誤りは、日支間の難局を兵力にて一気に解決しようものと思ふ暗愚の迷想にある。	草稿	
6	A-5-2	大久保利武	1932	2	21	昭和7年				無	日中事変所見。国際連盟が日本の満州武力侵略に制裁を加える決議に米国が賛同することを、米国諸大学総長が大統領に請願したこと。その影響は大きい。日本が満州との共栄を主張するも認められ難い。日本および支那がこのたびの戦乱で得た経験によって根本より改造されることを望む。	自筆控え	
7	A-6	斎藤イリ	1919	10	6	大正8年	1919	10	31	無	和服等を送るので預かっておいて欲しいと頼む。		
8	A-7-1	斎藤キミ	1915			大正4年				無	年賀状		
9	A-7-2	斎藤キミ		6	26					無	手紙への御礼と送付した写真の説明		
10	A-8-1	斎藤金太郎	1923	1	1	大正12年	1922	12	17	無	年賀状		
11	A-8-2	斎藤金太郎	1923	2	25	大正12年	1923	2	25	無	近況を述べる。米国の気候について。		L-118
12	A-8-3	斎藤金太郎	1929	3	17	昭和4年	1927	12	19	無	近況を述べる。日本と米国の関係について。		L-144
13	A-8-4	斎藤金太郎	1930	8	17	昭和5年	1930	9	8	無	自分には人へ金を貸せるほどの経済状況にないこと。貯蓄を増やす方法について。		L-166
14	A-8-5	斎藤金太郎	1932	7	27	昭和7年	1930	8	17	無	日本農村が困窮している3つの理由について。		L-184
15	A-8-6	斎藤金太郎	1919	3	9	大正8年	1919	3	9	無	外国から来た友人と共に歩くこともできないほど多忙な状況を語る。	消印②1919.3.11	L-95
16	A-8-7	斎藤金太郎	1935	2	24	昭和10年	1935	2	25	無	斎藤家の経済事情を心配する。米国内の不景気について。		L-193
17	A-8-8	斎藤金太郎	1938	11	20	昭和13年	1938	11	21	無	日本国民に世界の様子がよく知らされていないことが、日本に甚だしい不利益を招くだろうと憂慮する。		L-205
18	A-9-1	斎藤ふみ[フミ]	1933	1	15	昭和8年	1933	1	15	有	ふみの結婚を祝す。満州事変を憂う。米国内の不景気について。		L-185
19	A-9-2	斎藤フミ	1934	1	9	昭和9年	1934	1	8	有	日本の世情が非常時であるのは、日本がみずから作りだしたものである。その対処を示して慰める。		L-188
20	A-9-3	斎藤フミ	1938	1	23	昭和13年	1938	1	24	有	支那事変については、日本を正義と思う人は、無きに等しく、他日恐るべき困難を招くであろう。		L-202
21	A-10	ジョンソン								無	日中事変の解決の途を探る。日本の選ぶべき途。米国今後の行動。世上最要の一事は日米の協和であること。(自筆控)		
22	A-11-1	高橋春吉	1918	2	9	大正7年	1918	10	26	有	‘世の厭ふべきは、一時の相なり、永久の相はむしろ楽しむべしとなす。世の忌むべきは一個の親なり、普通の親は寧ろ愛するべし’。人生を論じて、友人の境遇の嘆を慰める。	消印②1918.10.28	
23	A-11-2	高橋春吉		4	20					有	友人の不慮の災厄を慰藉する。		
24	A-11-3	高橋春吉		10	25					有	多感多涙の私にとって父母の事が心配でならないが、天は私に数年間の留学を命じた。長井ふくとの交際について。私の一生は一大詩歌(ポエトリー)である。[米国留学を前に]	筆写したもの(昭和27年11月安藤ふく叔母より拝借して、これを写す)	
25	A-12-1	高木八尺	1925	4	19	大正14年				無	書籍購入の手続について。大学内の書籍商ホイットロックブックストアの紹介。		L-131
26	A-12-2	高木八尺	1926	8	29	昭和1年				無	南原氏の政治学会入会の申込は受諾された。(Johnson氏の返書を同封する)ピショップの『ヘボン伝』を注文した。小生は1か月避暑中である。Ladd夫人は、暑中態々、ニューヘブンに赴かれ、朝鮮材料を発送されたこと。		L-138
27	A-12-3	高木八尺	1929	7	11	昭和4年				無	図書代金の支払について。『奈良朝時代民政経済の数的研究』(深田吾一著)他。(リスト)		L-149
28	A-12-4	高木八尺	1931	1	18	昭和6年				無	フランスの雑誌に日本の社会史と経済史に関する資料の紹介を依頼されたこと。日本現代の社会に関する著作の紹介を、分担して、お引受けいただけませんか。日本の研究の紹介、並に、日本に比較知見の題目が豊富であることを知らしめる好機である。		L-170
29	A-12-5	高木八尺	1931	8	9	昭和6年				無	Annales(『アナーナール』)誌の図書紹介記事の扱いについて。土屋氏に連絡のこと。		L-176
30	A-12-6	高木八尺	1931	9	13	昭和6年				無	社会史・経済史の出版物が少ないこと。米国史受贈の礼。ニューハンプシャーにて8月を過ごした。		L-178
31	A-12-7	高木八尺	1931	11	8	昭和6年				無	預り金(図書代金)の収支の連絡		L-179

# 朝河発信書簡(和文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記	他資料掲載
32	A-12-8	高木八尺	1936	11	8	昭和11年				無	Geographical Societyよりの前金請求の照会。同僚のため、日本の鳥類図鑑の目録を送付して欲しい。米国大統領選挙についての分析。		L-200
33	A-12-9	高木八尺		1	17					無	Johnson氏、傳記辞書編纂主任となる。Ladd夫人の資料のこと。		
34	A-12-10	高木八尺		4	17					無	Andrews教授(史学)、訪日予定あり。紹介する。日本の古文化を偲ばれたいとの希望。		
35	A-12-11	高木八尺								無	洋書発注のための自筆メモ。図書リスト。書簡の添付資料。		
36	A-12-12	高木八尺								無	英字新聞切抜2枚: <i>The Times Literary Supplement</i> 1926年4月22日・1926年[月日不明], 図書案内1枚: <i>The Dictionary of American Biography</i>	書簡の添付資料	
37	A-13-1	角田柳作	1940	5	5	昭和15年				無	イエール大学図書館にて、和漢書を整理するため適当な者の紹介を依頼する。		L-219
38	A-13-2	角田柳作	1941	12	24	昭和16年				無	戦時下の暮しの様子をたずね、再会を約する。		L-246
39	A-13-3	角田柳作		3	29					無	友人の動静、自己の暮しぶりなど		L-252
40	A-13-4	角田柳作		12	27					無	宿泊所についての報知。演題は‘土道と今日’である。		L-227
41	A-14-1	徳富蘇峰[猪一郎]	1917	4	29	大正6年	1917	5	6	有	近々、史料取調のため帰国予定である。欧州大戦と米国民の動向について。日本支那関係について憂慮を述べる。		L-81
42	A-14-2	徳富蘇峰[猪一郎]	1917	8	28	大正6年	[大正]6	8	28	有	国民新聞への米国に関する寄稿は、謝絶する。小冊子刊行についての相談。		L-84
43	A-14-3	徳富蘇峰[猪一郎]	1924	6	12	大正13年				有	Allen Johnson氏(イエール大学史学科教授)の紹介状。		L-126
44	A-14-4	徳富蘇峰[猪一郎]	1924	6	2	大正13年				無	米国の排日法に対するには、感情論を抑えて、正面より熱心に集注的に、成功するまで不断に主張することである。	自筆控え	
45	A-14-5	徳富蘇峰[猪一郎]				昭和2年	1927	12	19	有	クリスマスカード		L-140
46	A-14-6	徳富蘇峰[猪一郎]	1929	11	2	昭和4年	1929	10	13	有	蘇峰が国民社を辞したことについて		L-152
47	A-14-7	徳富蘇峰[猪一郎]	1933	9	16	昭和8年				無	氏の考えは妥当ではない。日本軍部の行動は、日本史の指す方向にあると言うべき意義に乏しく、単に某国の模倣に過ぎない。根本的な禍を蒔きつつある。	草稿	L-186
48	A-15	中川幽香子	1948	2	29	昭和23年	1948	2	29	有	村田勤死去の報を受けて、その娘・幽香子を慰める。75歳の自分は万事不如意であること。徳富蘇峰氏、小崎君の消息。日本の政情。将来について。		L-291
49	A-16	中桐確太郎	1938	3	6	昭和13年				無	日中事変所見。他国に侵入し、南京において幾多の暴行を行ったことは、米国では周知のことであり、日本は非常な危地に立っていることを知るべきである。	自筆控え	L-203
50	A-17	中村勝広、 中桐確太郎	1932	3	26	昭和7年				無	日本非難がかくも強まった理由 (1)上海における残虐行為 (2)満州における武力侵攻 (3)非武的解決主義の否定 (4)自決の理にて用兵するは許されず	自筆控え	L-183
51	A-18	鳩山一郎	1940	1	28	昭和15年				無	日本・ドイツに対する批判。日米通商条約破棄について、米国の民情は反対の声なし。米国民の日本批判の理由を理解すべき。日本とドイツの言う新秩序建設は不自然なものである。	自筆控え	
52	A-19-1	村田勤	1939	8	27	昭和14年				無	現時の国際関係(独・伊・露・英仏米)と日本のとるべき進路。支那事変解決の方途。	自筆控え	
53	A-19-2	村田勤	1939	10	8	昭和14年		10	9	有	欧州の戦乱とヒトラーの命運について		
54	A-19-3	村田勤	1947	11	30	昭和22年		12	1	有	占領政策が困難であることを思い、アメリカの功労へ謝する明あらんことを祈る。日本人の心情、日本の現状と将来について。	封筒に検印あり[アメリカ占領軍の検閲を受けた]	L-289
55	A-20	森久保善太郎	1921	3	9	大正10年				無	協力ありし東洋ミュージアム建設は、近き将来は無理である。イエール大学総長の大学経営の才乏しく、財政的不如意に陥り、教授の解雇、減俸などのやむなきに至った。ミュージアム準備金流用には反対する。ただ、その利子分にて図書を収集したい。千葉氏資料寄贈の件。		L-106
56	A-21	弥永千利	1948	6	25	昭和23年				無	申請の件について。書類返戻のこと。		L-295
57	A-22-1	(氏名不明)	1913	9	25	大正2年				無	政治活動について	草稿	
58	A-22-2	(氏名不明)	1926	6	27	昭和1年				無	東洋館の内容について	草稿	
59	A-22-3	(氏名不明)								無	長き友誼に対する礼状		
60	A-22-4	(氏名不明)								無	図書(元弘本古語拾遺他)寄贈に対する礼状	草稿	
61	A-22-5	(氏名不明)								無	年賀状		
62	A-22-6	(氏名不明)								無	クリスマスカード		
63	A-23-1	渡辺熊之助	1894	10	28	明治27年				有	東京神田の下宿から渡米費用の借用を申し入れたもの		
64	A-23-2	渡辺熊之助	1894	11	13	明治27年		11	13	有	アメリカ滞在中における信仰のことなど		
65	A-23-3	渡辺弥七(熊之助改名)	1906	11	11	明治39年	1906	11	12	有	第1回目の帰国時に書いたもの		
66	A-24	加藤(哲次?)	[1906]	[11]	[11]	[明治39年]				無	判読不能	A23-3書簡に同封	



# 朝河受信書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
1	B-1	阿木広之介	1920	1		大正9年				無	年賀状	
2	B-2-1	姉崎正治		8	18					無	客船ベレンガリヤ号よりの旅信	
3	B-2-2	姉崎正治		9	2					無	アメリカより旅の便り	
4	B-2-3	姉崎正治		9	28					無	シアトルよりの旅の便り、ロエルへの批評について	
5	B-3	安部磯雄	1922	12	4	大正11年				無	図書寄贈に対する、早稲田大学図書館の受領書	
6	B-4-1	栗野頼之祐	1935	9	22	昭和10年				無	栗野の著作に対する批評への返礼、他	
7	B-4-2	栗野頼之祐	1936	7	20	昭和11年				無	栗野の著作『ツェノオン』について、日本の西洋古代史研究について、他	
8	B-4-3	栗野頼之祐		7	24					無	栗野のイエール大学行について、島津氏資料について、他	
9	B-5	安藤国重	1913	5	15	大正2年				無	朝河夫人の死去に対する弔慰	
10	B-6-1	安藤ふく	1930	2	7	昭和5年				無	正司死去の知らせと、家族の状況、他	
11	B-6-2	安藤ふく	1930	4	20	昭和5年				無	安藤ふくの家族について、他	
12	B-7-1	安藤未瑳夫	1940	1	20	昭和15年				無	郷里の墓地の管理について、支那事変による郷里の変貌、他	
13	B-7-2	安藤未瑳夫		1	20					無	郷里の墓地の手入について、他	
14	B-8-1	五十嵐力	1907	12	26	明治40年	1907	12	26	無	年賀状(写真付)	
15	B-8-2	五十嵐力	1915	6	18	大正4年				無	島村、文芸協会対芸術座の件、他	
16	B-8-3	五十嵐力	1920	1	6	大正9年				無	坪内逍遙新作『法難』、中桐、雑誌『光』について、他	
17	B-8-4	五十嵐力		7	30	大正9年	1920	7		無	鹿児島・宮崎・長崎の旅の便り	
18	B-8-5	五十嵐力	1923	10	21	大正12年				無	関東大震災による早稲田大学の被害状況	
19	B-8-6	五十嵐力		9	28					無	The Documents of Iriki (『 incoming documents 』) 寄贈に対する礼状、銀行との支払の交渉について。近況。	
20	B-9	伊木寿一	1914	1	1	大正3年	1914	1	5	無	年賀状	
21	B-10	郁文堂書店	1908	12	20	明治41年		12	20	無	『徳川実紀』の送付について	
22	B-11-1	生稲忠郎	1910	5	29	明治43年				無	礼状	
23	B-11-2	生稲忠郎		1	29					無	挨拶状	
24	B-11-3	生稲忠郎		4	28					無	寄付金300円について	
25	B-11-4	生稲忠郎		8	30					無	校友らとの集まりに朝河を招待する。	
26	B-11-5	生稲忠郎								無	米国の食堂について	
27	B-11-6	生稲忠郎								無	早稲田大学への献納金について	
28	B-12	石井修		10	30					無	就職依頼状	
29	B-13-1	石田新太郎		5	27					無	大学の教職員について	
30	B-13-2	石田新太郎		6	6					無	大学の教職員について	
31	B-14	井芹経平		5	8					無	社会一般、教育・政治について。図書寄贈への礼状。	
32	B-15-1	市嶋謙吉	1908	11	13	明治41年				無	早稲田大学基金について、吉川に関する件。図書の発注と送付事務(日本より米国)。	
33	B-15-2	市嶋謙吉	[1913]	3	24	大正2年				無	朝河夫人の死去に対する弔慰、他	
34	B-15-3	市嶋謙吉	[1913]	4	2	大正2年	1913	4		無	出版社について、連絡	
35	B-15-4	市嶋謙吉	1916	7	31	大正5年				無	早稲田大学図書館の整備、身辺の近況	
36	B-15-5	市嶋謙吉	[1923]	10	19	大正12年				無	関東大震災の見舞に対する礼、災害の状況(学校、出版社等、火災が被害を広げたこと)	
37	B-16-1	一宮隆太郎	1914	11	12	大正3年				無	招待に対する返書	
38	B-16-2	一宮隆太郎	1922	11	12	大正11年				無	朝河宅訪問時の礼状	
39	B-16-3	一宮隆太郎		3	26					無	亜細亜協会、満州国、パナマ地帯、他(領土問題)	
40	B-16-4	一宮隆太郎		5	20					無	日本の立場を理解せしめるための運動、資料の作成、他(日米関係)	
41	B-16-5	一宮隆太郎		6	2					無	井上準之助(当時日本銀行営業局長)について	
42	B-16-6	一宮隆太郎		6	5					無	荒川の挙式について、他	
43	B-16-7	一宮隆太郎		11	11					無	四国借款、他(質問に対する回答)	
44	B-17	一宮某内儀				[大正]				無	朝河夫人の死後、家庭を案ずる文面	
45	B-18	板澤武雄	1936	1	15	昭和11年				無	原六郎に関する資料調査依頼	
46	B-19	伊東忠太	1923	10	25	大正12年				無	関東大震災の見舞に対する礼状	

# 朝河受信書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
47	B-20	稲垣晋清				明治40年	1907	8	3	無	訪日中の朝河宅訪問の礼状	
48	B-21	今井貫一	1913	4	25	大正2年				無	イエール大学図書館等への視察依頼	
49	B-21	今井貫一	[1913]	5	24	大正2年				無	上記依頼の礼状	
50	B-22	井村米太郎	1918	9	13	大正7年	1918	9	14	有	高野の文書を研究することに対する返書[井村(紀州高野山)発、朝河(奈良市東大寺気附)宛]	
51	B-23-1	弥永千利	1938	11	7	昭和13年				無	大学就職の援助を求める。	
52	B-23-2	弥永千利	1939	1	21	昭和14年				無	大学教職の件について、就職の助力を求める。	
53	B-23-3	弥永千利	1939	2	22	昭和14年				無	大学教職の件、研究の主題、他	
54	B-23-4	弥永千利	1939	3	30	昭和14年				無	就職に対する援助への礼状	
55	B-23-5	弥永千利		4	10					無	就職の件について、研究補助金交付のこと	
56	B-24	入来院重光		8	15	大正8年	1919	8	15	有	入来院家文書発表の件に対する返書[入来院(鹿児島県薩摩郡入来院)発、朝河(東京市下谷区茅町215)宛]	消印②「8.18」
57	B-25-1	浮田和民		1	11	大正1年	1912	1	14	無	Ladd先生に『太陽』欠本送付について	
58	B-25-2	浮田和民	[1927]	2	27	[昭和2年]				無	Fisher教授、Ladd夫人の消息について、近況、他	発信年:朝河によるメモ書を参照
59	B-26	内田銀蔵		12	4					無	アメリカ滞在中の好意に対する謝礼	
60	B-27-1	瓜生外吉		6	10					無	滞在中の世話に対する礼状	
61	B-27-2	瓜生外吉		6	16					無	ウォーリンフォードより近況、他	
62	B-28-1	岡田五兎	1908	9	22	明治41年				無	Japan in Manchuria[朝河著書]寄贈の礼状、あわせて所懐を述べる。	
63	B-28-2	岡田五兎	1912	1	1	大正1年				無	年賀状、あわせて近況を述べる。	
64	B-28-3	岡田五兎	1912			大正1年				無	病気見舞(腸チフス)、日本人の国民性、福島中学の同窓生の近況について、他	
65	B-28-4	岡田五兎	1915	1	2	大正4年	1915	1	3	無	年賀状、家族の近況	消印②「1915.1.4」
66	B-28-5	岡田五兎	[1921]	8	10	[大正10年]				無	労働争議が頻発している。和田豊氏、私立親和高等女学校の経営にあたること、他。	
67	B-28-6	岡田五兎	[1923]	10	18	[大正12年]				無	関東大震災の桑野関係者の被害少なかったこと、あわせて、震災地の世情を述べる。	
68	B-28-7	岡田五兎		2	17					無	朝河論文に対する感想、国民精神作興についての意見を述べる。	
69	B-28-8	岡田五兎		6	8					無	学寮火事見舞への返礼、あわせて近況を述べる。	
70	B-28-9	岡田五兎		6	23					無	雑誌『実業之日本』に朝河博士の妻帯の記事あり。	
71	B-28-10	岡田五兎		10	4					無	『日本の禍機』を受贈したこと、身辺の状況	
72	B-29	緒方[大谷]義一		4	9					無	紹介状受領とその礼状	
73	B-30	小川平右衛門	1928	8	29	昭和3年				有	森本芳雄氏渡米するにつき、あいさつ	
74	B-31-1	奥田或	1924	2	10	大正13年				無	ニューヘブン滞在時の礼状、あわせて近況を述べる。	
75	B-31-2	奥田或				昭和10年	1935	12	31	無	年賀状	
76	B-31-3	奥田或		6	23					無	台湾に於いて蕃地の研究に従事していること、近況、他	
77	B-31-4	奥田或		9	30					無	暴風雨の被害、図書受贈の礼、研究の進捗状況、台北大学の事情	
78	B-31-5	奥田或		11	16					無	研究の主題について、台湾蕃人の農業を研究する決心であること	
79	B-32-1	大久保利武	1924	10	20	大正13年				無	Johnson教授の印象、イエール大学東洋博物館(建設)について	
80	B-32-2	大久保利武	1925	3	20	大正14年				無	イエール大学東洋博物館陳列資料の件、文化資料の寄贈が決定した。黒板博士に委嘱決定。	
81	B-32-3	大久保利武	1925	10	8	大正14年				無	入来院文書、日本文印刷の件、他	
82	B-32-4	大久保利武	[1929]	5	20	昭和4年				無	The Documents of Iriki(『入来院文書』)完成を祝す。	発信年:朝河によるメモ書を参照
83	B-32-5	大久保利武	1931	3	3	昭和6年				無	日本よりイエール大学図書館へ寄贈資料送付の件、The Documents of Iriki(『入来院文書』)好評なること	
84	B-32-6	大久保利武	1931	12	25	昭和6年				無	日本よりイエール大学へ寄贈資料の準備状況	
85	B-32-7	大久保利武	1933	6	29	昭和8年				無	日本よりイエール大学へ寄贈資料の整理状況(寄贈品揃い黒板博士指導の下に解題を付する)	
86	B-32-8	大久保利武	1934	12	20	昭和9年				無	日本よりイエール大学への資料寄贈の手続が終了した。	
87	B-32-9	大久保利武	1936	9	20	昭和11年				無	『御堂関白記』複写版刊行について。啓明會補助の件。	
88	B-32-10	大久保利武		2	10					無	日本よりイエール大学へ寄贈図書、残品2箱到着した。募金額について、カタログ、他。	
89	B-32-11	大久保利武	[1925]	7	30	[大正14年]				無	原稿印刷費用のこと、入来院重光死亡のこと、他	発信年:朝河によるメモ書を参照

# 朝河受信書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
90	B-32-12	大久保利武	[1926]	8	7	[昭和1年]				無	The Documents of Iriki (『入来文書』) 出版に故障を生じた。	発信年: 朝河によるメモ書を参照
91	B-32-13	大久保利武		8	13					無	日本よりイェール大学へ寄贈資料到着したこと、英文説明書制作の経緯、他	
92		大久保利武		8	21					無	追伸	
93	B-32-14	大久保利武		9	1					無	The Documents of Iriki (『入来文書』) 印刷終了し、近く発送する。入来院文書写真の件、他。	
94	B-32-15	大久保利武		9	10					無	入来院親戚南尾氏よりの資料について、印刷費用、他	
95	B-32-16	大久保利武		11	20					無	イェール大学へ寄贈資料の収集、整理状況について、他	
96	B-33-1	大隈重信	1913	4	21	大正2年				無	牧野義智著『最近外交事情』の英文翻訳並に米国にて出版方についての推薦	
97	B-33-2	大隈重信		7	17			7	17	有	返書延引のこと。ウィルソン大統領述懐談について。	
98	B-33-3	大隈重信		12	20					無	活字類送付のこと。『開国五十年史』出版について、売行良好である。	
99	B-34	大隈重常	1922	1	18	大正11年				有	大隈重信死去、弔問の礼状	
100	B-35	奥村多喜お	[1911]	2	10	[明治44年]				無	長子梅太郎、修学の世話を受けていることについての礼状	発信年: 朝河によるメモ書を参照
101	B-36	尾崎良胤、 田中文男	1915	5	13	大正4年				無	米国留学中、イェール大学案内を乞う。	
102	B-37-1	犬塚又兵	[1906]	6	20	[明治39年]				無	近況を述べる。漢詩を付す。	発信年: 朝河によるメモ書を参照
103	B-37-2	犬塚又兵	[1906]	10	3	[明治39年]				無	近況を述べる。所有している鐔の押形約300枚を差し上げるので、米国に持ち帰ってもらえると嬉しいと伝える。	発信年: 朝河によるメモ書を参照
104	B-38	小谷部全一郎								無	文書送付の件について(未到着であること)	
105	B-39-1	筧舜亮				明治40年	1907	8	7	無	文科大学の資料等について、協力すること	
106	B-39-2	筧舜亮		10	1					無	返送の講義筆記が届いたこと。安積中学同窓生として挨拶を述べる。	
107	B-40	加藤諦見		11	22	[大正8]	1919	11	24	有	登山の様子について[加藤諦見(高野山中院御房別格本山龍光院)]	消印②「25.11.19」
108	B-41	金沢M.		9	6					無	ベルリンに到着の知らせ	
109	B-42-1	金子堅太郎	[1933]	4	24	昭和8年	1933	4	24	有	封建制度に関する研究について意見を述べる。国民・階級・封建時代の精神。	
110	B-42-2	金子堅太郎	1938	12	3	昭和13年	1938	12	4	有	金子氏日露戦争中の滞米日記、日露戦争書類の出版についての経緯、他	
111	B-43	鎌田栄吉		10	20					無	訪問時の世話に対する礼状	
112	B-44	川中勸之助		11	17					無	日本語会話教授の適当なテキストについて照会	
113	B-45	紀淑雄(神奈川県 足柄下郡吉濱村)						10	14	無	『入来文書目録』を受領した。	
114	B-46	木岡英三郎 (在アメリカ)	[1923]	10	19	[大正12年]				無	関東大震災のため日本よりの援助が中絶し困窮しているが、芸術上の仕事・研究は続ける。ボストン日本協会による援助の話には喜んでいる。	
115	B-47-1	菊池大麓	1910	6	26	明治43年				無	米国大学総長を日本に招待する件、思うように進捗しない。	
116	B-47-2	菊池大麓		2	21					無	イェール大学における講演について、演題の打合せ	
117	B-48	北河原公海		6	30					無	『凝然國師年譜』2冊、送付した。群馬県高崎にて発掘された古刀、5万円にてイェール大学に売却したく、仲介の労をとること。	
118	B-49-1	北原淑夫 (在ニューヨーク市)	1909	3	1	明治42年				無	山懸商店に勤務したが、経済恐慌により倒産し、かつ外国視察旅行中の後輩であるが、コロンビア大学のスカラシップを得るため、推薦状を依頼する。	
119	B-49-2	北原淑夫	1909	4	12	明治42年				有	アメリカで修学するには如何なる方針を以てなすべきか、自己の考えを述べ意見を乞う。	
120	B-49-3	北原淑夫	1910	12	23	明治43年				無	早稲田大学卒業生の1人のユニオン神学校退学を報じ、日本人学生に訓戒を乞う。自分はユニオン神学校、コロンビア大学に学んでおり、諸氏の温愛に感謝している。	
121	B-49-4	北原淑夫	1911	4	24	明治44年				無	ユニオン神学校より、コロンビア大学に移る考えあり。日本におけるドイツ崇拜について。	
122	B-49-5	北原淑夫		2	22					無	ユニオン神学校のオリエンタルスカラシップが廃止の方向にあること	
123	B-49-6	北原淑夫		5	18					無	ユニオン神学校、修業した。プリオレ校長に敬服している。	
124	B-49-7	北原淑夫	[1910]	5	23	[明治43年]				無	自己の将来について、ドイツへ行って勉学を継続するのが宜しいか、意見を乞う。	発信年: 朝河によるメモ書を参照

# 朝河受信書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
125	B-49-8	北原淑夫		5	23					無	ユニオン神学校へ入学を許可されたこと	
126	B-49-9	北原淑夫		6	3					無	神学校の奨学生になれなかった。コロンビア大学より、イエール大学に入学したく、助力願いたい。	
127	B-49-10	北原淑夫		6	7					無	勉学の方向についての教示を感謝する。ユニオン神学校よりは、回答がない。	
128	B-49-11	北原淑夫		6	10					無	礼状、他	
129	B-49-12	北原淑夫		7	27					無	ユニオン神学校より給費の許可があったこと、他	
130	B-49-13	北原淑夫		9	21					無	コロンビア大学に入学許可されたこと、他	
131	B-49-14	北原淑夫		11	4					無	学業の方針を変え、シカゴ大学に転学することを報せる、他	
132	B-50	九鬼一造		6	21					無	手紙回送の途中、紛失してしまったことへの詫状	
133	B-51-1	久保猪之吉	1921	6	21	大正10年				無	図書等、受領したこと、伊藤夫人の歌集について、他	
134	B-51-2	久保猪之吉	1920	12	28	大正9年				無	研究論文等、出版困難の状況、排外鎖國的な世情、他	
135	B-51-3	久保猪之吉	1924	12	20	大正13年				無	礼状	
136	B-52	久保良英		12	23					無	学会行事参加のため渡米するにあたり、書を呈する。	
137	B-53	久保和三郎	[1923]	10	20	[大正12年]				無	関東大震災の為、勤め先の会社は焼失。震災の惨状、朝鮮人に対する暴行。知人の被害状況、他。	
138	B-54-1	窪田勝弘	1908	12	27	明治41年				無	しばらく連絡していなかったことを詫びる。遠藤氏の病死・日米の景気について。	
139	B-54-2	窪田勝弘	1909	6	8	明治42年				無	遠藤氏の未亡人のことなど、近況を述べる。	
140	B-54-3	窪田勝弘		8	18					無	飯田旗郎氏を紹介する。	
141	B-55-1	窪田常秋	1914	1	1	大正3年				無	年賀状	
142	B-55-2	窪田常秋		9	7					無	著述受領するも、窪田勝弘死去すること、生前の恩顧を謝す。	
143	B-56	熊田督	1910	5	2	明治43年				無	米国にて苦学したく、その方途を問う。	
144	B-57-1	久門商利	1934	7	23	昭和9年				無	支那及朝鮮本並に複製本の送付について	
145	B-57-2	久門商利	1934	8	21	昭和9年				無	偉人画の送付について	
146	B-57-3	久門商利	1935	2	23	昭和10年				無	正誤表の送付について、他	
147	B-57-4	久門商利	1935	7	23	昭和10年				無	日本文化研究資料に関する目録送付について	
148	B-57-5	久門商利	1936	4	12	昭和11年				無	桜樹寄贈の件について、桜樹200株輸入許可書を米国政府に申請すること	
149	B-57-6	久門商利	1936	6	27	昭和11年				無	桜樹寄贈の件について、日本文化研究資料が好評なこと、他	
150	B-57-7	久門商利	1936	9	27	昭和11年				無	桜苗寄贈の件について、樹種は先方の指示に沿うこと、発送時期は11月以後が適期、他	
151	B-57-8	久門商利	1924	11	30	大正13年				無	イエール大学、東洋博物館納入の書籍の送付について、一部資料は入手困難に付、購入済の分、船便にて送付すること(『五種會要』、『大唐開元禮』他410冊)	
152	B-58	栗林圓悔				明治40年	1907	7	25	無	来訪並びに回向料に対する礼状	
153	B-59-1	黒板勝美	1908	1	1	明治41年				無	年賀状渡米の挨拶	
154	B-59-2	黒板勝美		5	10					無	ヨーロッパ旅行、旅信	
155	B-59-3	黒板勝美		6	19					無	朝鮮よりの旅信、上代韓国史研究のため朝鮮旅行の途次	
156	B-60	小泉顕夫		11	10					無	考古学資料の送付ならびに交換について	
157	B-61-1	小泉信三	1936	11	30	昭和11年				無	渡米時の接待に対する礼状	
158	B-61-2	小泉信三		4	6					無	『農家年中行事絵巻』を進呈すること、他	
159	B-61-3	小泉信三	[1936]	[9]	30	[昭和11年]				無	イエール大学訪問時の世話に対する礼状	発信年月:朝河によるメモ書を参照
160	B-62-1	幸田成友	1911	1	1	明治44年	1911	1	2	無	年賀状、資料送付に対する礼状	消印②「11.1.？」消印③「1.27」
161	B-62-2	幸田成友				大正4年	1915	1	5		年賀状大阪市史編纂が漸く終了したこと。近況を述べる。	消印②「15.1.6」
162	B-63	後国想乗		10	21					無	米国遊学の方途を問う。	
163	B-64-1	国書刊行会	1911	2	20	明治44年	1911	2	20	無	図書代金の会計連絡	消印②「3.15」
164	B-64-2	国書刊行会	1911	4	20	明治44年				無	図書代の会計および発送の通知	
165	B-64-3	国書刊行会	1911	6	4	明治44年				無	図書の郵送について	
166	B-64-4	国書刊行会	1912	10	10	大正1年	1912	10	10	無	図書代金の清算について	
167	B-64-5	国書刊行会	1912	12	28	大正1年				無	図書の送付について	

# 朝河受信書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
168	B-64-6	国書刊行会		6	27	明治42年	1909	6	28	無	図書代金の清算について	消印②「7.22」
169	B-64-7	国書刊行会		6	28			6	28	無	図書の発送について	消印②「7.29」
170	B-64-8	国書刊行会		7	11					無	図書代金の清算について	
171	B-65	國華社		3	7					無	雑誌『國華』バックナンバー注文の件、67冊イェール大学図書館に納入した。	
172	B-66	小山				明治43年	1910	11	14	無	埴原氏消息	
173	B-67	斎藤キミ子	1913	8	15	大正2年	1913	8	16	無	お悔み状、叔母の写真受領したこと	消印②「8.17」消印③「9.6」
174	B-68	斎藤金太郎				大正11年	1922	1	28	無	郷里の実家の近況を述べる。	
175	B-69	斎藤熊吉		3	7					無	弔慰の書簡	
176	B-70-1	斎藤花子	1938	7	31	昭和13年				無	姪より。現在、裁縫女学校を経営しているが、校舎増築のため土地を購入したく、援助を要請する。	
177	B-70-2	斎藤花子	1939	2	3	昭和14年				無	郷里月館の実家の近くの土地購入にあたり、支払の件を相談	
178	B-70-3	斎藤花子	1939	4	11	昭和14年				無	郷里月館の土地購入の件について、習物経営の苦心、他	
179	B-70-4	斎藤花子	1940	5	26	昭和15年				無	土地購入の件についての詫び状、立子山の墓参のこと、近況	
180	B-70-5	斎藤ハナ(花子)	1940	9	27	昭和15年				無	墓参のこと、知人の近況。是非、日本に帰国してほしい。	
181	B-70-6	斎藤ハナ(花子)	1940	12	17	昭和15年				無	送金の礼状。これを基に茶室を建てたい。近況。	
182	B-70-7	斎藤ハナ(花子)	1941	5	18	昭和16年				無	近況と叔父の教示に感謝していること。病気見舞。	
183	B-70-8	斎藤花子		10	9					無	専門学校を卒業し、中等教員の免状をとるまでの苦勞、現在は裁縫学校を経営している。	
184	B-70-9	斎藤ハナ(花子)		11	1					無	近況を述べる。裁縫学校のこと。	
185	B-71-1	阪谷芳郎	1908	5	27	明治41年	1908	5	27	有	書簡に対する礼状	
186	B-71-2	阪谷芳郎	1908	12	25	明治41年	1908	12	26	有	Japan in Manchuria 寄贈に対する礼状	
187	B-71-3	阪谷芳郎	1911	6	20	明治44年	1911	6	20	無	資料寄贈の礼状。北越新津油田、Biddle氏来日のこと。	
188	B-71-3	阪谷芳郎	1912	1	3	大正1年	1912	1	3	無	年賀状	
189	B-71-4	阪谷芳郎	1913	5	25	大正2年	1913	5	25	無	礼状。加州排日問題について。	
190	B-71-5	阪谷芳郎	1914	9	8	大正3年	1914	9	9	無	Immigration Restriction 寄贈に対する礼状	
191	B-71-6	阪谷芳郎	1915	12	8	大正4年				無	Journal of Economics 及び Business History 寄贈に対する礼状。三井家の沿革に関して。	
192	B-71-7	阪谷芳郎		2	2	[不明]5年				無	三井家沿革調査は現在三井家理事阪井徳太郎氏が実施中である。	
193	B-71-8	阪谷芳郎		12	7	[明治42年]	[1909]	7	13	無	Yale Review (vol.18 No.1) 寄贈の礼状	
194	B-71-9	阪谷芳郎								無	名刺にJ.P.C.と書入あり	
195	B-72	坂本義孝	1920	3	5	大正9年				無	訪問時の世話に対する礼状	
196	B-73	佐藤虎雄	1908	9	26	明治41年				無	雑誌『國華』の送本について	
197	B-74-1	重田慎之助		1	11					無	送金の礼状。経済状況、近況、他。	
198	B-74-2	重田慎之助		12	28					無	再渡米し、レストランに勤務している。知人の就学の途を問う。	
199	B-75	重久篤太郎	1935	7	29	昭和10年				有	イェール大学・京都帝国大学両図書館間の書籍交換拡張の希望について返書	
200	B-76	芝原豊三		11	9					無	訪問時の世話に対する礼状	
201	B-77-1	澁澤榮一	1910	6	10	明治43年	1910	6	10	有	実業団員訪問時の礼状。米国・満州について。『徳川公爵伝記』送付する。	
202	B-77-2	澁澤榮一	1920	7	16	大正9年				無	『徳川慶喜公傳記』献本について。本書編纂の労苦。米国との国交について。	
203	B-78	四本松正雄	1909	5	17	明治42年				無	同窓の友人尾形氏の窮状を救済したく、借財の申込	尾形信太郎氏よりの添書あり(明治42.5.23)
204	B-79-1	志水三郎	[1920]	12	17	[大正9年]				無	古文書出版完成の経緯について	
205	B-79-2	志水三郎		2	7					無	リーダー歴史地理書等恵贈の礼、古文書出版について、他	
206	B-80	下田歌子	1907	8	6	明治40年	1907	8	6	有	朝河からの依頼を了承したが、多忙のため延引することを許して欲しい。	
207	B-81	衆議院事務局庶務課図書係	1923	1	11	大正12年				無	The Yale Law Journalと衆議院出版物との資料交換についての回答	
208	B-82	書林其中堂	1909	6	22	明治42年				無	図書の注文について	
209	B-83-1	白井新太郎	1912	11	22	大正1年				無	子弟の米国遊学について	
210	B-83-2	白井新太郎	1917	5	29	大正6年				無	息子龍一郎米国留学中の世話に対する礼状	

# 朝河受信書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
211	B-83-3	白井新太郎	1931	1	1	昭和6年				無	年賀状。図書寄贈の礼。家族の近況。	
212	B-84-1	白井龍一郎	1913	1	13	大正2年				無	ダートマス大学における近況、父親よりの礼状を同封する。	
213	B-84-2	白井龍一郎		4	13					無	帰朝の際の宿泊所の相談	
214	B-85	白戸一郎		3	15					無	立替分清算の連絡	
215	B-86	新納忠之介		6	22					無	日英博覧会のカタログの送付について	
216	B-87	末延三次	1935	4	9	昭和10年				無	東大における英米法の講義、法学部の入学試験の状況、美濃部博士問題、日本主義に関する出版物について	
217	B-88	杉原又太郎		9	15					無	約束の書籍を送付したこと。カリフォルニア大学より、支那経済全書の翻訳について照会があり、これについての意見を求める。	
218	B-89	鈴木元郎	1910	4	11	明治43年				無	日程連絡、他	
219	B-90-1	関戸信次		4	16					無	夫人の死去に対する弔慰の書簡	
220	B-90-2	関戸信次								無	荷物、米国宛に送付した。イエール大学にて図書展覧会を開催したい。先般送付の肖像画は未到着につき、調査中である。	
221	B-91-1	関根蔵	[1910]	10	2	[明治43年]				無	祖母貞子死去の報知	発信年:朝河によるメモ書を参照
222	B-91-2	関根蔵	1910	12	23	明治43年				無	関根家(岩代梁川)の宅地取得のため、資金を用立ててもらいたい。	
223	B-92-1	関野貞	1910	8	31	明治43年				無	『文様集成』照会に対する返書、朝鮮の建築その他の遺跡調査を継続中である。	
224	B-92-2	関野貞		4	19					無	『楽浪郡時代の遺蹟』その他の資料の進呈について	
225	B-92-3	関野貞		7	29					無	図書寄贈の礼状、他	
226	B-93	高木貞衛	1914	12	31	大正3年				無	近況、友人の消息、他	
227	B-94	高木貞衛、 牧野席次[虎次]	1909	11	15	明治42年				無	欧米巡遊より帰国の挨拶状	
228	B-95-1	高木八尺	1931	7	1	昭和6年				無	現代社会の著述・論文を英文にて寄稿する件、適任者推薦は困難である。日本社会史経済史著書・論文出版の件について。	
229	B-95-2	高木八尺	1931	12	10	昭和6年				無	図書の購入についての連絡、満州事変と社会情勢、新聞・雑誌の論調	
230	B-95-3	高木八尺	1936	12	28	昭和11年				無	鳥類の原色図につき回答、ファシズムの社会情勢に立ち向う人はいない。	
231	B-95-4	高木八尺	1939	3	7	昭和14年				無	加州大学の日本文化史講義の課目復活について	
232	B-95-5	高木八尺	1939	8	12	昭和14年				無	弥永氏がスターリング奨学費に落撰したが、今後の指導を頼みたい。セイブルック・カレッジ寄贈の絵画の件、日英会談の模様について。	
233	B-95-6	高木八尺		6	5					無	Andrews教授来日の件、イエール大学よりのPhoto plays貸与の条件についての相談、他	
234	B-95-7	高木八尺		8	9					無	図書の購入について、 <i>The Documents of Iriki</i> (『 incoming 文書』)完成の由、今秋太平洋問題調査会大会あり。	
235	B-96	[高崎]清風	1926	1	20	昭和1年				無	明治神宮に転任し、かたわら国学院大学講師を勤めている。近況を述べる。	
236	B-97	高城仙次郎	1915	1	1	大正4年	1915	1	3	無	図書寄贈の礼状	
237	B-98-1	高田早苗	1913	3	12	大正2年				無	朝河夫人の死去を悼む。弔慰の書簡。	
238	B-98-2	高田早苗	[1917]		31	大正6年	1917	8	3	有	判読不能	
239	B-98-3	高田早苗		7	26					無	欧米旅行の途次、イエール大学参観したい。旅信。	
240	B-98-4	高田早苗		9	26					無	米国旅行の途次、ニューヘブン訪問の予定、他	
241	B-98-5	高田早苗		10	8			10	9	無	[ニューヘブン訪問時の]礼状	
242	B-99	高橋卯三郎、 高橋虔		11	23					無	高橋卯三郎(父)より、息子、虔、勝年の両名が、イエール大学在学中の世話に対する礼状[息子虔よりの添書あり]	
243	B-100	高橋新昴				明治40年	1907	10	20	無	結婚のお祝い	
244	B-101	高橋清吾	1917	1	30	大正6年				無	[ニューヘブン訪問時の世話に対する]礼状[裏面に返書案とみられるものあり]	
245	B-102	高峰譲吉	1910	1	11	明治43年				無	経済協会例会の時の礼状、他	
246	B-103	瀧精一	1920	10	8	大正9年				無	『日本歴史概要』の校正、協力に対する礼状	
247	B-104-1	瀧川政次郎	1932	4	9	昭和7年				無	米国に於いて出版予定の <i>Encyclopaedia of Social Sciences</i> (『社会科学百科辞典』)における事項Japan Lawの執筆依頼に対する承諾の返書	
248	B-104-2	瀧川政次郎	1932	5	21	昭和7年				無	<i>Encyclopaedia of Social Sciences</i> (『社会科学百科辞典』)の原稿を脱稿したが、日本語のままを送付する。	

# 朝河受信書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
249	B-104-3	瀧川政次郎	1932	8	6	昭和7年				無	Encyclopaedia of Social Sciences (『社会科学百科辞典』)原稿、至急追加の件。原稿英訳の写し、拝見した。	
250	B-104-4	瀧川政次郎	1934	9	21	昭和9年				無	近況を述べる。近来俗事多端、洋行の望みも機熟さず。	
251	B-104-5	瀧川政次郎	1935	4	7	昭和10年				有	昨年12月、満州新京に司法部参事官兼法学校教授として赴任したこと、任期3年の予定、この間に支那古代法を研究したい。	
252	B-104-6	瀧川政次郎	1935	9	3	昭和10年				有	寄稿論文を拝見した。一時帰国し、鹿児島県に調査に行ったこと、近況。	
253	B-104-7	瀧川政次郎	1936	12	30	昭和11年				有	渡満以来2年、刑事法典の起草に盡瘁し、公布の運びに至った。この後は退任し、米国にて東洋文化を講じたいので、力を貸して欲しい。	
254	B-104-8	瀧川政次郎	1937	3	25	昭和12年				無	先般依頼の米国遊学の件の返書に対する礼状	
255	B-104-9	瀧川政次郎	1947	11	7	昭和22年				無	敗戦のため、中国より引揚、極東国際軍事裁判所の弁護人をつとめている。著書『日本社会史』の英語訳のアメリカでの出版の消息について。	
256	B-104-10	瀧川政次郎	[1948]	1	21	昭和23年				無	太平洋戦争敗戦後、日本史学会の様子、先輩は引退、中堅は無気力、少壮は問題にならず、全く火が消えたような感がある。小生も数万冊の蔵書悉く散佚し、生活に追われる毎日である。古洋服(冬)一着恵送願いたい。	発信年:朝河によるメモ書を参照
257	B-104-11	瀧川政次郎	1948	5	31	昭和23年				無	この春、借財して家を買ひ、著作に専念している。日本歴史の通史執筆中。東大に於ける史学会大会の模様、他。	
258	B-104-12	瀧川政次郎		8	13					無	資料受領の礼状、著述の照会に対する回答	
259	B-104-13	瀧川政次郎		8	27					無	原稿料、受領とその礼状	
260	B-104-14	瀧川政次郎		9	30					無	瀧川執筆の日本文原稿の英語訳文(朝河翻訳)受領の礼状	
261	B-104-15	瀧川政次郎		12	7					無	原稿料受領とその礼状	
262	B-105-1	竹内松治	1914	1	1	大正3年				無	年賀状	
263	B-105-2	竹内松治				大正10年	1921	12	29	無	年賀状	
264	B-106	武内辰治	1932	11	2	昭和7年				無	近況、著作について	
265	B-107-1	田島敬一郎	1938	7	30	昭和13年				無	技芸女学校の校長を勤めること。近況。	
266	B-107-2	田島敬一郎	1939	1	28	昭和14年				無	私立福島洋技藝女学校の経営が容易でない。県当局の理解乏しく、学制の改革にて女子青年学校の半義務制の問題。斎藤花子教諭のこと。	
267	B-108-1	立作太郎	1910	1	10	明治43年	1910	1	11	無	昨年末帰国した。近況。	
268	B-108-2	立作太郎		8	21					無	紹介者のこと。資料寄贈の礼状。近況。	
269	B-109	S.Tanaka	1913	1	13	大正2年	1913	1	13	無	疎音を詫びる。近況。	
270	B-110	Tucker, W.J.	1906	1	22	明治39年				無	Tucker(ダートマス大学学長)より、朝河貫一の業績と今後の希望を述べる。	
271	B-111	田中耕太郎		12	23	昭和14年	1939	12		有	訪問時の世話に対する礼状	
272	B-112-1	田中文男	1920	9	27	大正9年				無	『網島梁川集』に往時を偲ぶ、近況	
273	B-112-2	田中文男	1935	1	1	昭和10年	1935	1	4	無	年賀状	
274	B-112-3	田中文男		5	17					無	近況を述べる。	
275	B-112-4	田中文男		12	6					無	帰朝中の不行届の詫び。婦人を紹介するも不調に終わった。	
276	B-113	玉嶋實雅(真言宗大本山随心院)		8	27	[大正]7年	[1918]	10	20	有	当山古文書のうち、京都博物館寄託分の種類について	消印②「10.21」
277	B-114-1	近伊佐衛門	1937	11	13	昭和12年				無	『神道経済観と佐藤信淵』(著書)の批評に対する礼状、研究の状況、他	
278	B-114-2	近伊佐衛門		9	5					無	『神道経済観と佐藤信淵』を寄贈する。	
279	B-115-1	辻善之助	1922	7	12	大正11年				無	『史林聚芳』の内容等、史料についての返書	
280	B-115-2	辻善之助	[1930]	4	10	[昭和]5年	[1930]	4	10	無	『史料綜覧 巻6』送付した。	
281	B-115-3	辻善之助	1914	6	6	大正6年	1914	6	6	無	著書『社寺領性質の研究』を寄贈する。	消印②「6.27」
282	B-115-4	辻善之助	1936	6	3	昭和11年				無	史料の写しを送付する。	
283	B-115-5	辻善之助	1936	6	9	昭和11年				無	史料編纂(慶延記等)についての連絡	
284	B-115-6	辻善之助	1938	12	10	昭和13年				無	史料の照会に対する返書、『薩藩日記』『頼朝卿教書』の句解。近況および研究者の消息。	
285	B-115-7	辻善之助	1939	1	30	昭和14年	1939	1	31	無	原稿修正のことについての連絡、他	
286	B-115-8	辻善之助		7	22					無	『史料綜覧』(1~5巻)を送付すること、その会計。	
287	B-115-9	辻善之助		8	8					無	佛教史料に関する書籍、不着につき照会したことに対する回答、他	
288	B-115-10	辻善之助		8	12					無	『史苑』寄稿論文校正の際、一部訂正し、抜刷30部送付した。三上先生逝去されたこと、他。	

# 朝河受信書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
289	B-116	坪井九馬三	1915	1	5	大正4年				無	論文(朝河述)に対する見解を述べる。地頭の職権得分及其沿革について、他。	
290	B-117-1	坪内士行 (坪内逍遙養子)	[1913]	4	18	[大正2年]				無	朝河夫人の死去を弔慰する文	
291	B-117-2	坪内逍遙	[1913]		12	[大正2年]				無	朝河夫人死去の報に、哀悼の意を表す。	
292	B-117-3	坪内逍遙	[1923]	10	6	[大正12年]				無	関東大震災の被害について。山の手・郊外は被害少ない。当方も無事である。早大も被害あり、大隈旧邸は損壊した。早大の被害額およそ200万円か。	
293	B-117-4	坪内逍遙	[1924]	7	15	[大正13年]				無	日米間国交円満を欠く。金子君の消息。片上伸氏、文科部長辞し入露した。東京は土地整備進まず、大半バラック建。民情混沌の状態。献策を切望する。早大の事情。帰朝の意志はあるか。高田総長のこと。Literary Review寄贈の礼。	
294	B-117-5	坪内逍遙				昭和4年	1929	9	1	無	大震災より7周年。『シェークスピア研究』、『演博館』のレポートのこと。『近世畸人伝』脱稿、他。最近の消息。	
295	B-117-6	坪内士行		6	14					無	ウェールズの国教廃止反対示威行列いじらしい。体調不如意だが、パリ行きも考えている。'タイフーン'(劇)の演出を予定している。[在英国ロンドン]	
296	B-118-1	坪内せん	1935	6	13	昭和10年				無	『新修シェークスピア全集(20)』、最終配本を郵送した。『研究』脱稿を見ず、逍遙永眠。ハムレットの改訳は果せなかったが、その他の修正を完了した。本月熱海にて百日忌。故人が絶家を遺言した。	山田清作代筆
297	B-118-2	坪内せん	1936	6	9	昭和11年				無	当年72歳、健やかに暮している。伊勢などへ巡拝の旅を行った。逍遙の墓は熱海に作った。『任興帖』送付した。士行の消息など。逍遙の遺産について。	山田清作代筆
298	B-118-3	坪内せん		8	10					無	演劇博物館へ、故人(逍遙)の手紙、寄贈されたことへの礼。故人の伝記のこと。校友の世話により、老後を安らかに過ごしている。	代筆
299	B-119	鶴見正四郎		2	24					無	米国旅行中の旅信	
300	B-120-1	陶希聖	1931	7	30	昭和6年				無	寄贈の2論文についての感想を述べる。陶の著作について。日本の学者の消息。	
301	B-120-2	陶希聖		7	26					有	陶の著書について	
302	B-121	東京帝国大学	1918	11	1	大正7年				無	東京帝国大学史料編纂所の辞令	
303	B-122-1	徳富蘇峰[猪一郎]	1915	1	27	大正4年				無	『世界の変局』を米国で出版したい。政界よりも国民新聞の城主として、奮闘したい。目下、諸種の著作に従事である。	
304	B-122-2	徳富蘇峰[猪一郎]	1929	11	14	昭和4年				無	The Documents of Iriki (『 incoming 文書』) 訳述に対する賛辞、Tucker先生の献呈文のこと	
305	B-122-3	徳富蘇峰[猪一郎]	1930	8	28	昭和5年				無	徳富蘇峰古稀記念論文集作成の企あり、その依頼状(論文寄稿の件)	
306	B-122-4	徳富蘇峰[猪一郎]	1930	10	18	昭和5年				無	論文寄稿承諾に対する礼状、房総史料のこと、近況	
307	B-122-5	徳富蘇峰[猪一郎]	1933	10	8	昭和8年				無	新島先生伝記寄贈に対する礼状	
308	B-123-1	徳永眞鑑	1912	11	19	大正1年	1912	11	20	無	近況を述べる。	
309	B-123-2	徳永眞鑑		6	27	大正2年	1913	7	21	無	お悔状	消印②「7.20」
310	B-123-3	徳永眞鑑	1914	1	1	大正3年				無	年賀状	
311	B-124	駿田二之		3	15					無	在米中の世話に対する礼状	
312	B-125	友枝重行	1912			大正1年				無	伯林大学より近況を述べる。	
313	B-126	豊崎善之助	1907	12	25	明治40年				無	内外仲介社の業務[日本よりの物品購入仲介業務]の広報	
314	B-127	内藤三介		4	20					無	朝河夫人の死去に対する弔慰	
315	B-128	中川末吉	1935	11	22	昭和10年				無	ニューヘブン訪問時の世話に対する礼状	
316	B-129-1	中川幽香子 (村田勤の娘)	1948	1	31	昭和23年				無	父・村田勤死去の報知。病床の様、家族の状況、敗戦後の日々の暮し。小崎氏、徳富蘇峰、蘆花夫人の消息。	
317	B-129-2	中川幽香子	1948	6	14	昭和23年				無	敗戦後の日本国内の窮乏と混乱の有様を綴り、近況を述べる。高齢の父の友人の身を案じる。	
318	B-130-1	中桐確太郎	1912	6	25	大正1年				有	中桐の母、死去の際の配慮に対する返礼、供養塔を建てることについての相談、他	
319	B-130-2	中桐確太郎	1913	4	22	大正2年				無	朝河夫人の死去に対する弔詞、同窓の友人達の近況	
320	B-130-3	中桐確太郎	1913	9	2	大正2年				無	今後も指導を乞う、礼状	
321	B-130-4	中桐確太郎				大正4年	1915	1	4	無	資料恵送に対する礼状、『日本国民史論』を送付したい。津田英学塾の講師となったこと。	
322	B-130-5	中桐確太郎	1916	12	11	大正5年				無	憂悶の情を述べる。	
323	B-130-6	中桐確太郎	1919	3	6	大正8年				有	己の憂悶の心情を述べ、助力を乞う。	
324	B-130-7	中桐確太郎	1919	9	11	大正8年				有	憂悶の情、小花集を紐解き、漸く慰められた。	



# 朝河受信書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
325	B-130-8	中桐確太郎	1921	12	3	大正10年				無	近況を述べる。早稲田大学にて講師となった。著書 <i>The Early Institutional Life of Japan</i> (『大化改新』) 拝見したこと、他。	
326	B-130-9	中桐確太郎	1922	8	25	大正11年				無	大隈侯記念の大講堂建設の計画が立てられたこと。自己の思想の一端を披瀝する。	
327	B-130-10	中桐確太郎	1930	1	25	昭和5年				無	西田天香氏の活動、大西先生・坪内先生のこと、五十嵐君の近況。温浴史の資料について。家族のこと、他。	
328	B-130-11	中桐確太郎	1936	8	15	昭和11年				無	一燈園のこと、坪内先生死去のこと、友人の近況、他	
329	B-130-12	中桐確太郎	1938	3	31	昭和13年				無	日支事変について、金子氏の死去、友人の近況、他	
330	B-130-13	中桐確太郎	1938	8	1	昭和13年				無	書翰に対する礼状、根本愛の培養に微力を尽くしたい。	
331	B-131-1	中島半次郎	1911	11	2	明治44年	1911	11	2	有	イギリスおよびドイツにて教育制度研究の途上にあり、近況を述べる。	
332	B-131-2	中島半次郎		12	16			12	16	有	フランス滞在中、欧州文明を論じる。	
333	B-132-1	中島力造	1910	6	6	明治43年				無	礼状[帰国の途次、交洋丸船上より]	
334	B-132-2	中島力造	1911	2	2	明治44年				無	年賀状横井氏のこと、世情について	
335	B-133	長尾義三		3	12					無	紹介状の依頼状	
336	B-134	中田薫	1932	2	24	昭和7年				無	原稿依頼に対する断り状( <i>Encyclopaedia of Social Sciences</i> 収録の日本法制史)	
337	B-135	中野武宮	1910	5	24	明治43年				無	『東京商業会議所月報』、イェール大学図書館に寄贈について	
338	B-136-1	中野達慧				明治42年	1909	4	7	無	曼荼羅は無事、到着したか、他。近況。	
339	B-136-2	中野達慧	1909	8	6	明治42年				無	大阪市の大火について。続蔵経の進捗状況、出版物のこと。経済界事業不振。	
340	B-137	中村和之雄	1913	6	1	大正2年				無	訪問時の世話に対しての礼状	
341	B-138	中村勝麿	1923	10	18	大正12年				無	関東大震災の見舞に対する礼状。井伊家大老史料を救出したこと。	
342	B-139-1	中村直勝	1919	11	22	大正8年				無	夫人の死去に対する弔慰の手紙への礼状	
343	B-139-2	中村直勝	1920	2	7	大正9年				無	病死せる夫人[中村喜美子]への追懐の情を述べる。	
344	B-140	中村万吉		6	9					無	ニューヨーク市より、礼状、近況を述べる。	
345	B-141	難波理一郎	1923	11	9	大正12年				無	関東大震災による東京都下各大学の被害状況と救済状況につき照会あった件についての回答	
346	B-142-1	成瀬清	1912	11	24	大正1年				無	判読不能	
347	B-142-2	成瀬清		2	13					無	礼状、近況。	
348	B-143-1	西川政一	1939	12	25	昭和14年				無	紐育日本クラブのための講演依頼の件、礼状	
349	B-143-2	西川政一		4	1					無	紐育日本クラブに於ける講演が極めて有益であったこと、礼状	
350	B-144-1	西田天香	1923	4	15	大正12年 (返書日付)				無	一燈園(明治38年西田天香創立の修養団体)の活動について『懺悔の生活』が、多数の読者を得た。講演行脚に寧日無きこと、教義、信条について、妻との離婚について。	
351	B-144-2	西田天香				[不明]13年		8	26	無	連絡『光明祈願にそへて』のこと	
352	B-144-3	西田天香	[1918]	10	1	[大正]7年		10	1	無	連絡	
353	B-145-1	西村眞次	1938	1	19	昭和13年				無	著作送付に対する礼状、近況	
354	B-145-2	西村眞次	[1938]	11	21	[昭和13年]				無	資金の援助依頼に対する返書。財政不如意により、思うように進まない。	発信年:朝河によるメモ書を参照
355	B-145-3	西村眞次		5	27					無	資料送付に対する礼状、研究の進捗状況、近況	
356	B-145-4	西村眞次		9	26					無	<i>The Documents of Iriki</i> (『 incoming 文書』) 邦文の部寄贈に対する礼状	
357	B-145-5	西村眞次		11	27					無	資料送付に対する礼状。寄稿依頼の件。早大の実状を訴える。	
358	B-146-1	丹生実栄						8	16	無	礼状(ハワイにて)	
359	B-146-2	丹生実栄		1	10			1	9	無	年賀状、家族の近況	
360	B-147-1	日本‘エール’大学 学会	1921			大正10年				無	第23回日本‘エール’大学学会例会報告	
361	B-147-2	日本‘エール’大学 学会	1921			大正10年				無	第23回日本‘エール’大学学会例会報告	
362	B-148	布川角左衛門		9	5					無	朝河博士の書翰、閲読した旨と、その礼状	布川(岩波書店大番頭)夫人代筆
363	B-149	沼田政二郎	1909	7	26	明治42年				無	資料寄贈に対する礼状。今後、満鉄の刊行物を送付する。	
364	B-150	野々村保								無	トヨの死去の知らせ	10月14日受信
365	B-151	榛原商店地方部		3	1					有	小形円扇調整の件について	

# 朝河受信書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
366	B-152-1	埴原正直	1923	9	12	大正12年				無	関東大震災、復興援助の件返書	
367	B-152-2	埴原正直	1923	9	20	大正12年				無	関東大震災、復興援助について(大学図書館の資料など)	
368	B-152-3	埴原正直	[1912]	5	29	[大正1年]				無	日本に帰国することについて、所懐を述べる(在米日本大使館)。	発信年:朝河によるメモ書を参照
369	B-152-4	埴原正直		9	7					無	質問に対する回答(清国鉄道、満州鉄道、他)	
370	B-153	芳賀矢一	1923	10	23	大正12年				無	関東大震災の被災に対する見舞への礼状。帝国大学図書館の焼亡、自身は被災しなかったこと。	
371	B-154	橋本完寿	1913	8	17	大正2年				無	渡米し、苦学したく、助力援助を乞う。[裏面に返書案あり。'この如き例、これ迄甚だ多けれど、失敗のみ多し'と、日本での修養をすすめる]	
372	B-155-1	服部宇之吉		2	25					無	高橋亨氏、渡米し、朝鮮紹介のため講演の場を設けたい旨の依頼状	
373	B-155-2	服部宇之吉		3	27					無	米国滞在、講演等についての打合せ[高橋亨氏]	
374	B-156-1	服部保一	1912	9	11	大正1年				無	明治天皇崩御後の国内の世情、美術談義、近況	
375	B-156-2	服部保一		7	19					無	福島近況、同級生の多くが世を去った。防空演習等に婦人が頑張っている。近く大原八郎氏、貴地を訪問すること。	
376	B-157-1	鳩山一郎	1938	2	2	昭和13年				無	イェール大学の講演原稿照会に対する返書	
377	B-157-2	鳩山一郎	1938	1	5	昭和13年				無	イェール大学案内の礼状	
378	B-157-3	鳩山一郎	1940	2	19	昭和15年				無	送付の図書について、世情について一舌禍問題、他	
379	B-157-4	鳩山一郎	1940	4	23	昭和15年				無	亡父追録起草の礼状	
380	B-157-5	鳩山一郎		11	26					無	資料寄贈に対する礼状、共産主義思想の動向について	
381	B-158	ハビ(天主教宣教師)								無	判読不能	名刺・写真各1枚
382	B-159	濱田清夫		8	6					無	病気見舞に対する礼状	
383	B-160	濱田幸雄	1921	1	1	大正10年				無	年賀状	
384	B-161-1	林權助		8	7	大正5年	1916	1	14	有	照会の件	
385	B-161-2	林權助		9	1	大正10年	1921	9	1	有	資料寄贈の礼状、米国の対日感情について	消印②「9.2」
386	B-162	林田亀太郎		7	14	明治41年	1908	7	14	無	訪問取止めの詫状	
387	B-163	原勝郎		10	1					無	三浦周行氏著作『五人組制度の起源』の入手について、日本史・東洋史の教授陣の紹介	
388	B-164	半次郎		3	3					無	ドイツの教育に関して	
389	B-165	久利性咩		9	15					無	礼状	
390	B-166-1	平沼さく	1925	1	5	大正14年				無	関東大震災時の家族の被災状況について	
391	B-166-2	平沼さく	1930	5	30	昭和5年				無	家族の状況について	
392	B-166-3	平沼さく		7	23					無	金子受領の礼状、義太郎のこと、横井直與氏、死去、同夫人のこと、他	
393	B-167	平沼淑郎	1933	5	11	昭和8年				有	三井高維氏(訪米の途につく)を紹介する。	
394	B-168-1	平沼義太郎		3	25					無	近況、世情、横井氏のこと、他	
395	B-168-2	平沼義太郎		5	1					無	訪問時の礼状	
396	B-168-3	平沼義太郎		6	28					無	近況を述べる、学業のこと(Clark氏宅にて)	
397	B-168-4	平沼義太郎		7	4					無	近況を述べる、学業のこと(Clark氏宅にて)	
398	B-168-5	平沼義太郎	[1916]	7	10	[大正5年]				無	学業と健康につき、進路の相談	発信年:朝河によるメモ書を参照
399	B-169-1	[平沼義太郎の母]	[1930]	3	11	[昭和5年]				無	家族の状況について	発信年:朝河によるメモ書を参照
400	B-169-2	[平沼義太郎の母]	[1930]	11	26	[昭和5年]				無	送付の品物のこと、家族・世情について	
401	B-170	平野正気	1908	2	18	明治41年				無	一場の夢に先生を偲ぶ。	
402	B-171	深野英二	1931	6	5	昭和6年				無	阪谷男爵に依頼の三井家編纂中の同家歴史の件についての調査回答	
403	B-172	幣原坦	1925	6	2	大正14年				無	訪問時の世話に対する礼状	
404	B-173	星ハナ(旧姓齋藤)	1946	3	29	昭和21年				無	戦争の余波により、裁縫女学校の経営を中止した。清水村に世帯を営んでいる。	
405	B-174	保立要之助								無	和泉氏宛書状の件について	
406	B-175	穂積重遠		1	18					無	訪問時の世話に対する礼状	

# 朝河受信書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
407	B-176-1	堀江覚治	[1911]	[7]	[6]					無	萬国人種会議(於:イギリス)に参加の途次、書状を呈する。	発信年月日:朝河によるメモ書を参照
408	B-176-2	堀江覚治	[1911]	[7]	[11]					無	ロンドン行の途次の旅信	発信年月日:朝河によるメモ書を参照
409	B-177	本田増次郎		6	12	大正1年	1912	6	13	無	病気見舞に対する礼状	
410	B-178-1	牧健二	1929	4	17	昭和4年				無	朝河が送付した、荘園研究に関する論文に対する論評	
411	B-178-2	牧健二	1929	6	5	昭和4年				無	批評に対する礼。The Documents of Iriki(『入来文書』)の上梓を祝う。	
412	B-178-3	牧健二	1929	8	13	昭和4年				無	著書寄贈に対する礼状、批評の礼、論文の内容について、他	
413	B-178-4	牧健二	1931	7	28	昭和6年				無	健康を書していたこと、律令時代より封建時代への推移について、他。三浦周行氏の消息。	
414	B-178-5	牧健二	1935	12	24	昭和10年				無	本年、著述した『日本法制史概論』、『日本封建制度成立史』についての見解	
415	B-178-6	牧健二	1936	3	30	昭和11年				無	洋書2冊寄贈に対する礼状	
416	B-178-7	牧健二	1939	10	7	昭和14年	1939	11	7	無	島津忠久の出自に関する論文、寄贈に対する礼状	
417	B-178-8	牧健二		3	19					無	批評に対する礼状	
418	B-179	眞淺誠、石川成秀		2	9					無	礼状	
419	B-180-1	牧野虎次	1936	11	29	昭和11年				無	家庭学校を移転した。日蓮宗のことで比叡山等を遍歴したこと。	
420	B-180-2	牧野虎次								無	敗戦後の祖国の世情、湯浅八郎氏の消息、村田勤翁死去、徳富蘇峰翁健在、同志社の概況。	
421	B-181-1	増田義一	1908	8	末	明治41年				無	著述の出版に関して、出版社側の意見を述べる。商業的に利益は乏しいが、努力したい。	
422	B-181-2	増田義一	[1916]	1						無	欧州大戦乱[第一次世界対戦]と日本の状況、輸出の増大により、産業界は好況であること。	発信年:朝河によるメモ書を参照
423	B-182	松尾		4	21					無	米国に於いて研中であるが、事情により就職いたしたく、斡旋を願う。	
424	B-183	松岡あさ								無	ステイヤリングフェロウシップについて。旅信。	
425	B-184	松方幸二郎								無	年賀状、訪問の予定について	
426	B-185	松下鉄太郎	1930	2	11	昭和5年				無	資料寄贈に対する礼状	
427	B-186	松本亦太郎	1915	4	1	大正4年				無	柿内三郎氏を紹介。日本の学界はドイツ崇拜に過ぎ、今後は大いに米国に学ぶべきである。	
428	B-187	丸善(株)	1919	11	22	大正8年				無	『日本大蔵経』『大日本佛教全書』を船便にて発送したこと。その明細。[メモ(自筆)3枚]	
429	B-188	三浦条助	1907			明治40年				無	袈裟一着、参考品として進呈する。[覚書]	
430	B-189-1	三浦周行	1920	5	3	大正9年				有	研究進捗の状況について、学界の動向相互連絡について、他(三浦周行…国史学者、法制史を研究。『日本史の研究』『法制史の研究』の著述あり。京都大学教授。1871-1931)	
431	B-189-2	三浦周行	1921	12	14	大正10年				無	近々、欧米視察の旅に出る予定、貴地到着の節はよろしく頼みたい。	
432	B-189-3	三浦周行	1925	8	13	大正14年				無	Adams教授死去に対し哀悼する。法制史の著述、近く上梓の予定である。	
433	B-189-4	三浦周行		1	7					無	長男が死去した。著書に対する批評を感謝する、他。	
434	B-189-5	三浦周行		2	27					無	欧米視察を終え帰国。礼状、古文書について、他。	
435	B-189-6	三浦周行		5	26					無	The Documents of Iriki(『入来文書』)寄贈に対する礼状。研究の概況について。	
436	B-189-7	三浦周行	[1923]	7	11					無	大学陳列館参館について	発信年:朝河によるメモ書を参照
437	B-189-8	三浦周行		7	26					無	欧米視察の旅について	
438	B-189-9	三浦周行		8	2					無	Andrews氏、来日、接待の様態について	
439	B-189-10	三浦周行		9	4					無	准教授昇任を祝う、研究の動向、他	
440	B-189-11	三浦周行		12	12					無	米国滞在中、高木八尺氏等の世話にて、各大学施設等を視察した。	
441	B-189-12	三浦周行								無	『続法制史の研究』送付した。本庄氏の著書送付について(『日本財政史』他)。黒板氏より研究・指導に寸暇無しと聞いた。健康に留意して欲しい。	
442	B-190-1	三上参次	1907	8	18	明治40年				無	Williams氏来日されしも、案内等につき、諸種の手違いがあった。	
443	B-190-2	三上参次	1907	10	13	明治40年				無	帰米後のこと、排日問題について	
444	B-190-3	三上参次	1907	12	16	明治40年				無	最近米国よりの来訪多い。資料の送付について。	
445	B-190-4	三上参次	1910	8	25	明治43年				無	越中史料等について。朝鮮の動向、仕事多忙である。	

# 朝河受信書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
446	B-190-5	三上参次	1911	11	30	明治44年				無	講演筆記寄贈の礼、腸チフス病気見舞、南北朝問題についての論争があり、委員を辞任した。井伊大老問題について。Harvard Classic 寄贈に対する礼。	
447	B-190-6	三上参次	1912	1	6	大正1年				無	贈与の書籍に対する礼状	
448	B-190-7	三上参次	1921	3	20	大正10年				無	ベルギーに於いて開催される萬国学士院聯合会議に出席のため、米国經由渡欧の予定、その途次訪問したい。	
449	B-190-8	三上参次	1923	5	5	大正12年				無	Andrews教授の東京帝大における講演について。(特期・報酬・題目等)教授との交渉、よろしく願いたい。	
450	B-190-9	三上参次	1923	5	30	大正12年				無	Andrews教授、令嬢病気のため、来日延期の由、了承。退任四教授のこと、他。	
451	B-190-10	三上参次	1923	10	29	大正12年				無	関東大震災の見舞に対する礼状。その惨状筆舌に尽し難く、大学の臨終に立会った感がある。資料編纂所は幸いにも厄を免れた。米国人の救援活動は感謝に堪えず、米国学より日本の大学への救援は、被災学生への奨学資金とするのが最も適切と考えられる。	
452	B-190-11	三上参次	1930	1	31	昭和5年				無	宮内省入りを命ぜられ、『明治天皇紀』の編纂に多忙の毎日である。震災後の東京の復興は進んでいるが、昔の情調を失った。[絵葉書には1~3と通し番号あり。3通1組の内容をもつ]	
453	B-190-12	三上参次	1934	10	8	昭和9年				無	『明治天皇紀』編纂に多忙である。史学の研究も近年進んでいる。国際関係が憂慮に耐えない。日本へ再帰朝されることを切望する。	
454	B-190-13	三上参次								無	関東大震災後の東大の復興が容易でない。Allen Johnson氏の講義のこと、排日問題もあり、一考したい。	
455	B-191-1	三上正毅		6	20					無	先年帰朝の際は会えなかったこと。博覧会の専門家的な仕事をしている。Master of Artsの免状紛失につき、助力願いたい。	
456	B-191-2	三上正毅		9	6					無	証明書を受領した。『商業史』は送り直した。友人の消息について。	
457	B-192-1	水梨郁太	1908	12	29	明治41年				無	マドカケの模様と製品の送付について	
458	B-192-2	水梨郁太		7	22					無	テーブル掛、台掛、枕掛等の見本品送付について	
459	B-193-1	水野幸吉	1910	7	16	明治43年				無	週刊誌Times 寄稿の記事について。頭本氏は近日ニューヨーク到着の予定、他。	
460	B-193-2	水野幸吉			24					無	21日付の記事に賛意を表す。	
461	B-194-1	三井高維	1933	7	7	昭和8年	7	9		無	訪問時の世話に対する礼状	消印②「7.10」
462	B-194-2	三井高維		8	15		8	26		無	書簡及び図書寄贈に対する礼状	
463	B-194-3	三井高維		6	20					無	英国留学の途次、貴地を訪問したい。	
464	B-195-1	三井物産営業部薬品掛	1918	1	28	大正7年				無	イタリア・シチリア、ラ・コルテ氏との取引関係について	
465	B-195-2	三井物産営業部薬品掛	1918	1	30	大正7年				無	イタリア、ラ・コルテ氏との取引について。香料見本について。	
466	B-196-1	三成重敬	1917	1	10	大正6年				無	荘園に関する調査は難問であること、その研究方法としては古文書古記録の渉猟より外にない。史料の紹介、他。	
467	B-196-2	三成重敬	1920	2	15	大正9年				無	文書の照会。田中先生の死を惜しむ。奈良の風物を伝える。三月堂の梵天帝釈のこと。日本の思想界・社会主義で動揺。史料編纂所職員の消息、他。	
468	B-197	[三宅]亥四郎	[1922]	2	5	[大正11年]				無	華府会議と日本国内の軍縮に対する世論。Ladd教授死去について、他。	発信年:朝河によるメモ書を参照
469	B-198	宮里榮(入来村長)	[1922]	1	7	[大正11年]	[1922]	1	8	有	先年照会のあった史料の件は、調査困難のため、回答が遅延している。調査済の史料は早急に送付する。	
470	B-199	宮本威司		12	15					無	兄妹の消息。開成山大神宮社司をつとめ、東北凶作克服祈願祭、大神宮鎮座60年を執行する。郡山市会議員として活動。久方振りに帰国し、開けた郡山を見て欲しいと願う。	
471	B-200	武藤長平	1920	10	25	大正9年				有	昨秋10月、依囑のあった岡田帳は、鹿児島県庁には存在せず、東京にある。しかしその場所は不詳。直ちに探査を依頼したこと。今後も史料についての用件を申し付けて欲しい。	
472	B-201	武藤長望	1920	1	12	大正9年				無	鹿児島開港記念史料展覧会等々の準備のため寸暇無く、また病を得るなどして、依頼の件ははまだ手をつけていないこと	
473	B-202-1	宗形二郎	1913	3	15	大正2年				無	ミリアム夫人の訃報に対する悔状	
474	B-202-2	宗形二郎	1932	8	18	昭和7年				無	尊族の多くが死亡したこと、家族の現況。郷里の墓地の手入について。	
475	B-202-3	宗形二郎	1932	10	26	昭和7年				無	郷里の墓地、管理不十分につき、今後は安藤未瑳夫氏に依頼すべきこと	
476	B-203	宗形太郎		5	23					無	宗形昌智伯父、韓国京城にて死去の通知	
477	B-204	村上格一(海軍省)	1908	8	14	明治41年				無	申越しの『日本海海戦図』寄贈依頼の件、残部無く断る旨	
478	B-205	村川堅固		10	23					無	イェール大学教授Rostovtzeff氏に日本での講演依頼の件	
479	B-206	村島孝一 (村島文子の夫)	1948	5	28	昭和23年				無	博士の高齢にかかわらず活躍の様子を寿ぐ。日本綿花(株)に勤め、海外生活が長いこと。太平洋戦争前後の商売の混乱と苦境。米国訪問の計画など夢となった。縁者の消息。日本が平和愛好国として復興するまで頑張りたい。	

# 朝河受信書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
480	B-207	村島文子 (従妹、旧姓遠藤)	1948	3	1	昭和23年	1948	3	3	有	太平洋戦争前後における社会と生活の激変を綴る。戦前は夫と共に綿布などの商売に海外に暮し、引揚に当り財産没収、帰国すれば農地改革で農地取上となる。朝河様の消息を野田岩次郎氏に聞く。血縁の多くが死亡したこと。	
481	B-208-1	村田勤		5	26	昭和12年	1937	5	26	無	最近の軍部の政治干渉に対する批判[絵葉書-旅順二〇三高地記念碑]	
482	B-208-2	村田勤	1937	8	24	昭和12年				無	書簡は永井氏、鳩山一郎氏に回覧した。日支事変が拡大して、双方に損失が多くなっても、戦争終結の目算なく、戦争の目的も国民には解らぬ状況である。	
483	B-208-3	村田勤		7	30	昭和14年	1939	7	31		ルーテル伝の著述中であること。各国に政情多事であること	
484	B-208-4	村田勤	[1939]	9	9	昭和14年				無	書簡を岩波氏に届けたこと。ルーテル伝の著述を継続中である。	発信年:朝河によるメモ書を参照
485	B-208-5	村田勤	1940	9	7	昭和15年				無	民主政治に対する信頼が動揺している。欧州の戦乱、独伊の命運。日支事変報道の弾圧、国民は窮乏の毎日に戦争に倦み疲れている。政治の新体制に力乏しく、反英米にこり固まり、異説を受容する度量なし。ルーテル伝の出版を中止した。	
486	B-208-6	村田勤	1941	2	11	昭和16年				無	英国・米国に対する国民感情が悪化してきた。圧迫もあり、帰国する外国人も多い。友人の消息。日本の人口の増加と食糧問題、他。	
487	B-208-7	村田勤	1947	11	22	昭和22年				無	軍部の横暴により起こった戦禍は、悲惨な結果を招いた。幸いにも分割占領を免れ、司令官に人を得た。日本人の浅薄さ、被占領人民の悲哀。物価の高騰、生活の困窮。同志社大学の状況。日本の将来をどう考えるか。宗教の問題。	
488	B-208-8	村田勤		5	17					無	日本の政治情勢(軍部の横暴、日独防共協定)について、他。猪方竹虎氏、田川大吉郎氏より村田勤宛の書簡を同封したこと。	
489	B-208-9	村田勤	[1940]	6	27	昭和15年				無	欧州の戦乱について、ドイツに反対し、英米仏を支持すること、日独の接近。食糧(米)不足。ドイツツイッキの学者が、再び米英攻撃を始めた。欧米の植民地政策の派。大国支那を屈服させることは不可能であろう。この戦争が徒労に終るか。	発信年:朝河によるメモ書を参照
490	B-208-10	村田勤		7	24					無	日支事変後1年にして、諸物資の不足が目立つ。友人の消息。国民精神總動員法の桎梏が甚だしいこと。中野正剛氏との対談。軍部の政治弾圧に拘らず、日本人の3分の2は、この戦争に反対である。	
491	B-208-11	村田勤		11	4					無	軍需景気、物資不足、中学生の軍事教練。日米関係、ノモンハン事件-日本の大敗。ヒトラーの心理考察。為替の件。	
492	B-208-12	村田勤		12	21					無	書簡を回覧したこと。軍部が戦争熱をあおっている。支那4億の民衆の力、他。	
493	B-209	森俊六郎		5	26					無	イエール大学参観時の世話に対する礼状	
494	B-210	森江書店				大正9年	1920	7	1	無	図書の注文について	
495	B-211	森下季樹				昭和4年	1929	11	22	有	米国にて死去した兄・森下敏樹が在米中に受けた世話に対する深謝の礼状	
496	B-212	森下玉樹	1929	7	10	昭和4年				無	在米の兄死去に際しての礼状[その他、病院等の経費メモ3枚あり]	
497	B-213	八代六郎		5	29					無	入閣の祝詞に対する礼状	
498	B-214	安井晋治		3	3					無	数年前渡米し、米国新聞社に勤める者であるが、学生生活に復帰したく、相談する。	
499	B-215-1	箭内亘		12	18	大正8年	1919	12	10	無	徳川時代の地方制度に関する著作、寄贈に対する礼状[絵葉書-丸都勤功碑]	
500	B-215-2	箭内亘	1920	1	13	大正9年				無	帰朝の2年前に、面談の機を得られなかったこと。欧州大戦の余波に社会は翻弄されている。思想界の前途多事であること。	
501	B-215-3	箭内亘		2	22					無	病氣(腸チフス)見舞。旧幕時代の地方制度に関する新研究について、日本の学会が冷淡であること。萬佛堂の洞窟の佛像彫刻遺跡について。満鉄にて満州史の研究に従事している。	
502	B-216-1	矢吹慶輝		12	31			1	4	有	佛教研究者を世話する学校につき、紹介の件	
503	B-216-2	矢吹慶輝		3	7					無	教授写真掲載の読売新聞送付のこと	
504	B-217	ヤベ		5	2			5	2	無	渡米の際の礼状	
505	B-218	山口武彦	1918	5	6	大正7年				無	機械(Gas Producer Nelson)の商談について	
506	B-219	山崎政次	1913	1	1	大正2年				無	年賀状	
507	B-220	山田清雄	1930	8	29	昭和5年				有	早稲田学園の現状。国民は富める米国の皮相のみを羨み、あるいは日米戦争を怒号する有様である。古典の稀書複製の仕事が成功裡に進捗している。	
508	B-221-1	山田清作	1939	3	20	昭和14年				無	逍遙の命日、熱海墓参。坪内夫人よりよろしくと。逍遙の書簡の寄贈を願いたい。	
509	B-221-2	山田清作	1939	6	19	昭和14年				無	寄贈を受けた書簡の整理について。五十嵐力氏のこと。文学部の統率無きこと。熱海に於ける第4回逍遙記念祭は成功した。早大文学部は不振。『坪内逍遙』(伝記)について。	

# 朝河受信書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
510	B-222	山田清心	1939	12	21	昭和14年				無	郵送のあった書簡類(坪内先生、士行氏のもの。封書31通、葉書27枚)の演劇博物館へ寄贈の件について。士行氏の離縁復籍の原因が書簡により判明した。坪内後室は元気である。早稲田大学文学部の様子を報せる。	
511	B-223	大和会(委員:瀧精一)		1	22					無	原勝郎博士著Introduction to the History of Japan 米国に於いて出版の予定だが、専門家の校閲を得たく、この件を承諾願えないか伺う。	
512	B-224	山中繁郎	1913	12	21	大正2年				無	ボストン市日本人会主催にて講演会を行いたく、講師をお願いしたい。	
513	B-225	山本敏夫		5	26					無	右傾し、非常時を宣伝する時世を憂う。『福翁自伝』『三田評論』送付した。	
514	B-226-1	横井時雄	1908	11	7	明治41年	1908	12	2	有	結婚の祝詞、著作寄贈の礼。Hadley総長、本邦来遊の件に付き打合せ。	
515	B-226-2	横井時雄	1917	1	6	大正6年				無	当地到着以来、ポツナム氏の厚意により万事好都合であること	
516	B-226-3	横井時雄		3	20					無	平沼義太郎氏、米国カレッジにて言語学を修めたいとの希望あり、助力を乞う。	
517	B-226-4	横井時雄		4	29					無	林田氏等との面会について	
518	B-226-5	横井時雄		11	15					無	夫人死去に対する弔慰。失脚以来の苦勞、子弟の成長。渡欧を計画中であること。政界の情勢について。	
519	B-227-1	横山昌次郎	1910	2	3	明治43年				無	満鉄中立問題について。地租軽減問題、他。Fisher教授の著作の翻訳について。	
520	B-227-2	横山昌次郎	1911			明治44年	1911	12	11	無	Fisher教授より出版社の決定の件で来信があった。しかし漸く文明協会と話がまとまった。(訳書名『資本及収入論』『利率論』『利子論』のことか)	
521	B-227-3	横山昌次郎	1911			明治44年				無	Biddle氏来日のこと。Fisher氏著作の翻訳出版は難渋している。早稲田にて出版はどうか。長州吉田村散策の記。	
522	B-227-4	横山昌次郎	1927	1	7	昭和2年				無	御大喪にして、景気回復の曙光は尚、見られず。Fisher氏の著作Stabilizing the Dollarの翻訳を手伝った。	
523	B-227-5	横山昌次郎	1928	1	5	昭和3年				無	依然浪々の身であること。日本は総選挙にて全国ごった返しの状態である。安部磯雄氏も立候補したこと。漢詩を寄せる。(‘誕辰述懐’他五題)	
524	B-227-6	横山昌次郎		3	13					無	日本は非常に不景気である。米国の関税改革について。Fisher氏の著書の翻訳は目下進行中。Keller教授の著作History of Colonizationの入手について。	
525	B-227-7	横山昌次郎		11	19					無	翻訳『資本及収入論』の出版が文明協会に決定した。支那動乱も段々混沌たる形状に陥りつつある、他。	
526	B-227-8	横山昌次郎		12	26			12	10	無	年賀状	門司日銀支店勤務
527	B-227-9	横山昌次郎	1908	11	2	明治41年	1908	11	2	無	満州韓国の旅行より帰京した。著書Japan in Manchuria寄贈の礼状。	
528	B-228	吉川弘文館		7	13					無	帰朝の際の図書購入の書目2枚(『百萬塔』『梅松論』『桜雲記』『近代公實叢秘録』他)他に吉川弘文館よりの請求の手紙並びに計算書7枚。	
529	B-229-1	吉田東伍	1907	12	13	明治40年				無	『大日本地名辞書』に英文の序文(序評)を付したく、依頼したい。	
530	B-229-2	吉田東伍	1908	4	13	明治41年				無	『大日本地名辞書』の印刷等について。その後の出版計画、思うように進捗せず。	
531	B-229-3	吉田東伍	1909	1	1	明治42年				無	年賀状。『大日本地名辞書』再版の見込がついた。	
532	B-229-4	吉田東伍	1910	1	12	明治43年				無	『大日本地名辞書続編』の刊行を終了した。売行悪い。送付のあった英文批評を載せる予定である。	
533	B-229-5	吉田東伍	1911	7	21	明治44年				無	日本の史学会の実態について。‘斗代’の語義について。	
534	B-229-6	吉田東伍		7	7					無	『大日本地名辞書』の序評を贈与いただいたことを、感謝する。再版は来年の見込。現在、補足(北海道、琉球、台湾)を執筆中である。	
535	B-230-1	吉野作造	1921	6	27	大正10年				無	Farrand教授の著書は佐々弘雄氏が翻訳中。日本の労働運動も段々陰険に赴きつつあるも、青年・学生の思想は余程落着を示している。	
536	B-230-2	吉野作造	1923	10	17	大正12年	1923	10	17	無	関東大震災に対する見舞の礼状	
537	B-231	早稲田大学演劇博物館	1939	12	4	昭和14年				無	坪内逍遙書簡70通、坪内士行書簡34通寄贈に対する礼状	
538	B-232	和田長史	1909	2	3	明治42年				無	昨年来、欧州、引続き米国にて研究中のところ、帰途につく報知	
539	B-233-1	和田萬吉	1923	10	6	大正12年				無	関東大震災の被害状況について。復興院設置される。東大図書館も火災により夢消した。については外国図書館に、図書館建築関係資料の協力を願いたい、他。	
540	B-233-2	和田萬吉	1923	10	22	大正12年				無	関東大震災による東大の被害状況について。図書館は約50万冊灰燼に帰したこと。復興の計画について。国の内外より図書の寄贈相次ぐ(南葵文庫など)。米国の諸大学図書館には貴下の差配を迎ぎたい。	
541	B-233-3	和田萬吉		1	8					無	コンGRESSライブラリの主長に対して斡旋のこと、感謝に堪えず。内外よりの図書の寄贈は多いが、洋書については、諸外国の厚意を願う。なお、健康その他の事情により退任し、後任は姉崎博士と決定した。	
542	B-234	渡部正章	1931	5	1	昭和6年				無	『日本経済史』『日本商法史』の両著を志し、研究に努めているが、米国留学の念やみ難く、その方途を示されんことを願う。	

# 朝河受信書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
543	B-235	渡辺哲乗 (西本願寺)	1911	5	31	明治44年				有	和歌山に輪番として勤めている。大法會執行する。新疆省を去り、テシキリト発掘に従事。発掘品については朝日新聞の記事の通りで、これについては写真版として印刷中である。[切抜記事:西本願寺大谷伯の支那新疆に於ける発掘物についての解説-『大阪朝日新聞』1910年8月3~6日「西本願寺の発掘物(1)~(4)」(内藤湖南ノ[著])] ]	
544	B-236-1	(不明)	1907	1	1	明治40年				無	年賀状	
545	B-236-2	(不明)	1910	1	1	明治43年	1910	1	1	無	年賀状	
546	B-236-3	(不明)	1922	12	2	大正11年				無	図書(『史記国字解』等)郵送の件について	
547	B-236-4	(不明)		3	1					無	照会の件について博物館の彫塑史の研究者としての意見を述べる(薩摩焼の鬼を踏む五百羅漢像)。	
548	B-237	渡辺熊之助	1894	11	4	明治27年				無	[A23-1に対する]確約できないが応じる旨の返信	

## その他の書簡(和文)

ID	整理記号	発信者	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記
1	C-1	阿部善雄	斎藤金太郎	1955	5		昭和30年				無	朝河貫一著書刊行委員会からの <i>The Documents of Iriki</i> (『入来文書』) 再刊のお知らせ	
2	C-2	イエール大学	斎藤金太郎	1949	7	12	昭和24年				無	朝河の遺産の管理については裁判所の執行官の権限下であり、大学としては何も出来ないこと	
3	C-3-1	桑原善作	斎藤金太郎		3	13					有	朝河関連資料のやり取りについて	
4	C-3-2	桑原善作	斎藤金太郎	1956	3	13	昭和31年	1956	3	13	有	斎藤氏からの手紙への返答。斎藤氏自身のしていることに自信をもって欲しい。	
5	C-4	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1949	6	14	昭和24年				無	財産分与に関する宣誓手続について。朝河の墓について。	
6	C-5	宗形勝雄	斎藤金太郎	1949	3	3	昭和24年				無	安藤未瑳夫氏より二本松へ訪問して欲しい旨の手紙があったことを伝える。	
7	C-6	遊佐一郎	斎藤金太郎		3	2					無	顕彰会準備会への出席及び写真送付に対するお礼。顕彰協会役員数名でご家族にお会いしたい。	
8	C-7	(氏名不明)	斎藤金太郎				昭和4年	1929	12	20	無	朝河関係系図メモ	
9	C-8-1	(氏名不明)	(氏名不明)								無	近況	
10	C-8-2	(氏名不明)	(氏名不明)								無	近況	
11	C-8-3	(氏名不明)	(氏名不明)								無	近況	
12	C-8-4	(氏名不明)	(氏名不明)								無	近況、礼状の葉書	[一宮隆太郎宛か]



# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
1	D-1-1	Alcan, Felix	1929	12	12	昭和4年				無	書籍の発注		タイプ控え	
2	D-1-2	Alcan, Felix								無	書籍代金の支払い	パリの出版社 Librairie Felix Alcan	タイプ控え。D-1-1の次の書簡と推定される。	
3	D-2	Alsaker,Rasmus,M.D.	1932	10	2	昭和7年				無	判読不能	医学博士	自筆控え	
4	D-3-1	Andrews, Charles M.	1932	1	14	昭和7年				無	Encyclopaedia of Social Sciences (『社会科学百科辞典』)の項目の完成など、自身の仕事の進展状況を伝える。	イエール大学の歴史学部教授 Charles McLean Andrews	タイプ控え	L-180
5	D-3-2	Andrews, Charles M.	1941	3	10	昭和16年				無	民主主義とは個々の市民の道徳性と知性に依拠する困難な政体であり、その実現には教育が必要であるという朝河の持論を述べる。		タイプ控え	L-230/P
6	D-3-3	Mrs.Andrews	1943	9	12	昭和18年				無	判読不能	イエール大学の歴史学部教授 Charles McLean Andrewsの夫人	自筆控え	
7	D-4	Mrs.Andrews								無	判読不能		自筆控え	
8	D-5	Mr.& Mrs.Andrews	1941	2	16	昭和16年				無	民主主義は各人の市民的道徳性を要求する困難なものだが、民主主義が最終的に勝利するであろうことを述べる。	イエール大学の歴史学部教授 Charles McLean Andrews夫妻	タイプ控え	L-229/P
9	D-6-1	Angell, James Rowland	1936	9	17	昭和11年				無	自身に与えられたResearch Associateという肩書について不満を述べる。それが朝河自身の研究業績や授業内容を反映した肩書ではないことをいう。	イエール大学総長	タイプ控え	L-199
10	D-6-2	Angell, James Rowland	1937	2	7	昭和12年				無	上記の書簡でのAngellに対する自身の肩書への不満に対して、大学が朝河の教授昇進を決めたことに対する感謝を述べる。		自筆控え	
11	D-7	Mrs.Bartlett, S.C.	1940	9	8	昭和15年				無	全体主義は歴史の流れに反するものであり、いずれ人類の進歩の新しい段階が訪れると述べる。	東京在住のS.C.Bartlettの夫人	タイプ控え	L-222/P
12	D-8	Mrs.Bartlett, S.C.	1941	4	17	昭和16年				無	現在の日本は、1868年以前の攘夷が叫ばれた時期のようにアブノーマルな状況である。日本は国家として愚かなほどで好戦的であり、先見の明がなく、礼節のない人物が指導している。		タイプ控え	P
13	D-9	Babb, J.T.	1945	7	1	昭和20年				無	[英文速記のため内容は判読不可。ただ同じ書簡の中に、イエールの大学当局から1945年7月22日付で7月1日より3年間図書館の東アジアコレクション部長(年俸500ドル)に任命する旨の書簡も入れられているので、これに関連する内容であろう]	イエール大学図書館司書	英文速記控え	
14	D-10	Miss Betts, Charlotte E.	1912	6	7	大正1年				無	講演の依頼に対して条件を述べる。	Stamford Woman's Clubの秘書	タイプ控え	
15	D-11-1	Blackwell, B.H.	1929	12	12	昭和4年				無	書籍代金の支払い		タイプ控え	
16	D-11-2	Blackwell, B.H.	1930	2	13	昭和5年				無	書籍の注文	オックスフォードの出版社	タイプ控え	
17	D-11-3	Blackwell, B.H.	1930	6	23	昭和5年				無	書籍代金の支払い		タイプ控え	
18	D-12	Bouchard de Belleuse, A.	1934	9	10	昭和9年				無	大学院入学を希望する学生への返事	学生	タイプ控え	
19	D-13	Bovey, Wilfred	1930	10	24	昭和5年				無	東洋の文化や文学についての講演依頼に対して、制度的なテーマでなら可能であると述べる。	マギル大学(モントリオール, カナダ)の Wilfred Bovey(Department of Extra-Mural Relations, Director)	タイプ控え	
20	D-14	Carhart, P.W.	1932	1	22	昭和7年				無	日本語の発音についての問い合わせに答える。	G.and C.Merriam Company(Springfield, Massachusetts)	タイプ控え	
21	D-15-1	Champion, Edouard	1926	12	10	昭和1年				無	書籍の発注		タイプ控え	
22	D-15-2	Champion, Edouard	1927	2	25	昭和2年				無	書籍代金の支払い		タイプ控え	
23	D-15-3	Champion, Edouard	1927	11	5	昭和2年				無	書籍の発注	パリの出版社	タイプ控え	
24	D-15-4	Champion, Edouard	1927	12	30	昭和2年				無	書籍の発注		タイプ控え	
25	D-15-5	Champion, Edouard	1928	4	13	昭和3年				無	書籍の発注		タイプ控え	
26	D-16-1	Champion,Honoré	1929	10	24	昭和4年				無	書籍代金の支払い	パリの出版社	タイプ控え	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
27	D-16-2	Champion, Honoré	1930	2	20	昭和5年				無	書籍代金の支払い	同上	タイプ控え	
28	D-17	Chapin, F. Stuart	1932	3	24	昭和7年				無	<i>Social Science Abstracts</i> のAdvisory Editorになることを承諾する。	コロンビア大学教授( <i>Social Science Abstracts</i> の編集主幹)	タイプ控え	
29	D-18-1	Charles	1913	1	12	大正2年				無	判読不能		自筆控え	
30	D-18-2	Charles	1913	2	2	大正2年				無	判読不能		自筆控え	
31	D-19	Mr. & Mrs. Christopherson	1913	6	1	大正2年				無	判読不能		自筆控え	
32	D-20-1	Clark, George G.	1940	12	1	昭和15年				無	ヒトラーとムッソリーニは、永久不滅の教訓を残し、人類はそれを永く記憶に留めることになる。	ダートマス大学時代の同級生で友人	自筆控え	L-226
33	D-20-2	Clark, George G.	1941	3	16	昭和16年				無	ヒトラーがイギリスとアメリカの民主主義的な心理を理解できずに政策を行うかぎり、ドイツはヨーロッパで最終的には破局するだろう。		自筆控え	L-231
34	D-20-3	Clark, George G.	1941	6	15	昭和16年				無	大学教育では、学生が資料を自分の努力で集め、それらを通じて考えることが重要である。自分の結論を資料なしで導き出してはならない。		自筆控え	
35	D-20-4	Clark, George G.	1941	6	29	昭和16年				無	日本の政府が軍部の台頭を前に危険な状況にあることを述べる。		自筆控え	L-233
36	D-20-5	Clark, George G.	1941	7	27	昭和16年				無	<i>I was a Nazi flier</i> という書物を読んだ感想を述べる。ナチの飛行士の非人間的で鈍感で、繊細な感情を締め出す心性を指摘する。		自筆控え	L-234
37	D-20-6	Clark, George G.	1941	9	20	昭和16年				無	自分たちの地球、様々な事物、歴史が2つの相反する要素の出会いにより形成されてきたことを述べる。		自筆控え	L-235
38	D-20-7	Clark, George G.	1941	12	28	昭和16年				無	日本人は12世紀を隔てた二度の大きな危機の時代(大化改新と明治維新)に、驚くべき完全な改革で対応した。憑りつかれた観念や習慣を何の悔いもなく捨て去ってきた。		タイプ控え	
39	D-20-8	Clark, George G.	1942	4	27	昭和17年				無	あなたが私を送った園芸書を読んで楽しんでいるのでうれしい。この本は、エディンバラの書店から古本で購入したので、定価で買ったわけではない。		自筆控え	
40	D-20-9	Clark, George G.	1942	5	24	昭和17年				無	友人のMinakuchi氏がF.B.I.により、ニューヨークの日本領事から金銭を受け取ったとの嫌疑をかけられ、無実であるにもかかわらずバルティモアの収容所に入れられたことを伝える。		自筆控え	
41	D-20-10	Clark, George G.	1944	11	5	昭和19年				無	戦後に実現すべき社会の在り方について述べる。		タイプ控え	L-263
42	D-20-11	Clark, George G.	1945	1	21	昭和20年				無	自身、現在は1850年代のペリーや他の外国人の来航から1867-68年の明治維新までの時代を研究している。		タイプ控え	
43	D-20-12	Clark, George G.	1945	2	18	昭和20年				無	現在、Owen Lattimoreの“The sacred cow in Japan”(Atlantic Monthlyの1月号に掲載)を読んでいる。		タイプ控え	P
44	D-20-13	Clark, George G.	1945	5	6	昭和20年				無	国際的な紛争を生じさせる主な原因には、ロシアの身勝手に単独行動をとる習性とアメリカの好意ある伝道的な態度があることを述べる。		タイプ控え	L-269/P
45	D-20-14	Clark, George G.	1945	5	13	昭和20年				無	ロシアが今後、厄介な問題を提起する可能性があること、ロシアの行動は歴史の在り方が異なる西欧側の心理では理解できないことをいう。		タイプ控え	L-270/P
46	D-20-15	Clark, George G.	1945	9	23	昭和20年				無	私はベッドで自分の古い日記を読んでいる。現在1913年の箇所を読んでいる。その年、妻が亡くなり私の内面生活に深い影響を及ぼした。あなたが見たいなら、いつか見せたい。		タイプ控え	P
47	D-20-16	Clark, George G.	1946	9	29	昭和21年				無	フランス人の中世史家Joüon des Longraisが会いに来た。彼は <i>The Documents of Iriki</i> (『入来文書』)をよく読んでいた。大学当局は朝河の後任として彼を雇用することを考えているが、パリ大学を辞してイェール大学に来るかどうかは疑わしい。		タイプ控え	P

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
48	D-21	Colby, J.T.	1939	7	23	昭和14年				無	ヒトラーの体制はソビエトより不安定でヒトラーの生涯よりも永続することはない。ヒトラーは、自分の政党のラディカルな要求のなかに、自分の統制できないフランケンシュタインを育ててしまった。	ダートマス大学時代の同級生 J.T.Colby	タイプ控え	L-210/P
49	D-22	Colin Librairie Armand	1930	12	4	昭和5年				無	書籍代金の支払いと発注	パリの出版社	タイプ控え	
50	D-23	P.F.Collier & Son	1913	6	9	大正2年				無	書籍代金の支払いと発注	ニューヨークの出版社	タイプ控え	
51	D-24	The Commonweal, Catholic Weekly	1947	5	11	昭和22年				無	The Commonweal, Catholic Weekly 誌の記事の内容に敬意を表しつつも、記事のなかにアメリカの口語表現がみられることが言葉の品性を欠き、意味を不正確にしていることを批判する。	The Commonweal, Catholic Weekly(アメリカのカトリック系の雑誌)の編集者	タイプ控え	L-287
52	D-25	Corwin, R.N.	1920	6	18	大正9年				無	判読不能		自筆控え	
53	D-26	Mrs.Curtis, Allen	1945	8	26	昭和20年				無	封建制は無秩序を生んだが、それだけでなく、個人の自由の権利や騎士道的な生活の理念も生むことで歴史上、重要な貢献をした。		自筆控え	
54	D-27-1	D.H.[Dunham, Helen]	1941	6	15	昭和16年				無	Helenが子育てで大変であろうことを気遣う。	イエール大学での教え子だったHelen Dunham(旧姓はGarrison, William Dunhamと結婚)	自筆控え	
55	D-27-2	D.H.[Dunham, Helen]	1945	1	11	昭和20年				無	Helenが生まれたばかりの子供を亡くしたことに對して慰めの言葉を送る。		自筆控え	
56	D-28	Darcy	1913	1	6	大正2年				無	判読不能		自筆控え	
57	D-29-1	Dimond, Margaret	1899	9	23	明治32年				無	一昨日、ニューヘブンに到着した。ダートマス大学の同級生Hewesもまもなくイエールの大学院に来る。彼が来ればルームメートになるだろう。ニューヘブンには17人の日本人がいるが、可能なかぎり彼らから離れるようにしている。9月28日にならないと大学は始まらない。		発信原本	
58	D-29-2	Dimond, Margaret	1899	10	6	明治32年				無	あなたはいろいろと忙しくしていると思う。あなたのことは、Earl Eastmanから何度も手紙で聴いている。彼も頑張っているようで、信仰の面でも深まっているように見える。彼と彼の恋人Dellaがあなたを私に紹介してくれたことは忘れないだろう。私は友人のHewesとともに新しい部屋に住み始めた。Hewesはここで数学を勉強し、私はWilliams教授の指導下、歴史学(東洋史)を勉強する。Hadley教授の学長就任式が10月11日にある。彼は牧師ではなく経済学者で大変明晰な人物である。	ニューハンプシャー州フランクリン在住で教会の活動をしていた敬虔な女性。朝河はダートマス大学の友人Earl Eastmanの紹介で、1899年の夏に2回、フランクリンの教会に行き、そこで彼女と知り合った。朝河はフランクリンで彼女が教える日曜学校に出ていることが書簡から分かる。イエール大学大学院に入学後、イエールでの学生生活について毎週のように書簡を書き送った。文通は朝河のダートマス講師時代の1905年まで続く。Dimond宛書簡からはイエール大学で朝河が受講した講義の内容など様々な事柄を知ることができる。またこのD-29-1から111までの書簡は、Dimondの死後に遺族が朝河に返したものであった。朝河の1945年12月22日の日記にそのことが書かれている。	発信原本	
59	D-29-3	Dimond, Margaret	1899	10	8	明治32年				無	私の現在の関心は、科学を研究する方法についてである。どのような精神で、人は偉大な科学的業績を生んできたのか。自然を研究する方法は、霊的な方法、神を学ぶ方法と多くをともにしているに違いないと考える。		発信原本	
60	D-29-4	Dimond, Margaret	1899	10	15	明治32年				無	秋の景色がフランクリンの町のあなたの家の背後にあった森を思い起こさせる。昨夜、日本人16人が集まった。話をし、笑い、喧嘩をして楽しかった。私はMunger博士がいる教会に通っている。彼はこの町で最も進歩的な宗教思想家である。この町の宗教家は、他の所に比べてとても自由である。フランクリンでは、Y.M.C.A.が定期会合をもう始めたでしょうか。		発信原本	
61	D-29-5	Dimond, Margaret	1899	10	22	明治32年				無	10月18日にHadley学長の就任式があった。他の大学の学長ら、多くの重要な人物が列席した。Battle Chapelで簡素な礼拝が行われた。		発信原本	
62	D-29-6	Dimond, Margaret	1899	10	30	明治32年				無	私の日常生活は、単純そのものである。午前中は部屋には戻らず、ほとんど教室か図書館にいる。午後、4時までは同じで、その後、運動をする。運動は散歩と‘こん棒振り(club-swinging)’である。晩には勉強する。しかし、このような単純な生活にも、多くの事件やエピソードがある。勉強は、そのテーマで多岐にわたっているが、そのほとんどは歴史学であり、長い時代に関して、多くの民族に関して渡っている。日々、1時間、すぐれた論文や雑誌を読むことにしているが、それが私の勉強の重要な一部となっている。私の研究のほとんどは1人でのものである。1人で研究し、考えている。		発信原本	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載	
63	D-29-7	Dimond, Margaret	1899	11	5	明治32年				無	カトリック教会を今日、訪問し、そこで初めて、ミサをみた。プロテスタントの人間がどのような反感を感じようが、ミサの威厳を尊敬せざるをえない。私は、Bourne教授の‘歴史の研究と批判の方法’の授業を取っている。それはいかに一次史料により歴史を研究するかについての授業である。Bourne教授のもうひとつの授業‘アメリカ国民史’も取っているがそれは専門的な授業ではない。Sumner教授の講義は、大学で最も人気のある授業である。彼の思想は完全にオリジナルなものである。Williams教授は、中世と近代のアジアの歴史を教えている。彼の父は有名な中国への伝道者であった。私はHadley教授の経済学の講義にも出ている。彼の授業は、初学者にもすでに知識のある者にも有益である。彼の経済学は他の経済学者とは全く違う。Richardson教授は、‘宗教改革からフランス革命までのヨーロッパ史’と‘イングランド国制史’を教えている。どちらもそれほど専門的な授業ではないが、私は多くの示唆を得ている。	同上			
64	D-29-8	Dimond, Margaret	1899	11	12	明治32年				無	私は適切な運動をしているので調子がよい。‘ヘラクレス’と呼ばれるこん棒を使った運動をして、朝、水風呂につかる。				
65	D-29-9	Dimond, Margaret	1899	11	18	明治32年				無	今日の午後には、ハーヴァード大学とイェール大学のサッカーの試合があり、0対0の引き分けで終わった。イェールは1883年以降、ハーヴァードに負けていなかったが昨年負けた。				
66	D-29-10	Dimond, Margaret	1899	11	26	明治32年				無	日本と中国が軍事同盟を結ぶかどうかというあなたの質問に答える。このことはヨーロッパでもアメリカでもさかんに言われていることだが、最近の噂が語るような中国と日本との同盟の可能性はないだろう。				
67	D-29-11	Dimond, Margaret	1899	12	2	明治32年				無	昨夜、Munger博士を訪問し、自由に活発な話をした。彼は進化思想が現在の宗教の改革において最重要な要因とみなしている。20世紀のキリスト教は、よりキリストの実際の教えに近づかねばならないとともに、進化の新しい理念により修正されねばならないと彼は考えている。				
68	D-29-12	Dimond, Margaret	1899	12	9	明治32年				無	私の名前は、誰も正確に発音してくれないので、英文の手紙で書きたくない。アメリカに来てから、誰も私の名前と呼んでくれなかった。ダートマス大学では、私は6つほどの名前と呼ばれていた。寄宿舎で1番よく呼ばれていた名前は、Assieである。また、Asa, Arthur, Geroge, Henry, Harryとも呼ばれた。現在でもなお、ハノーヴァーにいる何人かは、私の名前はArthurだと思っている。だから、私の名前は本当の名前ではないのだ。				
69	D-29-13	Dimond, Margaret	1899	12	16	明治32年				無	私の部屋は、来週の火曜日にイングランド国制史の試験があるので、イングランド国制史の書物でいっぱいである。この勉強には次第に関心を持ってきた。そこからは、多くの不幸な状況が大きな幸福のステップになり、多くの悪が人類の進歩にとり重要なものとなるのがわかる。				
70	D-29-14	Dimond, Margaret	1899	12	22	明治32年				無	クリスマスの挨拶を送る。自身の冬休み中、毎日朝8時半から夜10時まで、西洋中世史の書物(Weizen, <i>Siedlungen und Agrarwesen</i> , Sohm, <i>The Institutes of Roman Law</i> , Maitland, <i>Domesday Book and Beyond</i> )の読書、雑誌論文の読書、日本史についての研究をする予定であることを述べる。				
71	D-29-15	Dimond, Margaret	1899	12	30	明治32年				無	滞在していた友人のMeyer博士が去っていった。彼は、ドイツ人の心理学者の中で評判の学者で、彼の音楽理論は、完全にオリジナルである。現在受け入れられている理論にいずれ取って代わるだろう。				

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
72	D-29-16	Dimond, Margaret	1900	1	4	明治33年				無	1月1日に書いたノート(‘年頭の自戒’)のコピーを送る。そこには1899年がどうであったかと1900年の希望が述べられている。それは一般的な言葉で書かれ、個人への言及は可能な限りしていない。それは自分自身に語ったものである。	同上	発信原本	
73	D-29-17	Dimond, Margaret	1900	1	6	明治33年				無	あなたに送った‘年頭の自戒’は、私が現在の分析力の限りで、自分を批判したものである。数年前には、親友と相互に批判し合っていたが、今はそのようなことはしない。この‘年頭の自戒’を見せるのはあなただけである。		発信原本	
74	D-29-18	Dimond, Margaret	1900	1	13	明治33年				無	私は現在、歯痛に悩まされている。あなたの甥がフィラデルフィアで歯学の学生だそうだが、彼が私のところにいてくれたらとこの数日考えていた。私は今、あなたが私のために祈ってくれることで、神の霊的な絆であなたと結ばれているを感じる。こうして、あなたとの年齢の差、文化、経験、人種の相違を超えられるのは素晴らしいことだ。[この書簡での内容からMiss Dimondが朝河よりもかなり年上の女性であることがわかる]		発信原本	
75	D-29-19	Dimond, Margaret	1900	1	18	明治33年				無	結局、歯医者で歯を抜いた。先週、2つの講演会を聞いた。1つは、教育法について、もう1つは、‘アメリカのフォークソング’についての講演会である。		発信原本	
76	D-29-20	Dimond, Margaret	1900	1	25	明治33年				無	一昨日の晩、ニューヨークに向かう途中のTucker夫妻と車で汽車が停車中の5分間、話をした。とても楽しい会話だった。		発信原本	
77	D-29-21	Dimond, Margaret	1900	2	1	明治33年				無	1900年2月1日より、新たに3つのことをすることを決意した。それは、これまでよりも朝30分早く起きて、つまり7時に起きて1日おきにフランス語とラテン語を読むこと、第2に、毎日、午後の運動の後に、数分間瞑想すること、第3に、親友を持ち、会話では日本語をこれからは使わないようにすることである。私が無作法な若者であるにもかかわらず、あなたの日曜学校のクラスに受け入れたことを感謝している。[この書簡から、おそらくMiss Dimondがフランクリンの教会の日曜学校の先生で、朝河がそこで学んだことで知り合ったことがわかる]		発信原本	
78	D-29-22	Dimond, Margaret	1900	2	8	明治33年				無	今日、図書館にある日本語、中国語の図書を閲覧した。すべての時代に関して、あらゆる質の本が数千冊ある。私はそれらを調査し、整理している。2時間それをやって埃まみれになった。司書は図書館のその部分を完全なものにしたいと思っている。これがアメリカでの我が国の書物の最もよいコレクションである。あなたの手紙で、あなたは、あなたの日曜学校のクラスに私を受け入れたくない。なぜなら、私が退屈するだろうから、と書いているのには困惑している。[朝河は1899年の夏にフランクリンの教会でDimondが教える日曜学校に生徒として出席したことから知り合い、文通相手となった]		発信原本	
79	D-29-23	Dimond, Margaret	1900	2	24	明治33年				無	2月11日は、日本の国家が2560年前に成立した記念日なので、我々日本人は集まり祝った。		発信原本	
80	D-29-24	Dimond, Margaret	1900	3	1	明治33年				無	今ちようどゲーテの <i>Faust</i> (『ファウスト』)を朗読していた。雨模様で天候が不順だ。私は冬のフランクリンには行ったことがないが、夏とは違う風景になっていると想像する。		発信原本	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
81	D-29-25	Dimond, Margaret	1900	3	8	明治33年				無	Dimondが新島襄の伝記を読んでいることを知り、朝河はこの書簡で新島についてコメントを行う。新島は我が国のために多くを行った人物だが、彼の研究方法、宗教的な教義、彼の仕事の理念は、今や時代遅れである。何よりも私が嘆くのは、彼がその仕事を始めるにあたり外国人の資金によって始めたことである。それは深刻な誤りであった。その結果、彼の学校は、時代遅れとなった。もうひとつの新島の誤りは、彼の学生の多くが彼のやり方を信じて、アメリカの慈善団体の資金によりアメリカで勉強し、日本でもミッション活動をアメリカの資金で行ったことである。	同上	発信原本	
82	D-29-26	Dimond, Margaret	1900	3	15	明治33年				無	イギリスの軍隊がボーア人との戦争でブルームスフォンテンを占領した。南アフリカ共和国の大統領のメッセージは、予期された通りSalisbury卿の拒否にあった。この両方のシンパたちが述べる議論について、どちらにも同意できない。当然、弱い立場で独立を求めて絶望的な戦いしているボーア人は、共感以上のものが呼び起こされる。しかし、しばしばあるように、人道的な見方と神の意志とは別のものがある。我々の同情は、必ずしも十分な深い思考に基づかないことがある。道徳的な判断を下す前に考えねばならないことがある。		発信原本	
83	D-29-27	Dimond, Margaret	1900	3	22	明治33年				無	私は、アメリカ史の研究との関連で政治家の伝記を研究している。それはDaniel WebsterとJohn Calhounの伝記である。		発信原本	
84	D-29-28	Dimond, Margaret	1900	3	30	明治33年				無	私は昨日、2つの試験があった。そして、昨晩はWilliams教授のところまで夕食に招かれた。来週月曜には、授業のクラスでペルシアの哲学と宗教の歴史についてのレポートを発表しなければならない。		発信原本	
85	D-29-29	Dimond, Margaret	1900	4	6	明治33年				無	Mr.Dropperの論文は日本を歴史的な観点から理解しようとしている。その点で、私がこれまで見た論文で最善のものである。		発信原本	
86	D-29-30	Dimond, Margaret	1900	4	12	明治33年				無	先週の火曜の晩、Parker教授の教会音楽についての講演があった。彼は多くの有益な実践的な示唆を与えてくれた。彼は教会音楽の良いものと悪いものの例を挙げた。彼によれば、男らしく敬虔なものはよく、情緒的なものはよくない。少年合唱団が最善のものである。		発信原本	
87	D-29-31	Dimond, Margaret	1900	4	13	明治33年				無	(この書簡は朝河がコネチカット州ハートフォードにある会衆派教会の牧師養成神学校であるHartford Theological Seminaryに滞在中に書かれている)ここは、まさに違う世界だ。そして狭い世界である。建物は1つしかなく、12人の教授と約70人の学生がいる。彼らは皆、一定の定まった方向でしか考えないことを期待されている。人間の知性の他の方向性での活動については見る機会がほとんどない。彼らは皆、この1つの建物に住み、聖歌を歌い、礼拝し、食事をする。ある者たちは優れているが、ここでの教育や環境に不満な者もいる。すべてのキリスト教徒は、キリストが神の子でありながら、世界の罪のために受難したという教義に同意するのだろうか。この教義は、寓話的な価値をもち、歴史上、多くの寄与をしてきたが、19世紀の人間が神が他の人間を救うために1人の人間を殺したと信じることは私には思えない。		発信原本	
88	D-29-32	Dimond, Margaret	1900	4	18	明治33年				無	あなたはあなたがどんな勉強をすべきかを私に尋ねているが、完全な助言ができるほど私の知識と経験は多くはない。どのような方向での勉強を考えているのか教えてほしい。自然科学だろうか、人文科学だろうか。あるいは言語学とか宗教学だろうか。先日、私が訪問したHartford Theological Seminaryは、会衆派(Congregational)だが、この宗派のうちの保守派を代表している。		発信原本	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
89	D-29-33	Dimond, Margaret	1900	4	26	明治33年				無	‘ニューヨーク・エキュメニカル・ミッションナリー・カウンスル’が現在、開催されている。そのプロシーディングを見る限り、私にとっては歴史研究のよい会だが、それについて言いたいことは多い。10年か20年経てば、状況は変わるだろうが、この会議では賢明な人々は沈黙している。		発信原本	
90	D-29-34	Dimond, Margaret	1900	5	3	明治33年				無	私は最近、ペルシアの宗教史を学んだが、ペルシア人が同じ思想の素材から、異なる時代に異なる信仰を作り出した事実に感銘を受けた。それはたんに彼らの環境と精神が時代により変化したためであり、同じ思想が異なる時代に異なる仕方では理解されたからである。		発信原本	
91	D-29-35	Dimond, Margaret	1900	5	8	明治33年				無	サンザシの花を送ってもらい感謝する。昨夜、私が森を1人で散歩し多くのスマイルが咲いている場所を見つけた。そのスマイルを探ってきて私の部屋に置いてあるが、あなたにもこのスマイルをお送りする。		発信原本	
92	D-29-36	Dimond, Margaret	1900	5	11	明治33年				無	昨日は、日本の若き皇太子の結婚式の日だった。イェール大学にいる日本人は昨夜、結婚をお祝いした。我々の民族は、皇室への愛では心を1つにしている。天皇はその政治的権力で絶対であるが、その権力を決して行使することがない。天皇は、議会を通じて表明される国民の意思を認めるのみである。ゆえに、天皇は我々の政治的な長というよりも国民の統一性と愛国心の体現者である。天皇は最下層の民衆にも愛されている。天皇は国民に憲法を与え、我々に代議制の政体を確立した。皇太子は、私よりも数歳若い。皇太子は我々の希望であり、人々に愛されている。		発信原本	
93	D-29-37	Dimond, Margaret	1900	5	16	明治33年				無	昨日、一昨日はとても暖かかった。暖かい日が戻ってくると、私は、フランクリンに滞在していた日々を思い出す。湖の近くの山にEarlとともに登ったことを思い出す。	同上	発信原本	
94	D-29-38	Dimond, Margaret	1900	5	26	明治33年				無	私の試験は6月8日に始まる。今年度は学部の授業も取っているが、来年度は、今年よりも大学院の授業に専念するだろう。大学院の授業では、試験よりも報告や論文、レポートが重視されるので、より興味深く刺激的なものとなろう。私の勉学の期間はなお未定だが、3年間滞在して博士学位を取る予定である。だから3年後には、私の人生の最も困難な時期が来るだろう。1つには教えなければならないことがあり、また他方で、負債を返済し、故国の両親を支えねばならない。		発信原本	
95	D-29-39	Dimond, Margaret	1900	5	31	明治33年				無	私は昨夜、ニュー・プレストンから帰ってきた。そこはとても美しい土地である。川のような小さな湖がある。隣接する山からの見晴らしが素晴らしい。Earlが6月20日ごろフランクリンに行くだろう。試験が来週から始まる。私は夏休みにはイェール大学かダートマス大学で図書館の仕事をするようになった。		発信原本	
96	D-29-40	Dimond, Margaret	1900	6	17	明治33年				無	先週で試験が終わった。試験は難しかったが、問題を楽しんだ。Earlが来ていて明日、出発する。私は英語の発音がよくなることを願っている。卒業式がまもなくある。		発信原本	
97	D-29-41	Dimond, Margaret	1900	6	23	明治33年				無	小さなパーティーを昨夜、日本人の古い友人たちと私の部屋で開催した。		発信原本	
98	D-29-42	Dimond, Margaret	1900	7	1	明治33年				無	日本では30年以上前に、封建制を破壊する凄惨な内戦があった。私が生まれる前のその戦争で、私の父の財産はすべてなくなり、父の兄弟、義理の父も死んだ。国を動かしたのは下からの精神であり、国家を現在の地位にまで高めたので、この戦争は無駄ではなかった。		発信原本	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
99	D-29-43	Dimond, Margaret	1900	7	5	明治33年				無	昨日、今日ととても暖かい。あなたのところも同じように暖かくなっていると思う。	同上	発信原本	
100	D-29-44	Dimond, Margaret	1900	7	13	明治33年				無	私は図書館の仕事をしている。それはかなり頭の使う仕事で、古い、忘れられた書物のカタログを作成している。正確な著者名、版、日付、出版地、大きさ、装丁の仕方を確認しなければならない。それらをカードにきれいに書き込まねばならない。ある本には、タイトルも、頁もない。本の内容から、おおよその日付を確定し、内容から著者も推定しなければならない。私はつねにそのために事典を参照している。このほかの仕事としては、レストランのウェイターをしている。こちらの方が楽しいバイトである。		発信原本	
101	D-29-45	Dimond, Margaret	1900	7	25	明治33年				無	私は今とくに、中世ラテン語を勉強している。この言語は中世史の研究のカギとなるだけでなく、東洋と西洋、古代と近代の全人類の運命のカギとなる言語である。まもなくウェイターの仕事を辞めるのもっと勉強の時間が取れるだろう。		発信原本	
102	D-29-46	Dimond, Margaret	1900	8	18	明治33年				無	私は最近、午前中に勉強し、午後には勉強した後、運動する。晩には、ポーチに座り、午後8時ごろまで人と話す。そして部屋に戻り、少し勉強する。午後9時半に、運動をして冷水に入る。これで私は大変健康である。Earl と Della に会ったらよろしく伝えてほしい。		発信原本	
103	D-29-47	Dimond, Margaret	1900	9	1	明治33年				無	フランクリンのあなたの家への招待に感謝する。滞在できなくても、私はフランクリンの駅で降りて数分間でもあなたと話をしたい。Clarence を大学に入学させることを強く勧める。		発信原本	
104	D-29-48	Dimond, Margaret	1900	9	26	明治33年				無	先週の金曜日、長旅からイエール大学に戻ってきた。騒がしく暖かい気候で湿度がある。新学期が始まり、イエールにも多くの学生が帰ってきた。活気にあふれている。		発信原本	
105	D-29-49	Dimond, Margaret	1900	10	4	明治33年				無	私の勉学は、真剣さを増してきた。私は、8、9時間の大学院の授業の勉強をしている。要求されている時間は、7、8時間であり、それぞれの時間につき、3、4時間の準備が必要である。またいくつかの付加的な勉学もあるので、朝から晩まで私は忙しい。		発信原本	
106	D-29-50	Dimond, Margaret	1900	10	6	明治33年				無	私の今年の勉学は、完全に大学院の授業である。昨年は、一部学部 の勉強をしていた。大学院の授業は、刺激的で興味深い。いくつかの 大学院の授業は、つねに完全に講義である。しかし、それよりも興味 深いものは、'研究のコース'である。その授業にほぼつねに取り組ん でいる。また、歴史学の方法は、絶対的な公平性と区別を必要とす る。歴史学での研究の仕事の方法は以下のようである。そこでは、教 授は、ガイドであって、教師ではない。教授は、研究がなされるべき方 向を導く。そして個々の学生に次に取り組むべきトピックを与える。学 生は、通常、オリジナルな史料に向かい、このテーマを自分自身で研 究する。次の授業で、それについて報告する。それに続いて、クラス では討論と批判がある。		発信原本	



# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
107	D-29-51	Dimond, Margaret	1900	10	13	明治33年				無	あなたをMargaretと宛名で書いてみたい誘惑を覚えるが、今まで通りに紳士的に名字で呼ぶ。今年私が取っている授業は以下のようである。1.中世の制度(Adams教授)、2. テューダー朝のイングランド(Richardson教授)、3.1760年以降のイングランド国制史(Wheeler教授)、4.革命と内戦との間のアメリカ外交史(Bourne教授)、5.アジアとアフリカでのヨーロッパの植民地(Williams教授)。この5つの授業で週に9時間になる。すべてが大学院の授業で、3が講義で、それ以外は研究のコースである。これら以外に、次の授業をゲストとして聴講している。1.イングランド史(Adams教授)、2.1789年以降のヨーロッパ史、3.アメリカ産業史(Schwabe教授)、4.経済学(Emery教授)、5.公共財政学(Schwabe教授)。	同上	発信原本	
108	D-29-52	Dimond, Margaret	1900	10	28	明治33年				無	あなたが私の名前の呼びかけで、Mrをつけなければ、私もあなたに形式ばった呼びかけをしないだろう。私の女性の友人の1人は、最初に会ったときからまったくMrをつけずに私を呼んでいる。先週の金曜日の晩には、Historical ClubでWilliams教授の中国問題についての報告があった。歴史学部のほぼすべての教授と院生が出席していた。	同上	発信原本	
109	D-29-53	Dimond, Margaret	1900	12	29	明治33年				無	20世紀がまもなく来る。よいお年を。	同上	発信原本	
110	D-29-54	Dimond, Margaret	1901	1	1	明治34年				無	'年頭の自戒'を同封して送る。年内に返してもらえれば幸いである。	同上	発信原本	
111	D-29-55	Dimond, Margaret	1901	1	12	明治34年				無	この1週間、病気でベッドで寝ていた。多くの人々がインフルエンザだが、私はインフルエンザではない。同じ住居にいる医学生に看護してもらった。	同上	発信原本	
112	D-29-56	Dimond, Margaret	1901	1	19	明治34年				無	月曜以来、再び起き上がっているが、私はまだ疲労感がある。	同上	発信原本	
113	D-29-57	Dimond, Margaret	1901	2	15	明治34年				無	インフルエンザに罹ったとのこと、お気の毒だ。私は2月2日にひどい風邪に罹ってから2週間ベッドで寝ていたが数日前からやっと仕事ができるようになった。	同上	発信原本	
114	D-29-58	Dimond, Margaret	1901	3	9	明治34年				無	私は多くのレポートの作成で今忙しい。それらは、「中国人移民の待遇」、「モンロー宣言へのイギリスの関与」、「会衆派教会の起原」、「1831-32年のイギリスの議会改革」などである。	同上	発信原本	
115	D-29-59	Dimond, Margaret	1901	3	24	明治34年				無	復活祭の休暇が近づいている。4月3日に始まり、1週間続く。私はどこかに気分転換に行くつもりだが、休暇後は、はるかに忙しくなるだろう。	同上	発信原本	
116	D-29-60	Dimond, Margaret	1901	4	5	明治34年				無	私はコネチカット州のウッドブリッジで休暇を過ごしている。静かな復活祭を迎えるだろう。	同上	発信原本	
117	D-29-61	Dimond, Margaret	1901	5	17	明治34年				無	あなたは私のレポートを読みたいと言っているが、私も自身のレポートを批判してもらえたらよいのと思う。真理以上に畏敬すべきものはない。そして永続するものはない。真理は個人のものではなく、誰かをひいきしたりしない。私が歴史学の学生として勉学するとき、私はどこかの国に所属する市民ではない。私は虚偽以外の敵をもたない。私は他の人にも同じことを期待している。	同上	発信原本	
118	D-29-62	Dimond, Margaret	1901	6	9	明治34年				無	私の試験は1つを除いて終わった。ミケランジェロの絵画の複製を見て、深い感銘を受けた。ミケランジェロは私の目を開かせてくれた。親友Hewesの結婚式の招待状を受け取ったが、結婚式のあるボストンまでその日の6月27日に行くことができるかどうかかわからない。	同上	発信原本	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
119	D-29-63	Dimond, Margaret	1901	6	16	明治34年				無	イエール大学の司書が私に、図書館の東洋関係の書物のカタログ作成を求めているので、7月中はここにいる。その後、どこに行くかは決めていない。やっと最後の試験が終わった。卒業式が26日にあり、25日にはイエールとハーヴァードの試合がある。イエールの野球チームは、今年はあまりよくない。	同上	発信原本	
120	D-29-64	Dimond, Margaret	1901	6	20	明治34年				無	私は昨日来、病気だった。おそらく食べたもののせいだと思う。しかし、今はほぼ回復している。		発信原本	
121	D-29-65	Dimond, Margaret	1901	6	29	明治34年				無	卒業式が終わった。学生たちはイエール大学を離れた。今はとても悲しい季節だ。突然の別離の季節だ。私は多くの卒業式を見てきたが、まだ平常心でいることができない。野球ではハーヴァードがイエールを破った。それは、ハーヴァードがピッチャーで勝り、イエールのバッティングがよくなかったからだ。その試合にはたくさんの観客がいて、私もそこにおいて興奮した。しかし、イエールはボートレースではハーヴァードに勝った。こちらの方が野球よりもはるかに重要だ。私はボートレースは見に行かなかった。出費がかかるからだ。Hadleyの卒業式の演説も素晴らしいものだった。		発信原本	
122	D-29-66	Dimond, Margaret	1901	7	13	明治34年				無	私は図書館での書物のカタログ作成を手伝っている。また私は、素晴らしい本を購入した。それは、メイトランドが翻訳したギールケの <i>Political Theories of the Middle Age</i> (『中世の政治理論』)である。この著者と翻訳者は、近代国家システムを中世ヨーロッパから跡付けようと試みている。古代と近代との接続が説得的な仕方でも提示されている。著者は、中世の法学者と教会法学者によるラテン語史料の多くの参照を行っている。あなたの母親が80歳の誕生日を一つがなく迎えたことをうれしく思う。Earlは故郷に帰り、手紙をよこしたが、そこでは、もはやDellaとはいっしょにやっついていかないと書いてあった。		発信原本	
123	D-29-67	Dimond, Margaret	1901	8	8	明治34年				無	1週間前、ハノーヴァーにやってきたが、昔からの友人たちと再会した。そこで私はY.M.C.A.のホールに滞在している。食事はTucker家で食べている。私は今、勉学の大部分を1902年の5月1日の前に終えなければならぬ博士論文に充てている。私はダートマス大学の図書館にはない必要な書物をイエール大学から持ってきた。私が今行っている研究は大変困難なものである。しかし、その困難さはそれほど感じていない。というのは、それが新しいもので、オリジナルで、完全に自分でやっている独創的なものだからだ。		発信原本	
124	D-29-68	Dimond, Margaret	1901	8	21	明治34年				無	私はハノーヴァーで今、孤独だが、自身の研究で忙しい。しかし毎日2時間、ウォーキングの運動をしている。この野山は美しい。		発信原本	
125	D-29-69	Dimond, Margaret	1901	9	26	明治34年				無	ダートマス大学でWebster centennialが終わった。大学の同窓生などの多くの人々が出席した。ダートマス大学の道徳的な力が皆を驚かせたに違いない。		発信原本	
126	D-29-70	Dimond, Margaret	1901	9	27	明治34年				無	マッキンリー大統領の私的な生活は悲しい死に終わったが(マッキンリーは1901年9月5日に暴漢に狙撃され14日に死亡した)、彼の公的なキャリアは本当に幸運だった。彼の大統領時代に大きな繁栄の時代がやってきたのは、彼の業績だと民衆により信じられている。		発信原本	
127	D-29-71	Dimond, Margaret	1901	11	9	明治34年				無	イエール大学のPolitical Science ClubとHistorical Clubが繰り返し、何か論文を報告するように私に求めてきた。名誉なことだが時間がないのでまだ行ってない。		発信原本	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
128	D-29-72	Dimond, Margaret	1902	1	1	明治35年				無	新年の挨拶を送る。私は昨晩は友人の家族とともに過ごした。明日の晩は私の部屋に友人が訪ねてくる。この書簡とともに私が書いた今年の‘年頭の自戒’を同封する。	同上	発信原本	
129	D-29-73	Dimond, Margaret	1902	3	19	明治35年				無	私は今、博士論文を書いている。200頁以上は書き終えている。そして現在、第3章に取り組んでいる。さらに3つの章を書く予定だが、最も長い章は今、書き終えた。全体がどの程度の長さになるのかはわからない。しかし、300頁は超えないようにするつもりである。タイプライターで打ってもらると、1頁が15セントかかる。私は3月3日に書き始めたが、5月1日までに終えて製本し、提出しなければならない。そして教授たちの批判に対して、自身の立場を弁論しなければならない。ところで、あなたはタイプライターを使ったことがあるだろうか。タイプの仕事をする若い女性が一晩で15頁ものタイプをするのは驚きだ。しかし、私の博士論文の場合、注が膨大にあり、その中に日本語の固有名詞がたくさんあるので知らない人には任せられない。		発信原本	
130	D-29-74	Dimond, Margaret	1902	5	18	明治35年				無	私は今日、1つの古典的な歴史学の文献を読んだ。それは、H.Brunnerの騎士の奉仕に関する論文で、ドイツ語で38頁あるものだ。深い学識と鋭い知性が感じられるものである。Adams教授は、この論文を彼が知る限りで最高のものであったのも当然である。この論文を読めば、自分がいかに歴史研究とは何かを知らずにいたことがわかる。それほどの論文である。Clarenceはうまくやっているか。知らない世界へと入っていくことは、多くの祖母たちが考えるように危険なことではない。[同居していた少年のClarenceが大学入学などの理由などで家を離れたのだろう。]		発信原本	
131	D-29-75	Dimond, Margaret	1902	6	21	明治35年				無	私の博士論文は、好意的に評価され、博士学位が学長から来週水曜日に授与されることになった。これでイェール大学での私の勉学は終わる。9月初めまでにはハノーヴァーに行くことになるだろう。		発信原本	
132	D-29-76	Dimond, Margaret	1902	9	6	明治35年				無	昨晩ダートマス大学にやってきてまだ仮住まいである。大学は18日から始まる。それまでにハノーヴァーでの生活の準備のため多くの仕事をしなければならない。		発信原本	
133	D-29-77	Dimond, Margaret	1902	10	18	明治35年				無	すべての学生がベストだとは言えないが、私の仕事は無事に始まった。学生たちには多くの注意深い知的訓練が必要だ。彼らは暗唱できるが、期待するほどには考えたり、議論したりできない。彼らは書物からの直接の答えはできるが、推論したり、意見を考えたりすることはできない。授業は主として講義形式である。来年からは、より厳密な学生の選抜をするつもりだ。		発信原本	
134	D-29-78	Dimond, Margaret	1902	11	19	明治35年				無	今年の私の学生はすべてが優秀な者ではないが、彼らは次第に私が要求する勉強をわかってきており、より向上している。		発信原本	
135	D-29-79	Dimond, Margaret	1902	12	19	明治35年				無	今年の‘年頭の自戒’を返してくれて感謝する。あなたの両親が病気のことで大変だろう。ダートマス大学の図書館の文献目録作成を行った。		発信原本	
136	D-29-80	Dimond, Margaret	1902	12	24	明治35年				無	クリスマスおめでとう。私はダートマス大学に帰ってきて多くの友人たちと会っている。		発信原本	
137	D-29-81	Dimond, Margaret	1903	1	1	明治36年				無	‘年頭の自戒’を同封して送る。私は今晚、何人かの友人と毎年やっている会合を開く。		発信原本	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
138	D-29-82	Dimond, Margaret	1903	2	3	明治36年				無	試験監督と答案の採点ほど大変な作業はない。試験監督では、静かに座るか、学生たちを厳しい目つきで見て部屋を歩き回らねばならない。あらゆる種類の手書きの答案を見なければならぬ。多くのスペルミスや誤りがある。私はイエール大学から私がHadley奨学金をもらえることになったことを聞いた。その資金は50万ドルでそこからの収入が毎年、1人か2人の業績の出版に使われる。この基金はHadleyのクラスメートたちにより作られた。私が今年唯一の授与者である。	同上	発信原本	
139	D-29-83	Dimond, Margaret	1903	4	2	明治36年				無	私の授業は、少し前に、中国の宣教の問題を扱うことで終了した。私がそれについて以前扱ったときよりも多くの研究を見出した。		発信原本	
140	D-29-84	Dimond, Margaret	1903	4	15	明治36年				無	私は博士論文の改訂をまだ終えていない。その仕事のためにはなお1週間必要だろう。		発信原本	
141	D-29-85	Dimond, Margaret	1903	4	18	明治36年				無	次の月曜日にフランクリンに行く。1週間いることができるかどうかかわからない。		発信原本	
142	D-29-86	Dimond, Margaret	1903	4	26	明治36年				無	私は博士論文の改訂を完全に終えた。		発信原本	
143	D-29-87	Dimond, Margaret	1903	4	30	明治36年				無	私は今年の初め、社会学、政治学、経済学、歴史学のすべての教員を説得して報告と討論を行うクラブを組織した。規則は、報告する者の部屋で開催すること、そして、メンバーそれぞれが年に1度報告することである。昨晚が私の順番であった。私の報告のテーマは、'中国の宣教問題'であった。大変興味をもってもらい、報告後の討論は盛り上がった。		発信原本	
144	D-29-88	Dimond, Margaret	1903	5	13	明治36年				無	私の博士論文改訂は終わった。4年生は6月初めまでに授業を終え、試験が6月3日頃に始まるだろう。		発信原本	
145	D-29-89	Dimond, Margaret	1903	6	7	明治36年				無	私の授業は今終了したところだ。20日より前にはニュー・ヘブーンに行くつもりだ。Harnackの <i>What is Christianity?</i> (『キリスト教の本質』)を読んだか。それは、偉大な宗教史家による長年の学問と思想の要約である。いくつかの彼の結論を除き、私は大半のことは受け入れられる。		発信原本	
146	D-29-90	Dimond, Margaret	1903	6	17	明治36年				無	私の授業の試験問題を同封して送る。学生はかなりよい成績だった。全員が合格した。私はハノーヴァーを金曜の朝に発ち、まっすぐニュー・ヘブーンに行く。現在、Harnackを読んでいる。彼がキリスト教の教義の歴史を論じている部分を読み始めている。		発信原本	
147	D-29-91	Dimond, Margaret	1903	6	26	明治36年				無	卒業式、野球の試合とボートレースはすべておわった。ボートを身に行ったが、イエール大学の完全勝利だった。Earlはフランクリンにいますか。		発信原本	
148	D-29-92	Dimond, Margaret	1903	7	24	明治36年				無	私の心はいま、少しだけスミス大学に入ろうとしている若い女性に捕らわれている。彼女は入学試験について知ろうとしている。彼女は学生としてとくに聡明ではないが、普通でないほどの強さ、判断力、そして音楽と絵画の才能をもっている。学生としては、とくに優れてはいないが、平均を超えている。彼女の心は冷淡ではない。彼女の精神の強さと道徳的な判断力の鋭さでは、私はこのような女性を見たことがない。彼女がどのような女性になっていくのか私はとても関心がある。		発信原本	
149	D-29-93	Dimond, Margaret	1903	7	26	明治36年				無	私がかもっているHarnackの本を送る。秋までに返してほしい。もしこの本を手元におきたいならば、あなたの分をこちらで購入する。余白に書いた私のコメントが役に立つだろう。		発信原本	
150	D-29-94	Dimond, Margaret	1903	8	13	明治36年				無	休みは終わりつつある。現在、スミス大学に入ろうとしてドイツ語を勉強している若い女性の手助けをしている。この仕事は、私がドイツ語が好きで、いろいろと学ぶことが多いのでとても楽しい。Harnackはもう読んだか。私は、精神的な気晴らしに、ルターを生涯を読んでいる。		発信原本	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
151	D-29-95	Dimond, Margaret	1903	9	3	明治36年				無	あなたがHarnackを読んでいるのでうれしい。この本の論点についてのあなたの意見を聞きたい。我々がいっしょにこの本を読むことができないのは残念だ。ドイツ語作文を手伝っていた若い女性は、秋の入学試験に通るものと思われる。	同上	発信原本	
152	D-29-96	Dimond, Margaret	1903	9	22	明治36年				無	私の調子はよいが、私の継母が7月に亡くなったことで茫然自失した。彼女の最後の数年間は、美しい人生だった。思い出たびに苦痛を感じる。		発信原本	
153	D-29-97	Dimond, Margaret	1903	10	19	明治36年				無	学年歴の最初の週になった。私の博士論文の刊行の仕事は、なかなか終わらない。		発信原本	
154	D-29-98	Dimond, Margaret	1903	11	6	明治36年				無	私は3つの事柄で忙しい。つまり、教育、著述、研究である。クリスマス休暇のときにまたニュー・ヘブーンに行くかもしれない。私の父が30年間務めた場所から退職した。その村の人々は、彼が去ることを惜しんで記念品を贈ってくれた。		発信原本	
155	D-29-99	Dimond, Margaret	1903	11	7	明治36年				無	返してもらったHarnackを受け取った。Harnack教授は、亡き歴史家 Mommsen教授の葬儀でMommsenの遺言により追悼演説を行った。その数日後、Harnackは亡くなった。Harnackは、深い宗教的教養がある人だった。そうでなければ彼の理念は、もっと超保守主義者によって攻撃されただろう。しかし、Harnackには見られないようなキリスト教についての民族主義的な解釈をしているのが、イエール大神学部porter教授の論文である。それは日本語にも訳されている。		発信原本	
156	D-29-100	Dimond, Margaret	1903	12	22	明治36年				無	よいクリスマスを迎えるように。私は運動のために多くの事をやっている。Pine Park Associationが所有する森に行き木を伐採し、斧でそれを切っている。日々、この1、2時間の運動をしている。そのために、斧とゴム製の長靴を購入した。厚いセーターを着て、耳当てをしてそれをやっている。		発信原本	
157	D-29-101	Dimond, Margaret	1904	1	1	明治37年				無	新年おめでとう。お母さんの具合はいかが。これまで通り、'年頭の自戒'を同封して送る。これから斧で木の伐採に行くところだ。		発信原本	
158	D-29-102	Dimond, Margaret	1904	1	17	明治37年				無	この手紙は購入したタイプライターで打っている。これはHammondのタイプライターである。私は3種類のタイプライターを現在持っている。今やっている木の伐採はとても楽しい。私といっしょに何人かでやっている。皆、教員である。たわいもない会話をしながら、斧を振っている。この仕事には報酬はない。純粋なスポーツとしてやっている。		発信原本	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
159	D-29-103	Dimond, Margaret	1904	2	14	明治37年				無	学生たちは戦争のニュースを聞きたがっている。私は先週の金曜日に、翌土曜日の晩に私がロシアと日本の状況について講演することのポスターを貼るのを許された。私はしかし、100人も入らない教室を取った。皆からもっと大きな教室を使うように示唆されたが断った。私自身の企画で、大群衆に話すのは適切ではないと思ったからだ。本当に関心がある人だけに聴衆を限定すべく、参加できるのは、関心ある学生のみで教員や女性はお断りと周知した。また講演は2時間半とした。これらのすべての予防措置は、意味がなかった。講演を行った昨晚、その建物に着いたとき、教室だけでなくそこに至る階段にも学生や教員であふれかえっていた。彼らに説得され、カレッジの最大の講堂に移ることにした。人々はものすごい勢いで、その場所へと駆け込んだ。だが多すぎてすべてが中に入ることはできなかった。人々は、椅子を持ち込んだり、立ったまま聞いていた。おそらく学生全員がそこに参加していた。私は、1時間以上、戦争の意義と原因について愛国者の視点からではなく一学生の視点から説明しようとした。私はこの町でもう1度、入れなかった人や公衆のために講演をしなければならぬ。またこの後、他の町にも講演で呼ばれている。私の仕事が深刻な状況に陥らない限り、戦争の意義を知らしめる機会を受け入れるつもりだ。	同上	発信原本	
160	D-29-104	Dimond, Margaret	1904	12	4	明治37年				無	私の書物[ <i>The Russo-Japanese Conflict</i> (『日露衝突』)]は現在販売中である。アメリカとヨーロッパで広く読まれることを期待している。出版社は刊行費用として約2,500ドルかかったが、私自身もまた草稿を形にするまで多くの金銭を費やした。私の最近の書物[ <i>The Early Institutional Life of Japan</i> (『大化改新』)]には私に莫大な費用がかかった。今回の新しい本は、私の支出を取り戻してくれるかもしれない。私により最高の楽しみである木の伐採をまた始めている。	同上	発信原本	
161	D-29-105	Dimond, Margaret	1904	12	29	明治37年				無	あなたは私の本の書評をいくつかは見たであろう。しかしこれまでのところ、学問的な立場の書評はない。私がそこから学ぶものがある書評もない。どの書評も、私の論述の方法については触れていない。	同上	発信原本	
162	D-29-106	Dimond, Margaret	1905	1	7	明治38年				無	私はあなたから返してもらった昨年の‘年頭の自戒’を受け取った。この書簡に、今年の‘年頭の自戒’を同封する。	同上	発信原本	
163	D-29-107	Dimond, Margaret	1905	2	5	明治38年				無	私は今後長く継続することになろう一連の研究をすでに始めた。それは重要な成果を生むであろう。	同上	発信原本	
164	D-29-108	Dimond, Margaret	1905	3	6	明治38年				無	私が今行っている新しい授業は、多くの時間を費やすもので、最近まで自分の研究の時間を犠牲にしてきた。しかし、この授業は直接自分の研究にかかわらないが自分の知識を増すものだ。	同上	発信原本	
165	D-29-109	Dimond, Margaret	1905	6	9	明治38年				無	昨年から今年にかけて、私の知的世界での地位は、私の特殊な研究を評価する人々の間で認められてきた。これは、私の将来の仕事を容易なものにするだろう。また私の責任を高めるだろう。	同上	発信原本	
166	D-29-110	Dimond, Margaret	1905	8	5	明治38年				無	トルストイの作品を読んだか。この数日、いくつか読んだ。それらは力強く助けとなるものである。 <i>Resurrection</i> (『復活』)、 <i>The Kreutzer Sonata</i> (『クロイツェル・ソナタ』)を読んだ。	同上	発信原本	
167	D-29-111	Dimond, Margaret	1905	12	24	明治38年				無	クリスマスカードをありがとう。よいクリスマスを。私は日本に帰国することを考えている。1月22日に出発し、2月16日に着く予定だ。その準備をしている。おそらく、帰国は1年後になるだろう。出発前にチャンスがあれば1度お会いしたい。	同上	発信原本	
168	D-30-1	Dunham, Helen & Bill	1941	12	28	昭和16年				無	自身の長文の書簡のコピーを同封して送ることを述べる。	Helen Dunham(旧姓はGarrison、William Dunhamと結婚)とBill(Williamの愛称)	自筆控え	
169	D-30-2	Dunham, Helen & Bill	1943	10	9	昭和18年				無	歴史分析における想像力の役割について述べる。	Dunhamの夫妻。二人とも朝河の教え子。	タイプ控え	
170	D-30-3	Dunham, Helen & Bill								無	判読不能		自筆控え	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
171	D-31-1	Dunham, Helen	1943	1	14	昭和18年				無	自分の主たる研究とは別に、平日の夜には日本国民の歴史的・心理的習性とその展開についての研究を行っていることを述べる。	Helen Dunham(旧姓はGarrison、William Dunhamと結婚)	タイプ控え	L-261
172	D-31-2	Dunham, Helen	1943	4	18	昭和18年				無	読んでみようがいが、これまで送った書簡を返してほしいと述べる。		自筆控え	
173	D-31-3	Dunham, Helen	1944	2	27	昭和19年				無	Menander's Mirrorの“The constant things”という論文を読んでいる。		タイプ控え	P
174	D-32-1	H.S.E.	1936	6	22	昭和11年				無	プエルトリコとドミニカ共和国に旅した際に汽船から出した書簡。現地の自然や熱帯の植物や動物の生態について述べる。		タイプ控え	L-198
175	D-32-2	H.S.E.	1941	7	20	昭和16年				無	最近、ロード・アイランドの海岸で1週間過ごしたことを述べる。		自筆控え、タイプ控え2部	
176	D-33	Editor of the New York Times	1941	12	28	昭和16年				無	The New York Timesに出た「日本人の民族心理への洞察」という記事(ヘンリー・ウッド筆、1941年11月28日)の内容の誤りを指摘する投書を送ったことを述べる。この朝河の投書に対する編集者からの掲載謝絶の葉書もここに保管されている。	The New York Timesの編集者	下書のうち、5枚は投稿原稿(New York Times宛)案文(自筆控え2種、タイプ控え)	L-247
177	D-34	Fay, Sydney B.	1942	1	25	昭和17年				無	Fay教授が雑誌Current History上で書いた論文への感想を述べる。	イェール大学教授 Sidney Bradshaw Fay(第一次世界大戦の研究で有名な現代史家)	自筆控え	
178	D-35-1	Fisher, Irving	1942	12		昭和17年				無	日本のアメリカへの態度を正当化する来栖の発言についてFisher教授からコメントを求められ、それに対して返事をする。	イェール大学教授(経済学者)	自筆控え	P
179	D-35-2	Fisher, Irving	1944	10	2	昭和19年				無	日本との戦争をいかなる方法で終わるのが目下の重大な問題であり、それは主として2つの要因にかかっている。1つは、日本人の現状の理解であり、もう1つは日本人の自己改革のための指導者の出現である。		自筆控え34枚、タイプ控え19枚	
180	D-36	Foord, John	1910	4	23	明治43年				無	雑誌に論文を掲載してもらい、抜き刷りを送ってもらったことへのお礼。	[内容から朝河が寄稿した雑誌[雑誌名は不明]の編集者とみられる]	タイプ控え	
181	D-37-1	Frères Maisonneuve	1929	10	9	昭和4年				無	書籍の発注	パリの出版社	タイプ控え	
182	D-37-2	Frères Maisonneuve	1929	11	7	昭和4年				無	書籍代金の支払い		タイプ控え	
183	D-38	Mrs.Furniss	1944	1	6	昭和19年				無	判読不能		英文速記、自筆控え	
184	D-39	E.R.G. [Erwin Ramsdell Goodenough]	1941	3	14	昭和16年				無	歴史学の使命はたんに過去の知識を得ることではなく、過去への洞察を得ることである。事実の知識は基礎となるが、その最終目標ではない。	イェール大学教授 Erwin Ramsdell Goodenough(神学者)宛[E-44-1,E-44-2の受信者と同一]。	タイプ控え	
185	D-40-1	Gamber, J.	1926	6	4	昭和1年				無	書籍の発注	パリの出版社	タイプ控え	
186	D-40-2	Gamber, J.	1927	2	14	昭和2年				無	書籍の発注		タイプ控え	
187	D-40-3	Gamber, J.	1928	2	3	昭和3年				無	書籍の発注		タイプ控え	
188	D-40-4	Gamber, J.	1928	3	9	昭和3年				無	書籍の発注		タイプ控え	
189	D-40-5	Gamber, J.	1929	10	9	昭和4年				無	書籍代金の支払い		タイプ控え	
190	D-40-6	Gamber, J.	1929	10	24	昭和4年				無	書籍代金の支払い		タイプ控え	
191	D-40-7	Gamber, J.	1929	12	12	昭和4年				無	書籍の発注		タイプ控え	
192	D-40-8	Gamber, J.	1930	1	30	昭和5年				無	書籍の発注		タイプ控え	
193	D-40-9	Gamber, J.	1930	3	22	昭和5年				無	書籍代金の支払い		タイプ控え	
194	D-40-10	Gamber, J.	1930	5	29	昭和5年				無	書籍代金の支払い		タイプ控え	
195	D-40-11	Gamber, J.	1930	6	23	昭和5年				無	書籍代金の支払い		タイプ控え	
196	D-41	Mrs.Garrison		6	18					無	Helen GarrisonとW.Dunhamの結婚式への招待に対する礼状	Helen Garrisonの母親	自筆控え	L-232
197	D-42	Geer, Wm.D.	1946	4	1	昭和21年				無	経済学者ガルブレイスの論文“Japan's Road Back”の抜き刷りのお礼	雑誌Fortuneの出版者 William D.Geer	タイプ控え	L-275
198	D-43-1	Gonthier, André	1931	2	5	昭和6年				無	Gonthierが朝河の論文を参考にして日本の封建制に関する論文を書いていると知らせてきたことへの返事	ベルギーの歴史学者	タイプ控え	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
199	D-43-2	Gonthier, André	1931	4	16	昭和6年				無	Gonthierの日本の中世都市に関する質問に答える。	同上	タイプ控え	
200	D-44-1	Goodenough, Erwin R.	1942	2	1	昭和17年				無	Goodenough教授が妻と離婚してすぐに再婚したことに対し、お祝いと憂慮を述べる。	イエール大学教授 Erwin Ramsdell Goodenough(神学者)	自筆控え	
201	D-44-2	Goodenough, Erwin R.	1942	2	8	昭和17年				無	現在のドイツ人に関する問題について述べる。		自筆控え	
202	D-45-1	Grant, John	1927	4	22	昭和2年				無	書籍代金の支払い	エディンバラ(スコットランド)の書店	タイプ控え	
203	D-45-2	Grant, John	1930	2	27	昭和5年				無	書籍の発注		タイプ控え	
204	D-45-3	Grant, John	1930	4	7	昭和5年				無	書籍代金の支払い		タイプ控え	
205	D-45-4	Grant, John	1930	5	29	昭和5年				無	書籍代金の支払い		タイプ控え	
206	D-46-1	Gras, N.S.B.	1929	11	7	昭和4年				無	Gras教授から、三井家の歴史に関する論文を寄稿できる日本人を紹介してほしいとの問い合わせに受け、適切な寄稿者を探すことを約束する。	ボストンのThe Graduate School of Business Administrationの教授。雑誌 <i>Journal of Economic and Business History</i> の編集担当者。	タイプ控え	L-154
207	D-46-2	Gras, N.S.B.	1930	1	3	昭和5年				無	三井家の歴史に関する論文の寄稿者を探すため、阪谷男爵に連絡を取ったことを述べる。		タイプ控え	L-157
208	D-46-3	Gras, N.S.B.	1930	5	8	昭和5年				無	著書の寄贈のお礼を述べる。		タイプ控え	
209	D-46-4	Gras, N.S.B.	1931	1	8	昭和6年				無	三井家の歴史の論文がまだ書かれていないことについて、阪谷男爵に再度連絡を取ることを述べる。		タイプ控え	
210	D-46-5	Gras, N.S.B.	1931	2	12	昭和6年				無	三井家の歴史の論文について、阪谷男爵に連絡を取ったことを述べる。		タイプ控え	
211	D-46-6	Gras, N.S.B.	1931	6	30	昭和6年				無	三井家の歴史に関する論文について、阪谷男爵との交渉が長引いていることを述べる。		タイプ控え	L-173
212	D-47-1	Graves, Mortimer	1930	10	11	昭和5年				無	‘アメリカ学術団体評議会’内でアメリカでの日本研究促進のための委員会を新設し朝河に委員を委嘱する依頼に対し、日常の業務多忙の理由で謝絶している。	ワシントンD.C.にある‘アメリカ学術団体評議会(American Council of Learned Societies)’のAssistant Secretary	タイプ控え	
213	D-47-2	Graves, Mortimer	1930	10	24	昭和5年				無	同上の日本研究促進のための委員会が週末に開催されることを条件に引き受ける。		タイプ控え	
214	D-47-3	Graves, Mortimer	1931	11	19	昭和6年				無	東洋研究のための資金が初学者の学習のためにはではなく、より高度な東洋研究を促進するために使われべきだと述べる。		タイプ控え	
215	D-48-1	Gray, Father R.J.	1933	5		昭和8年				無	Grayが朝河の論文を参考にして日本の封建制に関する論文を書いていると知らせしてきたことへの返事。	イエズス会神父	自筆控え	
216	D-48-2	Gray, Father R.J.	1942	12	23	昭和17年				無	クリスマスの挨拶状		タイプ控え	L-259
217	D-48-3	Gray, Father R.J.	1944	12	10	昭和19年				無	ロシアには、西欧の多くの国家のような封建契約、騎士道、ルネサンスといった歴史的な経験がない。このことが世界で影響力を持ってきたロシアの現在、将来の行為を理解する手助けになる。ロシアとアンゴサクソン系の諸国家との関係が来るべき時代に大きな問題のひとつとなるだろう。		タイプ控え	
218	D-49	Greene, Evarts Boutell	1933	3	5	昭和8年				無	日本の歴史学の現状についての論文を依頼されたことに対し、年内には書くことができないだろうことを述べる。	コロンビア大学教授。彼の専門はアメリカ史であったが、宣教師の息子として日本に生まれたこともあり、コロンビア大学の日本学研究所長も務めた。	タイプ控え	
219	D-50	Griffin, Eldon	1944	2	22	昭和19年				無	朝河がGriffinに送ったオープンレターのさらなる回覧についての意見を述べる。	イエール大学で1937年に学位を取得した東アジア近代史の専門家、朝河の教え子	タイプ控え	P
220	D-51	I.H.[鳩山一郎]	1940	1	28	昭和15年				無	現在の日本は自身を客観的に吟味することが急務である。このような事態は国史の過去を見ても稀であり、今日には危機という言葉が妥当する。	鳩山一郎(衆議院議員)	タイプ控え	L-217/P
221	D-52-1	Hadley, A.T.	1908	12	8	明治41年				無	Hadley教授の日本招聘に関して日本側からの情報を伝える。	イエール大学総長(President)	タイプ控え	



# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
222	D-52-2	Hadley, A.T.	1908	12	15	明治41年				無	Hadley教授の日本招聘に関して日本側からの情報を伝える。	同上	タイプ控え	
223	D-52-3	Hadley, A.T.	1908	12	19	明治41年				無	Hadley教授の日本招聘に関して日本側からの情報を伝える。		タイプ控え	L-45
224	D-52-4	Hadley, A.T., Greene, J.W., Nichols	[1909]			[明治42年]				無	Nichols宛ての書簡には、彼がダートマス大学の総長に選出されたことへの祝意が書かれている。[彼の総長選出は1909年なのでこの書簡は1909年のものであろう] 他の2つは判読不能。	イエール大学総長A.T.Hadley、太平洋問題調査会(Council Institute of Pacific Relations)議長J.D.Greene、ダートマス大学教授Ernest Fox Nicholsの3人それぞれに宛てた書簡の抜粋をまとめてある。	自筆控え	
225	D-53	Hayakawa, S.I.	1942	10	12	昭和17年				無	イエール大学出版会がアメリカに長期在留する日本人が自身の生活や体験を書いた原稿を出版する計画があり、その執筆が可能かどうか尋ねている[弥永千利宛のD142-3と同趣旨]。	イリノイ工科大学のSamuel Ichiye Hayakawa教授(言語学者)	自筆控え、タイプ控え	L-257
226	D-54	Hepner, C.W.	1930	4	12	昭和5年				無	日本に滞在して黒住教に関する博士論文を書いている学生に研究の助言をする。	日本滞在中のイエールの大学院生	タイプ控え	L-164
227	D-55	Hewes, L.I.(Bill)	1942	3	9	昭和17年				無	現在の戦争は自由主義の自己弛緩であると述べる。	朝河のダートマス大学時代からの友人 Laurence Hewes	タイプ控え	P
228	D-56	Hides, H.G.	1935	8	18	昭和10年		8	19	有	この人物がオーストラリアで新民族を発見したと新聞で報じられたので、朝河はこの書簡で詳細を問い合わせたが、届かず戻ってきた。	オーストラリア在住の朝河にとり未知の人物	発信原本	
229	D-57-1	Hintze, Otto	1931	7	15	昭和6年				無	Hintze教授から送られた <i>Wesen und Verbreitung des Feudalismus</i> (『封建制の本質と拡大』)の論文の抜き刷りとDopschの著書への書評の抜き刷りへのお礼。	ベルリン大学教授(歴史学者)	タイプ控え	L-174
230	D-57-2	Hintze, Otto	1931	8	20	昭和6年				無	Hintze教授からの書簡で、朝河を指導できるドイツの封建制の研究者に関する情報を受けたことへのお礼。		自筆控え	L-177
231	D-58-1	Hooper, F.H.	1923	6	12	大正12年				無	Encyclopedia Britannicaが企画する <i>Worlds history from 1901 to 1923</i> (『1901-1923年の世界史』)の書物に日本の章を書くように依頼された件について、その執筆依頼を断っている。	Encyclopedia Britannicaの編集者	タイプ控え	L-120
232	D-58-2	Hooper, F.H.	1923	6	23	大正12年				無	上記の執筆依頼に対して再度、謝絶する。		自筆控え	
233	D-59	Horn, Marion	1940	9	29	昭和15年				無	判読不能	イエールの大学院での教え子	英文速記、自筆控え	
234	D-60	Dr.Howard (Mrs.Oughterson)	1943	11	21	昭和18年				無	判読不能		英文速記、自筆控え	
235	D-61	Mrs.I.H.[井上秀]	1940	1	13	昭和15年				無	日本がますます国際的に孤立していることを憂いている。	井上秀(日本女子大学校長)	タイプ控え	L-216/P
236	D-62	The International College of Languages	1912	5	31	大正1年				無	The International College of Languagesが実行している外国語学習の方法を日本にも伝えたいことを述べる。	ニューヨークのThe International College of Languages	タイプ控え	
237	D-63	Jarvey	1917	2	17	大正6年				無	判読不能		自筆控え	
238	D-64-1	Johnson, Allen	1921	1	5	大正10年				無	イエール大学から人減らしのためにこの学期をもって解雇するという通知を受け取り驚く。Johnson教授にこの決定をどう理解すべきか助言を求める。	イエール大学教授(アメリカ史の専門家)	自筆控え	
239	D-64-2	Johnson, Allen								無	イエール大学にとどまり研究を続けていきたい希望をJohnson教授に伝える。		自筆控え	
240	D-65-1	Johnson, Alvin	1930	6	12	昭和5年				無	事典のfeudalismの項目を執筆することを受諾する。	コロンビア大学教授( <i>Encyclopaedia of the Social Sciences</i> (『社会科学百科辞典』)編集担当)	タイプ控え	
241	D-65-2	Johnson, Alvin	1931	1	15	昭和6年				無	日本のfeudalismの項目を6月1日までに執筆してほしいという依頼に対し、6月までには書くことができないと返事する。		タイプ控え	
242	D-65-3	Johnson, Alvin	1931	1	23	昭和6年				無	日本のfeudalismの項目について締め切りの延長を感謝し、7月15日までに原稿を送ると述べる。		タイプ控え	
243	D-66-1	Johnson, F.B.	1929	6	11	昭和4年				無	研究室移転の申し入れに対する返事		イエール大学事務所(Service Bureau)	タイプ控え

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
244	D-66-2	Johnson, F.B.	1929	6	17	昭和4年				無	研究室移転の申し入れに対する返事の続き	同上	タイプ控え	L-148
245	D-67-1	Forbes-Robertson, J	1914	2	18	大正3年				無	Sir Johnston Forbes-Robertsonがアメリカで演じたハムレットを観劇しその演技に感動し、'ハムレット論'を書いたのでそれを同封して送ることを述べる。	イギリス人の俳優Sir Johnston Forbes-Robertson(ハムレット役者として有名)	自筆控え	
246	D-67-2	Forbes-Robertson, J	1914	2	16	大正3年				無	朝河が送った'ハムレット論'をSir Johnston Forbes-Robertsonが読んだという書簡を受け取ったことへのお礼を述べる。		自筆控え	
247	D-68	Keefe, Margaret L.	1936	5	15	昭和11年				無	Minakuchi氏が教職を求めているので推薦することを述べる。	コネティカット州Hamdenの教育委員(Superintendent of Schools)	タイプ控え	
248	D-69-1	Keller, A.G.	1944	10	8	昭和19年				無	論文の抜き刷り送付に対する礼状	イエール大学教授Albert Galloway Keller(ドイツの植民地政策、社会学の専門家でイエール大学教授W.G.Sumnerの弟子。朝河も大学院時代に彼の授業を取った)	タイプ控え	P
249	D-69-2	Keller, A.G.	1945	5	28	昭和20年				無	論文の抜き刷り送付に対する礼状		タイプ控え	
250	D-69-3	Keller, A.G.	1945	11	25	昭和20年				無	雑誌論文の送付に対する礼状		タイプ控え	L-274
251	D-70	Kennedy, Anna	1922	1	28	大正11年				無	American Birth Control League会長Mrs.Sangerのアジア訪問歓送会の名誉委員になることを受諾する。	ニューヨークのAmerican Birth Control League	タイプ控え	L-111
252	D-71	Miss Kimball	1933	4	12	昭和8年				無	Miss Kimballが朝河の論文を参考にして日本の封建制に関する論文を書いていると知らせてきたことへの返事[博士論文の修正箇所についての助言]	大学院生	タイプ控え	
253	D-72	Klein, Andov	1936	1	15	昭和11年				無	ハンガリー人からの狂言に対する問い合わせへの返事	ブダペスト(ハンガリー)在住の人物	タイプ控え	
254	D-73-1	K.F.Koehler's Antiquarium	1927	12	16	昭和2年				無	書籍の発注	ライプツィヒ(ドイツ)の書店	タイプ控え	
255	D-73-2	K.F.Koehler's Antiquarium	1929	4	8	昭和4年				無	書籍代金の支払い		タイプ控え	
256	D-73-3	K.F.Koehler's Antiquarium	1929	10	9	昭和4年				無	書籍代金の支払い		タイプ控え	
257	D-73-4	K.F.Koehler's Antiquarium	1929	11	7	昭和4年				無	書籍の発注		タイプ控え	
258	D-73-5	K.F.Koehler's Antiquarium	1929	11	14	昭和4年				無	書籍の発注		タイプ控え	
259	D-73-6	K.F.Koehler's Antiquarium	1930	2	13	昭和5年				無	書籍の発注		タイプ控え	
260	D-73-7	K.F.Koehler's Antiquarium	1930	3	20	昭和5年				無	書籍の発注		タイプ控え	
261	D-73-8	K.F.Koehler's Antiquarium	1930	5	29	昭和5年				無	書籍代金の支払いと発注		タイプ控え	
262	D-73-9	K.F.Koehler's Antiquarium	1930	6	23	昭和5年				無	書籍代金の支払いについてのメモ		タイプ控え	
263	D-74	Mrs.Ladd, G.T.	1941	1	19	昭和16年				無	日本の現況について伝える。		G.T.Ladd夫人。夫の心理学者George Trumbull Laddは日本でも講演を行い、日本の心理学の発展に貢献した。	自筆控え
264	D-75	Lanman, Charles R.	1925	4	17	大正14年				無	東大寺について説明する。	ハーヴァード大学教授(サンスクリット語学者)	タイプ控え	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
265	D-76	Len	1944	11	28	昭和19年				無	アメリカで、中国・日本を研究する研究者にどのような人物がいるかを助言する。	Franklin Lien Ho(何廉)。イエール大学でI.Fisher教授のもとで経済学を学んだ中国人留学生。イエールにいた頃に東アジア・コレクション部長の朝河のもとで図書館のアルバイトをしていた。後に中国南開大学経済研究所教授となる。	タイプ控え	L-264
266	D-77-1	Liberma, Marco F.	1929	11	7	昭和4年				無	イタリア語の書物の入手を依頼する。	ローマ在住の教授	タイプ控え	L-153
267	D-77-2	Liberma, Marco F.	1930	1	30	昭和5年				無	入手したイタリア語の書物に対して大学の会計係から支払いがなされるなどの通知		タイプ控え	L-160
268	D-78	Macintosh, Douglas C.	1930	3	27	昭和5年				無	大学院生C.W.Hepner[D-54の書簡]の研究テーマが博士論文に値するかどうかを問い合わせる。	イエール大学教授(大学院宗教学部長)	タイプ控え	L-163
269	D-79	Maisonneuve, Gustave	1932	3	3	昭和7年				無	書籍代金の支払いと発注	パリの書店	タイプ控え	
270	D-80	Matthews, Wm.R.	1945	10	7	昭和20年				無	自身のオープンレターを同封して送ることをいう。	アリゾナ州の新聞 <i>The Arizona Daily Star</i> の編集者	自筆控え	
271	D-81	Mckee, Oliver	1914	1	28	大正3年				無	Mckeeが朝河の論文を参考にして日本の封建制に関する論文を書いていると知らせたことへの返事	ニューヨークの <i>Encyclopedia Britannica</i> の編集者	タイプ控え	
272	D-82	Houghton, Mifflin Co.	1926	11	1	昭和1年				無	書籍代金の支払いと発注	ボストンの出版社	タイプ控え	
273	D-83-1	Minakuchi, Y. [Y.ミナクチ]	1940	6	16	昭和15年				無	ドイツとロシアが根本的に変わらないかぎり世界にとっての脅威であり続ける。	『朝河貴一書簡集』では‘在米日系人の友人’とされる。	タイプ控え	L-220
274	D-83-2	Minakuchi, Y. [Y.ミナクチ]	1940	9	1	昭和15年				無	近衛文麿は生粋の全体主義者ではなく、妥協主義者で強い性格も必要な洞察力もない。彼の内閣は過渡的なものだろう。		タイプ控え	L-221/P
275	D-84-1	[Miriam Asakawa] (My dear Madam)	1908	4	15	明治41年				無	旅先で近況を告げる。	夫人 Miriam Asakawa	発信原本	
276	D-84-2	[Miriam Asakawa] (My dear Madam)	1911	9	13	明治44年				無	マサチューセッツ州グロースターのロングビーチの保養所からニューヘブーンに帰宅することを告げる。		発信原本	L-49
277	D-84-3	[Miriam Asakawa] (My dear Madam)	1911	9	15	明治44年				無	腸チフスの保養中に、マサチューセッツ州グロースターのロングビーチの保養所から妻ミリアムに宛てて雑事について書いている。		発信原本	L-48
278	D-84-4	[Miriam Asakawa] (My dear Madam)		9	15					無	イエール大学に帰ってきたことを告げる。		発信原本	
279	D-85-1	Mitchell, Sydney K.	1941	6	15	昭和16年				無	近況を伝え、今度、昼食をとみにしようとする。	イエール大学歴史学部教授 Sydney Knox Mitchell(イギリス中世史の専門家)	自筆控え	
280	D-85-2	Mitchell, Sydney K.	1942	6	22	昭和17年				無	判読不能		自筆控え	
281	D-86	Mommsen, Theodor E.	1946	10	20	昭和21年				無	ベトラルカの詩の翻訳への序文を送ってもらったことに対する礼状。	ドイツ人の中世史家 Theodor Ernst Mommsen(ナチ時代にアメリカに亡命し、プリンストン大学、コーネル大学の教授となる)	タイプ控え	L-281
282	D-87	Miss Monrad	1943	8	15	昭和18年				無	誤解を解き、話し合いたいと述べている。		自筆控え	
283	D-88-1	Morgan, Arthur E.	1924	11	21	大正13年				無	大乘仏教に関する英語文献を紹介する。	アンティオーク大学学長	タイプ控え	L-129
284	D-88-2	Morgan, Arthur E.	1939	3	9	昭和14年				無	判読不能		英文速記、自筆控え	
285	D-88-3	Morgan, Arthur E.	1939	4	9	昭和14年				無	日本軍の最高司令官は、ほとんどが農民の子弟であり、武士道を声高に語ってもそれを理解していない。ファシストもナチスも、名譽心を強調するが、その高官たちは、騎士的な名譽心や作法感覚を身につけていない。		タイプ控え	L-208

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
286	D-88-4	Morgan, Arthur E.	1940	1	9	昭和15年				無	民主主義は最も合理的であり、人間的なものであるが、同時に最も困難な体制でもある。それは常に再検討され、再構築していくべきものである。そのためには、市民それぞれが知的で有能であるのみならず、個人的責任感が強く寛大な精神を持たなければ不可能である。	同上	タイプ控え	L-215
287	D-88-5	Morgan, Arthur E.	1941	12	14	昭和16年				無	ヨーロッパにおける封建制の発展について説明する。		タイプ控え	
288	D-88-6	Morgan, Arthur E.	1945	2	11	昭和20年				無	イエロー・スプリングスでの会議への招待に対して謝絶する。		タイプ控え	
289	D-88-7	Morgan, Arthur E.	1945	3	8	昭和20年				無	アンティオーク大学での講義の依頼を謝絶する。		自筆控え	L-267
290	D-88-8	Morgan, Arthur E.		2	25					無	会いたいので電話をしてくれるようにいう。		自筆控え	
291	D-89-1	Morikubo, Zentaro [森久保善太郎]	1921	12	2	大正10年				無	日本イェール協会による書物の寄付を感謝する。	イェール大学に留学し、帰国後に鬼怒川水力電気常務取締役。日本イェール協会幹事を務めた	タイプ控え	L-110
292	D-89-2	Morikubo, Zentaro [森久保善太郎]	1921	12	16	大正10年				無	日本イェール協会の寄付が予想以上に多かったことに感謝する。		タイプ控え	
293	D-89-3	Morikubo, Zentaro [森久保善太郎]	1922	2	25	大正11年				無	日本イェール協会の寄贈書が到着したことを知らせる。		タイプ控え	L-113
294	D-89-4	Morikubo, Zentaro [森久保善太郎]	1922	5	23	大正11年				無	日本イェール協会にさらなる日本の書籍の寄贈を求める。		タイプ控え	
295	D-89-5	Morikubo, Zentaro [森久保善太郎]	1922	11	10	大正11年				無	同上の書簡で求めた日本イェール協会からの書籍の寄贈について再度、問い合わせる。		タイプ控え	
296	D-90-1	Morris, Alice V.	1936	5	9	昭和11年				無	国際補助語協会の事業計画に対して助言する。西洋のあらゆる階層の人々が、相互に進んで使用することができる言語を提示してほしい。	国際補助語協会(International Auxiliary Language Association, 略称IALA)の創設者 Alice Vanderbilt Morris	タイプ控え	L-197
297	D-90-2	Morris, Alice V.	1936	8	30	昭和11年				無	国際補助語協会の活動に助言する。		タイプ控え	
298	D-90-3	Morris, Alice V.	1939	5	21	昭和14年				無	判読不能		英文速記、自筆控え	
299	D-90-4	Morris, Alice V.	1940	3	17	昭和15年				無	判読不能		英文速記、自筆控え	
300	D-90-5	Morris, Alice V.	1940	5	26	昭和15年				無	連合国側には、指導者に課された精神ではなく、自発的な精神があるので最終的な勝利を確信できる。		案文(タイプ控え)	
301	D-90-6	Morris, Alice V.	1941	3	16	昭和16年				無	国際補助語協会の報告書の送付のお礼		自筆控え	
302	D-90-7	Morris, Alice V.	1942	1	2	昭和17年				無	日本人は、大きな危機の際に、自身を変える卓越した能力を持ってきたことを述べる。		自筆控え	
303	D-90-8	Morris, Alice V.	1945	8	6	昭和20年				無	報告書に対してコメントを述べる。		自筆控え	
304	D-90-9	Morris, Alice V.	1947	9	21	昭和22年				無	国際補助語協会の論文集を読んだ感想を伝える。		自筆控え	
305	D-91	Morris, Alice V.	1942	12	20	昭和17年				無	クリスマスの挨拶状。定年退職したことを伝えている。		自筆控え、タイプ控え	
306	D-92-1	Murata, Tsutomu [村田勤]	1939	7	27	昭和14年				無	満州事変以後、日本の政治は、自身の作り上げた偏見により世界情勢を見るようになっていく。	イェール大学に留学した牧師で宗教改革史研究者。日本女子大で教鞭を取った。	自筆控え、タイプ控え。 1939年7月29日(和文)	
307	D-92-2	Murata, Tsutomu [村田勤]	1939	10	8	昭和14年				無	ヒトラーは今日の世界の不幸の直接、唯一の源であり、将来起こるであろう彼の悲劇は、自ら招く所であるに違いない。		タイプ控え	L-212/P
308	D-92-3	Murata, Tsutomu [村田勤]	1939	10	22	昭和14年				無	日本の '新秩序' は、それ自体が武力と莫大な殺傷と破壊をもたらすもので、文字通りに行えば、中国は反抗して動乱を起こし、遂には日本の国難を生じさせるであろう。		自筆控え、タイプ控え	L-214/P
309	D-92-4	Murata, Tsutomu [村田勤]	1940	9	29	昭和15年				無	民主主義が人類が創出した最高で最も合理的な統治形態であり、またそれを健全な状態で維持することは最も困難である。		自筆控え、タイプ控え	P
310	D-92-5	Murata, Tsutomu [村田勤]	1941	1	19	昭和16年				無	イタリアはアルバニア、アフリカで敗北し、エチオピアでは反乱が拡大している。イタリアの兵士は個人的には勇敢だが司令官や軍隊は政府を信じていない。		自筆控え、タイプ控え	
311	D-93	Nennsberg, Alex A.	1929	3	5	昭和4年				無	仏教を学びたいという学生に対して助言を与える。		タイプ控え	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
312	D-94	N.Y.Times	1941	6	5	昭和16年				無	1941年5月29日に行われたAnthony Edenの演説に対する所感を述べる。	The New York Times	タイプ印書案。タイプ控え	
313	D-95	Nijhoff, Martinus	1930	2	27	昭和5年				無	書籍の発注	ハーグの書店	タイプ控え	
314	D-96-1	Oldenbourg, R.	1927	1	7	昭和2年				無	書籍の発注	ミュンヘンの書店	タイプ控え	
315	D-96-2	Oldenbourg, R.	1927	2	25	昭和2年				無	書籍代金の支払い		タイプ控え	
316	D-97	Olschki, Leo S.	1925	4	24	大正14年				無	書籍代金の支払いと発注	フィレンツェの書店	タイプ控え	
317	D-98	Osterhout, W.J.V.	1922	2	10	大正11年				無	日本の書店で購入できる書籍のリストを送る。	ハーヴァード大学教授 Winthrop John Van Osterhout(植物学者)	タイプ控え	
318	D-99-1	Parish, Helen	1931	7	16	昭和6年				無	自身の論文に丁寧なコメントをしてくれるHelen Parishへの感謝を表す。		自筆控え	L-175
319	D-99-2	Parish, Helen	1931	7	21	昭和6年				無	近況について語る。	イエール大学の学生	自筆控え	
320	D-99-3	Parish, Helen	1939	12	31	昭和14年				無	中世後期の宗教作家Margery Kempeについて論じ、さらに近況について語る。		タイプ控え	
321	D-100	Parish, Olive	1939	10	8	昭和14年				無	ヒトラーは、生涯を通じてコンプレックスと精神病の犠牲者であり、憎悪と葛藤は際限なく続いてきた。彼の怨恨が人種の怨恨と同一視されることで、高度のリーダーシップをもたらした。	Helen Parishの双子の姉妹	タイプ控え	L-213
322	D-101	Patzels, Erna	1940	5	4	昭和15年				無	判読不能		英文速記、自筆控え	
323	D-102-1	Pierson, George W.	1942	8	2	昭和17年				無	歴史学者F.J.Turnerのフロンティア論について論評している。		自筆控え、タイプ控え	L-254
324	D-102-2	Pierson, George W.	1942	8	9	昭和17年				無	フロンティア論についてMarc BlochのLa Société féodale(『封建社会』)などを引き合いに出し論評している。	イエール大学歴史学部教授(イエール大学での教え子でアメリカ史研究者)	自筆控え、タイプ控え	P
325	D-104	Pratt, Frances J.	1936	1	8	昭和11年				無	ウスターで開催予定の‘極東問題討論’への参加要請に対する謝絶。	ニューヨークのForeign Policy Association	タイプ控え	L-195
326	D-105	Raymond, Chas.H.	1915	2	10	大正4年				無	トラブルを起こした日本人の問題について対処する。	The New Haven National Bank	タイプ控え	
327	D-106	Rouse, Mary	1946	5	5	昭和21年				無	子供を産み母親になったことを喜び、助言をする。	朝河の大学院の授業を取った教え子	タイプ控え	
328	D-107-1	Rowell, Teresina	1936	7	11	昭和11年				無	朝河に送った日本に関する論文に対してのコメントが書かれている。		タイプ控え	
329	D-107-2	Rowell, Teresina	1938	1	23	昭和13年				無	判読不能		英文速記、自筆控え	
330	D-107-3	Rowell, Teresina	1939	12	17	昭和14年				無	Teresina Rowellからの宗教に関する質問に答える。	女性の宗教学者。イエール大学で博士号取得。日本にも留学し仏教や神道を研究する。スミス大学などで教鞭を取った。	タイプ控え	
331	D-107-4	Rowell, Teresina	1942	1	21	昭和17年				無	戦争により‘敵性外国人’として不便があることを気遣ってくれたことへの感謝を表す。		タイプ控え	L-249
332	D-107-5	Rowell, Teresina	1942	12	23	昭和17年				無	近況を述べる。		タイプ控え	
333	D-108	Mrs.Saito, K. [斎藤キミ]				大正9年	1920	12	12	有	年賀状	朝河の姉で斎藤熊吉に嫁いだ。	年賀状 クリスマスカード使用	
334	D-109	Mr.Saito, K. [斎藤金太郎]				昭和1年	1926	12	21	有	年賀状	斎藤キミの息子	年賀状 クリスマスカード使用	
335	D-110	Sansom, Sir George Bailey	1936	1	26	昭和11年				無	アメリカからイギリスへと向かうSansom教授宛に無事の船旅を祈る。	イギリスの外交官で日本史研究者	自筆控え	L-196
336	D-112	Schauer, Charles H.	1932	6	16	昭和7年				無	仏壇の購入の問い合わせに対する謝絶	ボルドー(フランス)の古物商	タイプ控え	
337	D-113	Schuyler, R.L.	1941	3	30	昭和16年				無	論文“Usefulness of Useless History”の送付に対するお礼	コロンビア大学教授 Robert Livingston Schuyler(専門はアメリカ史)	タイプ控え	
338	D-114-1	Seymour, Charles	1938	10	15	昭和13年				無	弥永を将来、朝河が行っている図書の整理、収集の仕事の後継者にできないか相談する。	イエール大学歴史学部教授。1937年から学長を務めた(専門はイギリス近代史)。	タイプ控え	L-204
339	D-114-2	Seymour, Charles	1939	3	18	昭和14年				無	弥永を朝河が行っている図書館の仕事の後継者として推薦する。		タイプ控え	L-207
340	D-114-3	Seymour, Charles	1940	6	15	昭和15年				無	Seymourのスピーチに対する感想を述べる。		自筆控え付英文速記	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
341	D-115	Sherman, Kent	1941	12	21	昭和16年				無	戦争にもかかわらず、大学も友人も素晴らしい態度を自分に取ってくれていること、歴史家が来るべき世界で大きな使命を持つだろうと述べる。	イエール大学でフランス中世史の専門で学位を取得した歴史家で、後にアメリカの戦略情報局の職員となる。	自筆控え、タイプ控え	
342	D-116-1	Sirey, Recueil	1930	1	30	昭和5年				無	書籍代金の支払い	パリの出版社Librairie du Recueil	タイプ控え	
343	D-116-2	Sirey, Recueil	1930	11	6	昭和5年				無	書籍代金の支払い	Sirey	タイプ控え	
344	D-117	Speare, Guy and Mrs.	1944	9	10	昭和19年				無	面会に来てくれたことのお礼。	Guy E. Speare(朝河の友人)夫妻	タイプ控え	
345	D-118-1	Speare, Guy E.	1945	2	18	昭和20年				無	チャーチルをどう評価するかについて述べている。	朝河の友人	タイプ控え	P
346	D-118-2	Speare, Guy E.	1945	6	11	昭和20年				無	チャーチルについて語っている。		タイプ控え	
347	D-119	Spinney, Frank	1936	3	25	昭和11年				無	判読不能	朝河の教え子。後にニューヨーク州立大学教授となった。	自筆控え	
348	D-120-1	Steudel, Johannes	1930	2	13	昭和5年				無	書籍の発注	ライプツィヒ(ドイツ)の書店	タイプ控え	
349	D-120-2	Steudel, Johannes	1930	3	20	昭和5年				無	書籍代金の支払いと発注		タイプ控え	
350	D-121-1	Stokes, Frederick A.	1915	4	10	大正4年				無	日本語から英語への翻訳について自身の意見を述べる。	ニューヨークの出版業者 Frederick	タイプ控え	
351	D-121-2	Stokes, Frederick A.	1915	4	21	大正4年				無	日本語文献の翻訳についての条件を述べる。	Abbott Stokes	タイプ控え	
352	D-121-3	Stokes, Anson Phelps	1921	2	2	大正10年				無	日本イエール協会の資産の使い方について述べる。		タイプ控え	
353	D-121-4	Stokes, Anson Phelps	[1921]							無	イエール大学の財政難で解雇の危機にあったが、朝河を教職にこどもてくれたことに感謝する。[内容からいって1921年の書簡だろう]	イエール大学の事務局長(Secretary)	自筆控え	
354	D-122-1	Stoughton, W.G.	1920	3	29	大正9年				無	W.G.Stoughtonが行ったロシア、ドイツ、日本に関する講演についてのコメントを述べる。	朝河のダートマス大学時代にドイツ語を教えた教員	タイプ控え	
355	D-122-2	Stoughton, W.G.	1940	7	1	昭和15年				無	1940年の大統領選挙に際し、ウェンデル・L・ウィルキーが共和党の候補になったことを喜ぶ。民主党の候補ルーズベルトよりも魅力的と述べる。		自筆控え	
356	D-122-3	Stoughton, W.G.	1940	9	10	昭和15年				無	民主主義に不可欠の理想は、市民それぞれの自身の誠実と名誉の観念への責任であり、人間としての自己自身に対する責任であると信じる。		タイプ控え	L-223/P
357	D-122-4	Stoughton, W.G.	1941	5	28	昭和16年				無	Emersonの <i>English Traits</i> への感想を述べる。		タイプ控え	
358	D-122-5	Stoughton, W.G.				昭和20年	1945	12	17	有	クリスマスカード		発信原本	
359	D-123	Swift, J.T.	1908	12	18	明治41年				無	日本在住のJ.T.Swiftから来日を打診されるが謝絶する。	東京在住のJ.T.Swift	タイプ控え	
360	D-124-1	Takagi, Yasaka [高木八尺]	1926	7	2	昭和1年				無	高木が朝河の論文を参考にして日本の封建制に関する論文を書いていると知らせてきたことへの返事	東京帝国大学教授(政治学者)	発信原本	
361	D-124-2	Takagi, Yasaka [高木八尺]	1926	11	1	昭和1年				無	Ladd夫人よりの朝鮮の資料について。Farrand教授の著書について。		発信原本	
362	D-124-3	Takagi, Yasaka [高木八尺]	1926	11	12	昭和1年				無	図書代100ドル受領のこと。Farrand氏のこと—製本と印刷に関心をもつ。		発信原本	
363	D-124-4	Takagi, Yasaka [高木八尺]	1928	1	13	昭和3年				無	病気見舞、図書の値引について。南原教授のアメリカ史学会員の申込、放置されたこと。		発信原本	
364	D-124-5	Takagi, Yasaka [高木八尺]	1928	9	28	昭和3年				無	資料送付の礼、アメリカ史フィルムの完成を祝す。貴方のこれまでの手紙の写しを返却する。		発信原本	
365	D-124-6	Takagi, Yasaka [高木八尺]	1929	5	28	昭和4年				無	高木八尺のための書籍の注文に関して述べる。		タイプ控え	
366	D-124-7	Takagi, Yasaka [高木八尺]	1929	6	3	昭和4年				無	病気見舞。History filmsについての意見について。フィットロック書店の書籍代の会計のこと。		発信原本	
367	D-125	Takikawa, M. [瀧川政次郎]	1932	7	26	昭和7年				無	日本法制史に関する論文を送ってほしいと依頼する。		中央大学法学部教授(法制史学者)	電報の下書き。自筆控え

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
368	D-126	Thin, James	1930	2	10	昭和5年				無	書籍代金の支払いと発注	エディンバラの書店	タイプ控え	
369	D-127	Senator Thomas, Elbert Duncan	1942	1	2	昭和17年				無	Elbert Duncan Thomasが日本語で日本人向けの放送を行ったことへの感謝を述べる。	アメリカの民主党の上院議員	自筆控え	
370	D-128	Tsuji, Zennosuke [辻善之助]	1922	3	17	大正11年				無	『大日本史料』、『大日本古文書』のイェール大学が入手していない巻の寄贈を求める。	東京帝国大学教授(歴史学者)	タイプ控え	
371	D-129-1	Tucker, C.C.	1917	4	13	大正6年				有	戦争が始まり、イェール大学でも学生が軍隊に行くだろうことを述べる。	ダートマス大学学長W.J.Tuckerの夫人Charlott C.Tucker	発信原本	
372	D-129-2	Tucker, C.C.	1935	12	19	昭和10年				無	国民とムツソリーニが団結し始めたイタリア情勢は危険な方向に向かっていることを述べる。		タイプ控え	L-194
373	D-130	Tucker, W.J.	1921	1	14	大正10年				無	Tuckerが朝河の論文を参考にして日本の封建制に関する論文を書いていると知らせたことへの返事	ダートマス大学学長	自筆控え	
374	D-131-1	G.W.[Gretchen Warren]	1938	4	8	昭和13年				無	キリスト教よりも仏教の教えの方が、自身に霊的な強さを与えてくれるように感じる。		タイプ控え	P
375	D-131-2	G.W.[Gretchen Warren]	1939	7	17	昭和14年				無	判読不能		英文速記、自筆控え	
376	D-131-3	G.W.[Gretchen Warren]	1939	8	上旬	昭和14年				無	諸民族の間の根本的な相違は、個々の民族の歴史で個々人が達成した価値の中にあると述べる。		自筆控え	
377	D-131-4	G.W.[Gretchen Warren]	1939	9	3	昭和14年				無	アイルランドから帰還したGretchenに対して、なおアイルランドに残る彼女の妹を気遣う。		自筆控え	P
378	D-131-5	G.W.[Gretchen Warren]	1939	11	5	昭和14年				無	ヒトラーの人格について論じる。		自筆控え	
379	D-131-6	G.W.[Gretchen Warren]	1939	11	26	昭和14年				無	英独仏の国民性の相違や、ヒトラーの精神には劣等感があることを論じる。		自筆控え	
380	D-131-7	G.W.[Gretchen Warren]	1939	11		昭和14年				無	イギリス人やフランス人とドイツ人との名誉の感覚の相違について述べる。		タイプ控え	
381	D-131-8	G.W.[Gretchen Warren]	1939	12	3	昭和14年				無	ドイツ民族の攻撃的性格について述べる。		自筆控え	
382	D-131-9	G.W.[Gretchen Warren]	1940	5	12	昭和15年				無	人類の寛容と和解を希望することを述べる。		自筆控え	
383	D-131-10	G.W.[Gretchen Warren]	1940	5	29	昭和15年				無	連合側側の最終的な勝利を確信することを語り、リベラル派のアメリカ人がリベラリズムの根本的な強さを理解していないと述べる。		タイプ控え	
384	D-131-11	G.W.[Gretchen Warren]	1940	6	23	昭和15年				無	連合側側の最終的な勝利を確信する理由として、連合側側の道徳的に正しいだけでなく、歴史的にも正しいことを述べる。	ボストン在住の詩人で実業家Fiske Warrenの夫人、朝河の女性の友人	タイプ控え	
385	D-131-12	G.W.[Gretchen Warren]	1940	6	25-26	昭和15年				無	自由と独立が最終的に勝利すると述べる。		タイプ控え	
386	D-131-13	G.W.[Gretchen Warren]	1940	7	7	昭和15年				無	ヒトラーの諸民族の支配は短命に終わるだろうと信じることを述べる。		タイプ控え	
387	D-131-14	G.W.[Gretchen Warren]	1940	10	10	昭和15年				無	最近、朝河が東京にいる友人たちに送ったヨーロッパの問題、民主主義、日本の枢軸国との同盟に関しての書簡のコピーを同封して送ると述べる。		タイプ控え	
388	D-131-15	G.W.[Gretchen Warren]	1940	10	27	昭和15年				無	日本の友人に宛てた書簡の英訳を同封して送ることを述べる。		タイプ控え	
389	D-131-16	G.W.[Gretchen Warren]	1940	11	7	昭和15年				無	Gretchenが書いた植物についての論文の送付に謝意を表す。		タイプ控え	
390	D-131-17	G.W.[Gretchen Warren]	1940			昭和15年				無	D-131-1とまったく同じ内容の書簡[自身の手書きで1940?と書いてあるが、1938年4月8日付だろう]		タイプ控え	
391	D-131-18	G.W.[Gretchen Warren]	1941	4	20	昭和16年				無	最近、Stuart Edward Whiteの <i>The Unobstructed Universe</i> を読んでいる。		自筆控え	
392	D-131-19	G.W.[Gretchen Warren]	1941	5	8	昭和16年				無	大西洋横断飛行を成功させたリンドバークについて述べる。		タイプ控え	
393	D-131-20	G.W.[Gretchen Warren]	1941	6	8	昭和16年				無	Verrillの著書の抜粋を送ってもらい、自然についての知識を深めたことを感謝する。		自筆控え	
394	D-131-21	G.W.[Gretchen Warren]	1941	8	24	昭和16年				無	朝河が以前にGretchenに送付した手紙を、コピーの形で返送してもらったことに感謝する。		自筆控え	
395	D-131-22	G.W.[Gretchen Warren]	1941	11	5	昭和16年				無	周囲の植物など自然の観察について語る。		タイプ控え	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
396	D-131-23	G.W.[Gretchen Warren]	1941	11	22	昭和16年				無	Gretchenからの朝河の書簡を出版したいという申し出に対し、謝意を表している。	同上	タイプ控え	
397	D-131-24	G.W.[Gretchen Warren]	1941	12	7-9	昭和16年				無	新聞紙上で大統領の天皇宛の書簡を見たが、それは、朝河自身が望んでいたものとは違っていたことを述べる。		タイプ控え	
398	D-131-25	G.W.[Gretchen Warren]	1941	12	10	昭和16年				無	民主主義が最善の政体であり、また維持するために最も困難なものでもあると述べる。		自筆控え、タイプ控え	
399	D-131-26	G.W.[Gretchen Warren]	1941	12	19	昭和16年				無	大統領が12月15日に議会で行った日米関係に関する演説についてコメントする。		自筆控え、タイプ控え	
400	D-131-27	G.W.[Gretchen Warren]	1942	1	25	昭和17年				無	花を描いたカードをGretchenからもらったことへの礼状。		自筆控え	
401	D-131-28	G.W.[Gretchen Warren]	1942	5	3	昭和17年				無	現在、日本人の歴史的な心性の問題について取り組んでいるが、それは気晴らしで書くことのできないほどの重要なテーマだと述べる。		自筆控え、タイプ控え	
402	D-131-29	G.W.[Gretchen Warren]	1942	6	10	昭和17年				無	リベラリズムが最終的に依拠するものは、市民の自身に対する責任に他ならない。現在、それを学校で教育することは難しいと述べる。		タイプ控え	
403	D-131-30	G.W.[Gretchen Warren]	1942	7	19	昭和17年				無	多くの博士論文や最近の刊行された著作には想像力が欠けていると述べる。		タイプ控え	P
404	D-131-31	G.W.[Gretchen Warren]	1942	7	26	昭和17年				無	プロパガンダとはどのような性質のものかを分析する。		タイプ控え	P
405	D-131-32	G.W.[Gretchen Warren]	1942	11	22	昭和17年				無	旅行に出るために1週間前には申請書を出さねばならない不自由な状況を述べる。		自筆控え	
406	D-131-33	G.W.[Gretchen Warren]	1942	11	29	昭和17年				無	自身のプロパガンダ論へのコメントに感謝し、さらにプロパガンダについての自説を述べる。		自筆控え	P
407	D-131-34	G.W.[Gretchen Warren]	1943	2	28	昭和18年				無	日本人の心性について語ることは難しいことを述べる。		タイプ控え	
408	D-131-35	G.W.[Gretchen Warren]	1943	3	12	昭和18年				無	中国人の作家、林語堂(Lin Yu-tang)の著書の魅力について語る。		自筆控え	P
409	D-131-36	G.W.[Gretchen Warren]	1943	6	6	昭和18年				無	日本人とはどのような民族かという問いは非常に答えるのに難しい。		タイプ控え	P
410	D-131-37	G.W.[Gretchen Warren]	1943	6	20	昭和18年				無	国民性をどのように研究すべきかについて述べる。		タイプ控え	P
411	D-131-38	G.W.[Gretchen Warren]	1943	6	26	昭和18年				無	日本では、神道、儒教、仏教などの教えと国家が1つの家のような感覚を持つが、軍部の台頭を防ぐことができなかった。		タイプ控え	P
412	D-131-39	G.W.[Gretchen Warren]	1943	6	30	昭和18年				無	民主主義は、その生命を最終的に人間の信念に依拠する。		タイプ控え	P
413	D-131-40	G.W.[Gretchen Warren]	1943	7	1	昭和18年				無	アメリカ人の日本に対する意識について語る。		タイプ控え	P
414	D-131-41	G.W.[Gretchen Warren]	1943	7	25	昭和18年				無	マサチューセッツ州の富裕層の避暑地プライズ・クロッシングに滞在するGretchenに宛てた書簡。自身もこれからプリマスの避暑地に向かうことを述べる。そして現在、歴史と想像力の関係について考察していることを述べる。		タイプ控え	
415	D-131-42	G.W.[Gretchen Warren]	1943	11	28	昭和18年				無	10月中頃に心臓病で数週間、入院したことを述べ、心拍の乱れがあるが、注意深い生活で改善するだろうと述べる。		タイプ控え	P
416	D-131-43	G.W.[Gretchen Warren]	1944	3	5	昭和19年				無	想像力の問題に関して、ゲーテ、ダンテ、プラトンの言説を示唆してくれたことに感謝する。	タイプ控え	P	
417	D-131-44	G.W.[Gretchen Warren]	1944	9	3	昭和19年				無	Gretchenから来た詩的言語で書かれた論文に対して感想を述べる。	自筆控え、タイプ控え	P	
418	D-131-45	G.W.[Gretchen Warren]	1945	4	5	昭和20年				無	以前にも増して研究に励んでいる。その理由は、私の行おうとしている企画が壮大で困難なものであり、数年前に比べて研究のために十分な時間を持っているからである。	タイプ控え	P	
419	D-131-46	G.W.[Gretchen Warren]	1945	8	19	昭和20年				無	人間の精神は、この半世紀の間、非人間的になっており、より機械的になっている。望みは、次世代の教育にある。人文科学の重要性を訴える。	自筆控え、タイプ控え	L-271	
420	D-131-47	G.W.[Gretchen Warren]	1945	11	4	昭和20年				無	身近の植物を観察し、その姿に神々しい宇宙の力を見出す。	タイプ控え	L-273/P	



# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
421	D-131-48	G.W.[Gretchen Warren]	1946	4	15	昭和21年				無	自身の書簡へのコメントのお礼を述べ、書簡を現在出版する考えはないが、Gretchenによる修正後は刊行の可能性を考えたいと述べる。	同上	タイプ控え	P
422	D-131-49	G.W.[Gretchen Warren]	1946	7	3	昭和21年				無	レオナルド・ダ・ヴィンチの素描集を見ての感想を述べる。		タイプ控え	
423	D-131-50	G.W.[Gretchen Warren]	1946	11	27	昭和21年				無	Gretchenが4世紀のコプト語の著作 <i>The Falling Asleep of Mary</i> の翻訳の抜粋を送ってきたことに対して感想を述べる。		タイプ控え	P
424	D-131-51	G.W.[Gretchen Warren]	1947	7	13	昭和22年				無	朝河が書いたロシアに関する英文草稿に対するコメントを感謝する。		タイプ控え	L-288/P
425	D-132-1	Walker, Curtis H.	1910	7	16	明治43年				無	Walker教授の最近の研究テーマ(初期キリスト教会史)についてコメントする。	ヴァンダービルト大学教授 Curtis Howe Walker(イエール大学でイギリス中世史のテーマで学位取得)	タイプ控え	
426	D-132-2	Walker, Curtis H.	1935	12	19	昭和10年				無	W.H.Dunhamをコロラド大学の教員に推薦することを述べる。		タイプ控え	
427	D-133-1	Warner, Langdon	1921	11	18	大正10年				無	Langdon Warnerの原稿に対して修正点を指摘する。		タイプ控え	
428	D-133-2	Warner, Langdon	1922	5	23	大正11年				無	Langdon Warnerの著書 <i>Japanese Sculpture of the Suiko Period</i> (『推古彫刻』)への序文執筆の依頼を謝絶する。[この書簡では執筆を断っているが、繰り返し依頼され、朝河は序文を書いている]	ハーヴァード大学教授(専門は東洋美術史)	タイプ控え	
429	D-133-3	Warner, Langdon	1941	2	9	昭和16年				無	判読不能		英文速記、自筆控え	
430	D-133-4	Warner, Langdon	1941	11	23	昭和16年				無	朝河は日米開戦を阻止すべく、昭和天皇へのルーズベルト大統領親書案を作成し、1941年11月23日、発案者の友人Langdon Warnerに送った。これはWarnerに趣旨を述べる書簡と親書案の控えである。		タイプ控え。趣意書3枚、本文7枚から成る。英文タイプ印書控。朱線は自筆のもの。	P
431	D-134	Warren[, Gretchen]	1943	12	12	昭和18年				無	心臓の病気から快復したことを語る。	[おそらくGretchen Warren(D-131の受信者)]	発信原本	
432	D-135	Warren, Gretchen	1939	5	23	昭和14年				無	判読不能	Gretchen Warren(D-131の受信者)	英文速記、自筆控え	
433	D-136	Watanabe, T.	1931	6	4	昭和6年				無	イエール大学に留学を希望する東京在住の人物への返事。留学に際しての条件を述べる。	東京在住の人物	タイプ控え	L-172
434	D-137-1	Wheeler, W.Edgar	1936	12	6	昭和11年				無	日独協定について、それから何も得ることができず、失うものがきわめて大きなものとなるだろう。		タイプ控え	L-201
435	D-137-2	Wheeler, W.Edgar	1938	1	16	昭和13年				無	ヨーロッパ旅行に対する助言を述べる。		自筆控え	
436	D-138-1	Wigmore, John H.	1927	11	11	昭和2年				無	日本の裁判関係文書についての問い合わせに答える。		タイプ控え	
437	D-138-2	Wigmore, John H.	1930	12	4	昭和5年				無	<i>The Documents of Iriki</i> (『入来文書』)に対するコメントに対して感謝し、次に「南九州の封建体制」を扱う著作を構想していることを述べる。	ノースウェスタン大学法学部教授	タイプ控え	
438	D-139-1	Willcox, William	1942	2	1	昭和17年				無	ドイツの敗北後、どのようにドイツ民族に対処すべきかについて述べる。	ミシガン大学教授William Bradford Willcox(イエール大学で学位取得、専門はイギリス近代史)	タイプ控え	P
439	D-139-2	Willcox, William	1942	2	8	昭和17年				無	ドイツの南北の地域が歴史的に違う伝統で形成されてきたことを述べる。		タイプ控え	P
440	D-139-3	Willcox, William	1942	2	15	昭和17年				無	ドイツ人が持つ「コンプレックス」が歴史的に形成されたものであることを述べる。		タイプ控え	P
441	D-139-4	Willcox, William	1942	2	22	昭和17年				無	日本が救われる唯一の可能性は、政府高官の総入れ替えにしかないことを述べる。		タイプ控え	P
442	D-139-5	Willcox, William	1942	3	15	昭和17年				無	人間の自由の歴史的発展とその意義について述べる。		タイプ控え	P
443	D-139-6	Willcox, William	1942	3	22	昭和17年				無	日米の開戦に至った状況について分析する。		タイプ控え	P
444	D-139-7	Willcox, William	1942	3	29	昭和17年				無	民主主義は、法の前での平等、経済的な機会の平等を意味するが、道徳的な側面では、個々の市民の責任を意味する。		タイプ控え	P
445	D-139-8	Willcox, William	1942	4	5	昭和17年				無	今後の世界でのロシアの脅威について述べる。		タイプ控え	
446	D-139-9	Willcox, William	1942	4	19	昭和17年				無	日本人にロシア人が持っているような劣等感があるのかどうかについて答える。		タイプ控え	

# 朝河発信書簡(欧文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	受信者詳細	注記	他資料掲載
447	D-139-10	Willcox, William	1942	10	30	昭和17年				無	健全な民主主義の国家は、個々人が市民の意識に対する責任の感覚により動かされるものだと述べる。	同上	タイプ控え	
448	D-140-1	Williams, Frederick Wells	1909	10	11	明治42年				無	朝河が担当する授業、報酬、教職の地位などについての改善を求めている。	Frederick Wells Williams教授(朝河の博士論文の指導教官)	タイプ控え	
449	D-140-2	Williams, Frederick Wells	1921	1	5	大正10年				無	D-64-1のAllen Johnson教授宛の書簡と同じ日付でほぼ同じ内容。イエール大学からこの学期をもって解雇するという通知を受け取り、Williams教授に助言を求める。		自筆控え	
450	D-141	Yale University Press	1922	3	4	大正11年				無	イエール大学出版会から送られたWarner夫妻の <i>Japanese Sculpture of the Suiko Period</i> (『推古彫刻』)の改訂草稿に対し、出版にふさわしいものだと返事をする。	イエール大学出版部	タイプ控え	L-114
451	D-142-1	Yanaga, Chitoshi [弥永千利]	1939	4	29	昭和14年				無	イエール大学歴史学部での教職を求める弥永千利に対する断りの返事。理由は、弥永が歴史学の分野で傑出した業績を上げていない。少なくとも、1つの出版物で能力を示すべき。大学で職を得るということは、業績に厳格であることを考えてほしいと述べる。	弥永千利(朝河の後任としてイエール大学図書館東アジア・コレクション部長となった人物)	含速記原稿5枚。英文速記、自筆控え、タイプ控え	L-209
452	D-142-2	Yanaga, Chitoshi [弥永千利]	1939	5	30	昭和14年				無	イエール大学での教職を求める弥永に対して断りの返事を書いている。		タイプ控え	
453	D-142-3	Yanaga, Chitoshi [弥永千利]	1942	2	22	昭和17年				無	イエール大学出版会がアメリカに長期在留する日本人が自身の生活や体験を書いた原稿を出版する計画があり、その執筆が可能かどうか尋ねている。		自筆控え、タイプ控え	L-251
454	D-142-4	Yanaga, Chitoshi [弥永千利]	1942	11	1	昭和17年				無	上記の出版計画について執筆の意志を再度、尋ねる。		タイプ控え	
455	D-143	Yokoi[横井時雄]	1908	12	15	明治41年				無	横井が朝河の論文を参考にして日本の封建制に関する論文を書いていると知らせてきたことへの返事。	朝河にキリスト教の洗礼を施した牧師	タイプ控え	
456	D-144-1	(宛名不明)	1902	4	28	明治35年				無	イエール大学での博士論文の完成を伝える。	受信者の人物不明[ダートマス大学時代の友人宛とみられる]	発信原本	
457	D-144-2	(宛名不明)	1908	7	24	明治41年				無	朝河が書いた論文について説明している。		タイプ控え	
458	D-144-3	(宛名不明)	1912	6	22	大正1年				無	学生からの問い合わせに対し大学院入学に関する助言をしている。		タイプ控え	
459	D-144-4	(宛名不明)	1939	7	18	昭和14年				無	判読不能		英文速記、自筆控え	
460	D-144-5	(宛名不明)		3	4					無	書簡の断片		自筆控え	
461	D-144-6	(宛名不明)		10	20					無	朝河からのセイブルック・カレッジでの宿泊の招待が書かれる。[招待者としてyou and Lady SansomとあるのでSir George Bailey Sansom宛と思われる。]	[Sir George Bailey Sansom宛か]	発信原本	
462	D-144-7	(宛名不明)		10	26					無	書簡の断片(10月26日のパーティ案内状)		速記、メモ。タイプ控え	
463	D-144-8	(宛名不明)								無	書簡の断片		自筆控え	
464	D-144-9	(宛名不明)								無	書簡の断片		自筆控え	
465	D-144-10	(宛名不明)								無	書簡の断片		自筆控え	
466	D-144-11	(宛名不明)								無	書簡の断片		英文速記、自筆控え	
467	D-144-12	(宛名不明)								無	書簡の断片[表書きにPossibly to E.D.Smith, about '38と書かれる]		英文速記、自筆控え	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
1	E-1	The Academy of Oriental Culture(東方文化学院東京研究所)	[1939年頃]			[昭和14年頃]				無	佐伯好郎[英語名P.Y.Saeki]のアメリカの諸大学、神学校訪問に関する推薦状。佐伯の目的がキリスト教に関する知識を得るための純粋に学問的なものであることを述べる。[佐伯の履歴書、著作リストも同封されている]	佐伯好郎[英語名P.Y.Saeki]は言語学、ローマ法など様々な分野の専門家、とくにネストリウス派キリスト教の東伝史で国際的に有名な学者。このときは東方文化学院東京研究所の研究員。	東京	
2	E-2-1	Adams, George Burton	1921	10	3	大正10年				無	封建制研究のプランについて述べる。	イェール大学歴史学部教授	New Haven	
3	E-2-2	Adams, George Burton	1915	9	7	大正4年				無	ロンドンで朝河との面談を約束する。		London, Torrington Square	
4	E-2-3	Adams, George Burton	1916	3	16	大正5年				無	今後の朝河の研究と任期延長について面談したいと述べる。		New Haven	
5	E-2-4	Adams, George Burton	1916	4	18	大正5年				無	学長Hadleyが、朝河の1年間のサバティカルによる不在について、詳細を書面で出すように求めている。それを自分に送ってくれたら、私は喜んで推薦する。		New Haven	
6	E-2-5	Adams, George Burton	1916	4	25	大正5年				無	サバティカルでは給料が半分になるが、それでも日本に渡航するのには問題はないだろう。日本で行う日本封建制の研究について、歴史学部メンバーの了解を得るためにも短い計画書を作成してほしい。		New Haven	
7	E-2-6	Adams, George Burton	1916	6	18	大正5年				無	朝河の研究メモに対して感想を述べる。			
8	E-2-7	Adams, George Burton	1916	11	28	大正5年				無	朝河が <i>Everyman's Library</i> の仕事を引き受けてくれたことへのお礼		New Haven	
9	E-2-8	Adams, George Burton	1916	12	21	大正5年				無	朝河の日本での2年目の滞在が許可されることを述べる。		New Haven	
10	E-2-9	Adams, George Burton	1917	11	10	大正6年				無	朝河の論文についてのコメントを述べる。		New Haven	
11	E-2-10	Adams, George Burton	1918	2	3	大正7年				無	今年もこれまでと同様の研究が続けられるほどの給与が授与されることを述べる。		New Haven	
12	E-2-11	Adams, George Burton	1919	3	30	大正8年				無	朝河が日本で教育の仕事も行っていることをうれしく思う。また、今後も長く研究できるほどの多くの書物を持ち帰り、書物として刊行できるような研究をしてほしい。	New Haven		
13	E-2-12	Adams, George Burton	1919	5	4	大正8年				無	朝河の論文"Japanese Feudal Institutions"の内容を称賛する。	New Haven		
14	E-2-13	Adams, George Burton	1921	1	6	大正10年				無	大学当局の行為を遺憾に思う。	New Haven		
15	E-3	Adams, Lucy Smith								無	朝河からのプレゼントへのお礼[日付無し]	Hartford,Conn.		
16	E-4-1	Allen, Katherine Van		10	12					無	ニューヨークの高校での日本関係の展示について述べる。	Charlestown, N.H.		
17	E-4-2	Allen, Katherine Van								無	面談の約束	New York		
18	E-5	Allen, William H.	1932	9	22	昭和7年				無	書店(William H.Allen)が朝河から英文の著書 <i>The Early Institutional Life of Japan</i> (『大化改新』)を数冊、受け取ったことへの受領の書簡。[この書店は朝河の著書を数冊買い取り、それをカタログに挙げて販売しようとしたものとみられる]	Philadelphia		
19	E-6	Allison, John M.S.	1938	3	26	昭和13年				無	イェール大学歴史学部昼食会の開催(1938年4月12日)のお知らせ	New Haven		
20	E-7	Alsaker, Rasmus	1932	9	18	昭和7年				無	朝河からの書簡に対する返事	Sun Diet Sanatorium(ニューヨーク)の医学者	New York	
21	E-8-1	Andersen, Hendrik Christian	1913	12		大正2年				無	World Conscience Societyのメンバーになってほしいとの依頼	ノルウェー出身の彫刻家・画家	Rome	
22	E-8-2	Andersen, Hendrik Christian	1914	1	30	大正3年				無	朝河がWorld Conscience Societyのメンバーになってくれたことへのお礼		Rome	
23	E-8-3	Andersen, Hendrik Christian	1915	8	29	大正4年				無	Andersenが住むサルティエーノに朝河が滞在してくれたことへのお礼		Saltino	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
24	E-8-4	Andersen, Hendrik Christian	1915	9	14	大正4年				無	朝河からのKahn Scholarship(研究旅費の奨学金)の問い合わせに答える。	同上	Saltino	
25	E-8-5	Andersen, Hendrik Christian	1918	1	21	大正7年				無	Andersenの姉妹が亡くなったことを伝える。		Rome	
26	E-8-6	Andersen, Hendrik Christian	1918	6	17	大正7年				無	朝河に対し、東京で‘国際連盟(League of Nations Society)’を創設可能か尋ねる。		Rome	
27	E-8-7	Andersen, Hendrik Christian	1919	6	5	大正8年				無	"Some Aspects of Japanese Feudal Institutions"の抜き刷り送付に対するお礼		Rome	
28	E-8-8	Andersen, Hendrik Christian	1920	1	20	大正9年				無	朝河がAndersenのWorld Centre創設の構想に対し賛同してくれそうな日本人のリストを送ったことへのお礼		Rome	
29	E-8-9	Andersen, Hendrik Christian	1920	3	12	大正9年				無	朝河が推薦した洪沢栄一などに書簡を送ったことを伝える。		Rome	
30	E-9	Andersen, Olivie C.	1915	7	27	大正4年				無	Miss Wright宛の書簡だが、ローマ滞在中の朝河に対し、Andersenが住むサルティーノまでどのように列車を乗り継いで来ることができるか説明する内容。Miss Wrightに対し、朝河のローマの住所を知っていればこの書簡を転送してほしいと頼んでいる。	Saltino		
31	E-10	Andersen, Byrtene C.	1936	12	1	昭和11年				無	Odyssey Cruisesからの案内(1937年の地中海の船旅)の送付		New York	
32	E-11	Andrews, Calvin H.	1910	2	9	明治43年				無	講演謝礼を為替で送ったことのお知らせ		Worcester, Mass.	
33	E-12	Andrews, Charles M.	1924	3	8	大正13年				無	朝河の大学での地位について話し合いたいこと、また当面は大学の決定を待つべきことを述べる。	イエール大学歴史学部教授	New Haven	
34	E-13-1	Andrews, Evangeline W.	1941	1	13	昭和16年				無	新年の挨拶。これからフロリダに行くことを述べる。	Charles M.Andrews教授の妻	New Haven	
35	E-13-2	Andrews, Evangeline W.	1941	8	23	昭和16年				無	面会の約束		East Dover, Vermont	
36	E-13-3	Andrews, Evangeline W.	1944	9	1	昭和19年				無	判読不能		New Haven	
37	E-14-1	Anesaki, Masaharu [姉崎正治]	1926	5	27	昭和1年				無	東京大学の図書館の工事が順調に進んでいることを述べる。	東京帝国大学図書館長	東京	
38	E-14-2	Anesaki, Masaharu [姉崎正治]	1930	12		昭和5年				無	クリスマスカード		東京	
39	E-15-1	Angell, James Rowland	1926	1	21	昭和1年				無	Sapir氏の国際補助語に関する論文を送ってくれたことへのお礼とMorris夫妻の招聘について述べる。	イエール大学学長(1921-37年)	New Haven	
40	E-15-2	Angell, James Rowland	1926	6	8	昭和1年				無	Angell学長が東京の大久保利武(日本イエール協会代表)から、Clay教授の死によりイエールでの東洋研究が後退するのではないかとの内容の書簡を受け取ったことを朝河に伝える。[大久保利武がAngellに出した書簡(1926年5月20日付)自体もここに入っている]		New Haven	
41	E-15-3	Angell, James Rowland	1926	10	7	昭和1年				無	判読不能		New Haven	
42	E-15-4	Angell, James Rowland	1926	11	24	昭和1年				無	大久保利武からの書簡で、日本のイエール協会がイエール大学に図書の新購を考えていることを伝える。		New Haven	
43	E-15-5	Angell, James Rowland	1928	5	14	昭和3年				無	朝河の年俸が1928年7月1日より4,500ドルになることを伝える。		New Haven	
44	E-15-6	Angell, James Rowland	1929	11	30	昭和4年				無	The Documents of Iriki(『入来文書』)の刊行を祝する。		New Haven	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
45	E-15-7	Angell, James Rowland	1934	10	30	昭和9年				無	イエール大学のLibrary Gazetteで、朝河が日本イエール協会からの寄贈品についてコメントを書いたことへのお礼	同上	New Haven	
46	E-15-8	Angell, James Rowland	1937	2	7	昭和12年				無	朝河の教授昇進を祝う。		New Haven	
47	E-16	Armstrong, Hamilton Fish	1931	3	16	昭和6年				無	石井菊次郎子爵が1930年に日本語で刊行した『外交余録』の紹介記事を雑誌 <i>Foreign Affairs</i> に書いてほしいと依頼する。	雑誌 <i>Foreign Affairs</i> の編集長	New York	
48	E-17	Auesbaely, P.	1914	8	1	大正3年				無	カメラのレンズを送付したことの通知	The Chicago Ferrottype Co.のEastern Officeの長	New York	
49	E-18	Babcock, Earle B.	1934	8	2	昭和9年				無	朝河がIALA(国際補助語協会)の委員会の議長職を辞することを受け入れることを伝える。		Paris	
50	E-19	Bacon, Leonard Woolsey	1913	2	頃	大正2年				無	ミアムの死亡証明書をニューヘブンの登記係に手配したことを伝える。ミアムの死が医者も予期しない突然のものであったことを述べる。[書簡に日付はないが、ミアムの死(1913年2月4日)の直後のものであろう]	朝河の妻ミアムの主治医	New Haven	
51	E-20-1	Bagg, Leonora L.S.	1915	9	5	大正4年				無	Watts夫人が朝河がロンドンにいることを伝えてくれたのでお会いしたい。		Hurrygate, Yorkshire	
52	E-20-2	Bagg, Leonora L.S.	1915	12	6	大正4年	1915	12	22	有	"The Origin of the Feudal Land Tenure in Japan"の抜き刷り送付に対するお礼		London	
53	E-21	Barso, Emma	1912	12	9	大正1年				無	書簡をもらったことへのお礼		Boston	
54	E-22-1	Bartlett, Fanny Gordon	1941	3	24	昭和16年				無	東京での滞在について述べる。		Brookline, Mass.	
55	E-22-2	Bartlett, Fanny Gordon	1941	12	2	昭和16年				無	日本人の友人たちについて心配している。		Norwich, Vermont	
56	E-23	Baunard, Otto T.	1916	3	22	大正5年				無	大学の会議(1916年3月20日)で朝河の雇用の更新(3年間、年俸2,500ドル)が決定したことを伝える。	イエール大学秘書課のActing Secretary	New Haven	
57	E-24	Bayot, Luair	1919	12	29	大正8年				有	朝河から"The Life of a Monastic Sho in Medieval Japan"の抜き刷りを受け取った通知	Société Asiatique de Parisの司書	Paris	
58	E-25	Beatson, J.W.	1914	4	27	大正3年				無	The National Economic Leagueの会員への勧誘	The National Economic Leagueの秘書	Boston	
59	E-26	Beazley, Raymond	1915	12	10	大正4年				無	朝河との面談について	バーミンガム大学教授 Sir Charles Raymond Beazley (イギリスの歴史家)		
60	E-27	Becog, S.V.	1911	5	3	明治44年				無	イエール滞在中を楽しんだことを述べる。			
61	E-28	Bee, Ming-Chu[皮名學]	1933	2	12	昭和8年				無	日本外交史に関する史料の問い合わせ	ハーヴァード大学の大学院生	Cambridge, Mass.	
62	E-29-1	Bemis, Samuel Flagg	1942	8	31	昭和17年				無	歴史学における想像力の必要性についての議論	イエール大学教授(アメリカ外交史の専門家)	Luzerne, New York	
63	E-29-2	Bemis, Samuel Flagg	1947	11	13	昭和22年				無	サバティカル中であるが、いろいろと忙しいことを伝える。		Medford, Mass.	
64	E-29-3	Bemis, Samuel Flagg	1948	7	22	昭和23年	1948	7	24	無	ウェストワーズボロ滞在中の朝河を訪問することを伝える。		New London, New Hampshire	
65	E-30	Berryon, John F.	1908	5	15	明治41年				無	月刊誌 <i>Government</i> への寄稿の依頼	月刊誌 <i>Government</i> の編集者	Boston, Mass.	
66	E-31	Bethel, Elizabeth	1932	12	29	昭和7年				無	パリからの新年の挨拶		Paris	
67	E-32	Betts, Charlotte E.	1912	6	2	大正1年				無	朝河にThe Stamford Woman's Clubでの講演を依頼する。	The Stamford Woman's Clubの秘書	Stamford, Connecticut	
68	E-33-1	Biddle, Alfred A.	1910	7	9	明治43年				無	朝河に面談を求める。		Pennsylvania	
69	E-33-2	Biddle, Alfred A.	1911	1	27	明治44年				無	インド滞在中のBiddleが次に訪問予定の日本でのガイドとの連絡を朝河に依頼している。		India	
70	E-33-3	Biddle, Alfred A.	1911	5	21	明治44年				無	奈良ホテルから朝河に近況を報告している。		奈良	
71	E-33-4	Biddle, Alfred A.	1911	年頃						無	帝国ホテルから挨拶を送っている。[日付はないが上記の奈良からの書簡に続く時期のものであろう]		東京	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
72	E-33-5	Biddle, Alfred A.	1911年頃							無	シンガポールに到着する前に日本に6週間滞在し、長崎から京都へ、そして奈良から高野山に行き、その後東京に行ったことを述べる。[日付はないがBiddleのアジア旅行中の書簡で、上記の日本からの書簡に続く時期のものであろう]		Singapore	
73	E-34-1	Bill	1909	7	2	明治42年				無	時候の挨拶			
74	E-34-2	Bill	1909	10	9	明治42年				無	父親がハーヴァード大学・イエール大学の試合の4枚のチケットがほしいと言ってきた。どのように入手したらよいか朝河に示唆を求める。			
75	E-34-3	Bill	1910	3	22	明治43年	1910	3	23	無	カレンダーを送ってもらったことに謝意を述べる。			
76	E-34-4	Bill	1910	11	13	明治43年				無	時候の挨拶			
77	E-34-5	Bill	1912	12	15	大正1年				無	時候の挨拶			
78	E-34-6	Bill	1916	12	8	大正5年				無	新しいタイプライターで書簡を書いていることを述べる。			
79	E-34-7	Bill	1937	1	6	昭和12年				無	自身のクリスマスの挨拶に対してすぐに返事をくれたことに感謝する。			
80	E-34-8	Bill	1942	3	1	昭和17年				無	1934年にドイツにいたときにヒトラーとゲッペルスを見たことがあると述べる。		San Francisco	
81	E-34-9	Bill		11	16		[19--]	11	16	無	時候の挨拶			
82	E-35	Binyon, Laurence	1915	9	8	大正4年				無	朝河との面談を求める。		London	
83	E-36	Bishop, D.W.	1946	8		昭和21年				無	朝河に週刊誌 <i>Time</i> の記事の切り抜きを送ったと伝えている。[裏面には朝河が書いたこれへのお礼の下書きがある(1946年9月1日付)]	週刊誌 <i>Time</i> の Bureau of Special Services の職員		
84	E-37-1	Bloch, Marc	1932	8	1	昭和7年				無	朝河の <i>Annales</i> (『アナル』) 誌への論文投稿について	フランスの歴史家(1886-1944)。ストラスブール・ソルボンヌ大学などの教授。中世史が専門。主著『フランス農村史の基本性格』、『封建社会』。雑誌 <i>Annales</i> (『アナル』) を創刊し歴史学を革新する業績を残す。第二次世界大戦中、対独レジスタンスに参加し、捕えられ銃殺された。		
85	E-37-2	Bloch, Marc	1932	9	24	昭和7年				無	朝河の '将軍制度' についての論文があまりに法制史的であり <i>Annales</i> (『アナル』) 誌には向かないので、他のフランスの雑誌への投稿を勧める。			
86	E-37-3	Bloch, Marc	1939	6	19	昭和14年				無	朝河が Marc Bloch に約束した著作『日本の農民』の執筆を催促する。			
87	E-38-1	Booth, W.S.	1921	3	10	大正10年				無	写真を返してもらったことに感謝する。			
88	E-38-2	Booth, W.S.	1921	4	6	大正10年				無	日本語への翻訳について謝意を表す。			
89	E-39	Bouchard-de Belleuse, Angeline	1934	9	4	昭和9年				無	朝河に対しイエール大学大学院で中世史を研究したい希望を述べ、助言を求める。		Huntington, New York	
90	E-40-1	Bourne, Henry E.	1916	5	4	大正5年				無	朝河に American Historical Association の研究集会での報告を求める。	Western Reserve 大学教授(フランス革命史の専門家)	Cleveland, Ohio	
91	E-40-2	Bourne, Henry E.	1916	6	18	大正5年				無	上記の研究集会についての問い合わせ		Cleveland, Ohio	
92	E-40-3	Bourne, Henry E.	1933	2	25	昭和8年				無	<i>American Historical Review</i> の編集長でもあった Henry E. Bourne が朝河に対して、日本での歴史研究についての論文執筆を求めている。		Washington, D.C.	
93	E-41	Bovey, Wilfrid	1930	10	14	昭和5年				無	マギル大学で東洋文化についての2回の講義ができないかとの問い合わせ	マギル大学の国際関係学部長	Montreal, Canada	
94	E-42-1	Britton, Roswell S.	1934	1	15	昭和9年				無	朝河との面談を求める。角田柳作に紹介状を書いてもらっている。	中国研究者。著書 <i>The Chinese Periodical Press, 1800-1912</i> (1933)	New York	
95	E-42-2	Britton, Roswell S.	1935	5	13	昭和10年				無	自身が書いた論文への批判と修正を求める。		New York	
96	E-42-3	Britton, Roswell S.	1935	5	21	昭和10年				無	自身が書いた論文で批判を求めたい点を述べる。		New York	
97	E-42-4	Britton, Roswell S.	1935	6	24	昭和10年				無	朝河から自身の論文についてのコメントが来たことへのお礼		New York	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
98	E-43	Brogger, A.W.	1937	5	26	昭和12年				無	Brogger教授はイェール大学で行った講演で朝河と知り合い、この書簡でノルウェーのヴァイキング船の写真を同封して送っている。	オスロのOldsaksamling大学教授	Oslo, Norway	
99	E-44	Brown, Delmer	1946	4	20	昭和21年	1946	4	21	有	16世紀日本の貨幣流通のテーマで博士論文を書こうとしているアメリカ人の大学院生(おそらくハーヴァード大学所属)からの研究に関する問い合わせ		Belmont, Mass.	
100	E-45	Brun, A. Allard, Louis	1910	6	20	明治43年				無	ハーヴァード大学のフランス語の教師たち(A.BrunとL.Allard)が、自分たちの教え子のMiss L.Nobleをイェール大学のフランス語教師として推薦する。[A.Brunの推薦状の日付は、1910年6月20日で、L.Allardの推薦状の日付は1909年8月4日。2つの推薦状が1つに合体している]		Cambridge, Mass.	
101	E-46	Buck, Ellen B.	1915	11	9	大正4年				無	朝河が日本史に関する文献を送ったことへの礼状書簡の書き手のBuckは、日本に旅行し、日本に関心を持ったことを述べている。			
102	E-47	Bue, Raymond E.	1910	2	21	明治43年				無	Wm.Filene's Sons Company の社長Edward A.Fileneの秘書Raymond E.Bucより、日本人の旅行者についての問い合わせ		Boston	
103	E-48	Bureau of Research and Documentation	1936	3	9	昭和11年				無	フランスに亡命してきた学者がBureau of Research and Documentationを創設したことを伝える。			
104	E-49	Busk, Edward H.	1915	9	26	大正4年				無	"The Origin of the Feudal Land Tenure in Japan"の抜き刷り送付に対するお礼		Checkendon, England	
105	E-50	Busk, Marian	1915	9	8	大正4年				無	挨拶状		Checkendon, England	
106	E-51-1	Carkeek, Vivian W.	1913	1	5	大正2年				無	数年前に古代から1868年までの日本の比較法史についての著述に着手した。それを将来書物として出版したいと考えている。			
107	E-51-2	Carkeek, Vivian W.	1914	1	24	大正3年				無	近いうちに東洋世界に行きたいと考えている。		Seattle	
108	E-51-3	Carkeek, Vivian W.								無	"The Origin of the Feudal Land Tenure in Japan"の抜き刷り送付に対するお礼		Seattle	
109	E-52	Causton, Eve		2	18					無	面談について		New Haven	
110	E-53-1	Chamberlain, Basil Hall	1907	9	16	明治40年				無	朝河から <i>The Early Institutional Life of Japan</i> (『大化改新』)を寄贈されたことへのお礼	明治期のお雇い外国人として英語を教えた。1873年から1911年まで日本に滞在。古事記の英訳などを出版した日本学者。		
111	E-53-2	Chamberlain, Basil Hall	1919	5	16	大正8年	1919	5	16	無	"Japanese Feudal Institutions"の抜き刷り送付に対するお礼		Geneva,Switzerland	
112	E-54-1	Champion, Edouard	1924	8	1	大正13年				無	朝河のイタリアからの葉書を受け取り、パリで会うのを楽しみにしていると述べる。		Paris	
113	E-54-2	Champion, Edouard	1924	8	12	大正13年				無	パリを訪問して、自分の家に宿泊するように述べる。		Paris	
114	E-54-3	Champion, Edouard	1926	10	21	昭和1年				無	朝河への挨拶状			
115	E-54-4	Champion, Edouard	1926	12	22	昭和1年				無	朝河への挨拶状		New York	
116	E-55	Chaoying	1934	8	24	昭和9年				無	朝河からの書簡とマーメレードへのお礼		New York	
117	E-56	Chapin, F.Stuart	1932	3	1	昭和7年				無	朝河の論文を参考にして日本の封建制に関する論文を書いていると知らせてきたことへの返事	Editor-in-Chief of Social Science Abstracts		
118	E-57-1	Chapin, Helen B.	1932	9	1	昭和7年				無	自分は日本、朝鮮、中国、インドなどに7年間滞在し、最近では"A study in Buddhist Iconography"という論文を刊行したが、イェールで何かの職はないかと朝河に尋ねる。		New York	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
119	E-57-2	Chapin, Helen B.	1932	9	24	昭和7年				無	朝河からイェールでの数回の講義の依頼があり、それに対して講義の内容(中国仏教美術)を伝える。	[署名に寺田照子ともあり]	New York	
120	E-58	Charles, Mary	1941	3	4	昭和16年				無	図書寄贈のお礼	アルバートウス・マグナス大学の司書	New Haven	
121	E-59	Cheeser, Louis S.	1929	8	2	昭和4年				無	自身の姉妹のことで朝河に連絡を取る。		Boston	
122	E-60	Christopherson	1913	1	9	大正2年				無	近況を述べる。			
123	E-61	Chusterd, A.T.	1929	6	27	昭和4年				無	"Japanese land tenure"に関する2本の抜き刷り送付に対するお礼		Univ.of Illinois	
124	E-62-1	Clark, Bess	1933	9	12	昭和8年				無	日本の封建制に関する抜き刷り送付に対するお礼			
125	E-62-2	Clark, Bess	1933	10	1	昭和8年				無	日欧の封建制についての示唆に感謝する。			
126	E-62-3	Clark, Bess	1935	8		昭和10年				無	日本からのイェールへの寄贈が300冊あったのを知ったことを述べる。			
127	E-62-4	Clark, Bess	1935	12	18	昭和10年				無	近況を述べる。			
128	E-62-5	Clark, Bess		10	11					無	近況を述べる。			
129	E-63-1	[C.P.I.Clark]		9	8					無	近況を述べる。			
130	E-63-2	[C.P.I.Clark]				[火曜日]				無	近況を述べる。			
131	E-64-1	Clark, C.U.	1944	2	1	昭和19年	1944	2	1	無	時候の挨拶			
132	E-64-2	Clark, C.U.	1945	12	21	昭和20年				無	自身の兄弟の死について述べる。		New York	
133	E-65	Clark, Eugene F.	1913	4	5	大正2年				無	ミリアムの死に対してお悔やみを述べる。			
134	E-66-1	Clark, George G.	1930	9	21	昭和5年				無	朝河が庭の草花に関する本を送ったことへのお礼		Plymouth, New Hampshire	
135	E-66-2	Clark, George G.	1934	3	20	昭和9年				無	自身が洪水の被害に遭ったことを伝える。		Plymouth, New Hampshire	
136	E-66-3	Clark, George G.	1936	5	14	昭和11年				無	ニューヨークで朝河から日本料理の夕食に招待されたことへのお礼など近況を述べる。		Plymouth, New Hampshire	
137	E-66-4	Clark, George G.	1939	10	26	昭和14年				無	朝河のニューヨークでの歓待に感謝する。		Plymouth, New Hampshire	
138	E-66-5	Clark, George G.	1941	12	19	昭和16年				無	真珠湾攻撃について述べる。			
139	E-66-6	Clark, George G.	1942	2	25	昭和17年				無	近況を述べる。			
140	E-66-7	Clark, George G.	1942	9	20	昭和17年				無	栽培している野菜の状況などの近況を述べる。		Plymouth, New Hampshire	
141	E-66-8	Clark, George G.	1942	10	4	昭和17年				無	読んだ雑誌のことなどの近況を述べる。		Plymouth, New Hampshire	
142	E-66-9	Clark, George G.	1943	2	15	昭和18年				無	朝河からたびたび来た書簡へのお礼と近況を述べる。		Plymouth, New Hampshire	
143	E-66-10	Clark, George G.	1943	3	27	昭和18年				無	自身の周囲での春の訪れについて述べる。		Plymouth, New Hampshire	
144	E-66-11	Clark, George G.	1943	4	11	昭和18年				無	近況を述べる。		Plymouth, New Hampshire	
145	E-66-12	Clark, George G.	1944	3	26	昭和19年				無	朝河からの書簡へのお礼と近況を述べる。		Plymouth, New Hampshire	
146	E-66-13	Clark, George G.	1944	4	6	昭和19年				無	自身の農場の状況について伝える。		Plymouth, New Hampshire	
147	E-66-14	Clark, George G.	1944	9	10	昭和19年				無	自身の農場での穀物の収穫などについて伝える。	ダートマス大学時代の同級生で親友	Plymouth, New Hampshire	
148	E-66-15	Clark, George G.	1944	7	1	昭和19年				無	世界地図を朝河から送ってもらったことへのお礼なおの番号には1944年10月8日のClarkからの書簡も入っている。		Plymouth, New Hampshire	
149	E-66-16	Clark, George G.	1945	1	18	昭和20年				無	朝河の病気を気遣い、自身の近況を述べる。		Plymouth, New Hampshire	
150	E-66-17	Clark, George G.	1946	7	14	昭和21年				無	自身の周囲の人々の近況を述べる。		Plymouth, New Hampshire	
151	E-66-18	Clark, George G.	1946	7	22	昭和21年				無	朝河が滞在する夏の別荘についての情報を伝える。		Plymouth, New Hampshire	
152	E-66-19	Clark, George G.	1946	8	21	昭和21年				無	ウェストワーズボロの避暑地に滞在中の朝河から来た書簡への返事。朝河が、滞在するホテルで多くの女性たちと会話を楽しみ、自然の中で元気を取り戻すようにと述べる。		Plymouth, New Hampshire	
153	E-66-20	Clark, George G.	1946	12	19	昭和21年				無	朝河から来た多くの書簡に返事を出さなかったことを詫言、近況を述べる。[クリスマスの挨拶状も入っている]		Plymouth, New Hampshire	
154	E-66-21	Clark, George G.	1947	3	6	昭和22年				無	ダートマス大の1899年卒業生の会合がボストンで開催されたことを伝える。		Plymouth, New Hampshire	
155	E-66-22	Clark, George G.	1947	3	27	昭和22年				無	自身の周囲の人々の近況を述べる。		Plymouth, New Hampshire	



# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載	
156	E-66-23	Clark, George G.	1947	4	17	昭和22年				無	雑誌の記事についての感想を述べる。	同上	Plymouth, New Hampshire		
157	E-66-24	Clark, George G.	1947	6	25	昭和22年				無	先月より雨の日が続いていることを述べる。				
158	E-66-25	Clark, George G.	1947	10	27	昭和22年				無	新聞 <i>Human Events</i> の切り抜きを送ってくれたことへのお礼 [裏面にMy answer to G.G.C. 2.11'47(英文速記による)あり]				
159	E-66-26	Clark, George G.	1940			昭和15年				無	招待状				
160	E-67	Claudia, M.	1946	7	25	昭和21年				無	マリ－グローブ・カレッジが1946年のYear Bookを朝河に送付し、朝河からなぜ自分の所に送られたのかを尋ねる書簡があったのに対して、司書が以前に朝河がこの図書館に他の本を注文したことで送ったと述べている。	マリ－グローブ・カレッジの司書	Detroit, Michigan		
161	E-68-1	Clay, A.T.	1914	4	8	大正3年				無	Oriental Clubでの報告のお願い		New Haven		
162	E-68-2	Clay, A.T.								無	判読不能		New Haven		
163	E-69-1	Clinton, J.M.	1912	11	22	大正1年				無	中国のギルドについて関心を持っていることを述べ、朝河に文献について質問している。	コロンビア大学でHirth教授の指導を受けている学生	New York		
164	E-69-2	Clinton, J.M.	1912	12	3	大正1年				無	朝河から書簡で助言を受けたことに謝意を表し、イェール大学での面談を求める。		New York		
165	E-69-3	Clinton, J.M.	1912	12	16	大正1年				無	中国のギルドについての研究計画書を同封したことを述べる。		New York		
166	E-70-1	Cohn, William	1911	11	9	明治44年				無	ベルリンで新たに創刊する雑誌 <i>Ostasiatische Zeitschrift:Beiträge zur Kenntnis der Kunst und Kultur des Fernen Ostens</i> への寄稿を朝河に求める。	Department of East Asiatic Art at the Berlin Royal Museumsに所属する研究者	Berlin		
167	E-70-2	Cohn, William	1911	11		明治44年				無	雑誌 <i>Ostasiatische Zeitschrift:Beiträge zur Kenntnis der Kunst und Kultur des Fernen Ostens</i> の概要について知らせる。		Berlin		
168	E-71	Colby, Big Niece	1942	12	17	昭和17年				無	近況を述べる。	The New International Encyclopediaの編集者			
169	E-72-1	Colby, Frank Moore	1913	12	17	大正2年				無	百科事典の項目改訂の仕事の詳細を伝える。		New York		
170	E-72-2	Colby, Frank Moore	1913	12	15	大正2年				無	百科事典の日本についての項目がすでに10年前のもので古くなったので朝河に改訂を依頼している。[上記の書簡E-72-1はこれより2日後に出された]	New York			
171	E-73-1	Colby, James F.	1915	10	28	大正4年				無	朝河がヨーロッパから無事にアメリカに帰ったことを知り、近況を尋ねている。	ハノーヴァーに住むダートマス大学時代からの友人	Hanover, New Hampshire		
172	E-73-2	Colby, James F.	1931	2	17	昭和6年				無	友人たちの消息を伝える。		Hanover, New Hampshire		
173	E-73-3	Colby, James F.	1931	7	23	昭和6年				無	朝河がダートマス大学の名誉文学博士(Lit.D.)を授与されたことを祝する。		Hanover, New Hampshire		
174	E-73-4	Colby, James F.	1933	1	10	昭和8年				無	自身の姉妹の死について述べる。		Hanover, New Hampshire		
175	E-73-5	Colby, James F.	1933	1	12	昭和8年				無	共通の友人であるJohn Poor(ダートマス大学天文学教授)が昨日、亡くなったことを伝える。		Hanover, New Hampshire		
176	E-73-6	Colby, James F.	1938	3	22	昭和13年				無	朝河に近況を述べる。		Hanover, New Hampshire		
177	E-74	Copman, Chester J.	1940	12	16	昭和15年				無	自身の息子がイェールの大学院に入学希望であることを伝える。		Stillwater, Oklahoma		
178	E-75-1	Cornwell, Herbert C.de V.	1914	2	20	大正3年				無	ニューヨークにある‘ラテン語協会(Latin Society)’の会合への参加を勧誘する。		New York		
179	E-75-2	Cornwell, Herbert C.de V.	1914	2	24	大正3年				無	朝河が‘ラテン語協会’の会合に参加できないことに対し、今後の参加を求める。		New York		
180	E-76	Cramer, Frederick H.	1940	2	9	昭和15年				無	自身が所属大学を来年で解雇されることを伝え、苦境を訴える。	マウント・ホリオーク大学のDepartment of History and Political Scienceの教員	South Hadley, Mass.		

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
181	E-77	Crosby, Grace	1946	9	2	昭和21年				無	朝河から書物もらったことへのお礼		Providence, Rhode Island	
182	E-78	Cross, William L.	1940	2	29	昭和15年				無	朝河が同窓会基金に15ドル寄付したことへの礼状			
183	E-79	Curtis, Chester G.	1930	10	11	昭和5年				無	現在、ペンシルベニア大学を卒業し、修士課程に入ろうとしていることを伝える。日本に滞在していた頃の思い出を語っている。		Wynnewood, Penn.	
184	E-80	Curtis, E.W.	1945	10	7	昭和20年	1945	10	8	有	近況を述べる。			
185	E-81-1	Cushwa, Elizabeth Lueker	1912	8	20	大正1年				無	美しい日本のお盆の贈り物に感謝する。			
186	E-81-2	Cushwa	1935	5	28	昭和10年				無	朝河からの書簡に感謝する。		Boston	
187	E-82	Darcy, J.Wm.	1912	12	11	大正1年				無	朝河からの書簡への返事		Gloucester, Mass.	
188	E-83	Datee, Henry	1933	5	1	昭和8年				無	判読不能		New Haven	
189	E-84-1	Davidson, Eugene	1942	8	18	昭和17年				無	カナダ生まれのHayakawa氏が朝河から問い合わせのあった書物の書き手としてふさわしいと述べる。			
190	E-84-2	Davidson, Eugene	1947	4	10	昭和22年				無	'無条件降伏案'が形になりつつあることについて語る。		New Haven	
191	E-85-1	Day, Clarence Jr.	1911	9	21	明治44年				無	食事への招待		New York	
192	E-85-2	Day, Clarence Jr.	1912	1	1	大正1年				無	朝河とイェールでいずれ会いたいと述べる。			
193	E-85-3	Day, Clarence Jr.	1912	7	30	大正1年				無	詩を雑誌に発表したことを述べる。			
194	E-86-1	Day, George Parmly	1912	8	1	大正1年				無	"Some of the Contributions of Feudal Japan to the New Japan"の抜き刷り送付に対するお礼	イェール大学 Treasures's office, Treasurer	New Haven	
195	E-86-2	Day, George Parmly	1913	12	31	大正2年				無	税金についてのお知らせ		New Haven	
196	E-86-3	Day, George Parmly	1921	8	3	大正10年				無	Langdon Warnerの著書の出版をめぐって[Langdon Warner宛書簡のコピー]			
197	E-87-1	Densen, E.Van	1912	7	31	大正1年				無	"Some of the Contributions of Feudal Japan to the New Japan"の抜き刷り送付に対するお礼	P.W.Brooks & Co.	New York	
198	E-87-2	Densen, E.Van	1912	12	9	大正1年				無	葉書のお礼。朝河が行っている情報整理の方法を見たいと述べる。			
199	E-88	Derby, George	1908	1	25	明治41年				無	"The National Cyclopaedia of American Biography"からの個人情報への回答へのお礼	James T. White & Co. Publishersの編集者	New York	
200	E-89	Desmond, Ralph M.	1946	7	9	昭和21年				無	イタリアからの為替手形を朝河に同封して送っている。	The New Haven Bankの会計係		
201	E-90	Deubben, Garrett		8	9					無	数日以内にポストンに行くが、ポストン方面で会うことができるか尋ねている。			
202	E-91	Donnelly, Margaret S.	1947	10	19	昭和22年				無	自身の母とマリー(おそらく姉妹)と三人で朝河と会うことができたことを感謝する。			
203	E-92	Donnelly, Mary E.	1933	10	31	昭和8年				無	朝河からの植物のプレゼントに対し、母とマーガレットとともに感謝を述べる。			
204	E-93-1	Drew, E.B.	1910	5	20	明治43年				無	朝河の論文"The New Régime in China"の抜き刷り送付に対するお礼		Cambridge, Mass	
205	E-93-2	Drew, E.B.	1910	6	7	明治43年				無	朝河の論文についてコメントを述べる。		Cambridge, Mass	
206	E-93-3	Drew, E.B.	1910	12	13	明治43年				無	朝河の論文"The New Régime in China"を再読していることを述べる。			
207	E-93-4	Drew, E.B.	1911	9	18	明治44年				無	朝河が最近何か論文を刊行したか尋ねる。			
208	E-93-5	Drew, E.B.	1914	11	19	大正3年				無	朝河の書評論文"Feudal Times and Institutions in Japan"の抜き刷り送付に対するお礼			
209	E-94-1	Dunham, Helen	1941	12	7	昭和16年				無	朝河の'大統領親書'草案についての感想を書く。	William Dunhamの妻、朝河の教え子		
210	E-94-2	Dunham, Helen	1943	2	18	昭和18年(受信)				無	朝河からの書簡に感想を述べる。			
211	E-95	Dunham, William Huse Jr.	1941	12	7	昭和16年				無	朝河からの書簡へのお礼	イェール大学歴史学部教授(イギリス史)		
212	E-96	Dunham, William Huse Jr.	1941	12	3	昭和16年				無	朝河からの書簡へのお礼		New Haven	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
213	E-97	The Durham Storage Company	1929	8	13	昭和4年				無	イエール大学で死去した日本人(Dr.Morishita)の遺品の日本への送付について。[Pitt & Scatt(New York)宛のコピー]			
214	E-98	Durts, Florence	1912	7	19	大正1年(受信)				無	朝河に迷惑をかけたことで謝意を表する。		West Haven, Conn.	
215	E-99	Eck, Alexandre	1938	4	8	昭和13年				無	ジャン・ボダン協会の総会のお知らせ(1938.4.6付の書簡と共に)	Société Jean Bodin	Brussels,Belgium	
216	E-100	Ellis, Melville H.	1926	3	2	昭和1年				無	Arthur E.Morganの学生がクラスでの討論内容について朝河に問い合わせる。	アンティオーク大学の学生	Yellow Springs, Ohio	
217	E-101	Embree, Edwin R.	1940	1	31	昭和15年				無	朝河がアメリカインディアンについての書物を寄贈したことへのお礼	Julius Rosenwald Fundの長	Chicago	
218	E-102-1	Emery, Henry Crosby		7	3					無	13ドルの為替を朝河に送る。	イエール大学教授(経済学者), Yale Reviewの編集者	Hewcock Point, Maine	
219	E-102-2	Emery, Henry Crosby		7	27					無	朝河から送られた論文の後半部分を興味深く読み、それを返却することを述べる。		Hewcock Point, Maine	
220	E-103	The International College of Language	1912	6	6	大正1年				無	日本人居住者への語学教育についての考えを知らせる。		New York	
221	E-104	De Navarro,A.F.	1923	9	29	大正12年				無	近況を述べる。		Worcestershire	
222	E-105-1	Fang, Chaoying[房兆麟]	1934	4	28	昭和9年				無	イエール滞在時の朝河からの歓待を感謝する。		Cambridge, Mass.	
223	E-105-2	Fang, Chaoying[房兆麟]	1934	5	10	昭和9年				無	中国での図書購入をめぐる問題について述べる。		Cambridge, Mass.	
224	E-105-4	Fang, Chaoying[房兆麟]	1934	9	25	昭和9年				無	中国の文学について述べる。		Washington, D.C.	
225	E-105-5	Fang, Chaoying[房兆麟]	1940	3	4	昭和15年				無	近況を述べる。		Washington, D.C.	
226	E-106	Farnam, Henry W.	1915	11	22	大正4年				無	朝河が苦しむセルビア人たちに対して寄付を行ったことについて謝意を述べる。	イエール大学教授(経済学)	New Haven	
227	E-107-1	Farnam, Thomas W.	1920	4	26	大正9年				無	1920年4月24日より、1920-21年の俸給が3,000ドルに決まったことを知らせる。	イエール大学秘書課	New Haven	
228	E-107-2	Farnam, Thomas W.	1927	4	19	昭和2年				無	朝河がイエール基金に150ドルの寄付を行ったことを感謝する。	イエール大学財務課	New Haven	
229	E-108	Farrand		1	15					無	バラの花の贈り物に謝意を述べる。			
230	E-109	Farrand,Max	1920	1	28	大正9年				無	自身の著書の日本語訳について問い合わせる。	The Commonwealth Fundの長	New York	
231	E-110	Fay, Sydney B.	1942	2	4	昭和17年				無	自身の論文へのコメントに感謝する。	ハーヴァード大学教授(歴史学)	Cambridge, Mass.	
232	E-111	Federn, Ilmari	1936	8	12	昭和11年				無	IALA(国際補助語協会)がコペンハーゲンで会合を開くことを通知する。	Academie del lingue internationari Occidentalの秘書	Copenhagen	
233	E-112	Field, Frederick V.	1939	3	27	昭和14年				無	弥永千利宛の書簡。ロックフェラー財団の奨学金についての説明。[なぜ朝河の書簡に入っているのかは不明]	American Council Institute of Pacific Relations	New York	
234	E-113	Filene, Edward A.	1909	5	13	明治42年				無	1915年ボストン博覧会についての情報を送る。	1915年ボストン博覧会(Boston-1915)の事務局	Boston	
235	E-114	Finnior, E.S.	1948	2	6	昭和23年				無	図書館が1948-49年の予算から500ドルを朝河の仕事のために支払うことをいう。	Office of the Provost		
236	E-115-1	Fisher, Galen M.	1939	1	20	昭和14年				無	弥永千利の人物と能力について語る。	American Council Institute of Pacific Relations San Francisco		
237	E-115-2	Fisher, Galen M.	1939	4	27	昭和14年				無	弥永千利のイエールへの転職問題について		Orinda, California	
238	E-115-3	Fisher, Galen M.	1939	5	1	昭和14年				無	弥永千利のイエールへの転職問題について			
239	E-115-4	Fisher, Galen M.	1939	6	9	昭和14年				無	弥永千利のイエールへの転職問題について		New York	
240	E-115-5	Fisher, Galen M.	1939	6	13	昭和14年				無	弥永千利のイエールへの転職問題について		New York	
241	E-116	Fisher, Irving	1909	4	29	明治42年				無	論文の抜き刷りの送付	イエール大学教授(経済学)		
242	E-117-1	Fisher, Margaret H.	1921	11	7	大正10年				有	Gretchen Warrenの詩集の寄贈のお礼	Irving Fisher夫人		
243	E-117-2	Fisher, Margaret H.	1921	12	2	大正10年	1921	12	2	無	挨拶状		Plymouth, New Hampshire	
244	E-118	Foord, John	1910	3	22	明治43年				無	判読不能		New York	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
245	E-119	Ford, Charlotte E.	1947	6	3	昭和22年				無	W.G.Stoughtonの死去を伝える。			
246	E-120	Fuller, Montie	1928	12	10	昭和3年				無	今週は忙しく会うことができないと詫びている。		Torington, Conn.	
247	E-121	Furniss, Beryl G.	1944	1	12	昭和19年				無	朝河からの贈り物へのお礼			
248	E-122-1	Garrison, Erisha E.	1931	10	7	昭和6年				無	United Pressの編集者への書簡を同封する。朝河との面談を求める。	経済学者	Greenwich, Conn.	
249	E-122-2	Garrison, Erisha E.	1932	7	7	昭和7年				無	朝河に原稿の草稿を送ったことを述べ、それへのコメントを求めている。		Greenwich, Conn.	
250	E-122-3	Garrison, Erisha E.	1932	7	12	昭和7年				無	朝河の書簡への返事		Greenwich, Conn.	
251	E-122-4	Garrison, Erisha E.	1932	8	18	昭和7年				無	自身の論考が大きな反響を呼んだことを述べる。		Greenwich, Conn.	
252	E-123-1	Garrison, Helen	1931	7	20	昭和6年				無	朝河との友情が大変貴重なものだ述べる。		Greenwich, Conn.	
253	E-123-2	Garrison, Helen	1931	7	31	昭和6年				無	ニューメキシコへの旅の途中での書簡		Santa Fe, New Mexico	
254	E-123-3	Garrison, Helen	1931	9	20	昭和6年				無	朝河から解説を頼まれた朝河宛のOtto Hintzeの書簡を楽しんで解読したと述べ、朝河がハイデルベルクに行くつもりなのか尋ねている。		Greenwich, Conn.	
255	E-123-4	Garrison, Helen	1932	1	2	昭和7年				無	新年の挨拶		Greenwich, Conn.	
256	E-123-5	Garrison, Helen	1932	2	23	昭和7年				無	The House of Mercyという病院に入院中に送った書簡。病状を伝える。		Pittsfield, Conn.	
257	E-123-6	Garrison, Helen	1932	2	26-27	昭和7年				無	この日に病院から退院することを伝える。		Pittsfield, Conn.	
258	E-123-7	Garrison, Helen	1932	3	7	昭和7年				無	朝河の日本について語る書簡を楽しみに読んでいることを述べる。		Greenwich, Conn.	
259	E-123-8	Garrison, Helen	1932	8	24	昭和7年				無	GlanvillやBractonの中世史料を読んでいることを述べる。		Greenwich, Conn.	
260	E-123-9	Garrison, Helen	1934	8	30	昭和9年				無	自家用車で周囲を旅していることを述べる。		New Haven	
261	E-123-10	Garrison, Helen	1934	12	28	昭和9年				無	家族の状況について伝える。		Greenwich, Conn.	
262	E-123-11	Garrison, Helen	1935	4	22	昭和10年				無	母親の状況について伝える。		Middlebury, Conn.	
263	E-123-12	Garrison, Helen	1935	5	22	昭和10年				無	朝河に電話してくれるように求める。		New Haven	
264	E-123-13	Garrison, Helen	1936	6	9	昭和11年				無	エチオピアでスパイが処刑されたことを伝える新聞の切り抜きを同封している。	朝河の教え子で後にDunhamと結婚する。 D-30,D-31「Dunham Helen」と同一人物	New Haven	
265	E-123-14	Garrison, Helen	1936	9	8	昭和11年				無	プエルトリコへの旅について語る。		New Haven	
266	E-123-15	Garrison, Helen	1936	10	2	昭和11年				無	近況について伝える。		New Haven	
267	E-123-16	Garrison, Helen	1937	8	21	昭和12年				無	マサチューセッツ州のナンタケット島に滞在した際送った書簡		Nuntucket, Mass.	
268	E-123-17	Garrison, Helen	1937	8	29	昭和12年				無	同上		Nuntucket, Mass.	
269	E-123-18	Garrison, Helen	1937	8	30	昭和12年				無	同上		Nuntucket, Mass.	
270	E-123-19	Garrison, Helen	1938	9	16	昭和13年				無	近況を述べる。		New Haven	
271	E-123-20	Garrison, Helen	1938	10	4	昭和13年				無	書物を送ってもらったことへのお礼を述べる。		New Haven	
272	E-123-21	Garrison, Helen	1939	3	31	昭和14年				無	近況を述べる。		New Haven	
273	E-123-22	Garrison, Helen	1939	8	20	昭和14年				無	近況を述べる。			
274	E-123-23	Garrison, Helen	1939	9	10	昭和14年				無	近況を述べる。		New Haven	
275	E-123-24	Garrison, Helen	1940	12	5	昭和15年				無	近況を述べる。		New Haven	
276	E-123-25	Garrison, Helen	1941	7	2	昭和16年				無	近況を述べる。		New Haven	
277	E-123-26	Garrison, Helen	1941	8	19	昭和16年				無	近況を述べる。			
278	E-123-27	Garrison, Helen	1946	8	12	昭和21年				無	近況を述べる。	New Haven		
279	E-123-28	Garrison, Helen		3	15					無	近況を述べる。	Greenwich, Conn.		
280	E-123-29	Garrison, Helen		6	11					無	近況を述べる。	New Haven		
281	E-123-30	Garrison, Helen		9	15					無	近況を述べる。	Lake Clear, N.Y.		
282	E-124-1	Garrison, Helen H.	1932	5		昭和7年				無	朝河からの贈り物にお礼を述べる。	[Helen Garrisonの母親か]	Greenwich, Conn.	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
283	E-124-2	Garrison, Helen H.	1941	6	7	昭和16年				無	Helen GarrisonとWilliam Dunhamとの結婚式への招待状[D-41で朝河は招待を受諾している]			
284	E-125	Garrison, Henry	1938	1	12	昭和13年				無	朝河からの贈り物にお礼を述べる。	[Helen Garrisonの兄弟が]	Greenwich, Conn.	
285	E-126-1	Gay, Edwin F.	1928	9	10	昭和3年				無	ヨーロッパの封建制に関する重要な書物を知らせてくれるように求める。	ハーヴァード・ビジネス・スクール教授	Cambridge, Mass.	
286	E-126-2	Gay, Edwin F.	1928	9	17	昭和3年				無	朝河からの封建制に関する書物についての返事に感謝する。		Cambridge, Mass.	
287	E-126-3	Gay, Edwin F.	1930	4	23	昭和5年				無	Wesley C.Mitchellの <i>Business Cycles</i> の日本語訳に関して述べる。		Cambridge, Mass.	
288	E-127	朝河 貴一	1922	6	10	大正11年				無	パリの雑誌からの寄稿依頼に対して、自分の関心が日本の封建制であると述べる。	朝河がパリの雑誌 <i>La vie des Peuples</i> の編集者に宛てた書簡	Paris, France	
289	E-128	Gerould, E.H.	1944	8	15	昭和19年				無	近況を述べる。			
290	E-129	Gibloz, Fitz	1942	8	3	昭和17年				無	挨拶状			
291	E-130-1	Giddings, Franklin H.	1915	1	9	大正4年				無	博士課程の学生Taiji Yanagisawaを朝河に紹介する。	コロンビア大学教授(社会学)	New York	
292	E-130-2	Giddings, Franklin H.	1915	1	13	大正4年				無	朝河が上記の学生Taiji Yanagisawaの博士論文の査読を断ったことへの返事。		New York	
293	E-131	Gilman, Daniel C.	1906	1	19	明治39年				無	日本への旅の無事を祈る。		Baltimore	
294	E-132-1	Gonthier, André	1938	3	29	昭和3年				無	日本史の用語についての問い合わせ	ベルギーの歴史学者(専門は日本の封建制)		
295	E-132-2	Gonthier, André	1938	4	11	昭和3年				無	ジャン・ボダン協会での自身の活動について説明する。		Brussels, Belgium	
296	E-132-3	Gonthier, André	1938	12	18	昭和3年				無	日本史の用語についての問い合わせ			
297	E-132-4	Gonthier, André	1931	1	17	昭和6年				無	朝河の <i>The Documents of Iriki</i> (『 <i>入来文書</i> 』)などを読んだことを伝え、日本史の文献について問い合わせしている。			
298	E-132-5	Gonthier, André	1931	3	9	昭和6年				無	自身が理解できない日本史の問題について問い合わせしている。			
299	E-132-6	Gonthier, André	1933	5	23	昭和8年				無	日本の封建制についての自分の研究が完成したことを伝える。			
300	E-132-7	Gonthier, André	1933	6	10	昭和8年				無	自身の学位論文を送るので、それへのコメントを付けて戻してほしいと述べる。		Brussels, Belgium	
301	E-132-8	Gonthier, André	1933	7	15	昭和8年				無	自身の日本語の史料翻訳についての校閲を依頼する。			
302	E-132-9	Gonthier, André	1933	10	9	昭和8年				無	朝河から自身の研究についてコメントが来たことについて感謝する。			
303	E-132-10	Gonthier, André	1934	4	24	昭和9年				無	自身の学位論文を刊行する前に1度、目を通してほしいと述べる。			
304	E-133	Goodenough, Erwin R.	1942	2	5	昭和17年				無	近況を述べる。	イエール大学教授(神学者)		
305	E-134	Goodrich, L.C.	1936	4	19	昭和11年				無	イエール大学で朝河と会えなかったことのお詫びを述べる。	コロンビア大学教授(中国学)		
306	E-135	Got, Andre	1907	6	17	明治40年	1907	7	11	無	写真付きの葉書の挨拶状			
307	E-136-1	Gras, N.S.B.	1927	1	3	昭和2年				無	<i>Economic History Review</i> に朝河に書評を書いてもらったことへのお礼	ハーヴァード・ビジネス・スクール教授		
308	E-136-2	Gras, N.S.B.	1929	2	7	昭和4年				無	投稿原稿への謝礼の支払いについて述べる。		Boston	
309	E-136-3	Gras, N.S.B.	1929	11	5	昭和4年				無	三井の歴史の論文を書いてくれる人を探していると述べる。			
310	E-136-4	Gras, N.S.B.	1930	1	7	昭和5年				無	三井の歴史についての著者を探す件について述べる。			
311	E-136-5	Gras, N.S.B.	1930	5	1	昭和5年				無	自身の著作 <i>An Introduction to Economic History</i> の日本語訳を受領したことを述べる。			
312	E-136-6	Gras, N.S.B.	1930	12	17	昭和5年				無	三井の歴史について書くことのできる新たな候補を探してほしいと述べる。			

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
313	E-136-7	Gras, N.S.B.	1931	1	19	昭和6年				無	予定している三井の歴史の論文の分量、謝礼などについて述べる。	同上		
314	E-136-8	Gras, N.S.B.	1931	8	26	昭和6年				無	三井の歴史に関する日本語の書物の英訳について述べる。			
315	E-137-1	Graves, Mortimer	1930	10	13	昭和5年				無	American Council of Learned SocietiesのCommittee on the Promotion of Japanese Studiesのメンバーの義務について述べる。	American Council of Learned Societiesの 秘書	Washington, D.C.	
316	E-137-2	Graves, Mortimer	1930	10	27	昭和5年				無	Committee on the Promotion of Japanese Studiesの第1回会合(12月6日、ニューヨークのハーヴァード・クラブ)について述べる。		Washington, D.C.	
317	E-137-3	Graves, Mortimer	1931	11	13	昭和6年				無	日本研究を行う若手研究者支援の問題について述べる。		Washington, D.C.	
318	E-137-4	Graves, Mortimer	1931	11	20	昭和6年				無	東洋学の振興をいかに行うかについて述べる。		Washington, D.C.	
319	E-137-5	Graves, Mortimer	1939	4	28	昭和14年				無	Takehiko Yoshihashiからのフェローシップへの申請について述べる。		Washington, D.C.	
320	E-137-6	Graves, Mortimer								無	アメリカにおける日本研究をいかにして促進するのかについての問い合わせ		Washington, D.C.	
321	E-138-1	Gray, Aileen	1941	6	3	昭和16年				無	夏季休暇のためのホテルの案内		Watch Hill, Rhode Island	
322	E-138-2	Gray, Aileen	1942	5	28	昭和17年				無	夏季のホテルについての情報		Watch Hill, Rhode Island	
323	E-140-1	Gray, Raymond J., S.J.	1932	11	4	昭和7年				無	‘教皇権の歴史’についての書物を朝河に送ったことを述べる。自身がイェール大学で封建制の勉強のために朝河の指導を受けたことを回顧し感謝している。現在はイエズス会士としての修行をオハイオ州のクリーヴランドの郊外の農場で他のイエズス会士たちと行っていることを述べる。いずれ大学の教授への道を進みたい希望も伝える。Marc Blochが書いた‘中世の金’についての論文がフランスのどの雑誌に掲載されたのか尋ねている。	イエズス会士	Cleveland, Ohio	
324	E-140-2	Gray, Raymond J., S.J.	1933	5	19	昭和8年				無	研究上の励ましに対する感謝を述べる。		New Haven	
325	E-140-3	Gray, Raymond J., S.J.	1935	5	1	昭和10年				無	自身が刊行予定の書物の内容について語る。その第1部である「ビザンツ帝国での戴冠式の誓約」の部分なるべく早く仕上げたいと述べる。		Cleveland, Ohio	
326	E-140-4	Gray, Raymond J., S.J.	1937	2	4	昭和12年				無	Ostrogorskyの論文の書誌情報を朝河が伝えてくれたことに感謝する。戴冠式の起源と戴冠式の誓約についての興味深い新たな発見をしたことを述べる。博士論文が完成に近づいていることを報告する。		Milford, Ohio	
327	E-140-5	Gray, Raymond J., S.J.	1937	4	28	昭和12年				無	博士論文がほぼ完成したことを述べる。教皇グレゴリウス7世について書いた論文の抜き刷りを送ることも述べる。		Milford, Ohio	
328	E-140-6	Gray, Raymond J., S.J.	1939	1	7	昭和14年				無	朝河がTreitingerの書物の存在を教えてくれたことに感謝する。朝河がシュラム(P.E.Schramm)が行ったイギリス王権の戴冠式の研究を絶賛したことに対し自身も同じ考えであることを述べる。ザビエル大学での授業負担が大きいことを述べる。[ザビエル大学の教員となる]		Cincinnati, Ohio	
329	E-140-7	Gray, Raymond J., S.J.								無	コンスタンティノス7世の史料の新しい版について、朝河から情報を得たことに感謝する。		Cleveland, Ohio	
330	E-141	Greene, Evarts B.	1933	3	2	昭和8年				無	朝河に対し、 <i>American Historical Review</i> 誌上に日本の歴史学研究を概観する論文を掲載するように求める。	コロンビア大学教授(アメリカ史)、神戸生れ。両親が日本でのミッション活動に従事。アメリカ歴史協会会長を務める(1930年)。	New York	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
331	E-142-1	Greene, Jerome D.	1908	3	6	明治41年				無	ハーヴァード大学の日本人学生の質がこの10年の間、落ちていることを嘆く。	アメリカの銀行家(Evarts B.Greenの甥、ハーヴァード大学の事務局長だった人物)	East Asiatic Society of Boston	
332	E-142-2	Greene, Jerome D.	1908	3	10	明治41年				無	ハーヴァード大学には約7人の日本人学生がいて、彼らは経済学の勉強を好んでいる。			
333	E-142-3	Greene, Jerome D.	1908	4	2	明治41年				無	Colonial Clubでの夕食の招待			
334	E-142-4	Greene, Jerome D.	1908	10	19	明治41年				無	自身の友人に対し、朝河が書いた満州についての論文を送ってくれるように求める。			
335	E-142-5	Greene, Jerome D.	1909	4	21	明治42年				無	夕食の招待状			
336	E-142-6	Greene, Jerome D.	1912	12	24	大正1年				無	クリスマスと新年の挨拶			
337	E-142-7	Greene, Jerome D.	1930	12	5	昭和5年				無	朝河がCommittee on Japanese Studiesの会合に参加できないことを遺憾に思う。			
338	E-143	Greenwood, Mary G.	1942	5	10	昭和17年				無	夫が病気であることを伝える。			
339	E-144-1	Griffin, Eldon	1942	12	28	昭和17年				無	戦後のための準備についての書物を完成させたことを述べる。	イェールで1937年に学位を取得した東アジア近代史の専門家、朝河の教え子。		
340	E-144-2	Griffin, Eldon	1942	12		昭和17年				無	季節の挨拶状			
341	E-145-1	Hadley, Arthur Twining	1906	1	19	明治39年				有	朝河を1907-1908年の間、イェール大学のInstructor,History of Japanese Civilizationに任命することを伝える。	イェール大学学長(1899-1921)	New Haven	
342	E-145-2	Hadley, Arthur Twining	1908	3	31	明治41年				無	Sakuye Takahashi教授の著作の出版について述べる。		New Haven	
343	E-145-3	Hadley, Arthur Twining	1908	5	4	明治41年				無	Sakuye Takahashi教授に対し、出版の条件について述べる。朝河にその書簡のコピーを送っている。			
344	E-145-4	Hadley, Arthur Twining	1908	5	5	明治41年				無	朝河に上記のSakuye Takahashi教授宛の書簡を送ったことを伝える。		New Haven	
345	E-145-5	Hadley, Arthur Twining	1908	7	18	明治41年				無	朝河に継続雇用を伝える。		New Haven	
346	E-145-6	Hadley, Arthur Twining	1908	12	21	明治41年				無	朝河から書簡を受け取ったことへのお礼		New Haven	
347	E-145-7	Hadley, Arthur Twining	1910	1	14	明治43年				無	Baron Kikuchiの講演に関して述べる。		New Haven	
348	E-145-8	Hadley, Arthur Twining	1910	2	28	明治43年				無	Baron Kikuchiを招待することに関して述べる。		New Haven	
349	E-145-9	Hadley, Arthur Twining	1912	1	12	大正1年				無	Mr.Omotoに関する事柄について述べる。		New Haven	
350	E-145-10	Hadley, Arthur Twining	1912	8	15	大正1年				無	東京に住むMr.H.W.Dennisonについて、イェール大学の名誉博士号授与にふさわしいか尋ねる。		New Haven	
351	E-145-11	Hadley, Arthur Twining	1912	8	22	大正1年				無	朝河からの返事に対するお礼		New Haven	
352	E-145-12	Hadley, Arthur Twining	1914	10	29	大正3年				無	朝河の論文“The Origin of the Feudal Land Tenure in Japan”の抜き刷り送付に対するお礼		New Haven	
353	E-145-13	Hadley, Arthur Twining	1917	3	6	大正6年				無	朝河に何通かの書簡を転送したことを述べる。		New Haven	
354	E-145-14	Hadley, Arthur Twining	1917	3	14	大正6年				無	朝河の論文“Social Reactions of Buddhism in Medieval Japan”の抜き刷り送付に対するお礼	New Haven		
355	E-146-1	Hall, J.C.	1911	3	13	明治44年				無	朝河からの抜き刷りの送付へのお礼	イギリスの横浜総領事だった外交官 John Carey Hall。1914年に引退しイギリスに戻る。日本の封建制の研究者。	横浜	
356	E-146-2	Hall, J.C.	1915	9	5	大正4年				無	朝河のロンドン滞在中に書簡をもらったことへのお礼		Hampstead, London	
357	E-146-3	Hall, J.C.	1916	3	22	大正5年				無	朝河からの抜き刷り送付に対するお礼		Hampstead, London	
358	E-146-4	Hall, J.C.	1918	2	20	大正7年				無	朝河が日本の封建制に関する史料集を刊行の予定であることを知り、それを期待すると述べる。		London	
359	E-147	Haney, James P.	1914	12	31	大正3年				無	朝河に1913年と1914年のannual reportを送付したことを述べる。		New York	
360	E-148	Hargrove, Elizabeth	1915	9	5	大正4年				無	朝河にMiss Matsumotoを紹介する。		Paris	
361	E-149	Harlan, Ethel								無	ニューヨークのレストランMiyakoでの夕食に対するお礼			
362	E-150	Gardell, J.Harriet	1920	7	16	大正9年				無	夫との結婚生活についての思い出を述べる。			
363	E-151	Hastings, Rowland J.	1910	1	14	明治43年				無	朝河にWorcester Economic Clubでの講演を依頼する。	Worcester Economic Clubの秘書	Worcester, Mass.	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
364	E-152	Haskell, Henry S.	1916	6	21	大正5年				無	朝河にインタビューを申し込んでいる。	Carnegie Endowment for International PeaceのAssistant		
365	E-153-1	Hastings, Rowland S.	1913	5	3	大正2年				無	朝河にWorcester Economic Clubでの講演を依頼する。	Worcester Economic Clubの秘書		
366	E-153-2	Hastings, Rowland J.	1913	5	6	大正2年				無	Iyenaga博士が招待を受け入れたことを伝える。	Worcester Economic Clubの秘書		
367	E-154-1	Hawes, Charles H.	1912	11	27	大正1年				無	礼状			
368	E-154-2	Hawes, Charles H.	1915	10	24	大正4年				無	朝河にヨーロッパでの戦争についてダートマス大学での講演を依頼する。[裏面に下書きあり]	ダートマス大学教員		
369	E-154-3	Hawes, Charles H.	1915	11	2	大正4年				無	Tuckerから電話があったことを伝える。		Hanover, New Hampshire	
370	E-155	Hayakawa, S.I.	1937	3	27	昭和12年				無	抜き刷りの送付			
371	E-156	Heck, C.	1923	8	19	大正12年				有	日本の状況について伝える。		東京暁星中学校	
372	E-157-1	Helen	1943	4	20	昭和18年				無	朝河の論考についての感想を述べる。	[Helen Dunhamと思われる]		
373	E-157-2	Helen	1943	12	14	昭和18年				無	朝河が病氣から快復したことを喜ぶ。			
374	E-158	Helms, Birch	1915	5	10	大正4年				無	5月10日の週刊誌 Timesに掲載された朝河の論文を読み、自身がイェール大学時代に朝河のもとで日本史を学んだことを懐かしく思い出している。			
375	E-159-1	Heprrer, C.W.	1933	クリスマス		昭和8年				有	クリスマスと新年の挨拶状			
376	E-159-2	Heprrer, C.W.及びその家族		クリスマス						無	クリスマスと新年の挨拶状			
377	E-160	Herod, William P.	1936	5		昭和11年				無	朝河からイェール大学で受けた助言に感謝する。			
378	E-161	Hershey, Amos S.	1913	7	23	大正2年				無	朝河に日本にいる知り合いの紹介を求める。	インディアナ大学教授	Bloomington, Indiana	
379	E-162	Hewes, Horace G.	1913	12	28	大正2年				無	朝河に面談を求める。			
380	E-163-1	Hewes, L.I.	1908	8	2	明治41年	1908	8	3	無	面会の約束		Portland, Oregon	
381	E-163-2	Hewes, L.I.	1910	6	6	明治43年				無	ワシントン州のワラワラにあるウィットマン・カレッジで1年間、助教授で採用されることになったと伝える。			
382	E-163-3	Hewes, L.I.	1910	9	11	明治43年				無	判読不能		Walla Walla, Washington	
383	E-163-4	Hewes, L.I.	1911	4	23	明治44年				無	朝河の書簡での励ましに感謝する。		Walla Walla, Washington	
384	E-163-5	Hewes, L.I.	1911	9	21	明治44年				無	朝河と会えずに残念に思う。			
385	E-163-6	Hewes, L.I.	1911	11	5	明治44年				無	朝河からインフルエンザで外に出ることができないという書簡をもらい、それを気遣う。		Alexandria, Virginia	
386	E-163-7	Hewes, L.I.	1913	10	29	大正2年	1913	10	30	無	判読不能			
387	E-163-8	Hewes, L.I.	1913	11	4	大正2年		11		無	判読不能			
388	E-163-9	Hewes, L.I.	1914	1	18	大正3年				無	Curt夫妻と会食し、朝河の話をしたことをいう。	ダートマス大学時代の同級生		
389	E-163-10	Hewes, L.I.	1914	3	17	大正3年				無	読んだらすぐに返すので‘ハムレット論’を送ってほしい。土曜の晩にJohnston Forbes-Robertsonのハムレットを見に行く。		Washington, D.C.	
390	E-163-11	Hewes, L.I.	1914	4	8	大正3年				無	朝河の‘ハムレット論’を二度、読んだことをいう。Hewes夫人も読み涙を流した。		Rockville, Maryland	
391	E-163-12	Hewes, L.I.	1914	12	6	大正3年				無	現在、道路建設の作業を行っていることを述べる。			
392	E-163-13	Hewes, L.I.	1915	7	5	大正4年				無	朝河が戦争中のイタリアに行ったことについて感想を述べる。			
393	E-163-14	Hewes, L.I.	1915	11	28	大正4年				無	道路建設作業の日常について述べる。			
394	E-163-15	Hewes, L.I.	1915	12	16	大正4年				無	近況を述べる。			
395	E-163-16	Hewes, L.I.	1942	6	9	昭和17年				無	近況を述べる。			



# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
396	E-163-17	Hewes, L.I.	1947	4	23	昭和22年				無	自身の息子Lawrence I.Hewes,Jr.が5月2日に東京に行くことになった。昨年の秋、国会が承認し、天皇が署名した農地改革法案により、連合の最高司令部のもとで遂行されている農地改革の職務を果たすためである。彼は、日本における農業について語り合うことのできる東大か早稲田の学者と知り合いになりたがっているのので、朝河にそのような人物を紹介してもらえないかと言っている。	同上		
397	E-164	Hinding, Alice M.	1942	7	18	昭和17年				無	判読不能			
398	E-165-1	Hintze, Otto	1910	7	13	明治43年				無	[朝河受信書簡とされていたが、早稲田大学文学学術院教授・甚野尚志氏より送信者・受信者について訂正あり。詳細は下行のとおり]			
		[Stutz, Ulrich]									[この書簡は、ドイツの教会法学者Ulrich Stutzが1910年におそらくHintzeに出した書簡。差出人はStutzとなっていて、受け取り手は‘同僚(Kollege)’と言われるだけで名前は挙げられていないが、内容からみてほぼ確実にHintzeに宛てられたものである。なぜ朝河がこの書簡を保持していたのかはわからないが、おそらく、Hintzeが朝河に送った書簡に紛れ込んでいたのではないだろうか]	ドイツの教会法学者		
399	E-165-2	Hintze, Otto	1931	6	17	昭和6年				無	日本の国制史はイギリスやフランスよりもドイツに似ているので、ドイツの国制史を研究することを勧める。ドイツでの比較国制史の研究者を紹介する。	ドイツの法制史学者		
400	E-165-3	Hintze, Otto	1931	7	30	昭和6年				無	Heinrich Mitteisが封建制についての新しい書物を書いたことに触れ、朝河に対し、研究の指導者としてHeinrich Mitteisを推薦している。			
401	E-166-1	Hiranuma, Y.	1916	5	7	大正5年				無	朝河に勉学上の助言を感謝する。			
402	E-166-2	Hiranuma, Y.	1917	4	10	大正6年				無	挨拶状			
403	E-167-1	Hirsh, Friedrich	1911	12	27	明治44年				無	中国人の人名のスペルについて問い合わせる。			
404	E-167-2	Hirsh, Friedrich	1912	3	7	大正1年				無	友人の消息を尋ねる。			
405	E-167-3	Hirsh, Friedrich	1913	3	6	大正2年				無	書物の貸借を依頼する。			
406	E-167-4	Hirsh, Friedrich								無	面談の約束をする。			
407	E-168	Hiyatt, Willard I.	1913	3	13	大正2年				無	近況を述べる。			
408	E-169	Hochheim, Augusta		11	17					無	近況を述べる。[ミリアム夫人宛]			
409	E-170-1	Hodgkins, Walter Pearl	1912	12	6	大正1年				無	近況を述べる。			
410	E-170-2	Hodgkins, Walter Pearl	1912	12	10	大正1年				無	近況を述べる。			
411	E-171	Hoernle, R.F.Alfred	1917	3	16	大正6年				無	朝河が書いた日本における仏教の教義と社会制度の関係の論文を読んだと伝える。	ハーヴァード大学教員		
412	E-172-1	Holt, Hamilton	1913	6	16	大正2年				無	Hamilton Holt とT.IyenagaよりA.P.Stokes宛のコピー。			
413	E-172-2	Holt, Hamilton	1913	11	6	大正2年				無	近況を述べる。			
414	E-173	Holt, Roland	1912	11	15	大正1年				無	抜き刷り送付に対するお礼	Henry Holt and Company		
415	E-174	Hooker, George E.	1915	2	5	大正4年				無	City Club of ChicagoよりMr.Frederick W.Gookin宛のコピー。			
416	E-175-1	Hooper, F.H.	1923	6	9	大正12年				無	‘Japan’の項目の執筆依頼	The Encyclopedia Britannicaの編集者		
417	E-175-2	Hooper, F.H.	1923	6	14	大正12年				無	朝河との面談を求める。			
418	E-176-1	Howard, Marion E.	1942	12	27	昭和17年				無	朝河から贈られた日本の陶器のクリスマスプレゼントのお礼			
419	E-176-2	Howard, Marion E.	1943	11	14	昭和18年				無	近況を述べる。			
420	E-176-3	Howard, Marion E.	1945	12	21	昭和20年				無	クリスマスの挨拶			
421	E-177	Horn, Marion	1940	9	29	昭和15年				無	論文についての助言を求める。[余白、裏に連記あり]	朝河の教え子		
422	E-178	Hudson, Charles		9	11					無	近況を述べる。			

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
423	E-179	Hudson, G.F.	1932	12	24	昭和7年	1932			無	新年の挨拶			
424	E-180	Hughes, Thomas	1913	10	22	大正2年				無	夕食への招待			
425	E-181-1	Hunams, A.	1923	6	9	大正12年				無	朝河の年俸が1,500ドルから1923-24年のアカデミックイヤーには2,000ドルに上がることを伝える。	イエール大学事務総長 (Secretary)		
426	E-181-2	Hunams, A.	1924	3	22	大正13年				無	朝河の年俸が1924年7月1日から2,250ドルに上がることを伝える。			
427	E-181-3	Hunams, A.	1925	5	9	大正14年				無	朝河の年俸が1925年7月1日から2,250ドルから2,400ドルに上がることを伝える。			
428	E-181-4	Hunams, A.	1926	11	13	昭和1年				無	朝河の年俸が1926年7月1日から2,400ドルから3,000ドルに上がることを伝える。			
429	E-182	Huntington, Ellsworth	1929	6	22	昭和4年				無	抜き刷り送付に対するお礼			
430	E-183	Hutchinson, G.Evelyn	1944	1	20	昭和19年				無	論文の寄稿のお願い			
431	E-184-1	Ienks, Edward	1914	12	2	大正3年				無	抜き刷り送付に対するお礼			
432	E-184-2	Ienks, Edward	1915	9	8	大正4年				無	面会の約束			
433	E-184-3	Ienks, Edward	1915	11	9	大正4年				無	朝河の書簡への返事			
434	E-184-4	Ienks, Edward	1919	5	17	大正8年				無	抜き刷り送付に対するお礼			
435	E-185	Inemoto, Seichi		12	26					無	新年の挨拶			
436	E-186	Institut Historique et Heraldiq ue de France		7				7		有	会則について。			
437	E-187-1	Irwin, R.W.	1920	4	6	大正9年				無	抜き刷り送付に対するお礼			
438	E-187-2	Irwin, R.W.	1920	6	2	大正9年				有	抜き刷り送付に対するお礼			
439	E-187-3	Irwin, R.W.	1921	11	21	大正10年				有	抜き刷り送付に対するお礼			
440	E-187-4	Irwin, R.W.	1922	4	6	大正11年				無	抜き刷り送付に対するお礼			
441	E-187-5	Irwin, R.W.	1923	10	27	大正12年				無	朝河の書簡への返事			
442	E-188	Iyenaga, T.	1913	11	8	大正2年				無	Japan Society Prizeについて。			
443	E-189	Jalvemini, S.	1933	5	7	昭和8年				無	面会の約束			
444	E-190	Jameson, J.Franklin	1914	1	29	大正3年				無	朝河の投稿論文“The Origin of the Fuedal Land Tenure in Japan”の掲載が決まったことを知らせる。	American Historical Reviewの編集者		
445	E-191-1	Mrs.Jenkins ,Hannah T.	1913	10	18	大正2年				無	日本に行き感動したので、朝河のサマースクールの授業に出たいと述べる。	ポモナ・カレッジのArt Departmentの長	Claremont, California	
446	E-191-2	Mrs.Jenkins, Hannah T.	1913	11	1	大正2年				無	自分たちのThe Rembrandt Clubの活動について述べる。		Claremont, California	
447	E-191-3	Mrs.Jenkins, Hannah T.	1913	12	21	大正2年				無	朝河の2回の講演に感謝する。			
448	E-192	Jervey, Frank	1917	2	17	大正6年				無	自身の行為を朝河に謝罪している。			
449	E-193-1	Johnson, Allen	1921	1	7	大正10年				無	イエール大学の財政難により歴史学部で1万ドルの削減を求められ、朝河を含め若いinstructorたちを今学期で解雇することに決定したと告げる。しかし、それがイエールにとっての大きな学問的損失になるだろうと述べる。Adams教授と協議し、朝河のためにハーヴァード大学かプリンストン大学で職があるかを議論していると伝える。	イエール大学教授(アメリカ史)	New Haven	
450	E-193-2	Johnson, Allen	1921	1	18	大正10年				無	朝河がもし、assistant professorではなくresearch assistantの職を受け入れるならば、イエール大学にとどまることができると述べる。		New Haven	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載	
451	E-193-3	Johnson, Allen	1924	8	24	大正13年				無	都ホテルから西田幾多郎に会ったことなど京都の印象を伝える。	同上	京都		
452	E-193-4	Johnson, Allen	1924	10	20	大正13年				無	帝国ホテルから日本での旅について述べる。		東京		
453	E-193-5	Johnson, Allen	1925	3	15	大正14年				無	アジアの旅行について近況を報告する。		Cairo		
454	E-193-6	Johnson, Allen	1926	2	14	昭和1年				無	朝河からの書簡に感謝する。		Washington, D.C.		
455	E-193-7	Johnson, Allen	1927	8	28	昭和2年				無	自身の仕事が忙しく夏季休暇も取れないと述べる。		Washington, D.C.		
456	E-193-8	Johnson, Allen		9	3					無	ニューイングランドを旅して戻ってきたことを述べる。				
457	E-193-9	Johnson, Allen								無	朝河から花を贈られたことに感謝する。				
458	E-194-1	Johnson, Alvin	1930	5	26	昭和5年				無	朝河に対し、 <i>Encyclopaedia of the Social Sciences</i> (『社会科学百科辞典』)に武士道の項目の寄稿を依頼している。		コロンビア大学教授 ( <i>Encyclopaedia of the Social Sciences</i> (『社会科学百科辞典』)編集担当)	New York	
459	E-194-2	Johnson, Alvin	1930	6	11	昭和5年				無	朝河が上記の武士道の項目執筆を断ったことに対し、のちに出るF巻の日本のFeudalismの項目で武士道の問題も入れた執筆を朝河に依頼している。			New York	
460	E-194-3	Johnson, Alvin	1931	1	13	昭和6年				無	朝河が引き受けたJapanese Feudalismの項目執筆を約2,000字でお願いすること、また、同時に、Western Feudalism, Feudalism in the Saracen and Ottoman Empireのセクションも作ることを述べる。	New York			
461	E-194-4	Johnson, Alvin	1931	1	19	昭和6年				無	朝河にJapanese Feudalismの原稿を7月15日までに送るようという。	New York			
462	E-194-5	Johnson, Alvin	1931	1	26	昭和6年				無	朝河がFeudalismの原稿を引き受けてくれたことに感謝する。	New York			
463	E-194-6	Johnson, Alvin	1931	2	12	昭和6年				無	中国の封建制についても朝河が封建制の原稿で触れるように求める。	New York			
464	E-194-7	Johnson, Alvin	1931	3	2	昭和6年				無	朝河が中国の封建制について書くのを謝絶したため、他の執筆者に依頼することを述べる。	New York			
465	E-194-8	Johnson, Alvin	1932	2	5	昭和7年				無	Japanese Lawの項目について、朝河から中田薫、瀧川政次郎に問い合わせた執筆不可の返事の際は自分に連絡してほしいと述べる。	New York			
466	E-194-9	Johnson, Alvin	1932	3	12	昭和7年				無	Japanese Lawの項目執筆を中田薫が引き受けなかったため、瀧川政次郎に依頼すると述べる。	New York			
467	E-194-10	Johnson, Alvin	1932	9	16	昭和7年				無	朝河がJapanese Lawの項目の史料を翻訳してくれたことに感謝する。	New York			
468	E-195	Judd, Charles H.	1909	10	21	明治42年				無	朝河から連絡のあった友人に対する配慮を約束する。		Chicago		
469	E-196	Kamo, M.	1910	11	24	明治43年				無	面会の約束をする。	東京帝国大学工学部教授 加茂正雄	New York		
470	E-197-1	Kaufman, Mary E.	1935	6	24	昭和10年				無	Mr.Wolfが亡くなったことを伝える。		Chicago		
471	E-197-2	Kaufman, Mary E.	1935	7	3	昭和10年				無	Mr.Wolfの死亡記事を朝河に送る。		Chicago		
472	E-198	Kavanaugh, John	1945	2	27	昭和20年				無	Antioch Institute of International Relationsへの参加を乞う。	American Friends Service Committeeの Secretary	Columbus, Ohio		
473	E-199-1	Kawakami		9	20					無	日本が戦争により荒廃したことを嘆いている。自身の息子が東京のG.H.Q.に所属する中尉であることを述べている。[書簡の書かれた時期は戦後であろう]		Washington, D.C.		
474	E-199-2	Kawakami		9	30					無	朝河がワシントンD.C.に来たら歓迎することを述べる。上記の書簡の後に送られた書簡。		Washington, D.C.		
475	E-200	Kearney, Isabel W.								無	朝河からの書簡に感謝する。				

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載	
476	E-201-1	Keene, Donald L.	1947	1	23	昭和22年				無	最近、角田柳作の弟子たちで次のアカデミックイヤーで退職する角田のために日本研究に関する記念論文集を出版することになったことを説明し、朝河にこの論文集への寄稿を求めている。	コロンビア大学教授 Donald Lawrence Keene	New York		
477	E-201-2	Keene, Donald L.	1947	5	14	昭和22年				無	角田柳作の記念出版のために多くの友人や弟子に原稿を依頼したが、その返信は僅かであったのでとりあえず出版は延期となった。しかし朝河にも寄稿をお願いしたい。資金面は何かなる。		New York		
478	E-202-1	Keller, A.G.	1909	8	1	明治42年				無	朝河からの『日本の禍機』寄贈のお礼	イェール大学教授 Albert Galloway Keller (社会学者)	New Haven		
479	E-202-2	Keller, A.G.	1913	11	28	大正2年				無	ドイツ語の文献の翻訳を行ったことを伝える。				
480	E-202-3	Keller, A.G.	1914	11	11	大正3年				無	判読不能			New Haven	
481	E-202-4	Keller, A.G.	1917	3	19	大正6年				無	第一次世界大戦について述べる。			New Haven	
482	E-202-5	Keller, A.G.	1919	3	26	大正8年				無	ワシントンで国家のために様々な業務を行ったことを述べる。			New Haven	
483	E-202-6	Keller, A.G.	1929	4	20	昭和4年				無	朝河から著書を寄贈されたことへのお礼			New Haven	
484	E-202-7	Keller, A.G.	1938	5	5	昭和13年				無	礼状			New Haven	
485	E-202-8	Keller, A.G.	1942	5	28	昭和17年				無	判読不能			New Haven	
486	E-202-9	Keller, A.G.	1944	9	30	昭和19年				無	近況を述べる。			New Haven	
487	E-202-10	Keller, A.G.	1944	10	9	昭和19年	1944	10	9	有	第二次世界大戦について述べる。			New Haven	
488	E-202-11	Keller, A.G.	1945	6	4	昭和20年				有	判読不能[1945年5月31日、1947年4月10日の書簡も入っている]			New Haven	
489	E-202-12	Keller, A.G.	1945	11	19	昭和20年				無	判読不能			New Haven	
490	E-202-13	Keller, A.G.	1947	4	8	昭和22年	1947	4	8	無	判読不能				
491	E-202-14	Keller, A.G.	1947	4	12	昭和22年	1947	4	13	有	判読不能			New Haven	
492	E-203	Keller, Deane	1948	6	7	昭和23年				無	パーティーの招待				
493	E-204	Kelso, John B.	1923	1	18	大正12年				無	近況を述べる。	ウースター大学学長			
494	E-205-1	Kendall, Wm.Sergeant	1913	11	14	大正2年				無	朝河に日本美術史の講義を依頼する。	イェール大学のSchool of Fine ArtsのDirector			
495	E-205-2	Kendall, Wm.Sergeant	1913	11	26	大正2年				無	食事の招待				
496	E-205-3	Kendall, Wm.Sergeant	1914	4	7	大正3年				無	近況を述べる。				
497	E-206	Kenerson, Charlotte H.	1914	11	9	大正3年				無	朝河からの贈り物の壺に感謝する。				
498	E-207	Kenerson, Edward H.	1914	11	9	大正3年				無	近況を述べる。				
499	E-208	Kennan, George	1914	11	20	大正3年				無	"The Origin of the Feudal Land Tenure in Japan"の抜き刷り送付に対するお礼				
500	E-209-1	Kennedy, Anne	1922	1	25	大正11年				無	会員への勧誘	American Birth Control LeagueのOfficer			
501	E-209-2	Kennedy, Anne	1922	2	2	大正11年				無	朝河の協力に感謝する。				
502	E-210	Kent, Elizabeth T.	1945	10	29	昭和20年				無	今日の日本人を知るためによい本を推薦してくれるように求める。				
503	E-211-1	Keogh, Andrew	1917	6	12	大正6年				無	朝河を通じて日本の学術団体に刊行物の交換を依頼する。	イェール大学の司書			
504	E-211-2	Keogh, Andrew	1929	5	28	昭和4年				無	朝河の書物を予算から26冊購入し、書物を交換している海外の図書館に寄贈したことをいう。				
505	E-211-3	Keogh, Andrew	1931	5	19	昭和6年				無	Andrew KeoghよりCharles S.Gardner宛のコピー。[1931.5.17付のKeogh宛Gardnerの書簡が裏面にある]				
506	E-212	Kersland, Francis Steward		12	29					無	近況を述べる。	Museum of Fine Artsの関係者			
507	E-213	Kimball, Elisabeth G.	1933	4	16	昭和8年				無	近況を述べる。	ウェルス大学講師(イギリス中世史)			
508	E-214-1	Kinnry, Lita H.	1913	1	6	大正2年				無	近況を述べる。				
509	E-214-2	Kinnry, Lita H.	1913	1	30	大正2年				無	近況を述べる。				

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載		
510	E-214-3	Kinnry, Lita H.	1913	6	11	大正2年				無	近況を述べる。					
511	E-214-4	Kinnry, Lita H.	1913	7	14	大正2年				無	近況を述べる。					
512	E-214-5	Kinnry, Lita H.	1913	7	20	大正2年				無	近況を述べる。					
513	E-214-6	Kinnry, Lita H.	1913	8	18	大正2年				無	近況を述べる。					
514	E-214-7	Kinnry, Lita H.		1	27					無	近況を述べる。					
515	E-214-8	Kinnry, Lita H.		2	16					無	近況を述べる。					
516	E-214-9	Kinnry, Lita H.		12	3					無	近況を述べる。					
517	E-214-10	Kinnry, Lita H.		12	6					無	近況を述べる。					
518	E-214-11	Kinnry, Lita H.								無	近況を述べる。					
519	E-214-12	Kinnry, Lita H.								無	近況を述べる。					
520	E-215-1	Klein, Andor	1937	1	3	昭和12年				無	朝河に日本研究のための文献を尋ねる。	ブダペストの大学生	Budapest, Hungary			
521	E-215-2	Klein, Andor	1937	2	3	昭和12年				無	朝河に日本研究のための文献を尋ねる。					
522	E-215-3	Klein, Andor	1937	3	23	昭和12年				無	朝河に日本研究のための文献を尋ねる。					
523	E-215-4	Klein, Andor	1937	4	24	昭和12年				有	朝河に日本研究のための文献を尋ねる。					
524	E-215-5	Klein, Andor	1937	6	3	昭和12年				無	朝河に日本研究のための文献を尋ねる。					
525	E-215-6	Klein, Andor	1937	10	26	昭和12年				無	朝河に日本研究のための文献を尋ねる。					
526	E-215-7	Klein, Andor	1937	12	21	昭和12年				無	朝河に日本研究のための文献を尋ねる。					
527	E-216	Knox, George William	1911	1	30	明治44年				無	朝河から送ってもらった書物のリストに感謝する。	Union Theological Seminary教授。日本での宣教活動を行った人物。				
528	E-217	Komatsu, Takashi	1911	2	15	明治44年				無	朝河に研究の助言を求める。					
529	E-218	Korff, J.A.		1	11					無	抜き刷り送付に対するお礼					
530	E-219	Kumon, Atsutoshi	1936	9	27	昭和11年				無	日本イエール協会がイエール大学へ桜の苗木を贈ることについて		Kumon Atsutoshi (東京豊島区)より, Dr. James Roland Angell(イエール大学)宛			
531	E-220	Kokusai Kisen Kabushiki Kaisha	1937	12	20	昭和12年				無	荷物が届いたことを知らせる。					
532	E-221-1	Ladd, Frances S.	1921	8	21	大正10年				無	朝河の書簡への返事					
533	E-221-2	Ladd, Frances S.	1922	1	8	大正11年				無	クリスマスカードへの返事					
534	E-222	Ladd, George Trunbull	1909	8	24	明治42年				無	朝河からの招待への返事					
535	E-223-1	Lanman, Charles R.	1908	5	6	明治41年				無	Harvard Oriental Seriesの書物の送付について					
536	E-223-2	Lanman, Charles R.	1908	5	18	明治41年				無	書物の日本の図書館への寄贈について					
537	E-223-3	Lanman, Charles R.	1909	1	8	明治42年				無	朝河の返事へのお礼					
538	E-223-4	Lanman, Charles R.	1909	1	13	明治42年				無	日本の図書館の情報についてのお礼					
539	E-223-5	Lanman, Charles R.	1909	1	18	明治42年				無	Harvard Oriental Seriesの書物の日本への送付について					
540	E-224	Latourette, C.S.	1942	5	6	昭和17年				無	President Seymour宛書簡の写し					
541	E-225-1	Latourette, Kenneth S.	1910	6	6	明治43年				無	近況を述べる。	イエール大学教授(専門は中国史、日本史、キリスト教布教史)				
542	E-225-2	Latourette, Kenneth S.	1912	7	15	大正1年				無	日本から帰国の途上にあることを述べる。					
543	E-226	Lay, Beirne	1917	3	2	大正6年				無	近況を述べる。					
544	E-227	Layrinot, m.a.Ed.	1908	1	3	明治41年				無	日本語の表記についての問い合わせ					
545	E-228-1	Levermore, Charles H.	1913	5	1	大正2年				無	朝河に助言を求める。(裏面に下書あり)	The World Peace Foundation				
546	E-228-2	Levermore, Charles H.	1915	5	14	大正4年				無	会議のお知らせ(余白に返事の下書あり)					
547	E-228-3	Levermore, Charles H.	1915	5	17	大正4年				無	朝河に会議での報告者の紹介を求める。[余白に返事の下書あり]					
548	E-229-1	Lewi, Emily	1935	11	24	昭和10年				無	近況を述べる。					
549	E-229-2	Lewi, Emily	1936	3	3	昭和11年				無	近況を述べる。					

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
550	E-230	Liberma, Marco F.	1929	11	27	昭和4年				無	Storia del Diritto Italianoについての朝河の問い合わせに答える。			
551	E-231	Library of Congress	1923	11	7	大正12年				無	朝河からの問い合わせに答える。			
552	E-232	Lipson, E.	1928	7	16	昭和3年				無	論文の校正について			
553	E-233	Liw, C.H. [劉崇鉞]	1928	7	15	昭和3年				無	中国人の学生を朝河に紹介する。			
554	E-234-1	Lobar, CH.	1927	5	28	昭和2年				無	1927年7月1日から3年間、年俸3,500ドル支払うことを朝河に伝える。			
555	E-234-2	Lobar, CH.	1928	3	10	昭和3年				無	1928年7月1日から年俸を3,500ドルから4,000ドルに上げることを朝河に伝える。			
556	E-235	Lore, Y.T.及その子供達								無	挨拶状			
557	E-236-1	Lynch, Bernadette M.	1941	7	28	昭和16年				無	本を送ってもらったことへのお礼			
558	E-236-2	Lynch, Bernadette M. [Tim and Detta]	1943	2	20	昭和18年				無	朝河への礼状			
559	E-237	Lyvelo, Theobald A.	1911	9	14	明治44年				無	近況を述べる。			
560	E-238-1	M.de Groot, J.J.	1909	1	9	明治42年				無	抜き刷り送付に対するお礼	Jan Jakob Maria de Groot (1854-1921) はオランダの中国学者、ライデン大学及びベルリン大学教授	Leiden, Nederland	
561	E-238-2	M.de Groot, J.J.	1910	7	26	明治43年		8	5	無	抜き刷り送付に対するお礼		Boston	
562	E-238-3	M.de Groot, J.J.	1910	10	8	明治43年	1910	10	8	無	面談の問い合わせ		Leiden, Nederland	
563	E-238-4	M.de Groot, J.J.	1911	11	28	明治44年				無	朝河からのベルリン大学教授就任のお祝いへの返事			
564	E-239-1	M.Ernest	1931	6	22	昭和6年				無	朝河の名誉博士号授与に関して			
565	E-239-2	M.Ernest	1944	4	20	昭和19年				無	Tucker夫人の死について			
566	E-239-3	M.Ernest	1944	11	20	昭和19年				無	本を送ってもらったことへのお礼			
567	E-240	M.T.Charles	1923			大正12年				無	近況を述べる。			
568	E-241-1	Ma, Yinchu [馬寅初]	1910	3	22	明治43年				無	中国の状況を伝える。	中国人の経済学者		
569	E-241-2	Ma, Yinchu [馬寅初]	1910	8	8	明治43年				無	近況を述べる。			
570	E-241-3	Ma, Yinchu [馬寅初]	1911	10	30	明治44年				無	自身の論文に対して助言を求める。			
571	E-242	Maccabe, Arthur	1912	6	9	大正1年				無	近況を述べる。			
572	E-243-1	MacCabe, Charles P.	1912	11	21	大正1年				無	モントリオールで学生生活を始めたことを述べる。	イェール大学で朝河と知り合い、モントリオールの大学で学生生活を送っている学生	Montreal, Canada	
573	E-243-2	MacCabe, Charles P.	1912	12	3	大正1年				無	ドイツ語の勉強をしていることを伝える。		Montreal, Canada	
574	E-243-3	MacCabe, Charles P.	1912	12	15	大正1年				無	授業が終わり、化学、ラテン語、ドイツ語などの試験がある。		Montreal, Canada	
575	E-243-4	MacCabe, Charles P.	1913	1	2	大正2年				無	朝河のクリスマスの挨拶状への返事		Montreal, Canada	
576	E-243-5	MacCabe, Charles P.	1913	2	2	大正2年				無	将来の職業について考えていることを述べる。		Montreal, Canada	
577	E-243-6	MacCabe, Charles P.	1913	2	5	大正2年				無	今後の生活のことを述べる。		Montreal, Canada	
578	E-243-7	MacCabe, Charles P.	1913	2	21	大正2年				無	試験があったことを述べる。		Montreal, Canada	
579	E-243-8	MacCabe, Charles P.	1913	2	23	大正2年	1913	2	24	無	母親の手術について述べる。		Montreal, Canada	
580	E-243-9	MacCabe, Charles P.	1913	3	2	大正2年	1913	3	2	無	吹雪があったことを述べる。		Montreal, Canada	
581	E-243-10	MacCabe, Charles P.	1913	3	9	大正2年				無	母親が急速に良くなっていることを述べる。		Montreal, Canada	
582	E-243-11	MacCabe, Charles P.	1913	3	30	大正2年				無	母親が全快し退院したことを述べる。		Montreal, Canada	
583	E-243-12	MacCabe, Charles P.	1913	5	3	大正2年				無	来週に試験がある。素晴らしい春の気候になった。		Montreal, Canada	
584	E-243-13	MacCabe, Charles P.	1913	7	1	大正2年				無	モントリオールを離れ、ノバ・スコシアに移り、農業をしている。		Nova Scotia	
585	E-243-14	MacCabe, Charles P.	1913	8	6	大正2年				無	現在も農業をしている。		Nova Scotia	
586	E-243-15	MacCabe, Charles P.	1913	9	19	大正2年				無	モントリオールに戻って大学の勉強を再開した。		Montreal, Canada	
587	E-243-16	MacCabe, Charles P.	1913	10	1	大正2年				無	授業は明日から始まる。新しい解剖学の教授が赴任した。		Montreal, Canada	
588	E-243-17	MacCabe, Charles P.	1913	10	26	大正2年				無	今年は体操の授業を取ったが、カナダ軍の将校の訓練に参加することになった。		Montreal, Canada	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
589	E-243-18	MacCabe, Charles P.	1914	10	7	大正3年				無	ノバ・スコシアで過ごし、モントリオールの大学に戻った。学生数は昨年よりも減り500人ぐらいいかない。なぜなら約300人の学生が戦地に行くための訓練をしているからだ。	同上	Montreal, Canada	
590	E-243-19	MacCabe, Charles P.	1914	10	25	大正3年				無	私が今年度主として取っている科目は解剖学と有機化学である。		Montreal, Canada	
591	E-243-20	MacCabe, Charles P.	1914	11	22	大正3年				無	自分の授業のうち一番大変なのが解剖の授業である。		Montreal, Canada	
592	E-243-21	MacCabe, Charles P.	1915	2	28	大正4年				無	今年の大学の状況はアブノーマルになっている。少なくとも500か600人の学生が連隊に関わって働いているからだ。		Montreal, Canada	
593	E-243-22	MacCabe, Charles P.	1915	10	31	大正4年				無	戦争のために学生数が減っているが、それに合わせて授業が行われている。		Montreal, Canada	
594	E-243-23	MacCabe, Charles P.	1916	8	31	大正5年				無	卒業後の職について語る。		Montreal, Canada	
595	E-243-24	MacCabe, Charles P.	1916	10	22	大正5年				無	近況について語る。		Montreal, Canada	
596	E-244	Maddox, John L.	1913	12	19	大正2年				無	朝河の書簡への返事			
597	E-245	Magee, John G.	1946	7	27	昭和21年				無	日本から敗戦後の状況を伝える。	G.H.Q.の関係者		
598	E-246	Magis, M.	1940	3	26	昭和15年				無	朝河からの書物の注文について	Librairie Magis et Mounaud		
599	E-247	Magnus, Cira L.	1914	4	28	大正3年				無	The Japan Societyの夕食会について			
600	E-248	Maitre, G.S.	1912	2	29	大正1年	1929	2		有	朝河へのお礼			
601	E-249	Mansfield, Howard	1915	1	16	大正4年				無	近況を述べる。			
602	E-250	Marie	1941	12	14	昭和16年				無	近況を述べる。			
603	E-251	Marshall, John	1936	11	20	昭和11年				無	朝河のIALAへのコメントに感謝する。			
604	E-252	Matsuura, Noboru [松浦隆]	1923	10	23	大正12年				無	震災のお見舞いへのお礼			
605	E-253	Maxim, Hudson	1912	10	1	大正1年				無	自身の著書を送ったことを伝える。			
606	E-254	Maxim, Philip S.	1913	8	21	大正2年				無	抜き刷り送付に対するお礼			
607	E-255-1	May, George E.	1920	4	20	大正9年				有	近況を述べる。			
608	E-255-2	May, George E.	1920	5	3	大正9年				無	近況を述べる。			
609	E-256	Mccabe, Louise		12	27					無	近況を述べる。			
610	E-257-1	Mckee, Oliver	1913	12	13	大正2年				無	日本語の部分の校正を依頼する。	The New Encyclopedia Britannicaの編集者		
611	E-257-2	Mckee, Oliver	1914	1	22	大正3年				無	日本語の部分の校正を依頼する。			
612	E-258	Mcfadden, Frederic M.	1914	11	23	大正3年				無	近況を述べる。			
613	E-259	Mednick, Sol	1938	10	20	昭和13年				無	領収書			
614	E-260-1	Mercer, C.W.	1929	8	7	昭和4年				無	請求書の件	The Equitable Life Assurance Society		
615	E-260-2	Mercer, C.W.	1929	8	14	昭和4年				無	請求書の件			
616	E-260-3	Mercer, C.W.	1929	8	28	昭和4年				無	請求書の件			
617	E-260-(2)	Merchant, Samuel L.	1913	1	24	大正2年				無	近況を述べる。			
618	E-261-1	G. & C. Merriam Company	1907	1	2	明治40年				無	朝河からの日本の暦についての情報に感謝する。	Webster's International Dictionaryの編集者		
619	E-261-2	G. & C. Merriam Company	1907	9	21	明治40年				無	日本語の発音について問い合わせしている。			
620	E-261-3	G. & C. Merriam Company	1907	11	13	明治40年				無	世界にはキリスト教の暦(西暦)、イスラム教のヒジュラ暦、ユダヤ暦などがあるようにおそらく日本にも自分たちの暦があるのではないかと。現在は普通の暦が使用されていると思うが、19世紀初めには異なる暦が用いられていたのではないかと。その暦について知りたい。その日付の数え方や日本人以外に現在、その暦を使っている人々がいたら教えてほしい。			
621	E-261-4	G. & C. Merriam Company	1907	11	20	明治40年				無	日本の暦についての情報に感謝する。			

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
622	E-261-5	G.& C.Merriam Company	1907	12	14	明治40年				無	‘日本の暦’のタイトルのもとで、日本人の1年の区切り方について短い説明を付けたい。それについての情報を教えてほしい。	同上		
623	E-261-6	G.& C.Merriam Company	1907	12	30	明治40年				無	‘柔術’の正確な定義について教えてもらい感謝する。この言葉の英語での正確な綴りはどのようなものか。			
624	E-261-7	G.& C.Merriam Company	1908	1	6	明治41年				無	自身が出版する辞典の日本での販売について問い合わせている。			
625	E-261-8	G.& C.Merriam Company	1908	3	7	明治41年				無	‘袋小路’をどう表記するのか教えてほしい。‘Fukurokojiu’だろうか。最後は‘jiu’か、あるいは‘ju’だろうか。教えてほしい。			
626	E-261-9	G.& C.Merriam Company	1908	4	2	明治41年				無	‘jujutsu’、‘matsu’の日本語の発音について教えてほしい。			
627	E-261-10	G.& C.Merriam Company	1908	4	7	明治41年				無	‘jujutsu’の発音についての情報に感謝する。			
628	E-261-11	G.& C.Merriam Company	1908	8	24	明治41年				無	‘Murata’、‘Momme’はどう発音したらよいか。教えてほしい。			
629	E-261-12	G.& C.Merriam Company	1908	11	4	明治41年				無	‘Shinto’の定義について教えてほしい。			
630	E-261-13	G.& C.Merriam Company	1909	7	8	明治42年				無	日本の有名人の正しい完全な表記について問い合わせる。神武天皇、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、西郷隆盛などの名前について尋ねている。			
631	E-261-14	G.& C.Merriam Company	1909	7	9	明治42年				無	人名辞典で挙げる日本人の名前の正しい綴りについて問い合わせる。			
632	E-261-15	G.& C.Merriam Company	1909	7	10	明治42年				無	上の書簡と同じく、人名辞典で挙げる日本人の名前の正しい綴りについて問い合わせる。			
633	E-261-16	G.& C.Merriam Company	1909	11	29	明治42年				無	辞典の仕事の謝礼として21ドルの為替を同封したことを知らせる。			
634	E-261-17	G.& C.Merriam Company	1910	1	22	明治43年				無	朝河が送付した原稿の修正点について感謝する。			
635	E-261-18	G.& C.Merriam Company	1910	11	25	明治43年				無	朝河からの狩野正信についての情報に感謝する。			
636	E-261-19	G.& C.Merriam Company	1910	11	28	明治43年				無	狩野一族についての問い合わせ			
637	E-261-20	G.& C.Merriam Company	1911	3	13	明治44年				無	日本における公的なローマ字表記のあり方について尋ねる。			
638	E-261-21	G.& C.Merriam Company	1911	3	15	明治44年				無	Webster's New International Dictionaryの伝記の部における日本人の生年が正しいかどうか尋ねる。			
639	E-261-22	G.& C.Merriam Company	1911	3	27	明治44年				無	日本人の生年についての回答に感謝する。			
640	E-261-23	G.& C.Merriam Company	1911	9	9	明治44年				無	ラフカディオ・ハーンの名前は何か教えてほしい。			
641	E-261-24	G.& C.Merriam Company	1912	8	8	大正1年				無	現在の天皇の名前を教えてほしい。			
642	E-261-25	G.& C.Merriam Company	1912	11	2	大正1年				無	日本語の‘chu’、‘chui’について教えてほしい。			
643	E-262	Merritt, Alfred K.	1913	4	22	大正2年				無	学生の試験に関して			
644	E-263-1	Mesmex, M.	1936	7	9	昭和11年				無	近況を述べる。			
645	E-263-2	Mesmex, M.	1936	8	10	昭和11年				無	近況を述べる。			
646	E-263-3	Mesmex, M.	1936	9	2	昭和11年				無	近況を述べる。			
647	E-263-4	Mesmex, M.	1936	10	29	昭和11年				無	近況を述べる。			
648	E-263-5	Mesmex, M.		7	10					無	近況を述べる。			
649	E-264	Meyer, Max F.	1920	2	13	大正9年	1920	2	13	無	近況を述べる。		Morocco	
650	E-265-1	Houghton, Mifflin Co.	1911	3	4	明治44年				無	朝河の書簡への返事			
651	E-265-2	Houghton, Mifflin Co.	1912	10	24	大正1年				無	朝河がJapan, Old and Newという書物の刊行を依頼したが、それを謝絶する。			
652	E-265-3	Houghton, Mifflin Co.	1927	8	31	昭和2年				無	Russo-Japanese Conflict (『日露衝突』)の著作権について			
653	E-266	Miller, Charles, Jr.	1914	11	24	大正3年				無	近況を述べる。			



# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載	
654	E-267	Miller, Nathan	1930	2	28	昭和5年				無	推薦状の依頼				
655	E-268	Mills, Samuel J.	1942	6	23	昭和17年				無	FBIにより拘束された日本人について				
656	E-269	Mims, Stewart								無	クリスマスカード				
657	E-270	Minakuchi, Neelie C.	1942	5	20	昭和17年				無	収容所に入れられた日本人について				
658	E-271-1	Minakuchi, Yutaka	1937	9	19	昭和12年				無	近況を述べる。				
659	E-271-2	Minakuchi, Yutaka	1943	4	21	昭和18年				無	近況を述べる。				
660	E-272	Mitchell, Mary Heuitt	1912	8	15	大正1年				無	近況を述べる。				
661	E-273-1	Mitchell, Sydney K.	1929	6	12	昭和4年				無	近況を述べる。				
662	E-273-2	Mitchell, Sydney K.	1940	9	12	昭和15年				無	近況を述べる。				
663	E-274	Moon, Parkar L.		10	29					無	朝河へのお礼				
664	E-275	Moore, William H.(Mrs.)	1937	12	24	昭和12年				無	面会の約束				
665	E-276-1	Morant, Robert L.	1915	9	6	大正4年				無	近況を述べる。				
666	E-276-2	Morant, Robert L.								無	近況を述べる。				
667	E-277	More, Paul E.	1910	11	10	明治43年				無	日本の芸術と文明についての書物への書評の依頼	The Nationの編集者	New York		
668	E-278-1	Morgan, Arthur E.	1924	11	14	大正13年				無	朝河との食事会で、仏教について教えてもらったことへのお礼	アンティオーク大学学長	Yellow Spring, Ohio		
669	E-278-2	Morgan, Arthur E.	1924	11	28	大正13年				無	仏教の発展について説明してくれた朝河の書簡に対するお礼				
670	E-278-3	Morgan, Arthur E.	1939	12	23	昭和14年				無	クリスマスの挨拶を送る。				
671	E-278-4	Morgan, Arthur E.	1940	1	1	昭和15年				無	西洋にあるようなユートピア文学(プラトンのRepublic(『国家』)、トマス・モアのUtopia(『ユートピア』)など)が東洋にも存在するのかについての問い合わせ				
672	E-278-5	Morgan, Arthur E.	1940	2	9	昭和15年				無	孔子の著述にユートピア的な表現があるのに気付いたことを知らせる。				
673	E-278-6	Morgan, Arthur E.	1940	8	16	昭和15年				無	日本の村落の歴史と在り方について例を挙げて教えてほしい。				
674	E-278-7	Morgan, Arthur E.	1942	1	8	昭和17年				無	朝河から枢密顧問官(金子堅太郎)宛の書簡のコピーを送ってもらったことへのお礼[この書簡への朝河の返事の書簡(1942年1月11日付)も入っている(内容は日本の7世紀から8世紀初頭の改革について)]			L-付26,P	
675	E-278-8	Morgan, Arthur E.	1942	2	16	昭和17年				無	朝河から来た2通の書簡の写しを作り、同封して返却することを知らせる。				
676	E-278-9	Morgan, Arthur E.	1942	2	19	昭和17年				無	朝河から来た書簡へのお礼				
677	E-278-10	Morgan, Arthur E.	1945	2	5	昭和20年				無	アンティオーク大学で開催される学会(The North Central Institute of International Relations)への招待				
678	E-278-11	Morgan, Arthur E.	1945	3	22	昭和20年				無	朝河の書簡へのお礼				
679	E-278-12	Morgan, Arthur E.	1945	3	31	昭和20年				無	抜き刷り“Notes on the Village Government of Japan”送付に対するお礼				
680	E-278-13	Morgan, Arthur E.	1946	11	30	昭和21年				無	朝河から送ってもらった書評(Grayの社会主義に関する著書への書評)を同封して返却する旨の書簡				
681	E-279-1	Morikubo, Zentaro [森久保善太郎]	1921	1	5	大正10年				無	イエール大学でOriental arts Buildingの建設プランが進んでいるのか尋ね、東アジア図書館に必要な書物とそれにかかる費用も尋ねている。	イエール大学に留学し帰国後に鬼怒川水力電気常務取締役。日本イエール協会幹事。	東京		
682	E-279-2	Morikubo, Zentaro [森久保善太郎]	1921	11	5	大正10年				無	イエール大学に書物を送ったことを述べる。		東京		

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
683	E-279-3	Morikubo, Zentaro [森久保善太郎]	1921	11	26	大正10年				無	日本イェール協会が千円をイェール大学の同窓会に寄付したことを述べる。	同上	東京	
684	E-279-4	Morikubo, Zentaro [森久保善太郎]	1922	4	8	大正11年				無	朝河とイェールの大学当局から書物と千円の寄付の受領書が送付されたことに謝意を述べる。		東京	
685	E-279-5	Morikubo, Zentaro [森久保善太郎]	1922	10	14	大正11年				無	心筋梗塞になり十分に仕事ができない状況であることを述べる。朝河からの書物送付の要請について答える。		東京	
686	E-280-1	Morris, Alice V.	1935	6	17	昭和10年				無	判読不能	旧姓名はAlice Vanderbilt Shepardで、David Hennen Morrisと結婚しAlice Vanderbilt Morrisとなる。1924年に国際補助語協会 (IALA) を夫と創設した。	New York	
687	E-280-2	Morris, Alice V.	1936	8	14	昭和11年				無	ニューヨークでの面談について。IALAの会合についての新聞記事の切り抜きがある。		Bar Harbor, Maine	
688	E-280-3	Morris, Alice V.	1936	8	17	昭和11年				無	IALAのパンフレット出版について述べる。		Bar Harbor, Maine	
689	E-280-4	Morris, Alice V.	1936	9	17	昭和11年				無	ニューヨークでの面談について		New York	
690	E-280-5	Morris, Alice V.	1938	1	17	昭和13年				無	IALAに関する協議のため、ニューヨークでの面会を求める。		New York	
691	E-280-6	Morris, Alice V.	1938	3	7	昭和13年				無	朝河からの夕食の招待(ニューヨークのレストランMiyako)について事情を述べる。		New York	
692	E-280-7	Morris, Alice V.	1938	9	11	昭和13年				無	朝河からのお菓子のプレゼントへのお礼		New York	
693	E-280-8	Morris, Alice V.	1939	5	26	昭和14年				無	書簡へのお礼		New York	
694	E-280-9	Morris, Alice V.	1939	9	24	昭和14年				無	朝河からの贈り物へのお礼		New York	
695	E-280-10	Morris, Alice V.	1940	2	1	昭和15年				無	食事への招待		New York	
696	E-280-11	Morris, Alice V.	1940	3	13	昭和15年				無	娘アリスの生まれたての娘(自身の孫)が自宅に来たことを述べる。[夫D.H.Morrisからの食事の日にちの問い合わせも入っている。]	Columbus, Ohio		
697	E-280-12	Morris, Alice V.	1940	10	4	昭和15年				無	孫たちとのメリーランドへの旅の後、家に朝河からのお菓子の贈り物が来ていたことへのお礼	New York		
698	E-280-13	Morris, Alice V.	1940	12	24	昭和15年				無	IALAの会合を彼女の自宅で開催することを知らせる。	New York		
699	E-280-14	Morris, Alice V.	1941	2	6	昭和16年				無	新聞の切り抜き送付のお礼	New York		
700	E-280-15	Morris, Alice V.	1941	3	17	昭和16年				無	日本の政治指導者に反対する意見を述べる朝河に対し、共感を表明する。	New York		
701	E-280-16	Morris, Alice V.	1941	9	18	昭和16年				無	朝河からのプレゼントのお礼	New York		
702	E-280-17	Morris, Alice V.	1942	1	7	昭和17年				無	孫の友人のイェール大学生を朝河に紹介する。	New York		
703	E-280-18	Morris, Alice V.	1943	11	19	昭和18年				無	朝河の病院からの退院を喜ぶ。	New York		
704	E-280-19	Morris, Alice V.	1945	10	3	昭和20年				無	近いうちに面談することを求める。[裏面に10月7日付返信の下書あり]	New York		
705	E-280-20	Morris, Alice V.	1947	6	25	昭和22年				無	A.Martinetがソルボンヌ大学を退職し、数年間コロンビア大学教授になることを伝える。	New York		
706	E-280-21	Morris, Alice V.	1947	10	22	昭和22年				無	今後とも中立的な言語学者の意見を聞きたいと述べる。	New York		
707	E-280-22	Morris, Alice V.		4	6					無	面談の約束	New York		
708	E-280-23	Morris, Alice V.		8	19					無	朝河からのマーマレードの贈り物に対するお礼	Bar Harbor, Maine		
709	E-280-24	Morris, Alice V.		2	24					無	判読不能	New York		
710	E-280-25	Morris, Alice V.								無	判読不能	Bar Harbor, Maine		
711	E-281-1	Morrison, G.S.	1908	10	5	明治41年				無	Yale Review掲載の"Japan in Manchuria"の抜き刷りを送ってくれたことへの礼状	Peking		
712	E-281-2	Morrison, G.S.	1912	2	21	大正1年				無	朝河が書いた論文"The New Regime in China"での誤りを指摘する。	Peking		
713	E-281-3	Morrison, G.S.	1912	4	23	大正1年				無	中国で発行されているGovernment Gazetteのコピーを朝河に送付することを伝える。	Peking		
714	E-282	Morse, Anne W.	1912	3	9	大正1年				無	判読不能	Evanston, Illinois		

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
715	E-283-1	Morse, Edward S.	1908	4	3	明治41年				無	朝河にセイレムのピーボディ博物館に来ることができるかどうか尋ねている。	Edward Sylvester Morseは東京帝国大学でお雇い外国人教授を務め大森貝塚を発見し、日本の人類学、考古学の基礎を築く。アメリカに帰国後、ピーボディ科学アカデミーの館長となる。	Salem, Mass.	
716	E-283-2	Morse, Edward S.	1910	4	25	明治43年				無	判読不能		Salem, Mass.	
717	E-283-3	Morse, Edward S.	1911	8	30	明治44年				無	朝河からの招待への礼状		Salem, Mass.	
718	E-283-4	Morse, Edward S.	1912	7	28	大正1年				無	判読不能			
719	E-283-5	Morse, Edward S.	1913	11	25	大正2年				無	姉崎博士の講演後の夕食に朝河を招待している。		Salem, Mass.	
720	E-283-6	Morse, Edward S.	1913	12	23	大正2年				無	判読不能		Salem, Mass.	
721	E-283-7	Morse, Edward S.	1914	6	30	大正3年				無	自身の家が火災を免れることができたことを伝える。		Salem, Mass.	
722	E-283-8	Morse, Edward S.	1916	12	3	大正5年				無	判読不能		Salem, Mass.	
723	E-283-9	Morse, Edward S.	1917	6	15	大正6年				無	朝河にボストンに来るなら知らせてほしいと述べる。		Salem, Mass.	
724	E-283-10	Morse, Edward S.	1917	9	11	大正6年				無	朝河にぜひボストンに来てほしいと述べる。		Salem, Mass.	
725	E-283-11	Morse, Edward S.	1920	7	21	大正9年				無	朝河に自分のところに来るようにと述べる。			
726	E-283-12	Morse, Edward S.	1920	9	7	大正9年				無	朝河がセイレムに来るとの知らせを受けての返事		Salem, Mass.	
727	E-283-13	Morse, Edward S.	1920	9	24	大正9年				無	判読不能			
728	E-283-14	Morse, Edward S.	1922	4	6	大正11年				無	判読不能		Salem, Mass.	
729	E-284	Morse, Jared K.	1911	12	6	明治44年				無	自身の父の死去を知らせている。			
730	E-285	Mott, John R.	1915	2	10	大正4年				無	World Student Christian Federationの雑誌 <i>The Student World</i> に '日本の帝国大学の生活' についての寄稿を求める。[裏面に返事の下書きあり。そこでは自分が早稲田大学の卒業であること、また1907年以降、日本にはいないことから適任でないこと述べ、当時、ハーヴァード大学にいた東京帝国大学教授の姉崎正治を書き手として推薦している]			
731	E-286	Munro, Dana Carleton	1923	5	20	大正12年				無	フランスからの絵葉書	プリンストン大学教授(専門は西洋中世史)		
732	E-287-1	Muller, Henri F.	1932	4	18	昭和7年				無	朝河の封建制についての抜き刷り送付に対するお礼	コロンビア大学 Department of Romance Languages, French, Executive Officer	New York	
733	E-287-2	Muller, Henri F.	1932	12	22	昭和7年	1932	12	22	無	新年の挨拶		Nice, Cote d'Azur, France	
734	E-287-3	Muller, Henri F.	1933	11	20	昭和7年				無	IALA(国際補助語協会)に関する内容		New York	
735	E-287-4	Muller, Henri F.	1933	12	4	昭和8年				無	ドイツ民族についての考えを述べる。		同上	
736	E-287-5	Muller, Henri F.	1934	5	2	昭和9年				無	雑誌の切り抜きを送ってくれたことへの礼状		同上	
737	E-287-6	Muller, Henri F.	1936	5	15	昭和11年				無	自身の論文を返却してもらったことへの礼状		同上	
738	E-287-7	Muller, Henri F.	1935	9	2	昭和10年	1935	9	2	無	挨拶状		Gray, Haute-Saône, France	
739	E-287-8	Muller, Henri F.								無	書簡の断片(日付不明)		New York	
740	E-287-9	Muller, Henri F.								無	プロヴァンス語の方言の形成について論じる(日付不明)。		Nice, Cote d'Azur, France	
741	E-288	Murdock, Jas.	1916	1	7	大正5年				無	朝河から本を寄贈されたことへのお礼		鹿児島	
742	E-289	Marie	1942	12	11	昭和17年				無	朝河から送られたカードへのお礼	[Marieとファーストネームしか書かれていない]		
743	E-290	Nachod, Oskar	1920	1	28	大正9年				無	"The Life of a Monastic Sho in Medieval Japan"抜き刷り送付に対するお礼	ドイツ人の日本学者。著書に <i>Geschichte von Japan</i> などがある。	Berlin	
744	E-291	Name, Addrion Van		8	24					無	朝河からの招待を受ける返事。		New Haven	
745	E-292	Naworth, Paul L.	1913	4	2	大正2年				無	朝河に日本の現状についての概説書を書くことを依頼する書簡。[裏面に返事の下書きあり]	The Bobbs-Merrill Company Publisher (Indianapolis)の編集者	West Newton, Indiana	
746	E-293-1	Nennsberg, Alex A.	1929	2	21	昭和4年				無	朝河に仏教の研究について問い合わせる。		Norfolk, Virginia	
747	E-293-2	Nennsberg, Alex A.	1930	8	23	昭和5年				無	朝河に日本への留学の希望を述べる。また、イェール大学の図書館での職があるかどうか尋ねている。		Seattle, Washington	
748	E-294	Nichols, C.A.	1943	4	5	昭和18年				無	各国の著名人を掲載する <i>Biographical Encyclopedia of the World</i> に朝河のことを掲載するため、情報と写真を送るように求める。	<i>Biographical Encyclopedia of the World</i> の編集者	New York	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
749	E-295	Ninomiya, Shigeaki	1930	3	31	昭和5年				無	朝河の研究上の助言に感謝する。		Seattle, Washington	
750	E-296-1	Noble, Beatrice	1914	5	1	大正3年				無	朝河の‘ハムレット論’への感想を述べる。そこに禅の哲学が見出されると述べる。		Malden, Mass.	
751	E-296-2	Noble, Beatrice								無	自作の詩。イラスト付き(日付不明)			
752	E-297-1	Noble, Edmund	1906	3	16	明治39年				無	会合の詳細について述べる。		Boston	
753	E-297-2	Noble, Edmund	1907	6	19	明治40年		7	11	有	朝河が日本からアメリカに帰る前に伝えたいことを述べる。[早稲田大学の朝河宛の封筒とNobleが書いた記事の切り抜きが入っている]		Boston	
754	E-297-3	Noble, Edmund	1908	7	6	明治41年				無	近況を述べる。		Malden, Mass.	
755	E-297-4	Noble, Edmund	1908	12	23	明治41年				無	朝河からYale Reviewの2つの号が寄贈されたことへのお礼		Boston	
756	E-297-5	Noble, Edmund	1909	2	14	明治42年				無	朝河が行った講演についての印象を述べる。		Malden, Mass.	
757	E-297-6	Noble, Edmund	1909	12	24	明治42年				無	近況を述べるとクリスマスの挨拶を送る。		Boston	
758	E-297-7	Noble, Edmund	1910	2	4	明治43年				無	朝河から紹介のあった坪内[士行]とコンタクトを取り、アメリカでの留学のプランを手助けしてもよいと述べる。		Boston	
759	E-297-8	Noble, Edmund	1910	5	20	明治43年				無	朝河が送った中国についての論文へのお礼		Boston	
760	E-297-9	Noble, Edmund	1913	2	6	大正2年				無	自分の給料が半分に減額され、経済的に苦境にあることを述べる。		Malden, Mass.	
761	E-297-10	Noble, Edmund	1913	3	12	大正2年				無	Lilly[おそらく娘]が大学を卒業し、翻訳の仕事などを行っていることを述べる。Lillyの卒業のみが自身の人生での明るい出来事だと述べる。		Malden, Mass.	
762	E-297-11	Noble, Edmund	1913	3	20	大正2年				無	朝河がボストンに来ることを歓迎すると述べる。復活祭の挨拶状			
763	E-297-12	Noble, Edmund	1913	3	31	大正2年				無	Lillyの職のことで相談に乗ってくれた朝河へお礼を言う。		Malden, Mass.	
764	E-297-13	Noble, Edmund	1913	6	12	大正2年				無	Lillyの近況を述べる。	ジャーナリスト、著作家。Boston Herald誌の記者を務め、‘自由ロシア’運動に関わった。	Malden, Mass.	
765	E-297-14	Noble, Edmund	1913	6	25	大正2年				無	朝河の状況を慰めている。		Malden, Mass.	
766	E-297-15	Noble, Edmund	1913	9	5	大正2年				無	朝河がいかに大きな試練に遭ったかを理解したと述べる。		Malden, Mass.	
767	E-297-16	Noble, Edmund	1913	9	16	大正2年				無	判読不能		Malden, Mass.	
768	E-297-17	Noble, Edmund	1913	9	30	大正2年				無	自身の書評論文を同封したことを述べる。		Malden, Mass.	
769	E-297-18	Noble, Edmund	1913	10	28	大正2年				無	判読不能		Malden, Mass.	
770	E-297-19	Noble, Edmund	1913	11	19	大正2年				無	クラーク大学で開催されたラテン・アメリカについての研究集会について述べる。		Malden, Mass.	
771	E-297-20	Noble, Edmund	1913	12	2	大正2年				無	上記のクラーク大学での研究集会について述べる。		Malden, Mass.	
772	E-297-21	Noble, Edmund	1914	1	12	大正3年				無	朝河の論文への感想を述べている。		Malden, Mass.	
773	E-297-22	Noble, Edmund	1914	2	23	大正3年				無	朝河が書いた‘ハムレット論’を送ってほしいこと、またハムレット上演がどうだったか感想を求めている。		Malden, Mass.	
774	E-297-23	Noble, Edmund	1914	3	17	大正3年				無	朝河から論文の草稿が送られてきたことに感謝する。		Malden, Mass.	
775	E-297-24	Noble, Edmund	1914	3	30	大正3年				無	朝河の‘ハムレット論’へのコメントを述べている。朝河の議論が人間の社会的と個人的の2つの本性に基づく議論なので確固としたものになっていると述べている。			
776	E-297-25	Noble, Edmund	1914	4	8	大正3年				無	自分たちが現在、うまくいっていると述べる。[裏面に返事の下書あり]		Malden, Mass.	
777	E-297-26	Noble, Edmund	1914	4	23	大正3年				無	朝河からの自身の論文に対するコメントに感謝している。		Malden, Mass.	
778	E-297-27	Noble, Edmund	1914	9	9	大正3年				無	朝河からの招待を感謝する。また、戦争が早く終わることが皆の関心であると述べる。		Malden, Mass.	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
779	E-298	Noble, Lilly	1911	10	10	明治44年				無	ロングビーチで撮影した写真について、ネガフィルムは11枚だったが、光が暗すぎて1枚しか現像できなかったため、その1枚を送付する旨を述べている。	[Edmond Nobleの娘と思われる]	Malden, Mass.	
780	E-299-1	Noble, Lydia L.P.	1908	12	30	明治41年				無	朝河が贈ったクリスマスプレゼントへのお礼	[Edmond Nobleの妻と思われる]	Malden, Mass.	
781	E-299-2	Noble, Lydia L.P. Noble, Lilly & Beatrice	1913	2	6	大正2年				無	朝河から妻ミアムの死を知らせる書簡を受け取り、言葉にもできないほどに驚いたと述べる。	[Edmond Nobleの妻と娘たちと思われる]	Malden, Mass.	
782	E-299-3	Noble, Lydia L.P.	1914	1	12	大正3年				無	朝河からの贈り物に対するお礼	[Edmond Nobleの妻と思われる]	Malden, Mass.	
783	E-299-4	Noble, Lydia L.P.	1914	2	12	大正3年				無	朝河がJohnston Forbes-Robertsonが演じたハムレットについて感想を送って来てくれたことへのお礼。また自分たちも、Johnston Forbes-Robertsonのハムレットを観劇し、それが生き生きとした忘れがたいものであったと述べる。		Malden, Mass.	
784	E-299-5	Noble, Lydia L.P.	1914	3	30	大正3年				無	朝河が贈った‘ハムレット論’への感想を述べている。		Malden, Mass.	
785	E-299-6	Noble, Lydia L.P.	1914	5	1	大正3年				無	朝河の‘ハムレット論’が知性的な解釈であると述べる。		Malden, Mass.	
786	E-299-7	Noble, Lydia L.P.	1914	5	2	大正3年				無	日本の絵画の展覧会に行ったことを述べる。		Malden, Mass.	
787	E-299-8	Noble, Lydia L.P.	1914	5	21	大正3年				無	朝河から贈られた‘ハムレット論’の追加版を読み、深く感動したと伝える。		Malden, Mass.	
788	E-300	Noguchi Hideyo [野口英世]	1921	9	9	大正10年				無	『日本経済史』送付遅延の詫状	当時はThe Rockefeller Institute for Medical Research 研究員	New York	
789	E-301	Northrop, F.S.C.	1946	7	24	昭和21年				無	夏季休暇中の別荘について述べる。		New Haven	
790	E-302-1	Ogata[Otani] Gi-ichi [[緒方]大谷義一]	1932	6	12	昭和7年				無	ニューヘブンから離れることを伝える。		New Haven	
791	E-302-2	Ogata[Otani] Gi-ichi [[緒方]大谷義一]	1932	10	14	昭和7年				無	ニューヘブンを離れる前に朝河と会えなかったことを残念に思う。近況を述べる。		Los Angeles, California	
792	E-302-3	Ogata[Otani] Gi-ichi [[緒方]大谷義一]	1935	4	20	昭和10年				無	自身の結婚祝いに朝河が贈ってくれた書物へのお礼		神戸	
793	E-302-4	Ogata[Otani] Gi-ichi [[緒方]大谷義一]	1935	6	6	昭和10年	1935	6	8	有	自身が牧師として最善を尽くしたいと述べる。		神戸	
794	E-302-5	Ogata[Otani] Gi-ichi [[緒方]大谷義一]	1936	2	17	昭和11年				無	朝河からの推薦状を関西学院大学の学長Batesに送り、Batesからは残念ながら教員のポストに空きはないとの返事をもらったことを朝河に伝える。		神戸	
795	E-303	Okubo Marquis [大久保利武侯爵]	1941	5	19	昭和16年				無	朝河の日本についての議論からは教えられることが多いと述べる。			
796	E-304	Osborn, M.A.	1922	6	8	大正11年				無	イエールの大学法人の構成員について述べる。			
797	E-305	Osgood, Margaret C.		9	20					無	娘のMary Childersがいるダブリンから朝河に書いている。朝河に対して、禪に関することについて何か書いて送ってほしいと述べている。	Hamilton Osgoodの妻で、Gretchen WarrenとMary Childersの母	Dublin, Ireland	
798	E-306	Osterhount, W.J.	1922	2	15	大正11年				無	朝河の書簡へのお礼			
799	E-307-1	Parish, Helen	1942	6	17	昭和17年				無	朝河からの書簡へのお礼。数日以内にロサンジェルス家のOlive宅への訪問について詳細を朝河に書き送ると述べる。また、自身が最近出した南米の詩人についての論文の抜き刷りを送ることを述べる。	双子の姉妹Oliveとともに1930年頃にイエール大学で学んだ女性。[朝河の教え子であろう]後にラテンアメリカ史を学び、ラテンアメリカを題材とする作家となった。	Berkeley, California	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
800	E-307-2	Parish, Helen	1942	8	7	昭和17年				無	これはおそらく朝河が弥永と市橋の消息について問い合わせたのに対しての返事。弥永がコロラドで日本語を教えていたらしいこと、住所はデンバーのホテルのようだが書簡を出しても返事がないことを伝える。市橋についてはスタンフォードにいたという情報があることを述べる。	同上	Berkeley, California	
801	E-308-1	P. U.	1939	9	22	昭和14年				無	近況を述べる。			
802	E-308-2	P. U.	1940	10	3	昭和15年				無	近況を述べる。			
803	E-308-3	P. U.								無	近況を述べる。			
804	E-309-1	Page, Curtis Hidden	1924	1	1	大正13年				無	近況を述べる。			
805	E-309-2	Page, Curtis Hidden	1934	4	11	昭和9年				無	朝河の書簡へのお礼			
806	E-310-1	Parish, Helen	1946	12	20	昭和21年				無	新年の挨拶。朝河がカリフォルニアを訪問することを求める。			
807	E-310-2	Parish, Helen	1936	1	26	昭和11年				無	パークレーに引っ越したことを述べる。		Berkeley, California	
808	E-310-3	Parish, Helen	1936	4	3	昭和11年				無	18世紀の南米におけるイエズス会の活動についての勉強を始めたことと述べる。パークレーにいて東部アメリカの故郷のことを思い、ホームシックになることがあること、友人たちと離れて寂しいことを述べる。		Berkeley, California	
809	E-310-4	Parish, Helen	1936	5	19	昭和11年				無	朝河からのイエズス会の霊操についてのコメントに感謝する。南米に来たイエズス会士には、作家、哲学者、歴史家などがいたことに驚いたことを述べる。姉妹が朝河に休暇にカリフォルニアに来るように求めていることをいう。		Berkeley, California	
810	E-310-5	Parish, Helen	1936	12	18	昭和11年				無	母とOliveとともにクリスマスと新年の挨拶を送る。		Berkeley, California	
811	E-310-6	Parish, Helen	1937	7	15	昭和12年				無	最近の勉学について伝えるとともに、母とOliveとともに朝河が夏の快適な休暇を過ごせるように祈る。		Berkeley, California	
812	E-310-7	Parish, Helen	1938	5	21	昭和13年				無	最近、東京帝国大学教授で植物学者の三宅驥一の訪問を受けたこと、三宅がニューヘブンで朝河と会ったと言っていたことを述べる。		Berkeley, California	
813	E-310-8	Parish, Helen	1938	10	14	昭和13年				無	朝河が、翌年に開催されるサンフランシスコ万博に来ることを求める。そこでは、日本の展示品が日本の伝統的な建築様式の建物で展示される予定であることを述べる。	E-307-1と同一人物	Berkeley, California	
814	E-310-9	Parish, Helen	1938	11	17	昭和13年				無	朝河の書簡への返事近況を述べる。		Berkeley, California	
815	E-310-10	Parish, Helen	1938	12	19	昭和13年				無	弥永の一家と会った。彼らはとてもよい第一印象の人たちだった。彼らは他の住人に邪魔されずに夜に仕事ができるようにアパートの最上階に住んでいる。また、14年前にOliveとともに、朝河の招きでレストランMiyakoで食事をしたことについて書いている。		Berkeley, California	
816	E-310-11	Parish, Helen	1939	6	15	昭和14年				無	最近、驚くことがあったことを語る。それは、自身とOliveのイエール大学時代のクラスメートで親友だったドミニコ会修道士のGeorge Heroldがカルトゥジオ会の修道士になったことである。彼とは6年間以上、書簡のやり取りをしていたが、最近、新しいイギリスの住所からの書簡が来て、その中にカルトゥジオ会の歴史についてのパンフレットが入っていて、カルトゥジオ会士になったことを知らせてきた。		Berkeley, California	
817	E-310-12	Parish, Helen	1939	10	1	昭和14年				無	休暇を終えて大学に戻って、いかに休暇が貴重な時期だったかを思っていることと述べる。		Berkeley, California	
818	E-310-13	Parish, Helen	1939	12	21	昭和14年				無	最近行った展覧会について語る。		Berkeley, California	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
819	E-310-14	Parish, Helen	1940	12	20	昭和15年				無	Oliveが南米に行ったので、母と私は別離の精神的な苦しみを味わっていることを述べる。この書簡には、Olive(当時27歳)が前のボリビア大統領の息子と結婚したことを報じる <i>Berkeley Daily Gazette</i> (1940年6月20日)の記事の切り抜きが入れられている。	同上	Berkeley, California	
820	E-310-15	Parish, Helen	1947	12	24	昭和22年				無	クリスマスと新年の挨拶状朝河にカリフォルニアの自分たちを訪問するように乞うている。			
821	E-311-1	Parish, Helen & Olive	1932	5	28	昭和7年				無	挨拶状		Santa Monica, California	
822	E-311-2	Parish, Helen & Olive	1935	10	2	昭和10年				無	カリフォルニアに移ったことを知らせ、イエールの大学院時代についての感謝を述べる。		Los Angeles, California	
823	E-311-3	Parish, Helen & Olive	1935	11	25	昭和10年				無	朝河の論文を読みながら、日本の封建制について勉強していることを述べる。		Los Angeles, California	
824	E-311-4	Parish, Helen & Olive	1937	5	5	昭和12年				無	母親が病気だったことを述べる。			
825	E-312-1	Parish, Olive	1936	2	29	昭和11年				無	日々、論文を書くことに没頭していたため、書簡を書くことができないでいたことを詫げる。		Berkeley, California	
826	E-312-2	Parish, Olive	1936	8	14	昭和11年				無	ゲストルーム付きの自分たちの家を買ったので、来年の夏、朝河に訪問してほしいと述べる。		Berkeley, California	
827	E-312-3	Parish, Olive	1936	10	19	昭和11年				無	カリフォルニア大学で、Helenがスペイン語のResearch Assistantになり、Oliveがフランス語のResearch Assistantになったことを伝える。		Berkeley, California	
828	E-312-4	Parish, Olive	1936	12	21	昭和11年				無	現在、サンタ・バーバラのフランシスコ会の文書館にあった写本の研究をしていることを述べる。		Berkeley, California	
829	E-312-5	Parish, Olive	1937	11	12	昭和12年				無	朝河に自宅への訪問を乞うている。			
830	E-312-6	Parish, Olive	1938	4	27	昭和13年				無	復活祭の日曜日に、日本人の友人たちと日本風の遠足をして、郊外でお寿司を食べたことを述べる。			
831	E-312-7	Parish, Olive	1938	10	17	昭和13年				無	スペイン語の劇の翻訳をしていることを述べる。			
832	E-312-8	Parish, Olive	1938	12	15	昭和13年				無	朝河とともにGeorge Clarkの家を訪ねたりした幸福だったイエール大学時代の日々を思い起こしていると述べる。	Helen Parishの双子の姉妹		
833	E-312-9	Parish, Olive	1939	7	23	昭和14年				無	イエール大学時代に、朝河にスターリング図書館の東洋コレクションを案内してもらったことをいつも忘れずにいと述べる。			
834	E-312-10	Parish, Olive	1939	10	2	昭和14年				無	何人かの日本人と会ったことについて述べる。			
835	E-312-11	Parish, Olive	1940	6	3	昭和15年				無	自身が6月20日に結婚すること、翌月には家族のことを離れて南米のボリビアに移ることも伝える。			
836	E-312-12	Parish, Olive	1940	6	14	昭和15年				無	朝河からのスカーフの贈り物が届いたことへの礼状			
837	E-312-13	Parish, Olive	1940	8	24	昭和15年				無	ボリビアからの挨拶状		La Paz, Bolivia	
838	E-312-14	Parish, Olive	1941	1	15	昭和16年				無	新年の挨拶。写真付き。			
839	E-312-15	Parish, Olive	[1936-1940]	3	14					無	朝河から自身の研究に対してコメントをもらったことに感謝する。		Berkeley, California	
840	E-312-16	Parish, Olive	[1936-1940]	9	21					無	夏の間、パークレーにいて論文を書いていたことを述べる。		Berkeley, California	
841	E-313	The Parishes	1930	12	3	昭和5年				無	Parish家からの引っ越しの挨拶状		New Haven	
842	E-314	Parra, E.H.	1919	12	26	大正8年				無	朝河から送られた抜き刷り送付に対するお礼	American Historical Associationの事務局	Washington, D.C.	
843	E-315	Parrish, Edward	1936	10	19	昭和11年				無	医者からの健康上の助言(禁煙など)	医者	New York	
844	E-316-1	Parsons, Tussen Eugene	1915	3	25	大正4年				無	日本軍の中国への介入が中国の混乱と諸外国の介入を引き起こすと述べる。		Grand Blanc, Michigan	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
845	E-316-2	Parsons, Tussen Eugene								無	日本と中国の紛争が中国にとって重大な状況に発展することを述べる。		Grand Blanc, Michigan	
846	E-317	Passin, Herbert	1947	2	3	昭和22年				無	朝河からの抜き刷りの送付に感謝する。日本で多くの社会科学系の学会(民族学、社会学、人類学など)が再建されたことを述べる。			
847	E-318-1	Perkins, J.L.	1907	10	1	明治40年				無	朝河がLodgeの <i>The History of Nations</i> のJapanの巻を自分の授業で使うと述べたことに対して謝意を表す。	John D.Morris & Companyの編集者	Philadelphia, Penn.	
848	E-318-2	Perkins, J.L.	1913	5	29	大正2年				無	Lodgeの <i>The History of Nations</i> のJapanの普及版を宣伝するためにチラシを作成するので、寄稿者である朝河個人の写真を送るように求める。	<i>Collier's. The National Weekly</i> の編集者	New York	
849	E-318-3	Perkins, J.L.	1913	6	4	大正2年				無	Lodgeの <i>The History of Nations</i> のJapanの普及版における修正点について述べる。	P.F.Collier & Sonの編集者	New York	
850	E-318-4	Perkins, J.L.	1913	6	10	大正2年				無	Lodgeの <i>The History of Nations</i> のJapanの普及版における修正点について述べる。		New York	
851	E-319	Petty, Orville A.	1913	5	9	大正2年				無	朝河の書簡への返事			
852	E-320-1	Phelps, Wm.Lyon	1916	8	25	大正5年				無	野口米次郎が自著を2冊送ってきたことを伝える。	イエール大学英文学教授		
853	E-320-2	Phelps, Wm.Lyon	1938	6	1	昭和13年				無	面談の約束			
854	E-321	Phenix, W.E.	1913	7	25	大正2年	1913	7	25	無	朝河の書簡へのお礼			
855	E-322-1	Phillips, H.C.	1913	5	22	大正2年				無	朝河の書簡への返事	Lake Mohonk Conference of International Arbitrationの秘書		
856	E-322-2	Phillips, H.C.	1914	1	20	大正3年				無	朝河の書簡への返事			
857	E-323-1	Pierson, George	1929	7	31	昭和4年				無	近況を述べる。	イエール大学歴史学部教授George W.Pierson(イエール大学での教え子でアメリカ史研究者)		
858	E-323-2	Pierson, George	1929	8	14	昭和4年				無	近況を述べる。			
859	E-323-3	Pierson, George	1934	5	4	昭和9年				無	面談の約束			
860	E-323-4	Pierson, George	1938	7	25	昭和13年				無	近況を述べる。			
861	E-324	Pierson, George W.	1942	8	5	昭和17年				無	朝河の書簡への返事			
862	E-325	Pitman, Debora A.								無	朝河が贈った壺へのお礼			
863	E-326	Pitman, Frank W.	1935	5	20	昭和10年				無	東京帝国大学の矢部教授(政治学)を朝河に紹介する。	歴史学者(ポモナ・カレッジの歴史学部に所属)		
864	E-327-1	Pollock, F.	1915	9	7	大正4年				無	ロンドンで面会の約束をする。			
865	E-327-2	Pollock, F.	1915	9	13	大正4年				無	ロンドンで面会の約束をする。			
866	E-327-3	Pollock, F.	1915	9	15	大正4年				無	近況を述べる。			
867	E-328	Poor, Dorothy	1915	2	上旬	大正4年				無	写真のお礼を述べる。			
868	E-329-1	Poor, Elizabeth	1931	3	30	昭和6年				無	辞書のお礼を述べる。			
869	E-329-2	Poor, Elizabeth	1936	1	5	昭和11年				無	朝河からの新年の挨拶への返事			
870	E-329-3	Poor, Elizabeth	1936	10	25	昭和11年				無	近況を述べる。			
871	E-329-4	Poor, Elizabeth	1936	11	7	昭和11年				無	近況を述べる。			
872	E-329-5	Poor, Elizabeth	1937	11	20	昭和12年				無	近況を述べる。			
873	E-329-6	Poor, Elizabeth	1948	1	15	昭和23年				無	近況を述べる。			
874	E-329-7	Poor, Elizabeth	1948	2	29	昭和23年				無	近況を述べる。			
875	E-329-8	Poor, Elizabeth	1948	4	12	昭和23年				無	近況を述べる。			
876	E-330	Poor, Jms.	1912	5	27	大正1年				無	近況を述べる。			
877	E-331	Power, Eileen	1934	10	23	昭和9年				無	朝河の著作を読んで、東西の封建制の比較がとても意義あることだと述べる。	著名なイギリスの中世史家。当時はロンドン・スクール・オブ・エコノミクス(現LSE)のProfessor of Economic Historyであった。		



# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
878	E-332-1	Powers, Josephine	1914	10	29	大正3年				無	自身の姉妹が明日からカリフォルニアにある修道院に入り、孤児の世話に生涯を捧げようとする決意していることを述べる。	‘年頭の自戒’で言及されるイェール大学院時代からの友人(『朝河貴一書簡集』739頁参照)		
879	E-332-2	Powers, Josephine	1914	11	9	大正3年				無	朝河に面談を求める。		New Haven	
880	E-332-3	Powers, Josephine	1914	11	18	大正3年				無	精神的にカオスで、大きなストレスを抱えていたことを述べる。現在の仕事だけでは十分な収入にはならないと訴える。			
881	E-332-4	Powers, Josephine	1915	1	31	大正4年				無	音楽のコンサートに関して感想を述べる。			
882	E-332-5	Powers, Josephine	1915	2	26	大正4年				無	朝河から送られたノート[おそらくDiana Wattsとの出会いが喜々として書かれていた]を見て、Wattsが朝河に奇跡をもたらしたと述べる。朝河がJosephineと最初に出会った頃の精神の快活さを取り戻したと述べる。そして刺激を与えてくれたWattsにつねに感謝すべきだと述べる。[裏面余白に朝河自身の書簡の下書あり]			
883	E-332-6	Powers, Josephine	1915	3	2	大正4年				無	朝河が送ってくれたDiana Wattsの書簡を送り返したと述べる。		New Haven	
884	E-332-7	Powers, Josephine	1915	4	11	大正4年				無	朝河が書いたTuckerへの素晴らしい賛辞を昨日受け取ったと述べる。		New Haven	
885	E-332-8	Powers, Josephine	1915	4	17	大正4年				無	近況を述べる。[裏面に下書あり]			
886	E-332-9	Powers, Josephine	1915	4	21	大正4年				無	朝河から借用した本が届いたことを述べる。			
887	E-332-10	Powers, Josephine	1915	4	30	大正4年				無	自身の姉妹の悲痛を考えると眠ることができないと述べる。			
888	E-332-11	Powers, Josephine	1915	5	19	大正4年				無	朝河との面談を求める。			
889	E-332-12	Powers, Josephine	1915	5	25	大正4年				無	朝河に様々な助言の感謝を述べる。[裏面に下書あり]			
890	E-332-13	Powers, Josephine	1915	6	14	大正4年				無	近況を述べる。			
891	E-332-14	Powers, Josephine	1915	10	15	大正4年				無	近況を述べる。			
892	E-332-15	Powers, Josephine	1915	12	15	大正4年				無	近況を述べる。[裏面に下書あり]			
893	E-332-16	Powers, Josephine	1915	12	20	大正4年				無	朝河の書簡に感謝を述べる。			
894	E-332-17	Powers, Josephine	1916	1	20	大正5年				無	近況を述べる。			
895	E-332-18	Powers, Josephine	1916	1	21	大正5年				無	朝河からのクリスマスの挨拶への返事			
896	E-332-19	Powers, Josephine	1916	2	9	大正5年				無	近況を述べる。			
897	E-332-20	Powers, Josephine	1916	2	26	大正5年				無	近況を述べる。			
898	E-332-21	Powers, Josephine	1916	3	14	大正5年				無	近況を述べる。			
899	E-332-22	Powers, Josephine	1916	4	2	大正5年				無	朝河に様々な質問を行っている。			
900	E-332-23	Powers, Josephine	1916	4	14	大正5年				無	近況を述べる。			
901	E-332-24	Powers, Josephine	1916	6	4	大正5年				無	朝河から送られた日本人に関する本を読んでいることを述べる。			
902	E-332-25	Powers, Josephine	1916	10	20	大正5年				無	近況を述べる。			
903	E-332-26	Powers, Josephine	1920	3	17	大正9年				無	近況を述べる。			
904	E-332-27	Powers, Josephine	1923	3	23	大正12年				無	朝河からの書簡への返事			
905	E-332-28	Powers, Josephine	1924	1	20	大正13年				無	近況を述べる。			
906	E-332-29	Powers, Josephine		10	3					無	時候の挨拶			
907	E-332-30	Powers, Josephine								無	書簡の断片			
908	E-333-1	Pratt, Frances J.	1936	1	4	昭和11年				無	Foreign Policy Association主催の国際問題に関する会議への招待	Foreign Policy AssociationのDirector	New York	
909	E-333-2	Pratt, Frances J.	1936	1	9	昭和11年				無	朝河が上記の会議への不参加の返事を出したことに對し了解したと述べる。		New York	
910	E-334-1	Prothero, G.W.	1910	5	23	明治43年				無	朝河の書簡へのお礼	イギリスの歴史学者		
911	E-334-2	Prothero, G.W.	1910	8	8	明治43年		8	17	有	近況を述べる。			

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載	
912	E-334-3	Prothero, G.W.	1910	9	21	明治43年		10	1	有	朝河の書簡への返事	同上			
913	E-334-4	Prothero, G.W.	1919	5	15	大正8年	1919	6	2	無	抜き刷り送付に対するお礼				
914	E-335	Pryde, Dorothy M.	1913	4	15	大正2年				無	朝河の講演へのお礼				
915	E-336-1	Pugsley, Chester Dewitt	1915	12	29	大正4年				無	Peekskill Board of Tradeの夕食会で日米間についての講演をするよう朝河に依頼する。		New York		
916	E-336-2	Pugsley, Chester Dewitt	1916	1	19	大正5年				無	1916年2月12日のLincoln Societyでの夕食会で朝河が'Lincoln, America and Peace'のタイトルで講演するのに同意してくれたことに対して感謝の意を表す。		New York		
917	E-337-1	Quinlan, Josephine	1916	10	30	大正5年				無	朝河の書簡への返事				
918	E-337-2	Quinlan, Josephine	1916	11	1	大正5年				無	近況を述べる。				
919	E-337-3	Quinlan, Josephine	1916	11	2	大正5年				無	近況を述べる。				
920	E-337-4	Quinlan, Josephine	1916	11	4	大正5年				無	近況を述べる。				
921	E-337-5	Quinlan, Josephine	1916	11	7	大正5年				無	近況を述べる。				
922	E-337-6	Quinlan, Josephine	1916	11	13	大正5年				無	近況を述べる。				
923	E-337-7	Quinlan, Josephine				金曜日朝				無	近況を述べる。				
924	E-337-8	Quinlan, Josephine				日曜日夕				無	近況を述べる。				
925	E-338	Rae, Henry M.	1916	4	29	大正5年				無	近況を述べる。				
926	E-339	Rand, Edson R.	1935	8	7	昭和10年				無	奨学金を出願した学生についての評価を求める。[裏面に下書あり]	Office of the Comptroller, Brown University			
927	E-340-1	Raymond, Charles H.	1915	2	9	大正4年				無	朝河の知り合いの日本人について苦情を述べる。	Cashier, The National New Haven Bank			
928	E-340-2	Raymond, Charles H.	1915	2	18	大正4年				無	上の日本人が支払いを済ませたことを伝える。				
929	E-341	Record, Mason T.	1945	2	21	昭和20年				無	自身の父の死について語る。	コネティカットカレッジの教員			
930	E-342	Redesdale	1915	9	14	大正4年				無	朝河の書簡への返事				
931	E-343-1	Rettger, Leo F.	1929	7	15	昭和4年				無	Dr.Morishitaの葬儀について	イエール大学の細菌学教授			
932	E-343-2	Rettger, Leo F.	1929	9	21	昭和4年				無	Dr.Morishitaの葬儀について				
933	E-344	Robertson, Gertrude Mueller	1913	10	13	大正2年				無	朝河からの贈り物へのお礼				
934	E-345-1	Forbes-Robertson, J	1914	2	22	大正3年	1914	2	23	有	朝河の'ハムレット論'へのお礼	イギリス人の俳優。ハムレットを演じて有名になった。	Baltimore, Maryland		
935	E-345-2	Forbes-Robertson, J								無	朝河の'ハムレット論'へのお礼		Philadelphia, Penn.		
936	E-346	Robinson, Anne Hamilton		8	15					無	朝河の書簡へのお礼				
937	E-347-1	Rostovtzeff, M.	1936	11	11	昭和11年				無	朝河の書簡への返事	ロシア生まれの有名な古代史家 Michael Ivanovich Rostovtzeff. 最初はサンクト・ペテルスブルク大学の教授だったがロシア革命後にアメリカに亡命。1925年からイエール大学で教える。主著は <i>The Social and Economic History of the Roman Empire</i> . 1926.	New Haven		
938	E-347-2	Rostovtzeff, M.	1940	6	5	昭和15年				無	朝河の書簡への返事		New Haven		
939	E-348-1	Rowell, Teresina	1931	1	28	昭和6年				無	次回の面会の約束	1933年にイエール大学で比較宗教学のテーマで博士号を取得した宗教学者。1936-37年に来日し、仏教と神道の関係を研究。アメリカの各地の大学で教えた。	New Haven		
940	E-348-2	Rowell, Teresina	1931	2	20	昭和6年				無	自身が平安時代の文学について興味深く読んでいることを朝河に伝える。		New Haven		
941	E-348-3	Rowell, Teresina	1935	10	13	昭和10年				無	日本に行き、仏教と国家との関係を研究したいこと、そのために奨学金はないかを朝河に尋ねている。		Northfield, Minnesota		
942	E-348-4	Rowell, Teresina	1936	4	7	昭和11年				無	日本に行く予定であることを伝える。		Hinsdale, Illinois		
943	E-348-5	Rowell, Teresina	1936	4	15	昭和11年				無	朝河とのイエールでの面談を求める。		Northfield, Minnesota		
944	E-348-6	Rowell, Teresina	1936	7	1	昭和11年				無	朝河に自分が書いた論文へのコメントを求める。		Hinsdale, Illinois		

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
945	E-348-7	Rowell, Teresina	1936	7	14	昭和11年	1936	7	21	有	8月1日に霧島丸でロサンゼルスから日本に渡航することを伝える。	同上	Inverness, California	
946	E-348-8	Rowell, Teresina	1937	7	24					無	日本滞在中の感想について帰国の船上(浅間丸)から書いている。[帰国後、Rowellがイリノイ州ヒンズデールから朝河に宛てて日本滞在中のことについて書いた1937年8月11日付書簡も入っている]		浅間丸の船上	
947	E-348-9	Rowell, Teresina	1937	8	31	昭和12年				無	日本から持ってきた贈り物を送ったことを伝える。		Hightstown, New Jersey	
948	E-348-10	Rowell, Teresina	1937	11	7	昭和12年				無	ペロイト大学で教え始めたことを伝える。		Hinsdale, Illinois	
949	E-348-11	Rowell, Teresina	1938	3	3	昭和13年				無	ニューヨークに滞在していることを伝える。		New York	
950	E-348-12	Rowell, Teresina	1939	4	5	昭和14年				無	復活祭の休暇に朝河とイェール大学で会うことを求める。		Garden City, N.Y.	
951	E-348-13	Rowell, Teresina	1939	4	11	昭和14年				無	レストランMiyakoで金曜日の晩に会いたいと述べる。		Newton Centre, Mass.	
952	E-348-14	Rowell, Teresina	1939	4	16	昭和14年				無	ニューヨークのレストランMiyakoで前週に食事をしたことのお礼日本人が食事をしている最中に同時に話さない習慣を称賛する。箸を使ってご飯を食べるので、食べることに集中することになるのではないかと語る。		Garden City, N.Y.	
953	E-348-15	Rowell, Teresina	1939	5	27	昭和14年				無	スミス大学で2年契約で宗教史を教えることになったと伝える。		Garden City, N.Y.	
954	E-348-16	Rowell, Teresina	1939	9	26	昭和14年				無	スミス大学で講義を開始したことを伝える。		Northampton, Mass.	
955	E-348-17	Rowell, Teresina	1939	10	8	昭和14年				無	判読不能		Northampton, Mass.	
956	E-348-18	Rowell, Teresina	1939	12	10	昭和14年				無	朝河のヒトラーの運命についてのコメントを読み、その見方が鋭いと感想を述べる。		Northampton, Mass.	
957	E-348-19	Rowell, Teresina	1940	12	26	昭和15年				無	近況を述べる。		Hinsdale, Illinois	
958	E-348-20	Rowell, Teresina	1941	8	10	昭和16年				無	コロラドの山中に滞在し近況を述べる。		Blackhawk, Colorado	
959	E-348-21	Rowell, Teresina	1942	1	11	昭和17年				無	近況を述べる。			
960	E-348-22	Rowell, Teresina	1942	12	23	昭和17年				無	クリスマスの挨拶		Chester, Pennsylvania	
961	E-348-23	Rowell, Teresina	1946	4	4	昭和21年				無	自身が現在、日本について教えていることを述べる。		Chester, Pennsylvania	
962	E-348-24	Havens, Teresina	1947	5	13	昭和22年				無	近況を述べる。[この年Teresina Rowellは、Joseph Durald Havensと結婚し姓を変えた]			
963	E-348-25	Rowell, Teresina								無	Teresina Rowelが行った授業(場所不明)The Religious Background of Contemporary Oriental Movementsのシラバス			
964	E-349	Ruffini, Edward								無	抜き刷り送付に対するお礼			
965	E-350	Rush, Charles S.	1932	2	5	昭和7年				無	朝鮮総督府博物館が寄贈した出版物へのお礼[Fujita Ryosaku宛書簡の写し]			
966	E-351	Russell, Bertrand	1915	9	17	大正4年				無	朝河と面会できなかったことを詫げる。	イギリスの哲学者(1872-1970)。数理哲学、記号論理学の研究で早くから名をなした。第一次世界大戦に非戦論を唱えた。政治・文化面にも及ぶ評論活動を行う。第二次世界大戦後の平和運動を推進。ノーベル文学賞受賞(1950年)		
967	E-352	S. C.A.India Office	1919	12	30	大正8年				有	抜き刷り送付に対するお礼			
968	E-353	S. T.	1946	9	25	昭和21年				無	Langdonがエセックスに滞在していることを述べる。			
969	E-354	Saito, Hiroshi	1924	7	1	大正13年				無	日本人のアメリカ再入国に関して述べる。	Consul General, Consulate General of Japan		
970	E-355	Sakamaki, Shunzo [坂巻駿三]	1936	1	30	昭和11年				無	朝河との面談のお礼			

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
971	E-356-1	Sakatani, Yoshio [阪谷芳郎]	1923	10	20	大正12年	1923	10	20	無	関東大震災について			
972	E-356-2	Sakatani, Yoshio [阪谷芳郎]	1927	1	27	昭和2年				有	礼状			
973	E-357	Sanger, Margaret	1921	10	20	大正10年				無	朝河の意見を求める。	The First American Birth Control Conferenceの議長		
974	E-358-1	Sansom, George Bailey	1935	10	23	昭和10年				無	貧しい史学生を招待してくれたことへの礼状	イギリスの外交官で日本史研究者		L-付11
975	E-358-2	Sansom, George Bailey	1935	11	15	昭和10年				無	暖かい招待に妻と子ども心から感謝する。当方はつらい毎日であるので身に沁みた。			L-付12
976	E-358-3	Sansom, George Bailey	1936	1	17	昭和11年				無	毎日の仕事と暮しについて			L-付16
977	E-358-4	Sansom, George Bailey	1936	8	3	昭和11年				無	日本で休養もとっていること。アジア協会は貴方の著作の刊行を歓迎する。			L-付19
978	E-358-5	Sansom, George Bailey	1940	1	2	昭和15年				無	自己の研究をまとめる手順について			L-付21
979	E-358-6	Sansom, George Bailey	1940	1	29	昭和15年				無	近況を述べる。			L-付17
980	E-358-7	Sansom, George Bailey	1940	12	12	昭和15年				無	近況を述べる。			L-付20
981	E-358-8	Sansom, George Bailey	1944	1	25	昭和19年				無	日本が枢軸国と運命を共にすることで誤った道を歩んだと感じると述べる。			L-付22
982	E-358-9	Sansom, George Bailey	1936	5	25	昭和11年	1936	5	25	無	挨拶状			L-付18
983	E-359-1	Sansom, George & Katharine								無	クリスマスと新年の挨拶			
984	E-359-2	Sansom, George & Katharine								無	クリスマスカード[余白に速記メモあり]			
985	E-360-1	Sansom, Katharine	1935	11	16	昭和10年				無	招待に対する深謝の礼状			L-付13
986	E-360-2	Sansom, Katharine	1935	11	22	昭和10年				無	招待の日時を変更したいこと			
987	E-361	Sapia, Edward	1930	9	28	昭和5年				無	近況を述べる。			
988	E-362-1	Sawyer, Edith A.	1914	4	3	大正3年				無	近況を述べる。			
989	E-362-2	Sawyer, Edith A.	1914	4	10	大正3年				無	日本についてのパンフレットに感謝する。			
990	E-362-3	Sawyer, Edith A.	1914	4	19	大正3年				無	抜き刷り送付に対するお礼			
991	E-362-4	Sawyer, Edith A.	1914	4	28	大正3年				無	朝河の書簡への返事			
992	E-362-5	Sawyer, Edith A.	1914	5	28	大正3年				無	朝河が自身の‘ハムレット論’への注釈を送ってくれたことに感謝する。			
993	E-362-6	Sawyer, Edith A.	1915	1	8	大正4年				無	近況を述べる。			
994	E-362-7	Sawyer, Edith A.	1915	1	29	大正4年				無	朝河の書簡への返事			
995	E-362-8	Sawyer, Edith A.	1915	2	24	大正4年				無	朝河の書簡への返事			
996	E-362-9	Sawyer, Edith A.	1915	3	26	大正4年				無	朝河の書簡への返事			
997	E-362-10	Sawyer, Edith A.	1915	4	5	大正4年				無	朝河の書簡への返事			
998	E-362-11	Sawyer, Edith A.								無	近況を述べる。			
999	E-363	Saybrook Student Committee	1937	2	6	昭和12年				無	日本式の晚餐に招かれたことへの礼状			
1000	E-364-1	Schauer, Charles H.	1932	2	18	昭和7年				無	祭壇の販売について			
1001	E-364-2	Schauer, Charles H.	1932	6	1	昭和7年				無	祭壇の販売について			
1002	E-365	Scheveyer, Raymond J.	1910	5	13	明治43年				無	Alumni WeeklyでScheveyerについてのニュースを見たことを知らせる。		New York	
1003	E-366-1	Schiller, F.C.S.	1915	9	5	大正4年				無	オックスフォード大学での面会について	英国の思想家、哲学者 Ferdinand Canning Scott Sciller		
1004	E-366-2	Schiller, F.C.S.	1915	9	7	大正4年				無	オックスフォード大学での面会について			

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
1005	E-367-1	Schultz, Robert	1907	9	22	明治40年	1907	10	2	無	朝河からの抜き刷りの求めに対して、手元に抜き刷りが無いことを述べる。			
1006	E-367-2	Schultz, Robert	1907	12	16	明治40年				無	近況を述べる。			
1007	E-367-3	Schultz, Robert	1908	9	6	明治41年	1908	9	19	無	抜き刷り送付に対するお礼			
1008	E-368	Schuyler, R.L.	1914	10	13	大正3年				無	会合のお知らせ			
1009	E-369-1	Schwab, J.C.	1906	1	19	明治39年				無	朝河についての推薦状	イエール大学教授(経済史) John Christopher Schwab		
1010	E-369-2	Schwab, J.C.	1915	6	7	大正4年				無	大英博物館とパリの国立図書館への朝河の推薦状			
1011	E-370	Seligman, Edwin R.A.	1928	10	13	昭和3年				無	中国と日本の項目の執筆依頼	<i>Encyclopaedia of the Social Sciences</i> (『社会科学百科辞典』)の編集者		
1012	E-371	The Serjeant-at Arms	1915	9	9	大正4年	1915	9	9	有	入場許可証			
1013	E-372-1	Seymour, Charles	1913	2	11	大正2年				無	朝河へのお見舞い	イエール大学歴史学部教授で1937年から学長を務めた(専門はイギリス近代史)		
1014	E-372-2	Seymour, Charles	1923	2	23	大正12年				無	歴史学部で出したいと思っている‘フランスの封建制’の授業を朝河が引き受けてくれるように求める。			
1015	E-372-3	Seymour, Charles	1923	5	28	大正12年				無	朝河の書簡への返事			
1016	E-372-4	Seymour, Charles	1923	6	23	大正12年				無	1923-24年のアカデミックイヤーに年俵が上がることを伝える。			
1017	E-372-5	Seymour, Charles	1925	12	17	大正14年				無	翌年度、600ドル年俵が上がることを伝える。			
1018	E-372-6	Seymour, Charles	1937	12	13	昭和12年				無	イエール大学への寄贈物についてのお礼			
1019	E-372-7	Seymour, Charles	1939	6	3	昭和14年				無	Far Eastern Studiesの委員会に入るように要請する。			
1020	E-372-8	Seymour, Charles	1944	3	3	昭和19年				無	朝河の書簡へのお礼			
1021	E-372-9	Seymour, Charles	1946	11	7	昭和21年				無	雑誌記事の送付のお礼			
1022	E-372-10	Seymour, Charles	1947	9	22	昭和22年				無	朝河の論文の返却			
1023	E-373-1	Shaver, Mary M.	1913	12	8	大正2年				無	朝河への礼状			
1024	E-373-2	Shaver, Mary M.	1915	1	18	大正4年				無	本のお礼			
1025	E-373-3	Shaver, Mary M.		10	23					無	絵のお礼			
1026	E-373-4	Shaver, Mary M.								無	朝河への礼状			
1027	E-373-5	Shaver, Mary M.								無	挨拶状			
1028	E-374-1	Sherman, Eviva Murcuf	1932	3	23	昭和7年				無	近況を述べる。			
1029	E-374-2	Sherman, Eviva Murcuf	1932	4	13	昭和7年	1932	4	13	無	近況を述べる。			
1030	E-374-3	Sherman, Eviva Murcuf	1932	5	8	昭和7年				無	近況を述べる。			
1031	E-375	Sherwood, Robert								無	近況を述べる。			
1032	E-376-1	Singer, Kurt	1937	4	3	昭和12年				無	朝河の <i>The Documents of Iriki</i> (『入来文書』) に所収された史料の転載を求める。	仙台の旧制高校のドイツ語教師		
1033	E-376-2	Singer, Kurt	1937	9	5	昭和12年				無	朝河の返事に感謝する。			
1034	E-376-3	Singer, Kurt	1938	2	15	昭和13年				無	朝河の返事に感謝する。			
1035	E-376-4	Singer, Kurt	1938	6	1	昭和13年				無	朝河の返事に感謝する。			
1036	E-376-5	Singer, Kurt	1938	12	9	昭和13年				無	朝河の返事に感謝する。			
1037	E-376-6	Singer, Kurt	1939	6	12	昭和14年				無	朝河の返事に感謝する。			
1038	E-376-7	Singer, Kurt	1948	6	7	昭和23年	1948	6	10	有	シドニーでの近況を述べる。			
1039	E-377-1	Smith, Elliott Dunlap	1937	2	5	昭和12年				無	レストランMiyako店主宛書簡の写し			
1040	E-377-2	Smith, Elliott Dunlap	1938	12	24	昭和13年				無	クリスマスの挨拶			
1041	E-377-3	Smith, Elliott Dunlap	1942	3	18	昭和17年				無	朝河の書簡への返事			
1042	E-378-1	Smith, Joline B.	1914	6	14	大正3年				無	著書のお礼			
1043	E-378-2	Smith, Joline B.	1914	12	5	大正3年				無	抜き刷り送付に対するお礼			
1044	E-379-1	Smith, Marie Dunlap	1945	5	4	昭和20年	1945	5	5	有	近況を述べる。			

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
1045	E-379-2	Smith, Marie Dunlap		2	8					無	日本食の夕食のお礼			
1046	E-380-1	Smith, Neil Skene	1936	12	14	昭和11年				無	近況を述べる。			
1047	E-380-2	Smith, Neil Skene	1937	2	12	昭和12年				無	近況を述べる。			
1048	E-381	Speare, Guy E.	1945	5	31	昭和20年				無	近況を述べる。			
1049	E-382	Sprague, Alice	1916	7	13	大正5年				無	朝河の書簡への返事			
1050	E-383	Starr, Mary M.	1926	11	9	昭和1年				無	近況を述べる。			
1051	E-384	G.E. Stechert & Co.	1912	10	3	大正1年		10	4	無	抜き刷り送付に対するお礼			
1052	E-385-1	Stokes, Anson Phelps	1907	11	25	明治40年				無	Curator of the Japanese and Chinese Collectionsに任命する通知		New Haven	
1053	E-385-2	Stokes, Anson Phelps	1908	8	1	明治41年				無	Instructor in the History of Japanese Civilizationに次年度も同じ俸給で再任する通知		New Haven	
1054	E-385-3	Stokes, Anson Phelps	1909	10	8	明治42年				無	上の地位をもう1年、延長する通知		New Haven	
1055	E-385-4	Stokes, Anson Phelps	1910	5	11	明治43年				無	Assistant Professor of Japanese Civilization in the Graduate School に3年間、年収1,800ドル(うち400ドルは図書館からの収入)として雇用する通知		New Haven	
1056	E-385-5	Stokes, Anson Phelps	1910	9	22	明治43年				無	今年度から年収が2,000ドルになることのお知らせ		New Haven	
1057	E-385-6	Stokes, Anson Phelps	1913	2	14	大正2年				無	イェールの大学関係者に対して、名誉学位授与者の推薦の案内		New Haven	
1058	E-385-7	Stokes, Anson Phelps	1913	3	19	大正2年				無	Assistant Professor of Japanese Civilization in the Graduate Schoolに7月から3年間再任する通知		New Haven	
1059	E-385-8	Stokes, Anson Phelps	1913	4	23	大正2年				無	朝河の給与を2,500ドル(2,100ドルが大学院から、400ドルが図書館からの給与)になったことを通知		New Haven	
1060	E-385-9	Stokes, Anson Phelps	1913	5	21	大正2年				無	共通の友人が精神的な問題を抱えていることを述べる。		New Haven	
1061	E-385-10	Stokes, Anson Phelps	1913	10	15	大正2年				無	Japan Society Prizeについて述べる。		New Haven	
1062	E-385-11	Stokes, Anson Phelps	1915	2	4	大正4年				無	自身が所有する‘お経の掛物’の価値を尋ね、また売る場合に信頼できるニューヨークでの古物商はどこかを問うている。 [裏面に下書あり]	イェール大学事務総長 (Secretary)	New Haven	
1063	E-385-12	Stokes, Anson Phelps	1915	5	20	大正4年				無	朝河のヨーロッパ旅行に際してのイタリア、ギリシア、フランス、イギリスの図書館と大学への紹介状		New Haven	
1064	E-385-13	Stokes, Anson Phelps	1917	11	6	大正6年				無	研究休暇の1年延長と、その間は給与はなく研究奨励費として1,000ドルを与えることを通知		New Haven	
1065	E-385-14	Stokes, Anson Phelps	1921	1	15	大正10年				無	朝河との面談を求める。		New Haven	
1066	E-385-15	Stokes, Anson Phelps	1921	1	20	大正10年				無	朝河がなおAssistant Professor of the History of Japanese CivilizationとCurator of the Japanese and Chinese Collectionの身分を保持することを保証する。		New Haven	
1067	E-385-16	Stokes, Anson Phelps	1921	1	22	大正10年				無	朝河に対して、[E-385-15の]身分を保持し、年収を3,000ドルから1,500ドルに削減することを提案する。		New Haven	
1068	E-385-17	Stokes, Anson Phelps	1921	2	1	大正10年				無	朝河から転送された森久保善太郎の書簡を受け取った旨を伝え、森久保からの問いに答える。イェール大学での東洋美術館建設の提案については現在、そのような建物を作る資金はないと述べる。		New Haven	
1069	E-385-18	Stokes, Anson Phelps	1921	2	7	大正10年				無	朝河が大学の提示した雇用条件に納得したことに感謝する。		New Haven	
1070	E-385-19	Stokes, Anson Phelps	1921	2	12	大正10年				無	Assistant Professor of the History of Japanese CivilizationとCurator of the Japanese Collectionとして1921年7月から3年間、年収1,500ドルで雇用することの通知		New Haven	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
1071	E-385-20	Stokes, Anson Phelps	1921	6	26	大正10年				無	朝河が書いた <i>Japanese Sculpture of the Suiko Period</i> (『推古彫刻』) の評価書に感謝する。	同上	New Haven	
1072	E-385-21	Stokes, Anson Phelps	1937	4	7	昭和12年				無	数年内に引退し、自身の著作の執筆に専念したいと述べる。		Washington, D.C.	
1073	E-385-22	Stokes, Anson Phelps	1939	1	3	昭和14年				無	朝河と金子堅太郎との文通についての情報に感謝する。		Washington, D.C.	
1074	E-385-23	Stokes, Anson Phelps	1939	1	17	昭和14年				無	自身は金子堅太郎、阪井徳太郎からの決定的な証拠をもっているため、収集した資料から、いわゆるイェール・シンポジウムがポーツマスの講和の条件に影響を与えたことについての論文を書きたい。		Washington, D.C.	
1075	E-385-24	Stokes, Anson Phelps	1939	1	31	昭和14年				無	金子堅太郎は自身回想録を公表する予定であり、それが世に知れば初めてポーツマスの交渉の真の歴史が明らかになるだろうと自分に語っていた。		Washington, D.C.	
1076	E-385-25	Stokes, Anson Phelps	1945	12	3	昭和20年				無	兄弟のHaroldにも手伝ってもらい、現在、ポーツマス条約とそこのイェール大学の役割について再び考えている。このことで朝河の書いた論文を読むことで助かっている。		Lenox, Mass.	
1077	E-385-26	Stokes, Anson Phelps	1948	5	21	昭和23年				無	朝河の名前を挙げなかった理由は、戦争中に朝河がこの問題[ポーツマス条約]との関わりで自分の名前を挙げないようにと書簡で書いたからである。		Lenox, Mass.	
1078	E-386	Stokes, Frederick A.	1915	5	25	大正4年				無	翻訳についてのお礼[裏面に下書あり]	出版社Frederick A.Stokes Company	New York	
1079	E-387-1	Stoughton, Allen F.	1947	6	12	昭和22年				無	近況を述べる。			
1080	E-387-2	Stoughton, Allen F.	1947	6	19	昭和22年		6	19	有	近況を述べる。			
1081	E-388-1	Stoughton, William G.	1912	8	9	大正1年				無	自身の結婚について語る。	ダートマス大学で朝河にドイツ語を教えた教員(当時はAssistant Professor)。朝河の大学院進学のために1899年に推薦状を書いた。このときはウォール街で証券会社に勤務。		
1082	E-388-2	Stoughton, William G.	1912	10	1	大正1年				無	朝河からの書物の寄贈について感謝する。			
1083	E-388-3	Stoughton, William G.	1912	11	30	大正1年				無	朝河夫妻との面談後、無事帰宅したことを述べる。			
1084	E-388-4	Stoughton, William G.	1913	2	17	大正2年				無	朝河とTucker夫妻の訪問について感謝を述べる。			
1085	E-388-5	Stoughton, William G.	1913	2	28	大正2年				無	ボストンからの帰りにニューヘブンに立ち寄れなかったことを詫げる。			
1086	E-388-6	Stoughton, William G.	1913	3	6	大正2年				無	近況を述べる。			
1087	E-388-7	Stoughton, William G.	1913	3	10	大正2年				無	近況を述べる。			
1088	E-388-8	Stoughton, William G.	1913	4	10	大正2年				無	朝河から50ドルの為替を受け取ったことを知らせる。			
1089	E-388-9	Stoughton, William G.	1913	5	6	大正2年				無	食事をして話をできないかと述べる。			
1090	E-388-10	Stoughton, William G.	1913	5	21	大正2年				無	近況を述べる。			
1091	E-388-11	Stoughton, William G.	1913	6	23	大正2年				無	面談して楽しかったとお礼を述べる。			
1092	E-388-12	Stoughton, William G.	1913	6	27	大正2年				無	近況を述べる。			
1093	E-388-13	Stoughton, William G.	1913	7	8	大正2年				無	近況を述べる。			
1094	E-388-14	Stoughton, William G.	1913	8	26	大正2年				無	朝河の病気を心配する。			
1095	E-388-15	Stoughton, William G.	1913	9	9	大正2年				無	近況を述べる。			
1096	E-388-16	Stoughton, William G.	1913	10	4	大正2年				無	朝河が75ドルの為替を送ってくれたことへのお礼			
1097	E-388-17	Stoughton, William G.	1913	10	17	大正2年				無	朝河の書簡に対するお礼			
1098	E-388-18	Stoughton, William G.	1913	11	1	大正2年				無	近況を述べる。			
1099	E-388-19	Stoughton, William G.	1913	11	12	大正2年				無	近況を述べる。			
1100	E-388-20	Stoughton, William G.	1913	11	26	大正2年				無	近況を述べる。			
1101	E-388-21	Stoughton, William G.	1914	2	4	大正3年				無	朝河の書簡に対するお礼			
1102	E-388-22	Stoughton, William G.	1914	2	17	大正3年				無	Forbes-Robertsonのハムレットについて語る。			
1103	E-388-23	Stoughton, William G.	1914	8	25	大正3年				無	近況を述べる。			
1104	E-388-24	Stoughton, William G.	1914	10	27	大正3年				無	論文の抜き刷り送付に対するお礼			
1105	E-388-25	Stoughton, William G.	1914	11	27	大正3年				無	兄弟が亡くなったことを伝える。			

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
1106	E-388-26	Stoughton, William G.	1915	1	22	大正4年				無	近況を述べる。	同上		
1107	E-388-27	Stoughton, William G.	1915	4	28	大正4年				無	近況を述べる。			
1108	E-388-28	Stoughton, William G.	1915	5	4	大正4年				無	Diana Wattsの考案した理論を教えてもらい謝意を表する。			
1109	E-388-29	Stoughton, William G.	1915	6	28	大正4年				無	近況を述べる。			
1110	E-388-30	Stoughton, William G.	1915	9	3	大正4年				無	近況を述べる。			
1111	E-388-31	Stoughton, William G.	1915	10	1	大正4年				無	近況を述べる。			
1112	E-388-32	Stoughton, William G.	1915	12	14	大正4年				無	近況を述べる。			
1113	E-388-33	Stoughton, William G.	1916	4	14	大正5年				無	近況を述べる。			
1114	E-388-34	Stoughton, William G.	1916	5	1	大正5年				無	近況を述べる。			
1115	E-388-35	Stoughton, William G.	1916	11	6	大正5年				無	朝河の書簡への返事			
1116	E-388-36	Stoughton, William G.	1917	2	5	大正6年				無	朝河の書簡への返事			
1117	E-388-37	Stoughton, William G.	1917	4	30	大正6年				無	第一次世界大戦について述べる。			
1118	E-388-38	Stoughton, William G.	1920	4	15	大正9年				無	近況を述べる。			
1119	E-388-39	Stoughton, William G.	1920	4	23	大正9年				無	近況を述べる。			
1120	E-388-40	Stoughton, William G.	1920	5	5	大正9年				無	朝河の書簡への返事			
1121	E-388-41	Stoughton, William G.	1920	6	5	大正9年				無	朝河の書簡への返事			
1122	E-388-42	Stoughton, William G.	1920	12	16	大正9年				無	近況を述べる。			
1123	E-388-43	Stoughton, William G.	1920	12	18	大正9年				無	近況を述べる。			
1124	E-388-44	Stoughton, William G.	1921	2	11	大正10年				無	イェール大学の状況についてコメントする。			
1125	E-388-45	Stoughton, William G.	1921	10	3	大正10年				無	近況を述べる。			
1126	E-388-46	Stoughton, William G.	1922	3	2	大正11年				無	近況を述べる。			
1127	E-388-47	Stoughton, William G.	1931	3	24	昭和6年				無	経済不況について語る。			
1128	E-388-48	Stoughton, William G.	1937	10	25	昭和12年				無	朝河からの招待に謝意を表する。			
1129	E-388-49	Stoughton, William G.	1938	12	20	昭和13年				無	近況を述べる。			
1130	E-388-50	Stoughton, William G.	1939	12	20	昭和14年				無	新年の挨拶			
1131	E-388-51	Stoughton, William G.	1940	6	14	昭和15年				無	近況を述べる。			
1132	E-388-52	Stoughton, William G.	1940	6	30	昭和15年				無	朝河の友人の公開書簡をもらったことへのお礼			
1133	E-388-53	Stoughton, William G.	1940	9	8	昭和15年				無	朝河のヒトラーを分析した書簡に感想を述べる。			
1134	E-388-54	Stoughton, William G.	1940	9	15	昭和15年				無	朝河の手術がうまくいったことを喜ぶ。			
1135	E-388-55	Stoughton, William G.	1941	5	21	昭和16年				無	近況を述べる。			
1136	E-388-56	Stoughton, William G.	1941	12	14	昭和16年				無	近況を述べる。			
1137	E-388-57	Stoughton, William G.	1943	12		昭和18年				無	クリスマスの挨拶			
1138	E-388-58	Stoughton, William G.								無	時候の挨拶			
1139	E-388-59	Stoughton, William G.								無	クリスマスの挨拶			
1140	E-389	Streeter, Frank S.	1916	4	18	大正5年				無	朝河の書簡へのお礼			
1141	E-390	Strutzers, Elizabeth P.	1948	7	23	昭和23年				無	避暑地の滞在ホテルからの返事	Green Mountain House, West Wardsboro, Vermont		
1142	E-391	Studholme, J.M.	1933	1	23	昭和8年				無	The Living Ageの会員への招待			
1143	E-392-1	Sturges, Alice Morris	1939	7	6	昭和14年				無	朝河からの贈り物へのお礼			
1144	E-392-2	Sturges, Alice Morris	1944	6	7	昭和19年				無	近況を述べる。			
1145	E-393	De Sumichrast, F.C.	1909	8	10	明治42年				無	推薦状	ハーヴァード大学ラドクリフ・カレッジの教員		
1146	E-394	Sumner, W.G.	1906	1	19	明治39年				無	推薦状	イェール大学教授(社会学)		
1147	E-395	Sundulaud, J.T.	1912	4	22	大正1年				無	朝河の論文の抜き刷りを求める。			
1148	E-396	Suenobu, Sanji		12	24					無	新年の挨拶			
1149	E-397-1	Swartz, Helen M.		4	10					無	朝河へのお礼			
1150	E-397-2	Swartz, Helen M.		11	11					無	抜き刷り送付に対するお礼			



# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
1151	E-398	Swift, E.	1909	9	22	明治42年				無	書誌情報を伝える。			
1152	E-399	Takagi, Yasaka [高木八尺]	1926	6	3	昭和1年				無	故Ladd博士の書簡の日本への輸送について	東京帝国大学教授(政治学者)		
1153	E-400-1	Takamine, Jokichi	1912	5	9	大正1年				無	クラーク大学のBlakeslee教授との昼食に朝河を招待する。			
1154	E-400-2	Takamine, Jokichi	1912	9	23	大正1年				無	早稲田大学よりの紹介状をもって、白井氏が訪れているが、適当なるアメリカの大学を教示されたい。			
1155	E-401-1	Textor, Lucy E.	1913	5	11	大正2年				無	近況を述べる。			
1156	E-401-2	Textor, Lucy E.	1913	9	15	大正2年				無	近況を述べる。			
1157	E-402	Thomas, Paul K.M.	1913	2	6	大正2年				無	近況を述べる。			
1158	E-403	Thomson, Amtruther		9	4					無	面会について。			
1159	E-404	Thomson, P.W.	1916	4	18	大正5年				無	朝河への謝罪	Harvard Club of Boston		
1160	E-405	Thorvdeler, Edward L.	1931	7	2	昭和6年				無	面談について			
1161	E-406-1	Ting, C.N.	1910	10	3	明治43年				無	資料の問い合わせ			
1162	E-406-2	Ting, C.N.	1910	10	19	明治43年				無	朝河の書簡への感謝			
1163	E-407	Tinker, C.B.	1938	5	17	昭和13年				無	パーティーについての打ち合わせ			
1164	E-408-1	Tison, Alexander	1913	6	20	大正2年				無	Anson Phelps Stokes 宛書簡の写し。Japan Society Prizeについて。			
1165	E-408-2	Tison, Alexander	1913	10	20	大正2年				無	Japan Society Prizeについて			
1166	E-409	Toa Dobunkai Honbu [東亜同文會本部]	1907	7	13	明治40年	1907	8	2	無	入会申し込みの承認			
1167	E-410	Toop, Elinor		8	25					無	近況を述べる。			
1168	E-411-1	Toop, John R.	1936	6	10	昭和11年				無	抜き刷り送付に対するお礼	朝河のイエール大学院での教え子		
1169	E-411-2	Toop, John R.	1937	5	25	昭和12年				無	抜き刷り送付に対するお礼			
1170	E-412-1	Torrey, Charles C.	1917	4	3	大正6年				無	近況を述べる			
1171	E-412-2	Torrey, Charles C.	1929	3	24	昭和4年				無	新渡戸博士の講演について			
1172	E-412-3	Torrey, Charles C.	1948	1	23	昭和23年				無	朝河の書簡への返事			
1173	E-413-1	Treat, Payson Jackson	1912	3	3	大正1年				無	自身が夏から秋に東アジアを訪問することを述べ、また新渡戸稲造にスタンフォード大学で講演をしてもらったことにも言及する。	Stanford, California		
1174	E-413-2	Treat, Payson Jackson	1912	4	29	大正1年				無	日本に行った際に大隈重信に対し、スタンフォード大学学長からの書簡を渡したい希望を述べる。	Stanford, California		
1175	E-413-3	Treat, Payson Jackson	1915	2	20	大正4年				無	次のAmerican Historical Associationの研究会では1つのセッションが日本史を扱うので、そこでの報告を朝河に依頼している。	スタンフォード大学教授(専門は東アジア史)	Stanford, California	
1176	E-413-4	Treat, Payson Jackson	1915	3	22	大正4年				無	上記の研究会での報告を朝河に強く求める。	Stanford, California		
1177	E-413-5	Treat, Payson Jackson	1915	7	15	大正4年				無	朝河からの論文の送付に感謝する。	Stanford, California		
1178	E-413-6	Treat, Payson Jackson	1929	11	7	昭和4年				無	朝河の著作 <i>The Documents of Iriki</i> (『入来文書』) の寄贈に感謝する。	Stanford, California		
1179	E-414	Treichler, Jessie C.	1946	7	31	昭和21年				無	アンティオーク大学への寄付についての礼状	アンティオーク大学の学長助手	Yellow Spring, Ohio	
1180	E-415-1	Tsao, Y.S.[曹雲祥]	1909	10	27	明治42年				無	奨学金についての相談	朝河のイエール大学での学生。後に北京清華大学校長となる。	New Haven	
1181	E-415-2	Tsao, Y.S.[曹雲祥]	1910	7	7	明治43年				無	朝河に書物の閲覧の相談をする。	Cambridge, Mass.		
1182	E-415-3	Tsao, Y.S.[曹雲祥]	1910	7	13	明治43年				無	朝河からの返事に対して感謝を述べる。	Cambridge, Mass.		
1183	E-416	Tuck, Edward	1915	8	7	大正4年				有	パリにきた朝河との面談を求める。	アメリカ人の外交官	Paris	
1184	E-417-1	Tucker, Charlotte C	1906	4	10	明治39年				無	Tucker教授の最後の講義が昨晚開催されたことを伝える。	Tucker教授夫人	Berkeley, California	
1185	E-417-2	Tucker, Charlotte C	1908	1	13	明治41年				無	朝河からのクリスマスプレゼントに対するお礼		Hanover, New Hampshire	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
1186	E-417-3	Tucker, Charlotte C	1908	3	24	明治41年				無	近況を述べる。	同上	Hanover, New Hampshire	
1187	E-417-4	Tucker, Charlotte C	1909	1	8	明治42年				無	朝河からのクリスマスの挨拶に対する返事		Hanover, New Hampshire	
1188	E-417-5	Tucker, Charlotte C	1909	7	7	明治42年				無	近況を述べる。		Dixville Notch, New Hampshire	
1189	E-417-6	Tucker, Charlotte C	1909	9	26	明治42年				無	朝河の友人Hewesが遠くに行ってしまったことについて述べる。			
1190	E-417-7	Tucker, Charlotte C	1910	3	20	明治43年				無	近況を述べる。		Hanover, New Hampshire	
1191	E-417-8	Tucker, Charlotte C	1910	6	5	明治43年				無	朝河がAssistant Professorに任命されたことに祝意を述べる。		Hanover, New Hampshire	
1192	E-417-9	Tucker, Charlotte C	1911	3	10	明治44年				無	朝河の論文執筆計画について賛意を述べる。		Hanover, New Hampshire	
1193	E-417-10	Tucker, Charlotte C	1912	8	1	大正1年				無	長らく返事をしなかったことを詫げる。		Hanover, New Hampshire	
1194	E-417-11	Tucker, Charlotte C	1912	11	11	大正1年				無	大統領にウィルソンが選出されたことには驚かないこと、また、ルーズベルトの票が少なかったのは嬉しいと述べる。		Hanover, New Hampshire	
1195	E-417-12	Tucker, Charlotte C	1913	2	22	大正2年				無	近況を述べる。		Hanover, New Hampshire	
1196	E-417-13	Tucker, Charlotte C	1913	3	5	大正2年				無	近況を述べる。		Hanover, New Hampshire	
1197	E-417-14	Tucker, Charlotte C	1913	3	20	大正2年				無	近況を述べる。		Hanover, New Hampshire	
1198	E-417-15	Tucker, Charlotte C	1913	3	30	大正2年				無	近況を述べる。		Hanover, New Hampshire	
1199	E-417-16	Tucker, Charlotte C	1913	4	22	大正2年				無	朝河夫人ミリアムの写真を送ってもらったことに感謝を述べる。		Hanover, New Hampshire	
1200	E-417-17	Tucker, Charlotte C	1913	6	12	大正2年				無	近況を述べる。		Hanover, New Hampshire	
1201	E-417-18	Tucker, Charlotte C	1913	6	19	大正2年				無	近況を述べる。			
1202	E-417-19	Tucker, Charlotte C	1913	7	11	大正2年				無	近況を述べる。		Hanover, New Hampshire	
1203	E-417-20	Tucker, Charlotte C	1913	8	10	大正2年				無	近況を述べる。		Hanover, New Hampshire	
1204	E-417-21	Tucker, Charlotte C	1913	10	20	大正2年				無	Prof.Richardsonの死について		Hanover, New Hampshire	
1205	E-417-22	Tucker, Charlotte C	1913	10	30	大正2年				無	近況を述べる。		Hanover, New Hampshire	
1206	E-417-23	Tucker, Charlotte C	1913	12	23	大正2年				無	クリスマスの挨拶		Hanover, New Hampshire	
1207	E-417-24	Tucker, Charlotte C	1914	1	14	大正3年				無	近況を述べる。		Hanover, New Hampshire	
1208	E-417-25	Tucker, Charlotte C	1914	2	19	大正3年				無	近況を述べる。		Hanover, New Hampshire	
1209	E-417-26	Tucker, Charlotte C	1914	5	10	大正3年				無	近況を述べる。		Hanover, New Hampshire	
1210	E-417-27	Tucker, Charlotte C	1914	5	21	大正3年				無	朝河が送った'ハムレット論'を精読したいので暫くの間、保持したいと述べる。	Hanover, New Hampshire		
1211	E-417-28	Tucker, Charlotte C	1914	5	26	大正3年				無	Tucker教授が書いたものを送ることを述べる。	Hanover, New Hampshire		
1212	E-417-29	Tucker, Charlotte C	1914	9	3	大正3年				無	近況を述べる。	Hanover, New Hampshire		
1213	E-417-30	Tucker, Charlotte C	1915	3	27	大正4年				無	抜き刷り送付に対するお礼	Hanover, New Hampshire		
1214	E-417-31	Tucker, Charlotte C	1915	5	14	大正4年				無	近況を述べる。	Hanover, New Hampshire		
1215	E-417-32	Tucker, Charlotte C	1915	6	3	大正4年				無	近況を述べる。	Hanover, New Hampshire		
1216	E-417-33	Tucker, Charlotte C	1915	6	16	大正4年				無	近況を述べる。	Hanover, New Hampshire		
1217	E-417-34	Tucker, Charlotte C	1915	6	23	大正4年				無	近況を述べる。	Hanover, New Hampshire		
1218	E-417-35	Tucker, Charlotte C	1915	7	6	大正4年				無	近況を述べる。	Hanover, New Hampshire		
1219	E-417-36	Tucker, Charlotte C	1915	8	19	大正4年				無	イギリスにいる朝河を気遣う。	Hanover, New Hampshire		
1220	E-417-37	Tucker, Charlotte C	1915	9	5	大正4年				無	朝河のパリからの書簡とフィレンツェからの葉書が届いたことを述べる。	Hanover, New Hampshire		
1221	E-417-38	Tucker, Charlotte C	1915	11	18	大正4年				無	近況を述べる。	Hanover, New Hampshire		
1222	E-417-39	Tucker, Charlotte C	1915	12	12	大正4年				無	近況を述べる。			
1223	E-417-40	Tucker, Charlotte C	1916	2	25	大正5年				無	近況を述べる。			
1224	E-417-41	Tucker, Charlotte C	1916	6	11	大正5年				無	近況を述べる。			

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載	
1225	E-417-42	Tucker, Charlotte C	1916	9	13	大正5年				無	近況を述べる。	同上			
1226	E-417-43	Tucker, Charlotte C	1916	10	29	大正5年				無	近況を述べる。				
1227	E-417-44	Tucker, Charlotte C	1916	12	9	大正5年				無	近況を述べる。				
1228	E-417-45	Tucker, Charlotte C	1917	1	7	大正6年				無	近況を述べる。				
1229	E-417-46	Tucker, Charlotte C	1917	4	13	大正6年				無	近況を述べる。				
1230	E-417-47	Tucker, Charlotte C	1917	6	14	大正6年				無	近況を述べる。				
1231	E-417-48	Tucker, Charlotte C	1917	7	25	大正6年				無	近況を述べる。				
1232	E-417-49	Tucker Charlotte C	1917	9	12	大正6年				無	近況を述べる。				
1233	E-417-50	Tucker, Charlotte C	1917	11	9	大正6年				無	近況を述べる。				
1234	E-417-51	Tucker, Charlotte C	1918	1	1	大正7年				無	新年の挨拶				
1235	E-417-52	Tucker, Charlotte C	1918	2	22	大正7年				無	近況を述べる。				
1236	E-417-53	Tucker, Charlotte C	1918	9	1	大正7年				無	近況を述べる。				
1237	E-417-54	Tucker, Charlotte C	1918	12	4	大正7年				無	近況を述べる。				
1238	E-417-55	Tucker, Charlotte C	1919	2	19	大正8年				無	近況を述べる。				
1239	E-417-56	Tucker, Charlotte C	1919	5	29	大正8年				無	近況を述べる。				
1240	E-417-57	Tucker, Charlotte C	1919	9	30	大正8年				無	朝河がアメリカに戻ったことを喜ぶ。				
1241	E-417-58	Tucker, Charlotte C	1919	10	3	大正8年				無	朝河が無事帰ってきたことを喜ぶ。				
1242	E-417-59	Tucker, Charlotte C	1919	12	12	大正8年				無	近況を述べる。				
1243	E-417-60	Tucker, Charlotte C	1920	2	20	大正9年				無	近況を述べる。				
1244	E-417-61	Tucker, Charlotte C	1920	6	12	大正9年				無	近況を述べる。				
1245	E-417-62	Tucker, Charlotte C	1921	4	6	大正10年				無	近況を述べる。				
1246	E-417-63	Tucker, Charlotte C	1921	5	14	大正10年				無	近況を述べる。				
1247	E-417-64	Tucker, Charlotte C	1921	12	17	大正10年				無	近況を述べる。				
1248	E-417-65	Tucker, Charlotte C	1932	9	9	昭和7年				無	近況を述べる。				
1249	E-417-66	Tucker, Charlotte C	1933	7	13	昭和8年				無	近況を述べる。				
1250	E-417-67	Tucker, Charlotte C	1933	12	13	昭和8年				無	Prof.Poorの死去について知らせる。				
1251	E-417-68	Tucker, Charlotte C		1	20					無	近況を述べる。				
1252	E-417-69	Tucker, Charlotte C		1	27					無	近況を述べる。				
1253	E-417-70	Tucker, Charlotte C		4	30					無	近況を述べる。				
1254	E-417-71	Tucker, Charlotte C		6	21					無	近況を述べる。				
1255	E-417-72	Tucker, Charlotte C		11	15					無	近況を述べる。				
1256	E-417-73	Tucker, Charlotte C		12	15					無	近況を述べる。				
1257	E-417-74	Tucker, Charlotte C		12	18					無	近況を述べる。				
1258	E-417-75	Tucker, Charlotte C				[日曜日朝]				無	近況を述べる。				
1259	E-417-76	Tucker, Charlotte C								無	近況を述べる。				
1260	E-417-77	Tucker, Charlotte C								無	近況を述べる。				
1261	E-417-78	Tucker, Charlotte C								無	近況を述べる。				
1262	E-418-1	Tucker, Charlotte C	1913	1	9	大正2年				無	クリスマスの挨拶への返事[ミリアム夫人宛]				
1263	E-418-2	Tucker, Charlotte C		8	7					無	面会の約束[ミリアム夫人宛]				
1264	E-419-1	Tucker, W.J.	1906	1	22	明治39年				有	正澄が10年間不在であった息子貫一の帰国をさぞ喜んでい るだろうと述べ、朝河がダートマス大学とイエール大学でいか に優秀な成績を上げたかを述べる。[貫一の優秀さを父・正澄 に知らせたいと思い、そのことを伝えてもらうため貫一宛に書 いた書簡]		ダートマス大学学長		
1265	E-419-2	Tucker, W.J.	1911	6	11	明治44年				無	近況を述べる。				
1266	E-419-3	Tucker, W.J.	1911	6	19	明治44年				無	近況を述べる。				

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
1267	E-419-4	Tucker, W.J.	1911	6	25	明治44年				無	近況を述べる。	同上		
1268	E-419-5	Tucker, W.J.	1912	1	14	大正1年				無	近況を述べる。			
1269	E-419-6	Tucker, W.J.	1917	3	19	大正6年	1917	3	20	有	近況を述べる。			
1270	E-419-7	Tucker, W.J.	1921	1	12	大正10年				無	近況を述べる。			
1271	E-419-8	Tucker, W.J.	1923	2	5	大正12年	1923	2	5	有	近況を述べる。			
1272	E-420	Munro, Dana Charleton	1913	1	4	大正2年				無	現在、外国語の史料翻訳などの書物のシリーズを刊行することを考えているので、日本の封建制の史料の書物も出すことができる、と朝河に伝えている。	プリンストン大学教授(専門は西洋中世史)		
1273	E-421	Valery, Jules	1922	8	29	大正11年	1922	9	11	有	朝河の質問への答え			
1274	E-422	Vance, Anne H.	1940	11	17	昭和15年				無	挨拶状			
1275	E-423-1	Varney, George Leon	1909	4	17	明治42年				無	近況を述べる。			
1276	E-423-2	Varney, George Leon	1911	11	24	明治44年				無	近況を述べる。			
1277	E-424	Veith, Ilza	1943	12	13	昭和18年				無	朝河に博士論文に関する質問をしている。	ジョンズ・ホプキンズ大学の大学院生		
1278	E-425	Vernadsky, George	1932	8	17	昭和7年				無	近況を述べる。			
1279	E-426-1	[Voher, Robert]	1912	11	12	大正1年				無	The Luther Burbank Societyの終身会員に推薦することを述べる。	The Luther Burbank Societyの秘書		
1280	E-426-2	[Voher, Robert]	1914	4	14	大正3年				無	The Luther Burbank Societyの終身会員になったことを伝える。			
1281	E-427-1	Voskamp, Marie	1936	2	8	昭和11年				無	朝河のクリスマスカードへの返事			
1282	E-427-2	Voskamp, Marie	1938	1	26	昭和13年				無	近況を述べる。			
1283	E-427-3	Voskamp, Marie	1938	2	18	昭和13年				無	近況を述べる。			
1284	E-427-4	Voskamp, Marie	1938	2	20	昭和13年				無	近況を述べる。			
1285	E-427-5	Voskamp, Marie	1938	5	10	昭和13年				無	近況を述べる。			
1286	E-427-6	Voskamp, Marie	1939	2	10	昭和14年				無	近況を述べる。			
1287	E-427-7	Voskamp, Marie	1939	10	12	昭和14年				無	近況を述べる。			
1288	E-427-8	Voskamp, Marie	1942	8	26	昭和17年				無	近況を述べる。			
1289	E-427-9	Voskamp, Marie	1943	7	27	昭和18年				無	近況を述べる。			
1290	E-427-10	Voskamp, Marie	1946	6	13	昭和21年[受取]				無	入院先から近況を述べる。			
1291	E-427-11	Voskamp, Marie	1946	6	18	昭和21年				無	病院から帰宅し近況を述べる。			
1292	E-427-12	Voskamp, Marie	1947	4	3	昭和22年				無	近況を述べる。			
1293	E-427-13	Voskamp, Marie	1947	5	18	昭和22年				無	いつも朝河のことを考えていと述べる。			
1294	E-427-14	Voskamp, Marie	1948	5	12	昭和23年				無	近況を述べる。			
1295	E-427-15	Voskamp, Marie		6	29					無	近況を述べる。			
1296	E-427-16	Voskamp, Marie		8	28					無	近況を述べる。			
1297	E-427-17	Voskamp, Marie								無	近況を述べる。			
1298	E-427-18	Voskamp, Marie								無	近況を述べる。			
1299	E-427-19	Voskamp, Marie								無	近況を述べる。			
1300	E-428-1	G.W.[Gretchen Warren]	1941	8	23	昭和16年				無	朝河の言葉が自身の人生の助けになっていることに感謝する。[自筆控え]	ボストン在住の詩人、作家。実業家Fiske Warrenの夫人。		
1301	E-428-2	G.W.[Gretchen Warren]	1941	11	20	昭和16年				無	Langdon Warnerが電話をかけてきて、朝河が書いた戦争の状況についての書簡を送ったと伝えてきたことを述べる。またその書簡を読み、自身が世界を見渡す山の頂上にいるように感じたことと述べ、それをコピーして妹のMrs.ChildersIに送りたいと語る。また朝河から来た多くの書簡をいつか刊行したいと述べる。[タイプ控え]			

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
1302	E-428-3	G.W.[Gretchen Warren]	1943	2	8	昭和18年				無	この数週間、忙しかったことを伝える。朝河の精神が、自身が出会った人のうちで最も深淵なものと述べる。朝河の精神の背景には、東西両文明の形而上的な価値があると語り、それに比べて何と自分は子供だろう、と語る。さらに朝河に対して、日本の古来の哲学が好戦的なものであったのか尋ねている。この書簡に続き朝河の1943年2月14付の返事がある。[タイプ控え]	同上		
1303	E-428-4	G.W.[Gretchen Warren]	1943	6	16	昭和18年				無	各国民の相違を超えて憎悪や復讐を禁じるような一種の絶対的な倫理の本質が、世界の中にあるのかと朝河に問うている。[自筆控え]			
1304	E-428-5	G.W.[Gretchen Warren]	1943	6	24	昭和18年				無	日本には敵に対する赦しの教えがあるのか、また復讐や憎悪を忌避する教えはあるのか、と問うている。[自筆控え]			
1305	E-428-6	G.W.[Gretchen Warren]	1946	5	25	昭和21年				無	日々疲れるばかりで、世界は混沌としている。人間の生活から安定というものがまるでなくなってしまったようだ、と述べる。この書簡に続き1946年6月2日付の書簡もある。そこでは、朝河から贈られたRusselの <i>The Directiveness of organic activeness</i> を読んでいると述べる。[朝河のタイプ控え。真筆はE-439-3]			
1306	E-428-7	G.W.[Gretchen Warren]	1946	12	7	昭和21年				無	朝河の素晴らしい書簡に返事をするのが楽しみであることを述べる。Ruys Broeck(中世の神秘主義者)の抜粋を送ることも言う。[タイプ控え]			
1307	E-429-1	Walker, Curtis H.	1910	7	10	明治43年				無	シカゴ大学在職期の書簡。朝河にシカゴに来たら知らせるようにと語る。	ヴァンダービルト大学教授Curtis Howe Walker(イエール大学でイギリス中世史のテーマで学位取得)	Chicago	
1308	E-429-2	Walker, Curtis H.	1911	11	19	明治44年				無	シカゴ大学在職期の書簡。近況を述べる。		Chicago	
1309	E-429-3	Walker Curtis H.	1913	2	9	大正2年				無	シカゴ大学在職期の書簡。近況を述べる。		Chicago	
1310	E-429-4	Walker Curtis H.	1914	9	28	大正3年				無	シカゴ大学在職期の書簡。近況を述べる。		Chicago	
1311	E-429-5	Walker Curtis H.	1915	2	15	大正4年				無	シカゴ大学在職期の書簡。近況を述べる。		Chicago	
1312	E-429-6	Walker Curtis H.	1935	12	5	昭和10年				無	ヴァンダービルト大学在職期の書簡。Sidney Painterの推薦について。		Nashville, Tenn.	
1313	E-430	Walker Lillian Licke		1	9					無	判読不能[ミリアム夫人宛]			
1314	E-431	Walker, Martha H.		5	24					無	息子のCurtis H.Walkerが前年にベルリンで知り合った若い女性と婚約したことを伝える。	E-429 Curtis Howe Walkerの母親		
1315	E-432-1	Walker, Williston	1921	1	4	大正10年				無	大学の財政難によりAssitant Professorの任期が切れる今学期で朝河を解雇することを告げる。	イエール大学教務担当副学長(Provost)	New Haven	
1316	E-432-2	Walker, Williston	1921	2	4	大正10年				無	朝河に提示された雇用継続の条件[同じ地位で給与は半額]を受け入れるかどうか尋ねている。		New Haven	
1317	E-433	Ward, Richard	1917	3	2	大正6年				無	新聞 <i>Herald</i> 誌上で朝河が書いたドイツの政策に関する記事を読み、朝河との再会を求めている。	ダートマス時代の同級生	Lawrence, Mass.	
1318	E-434-1	Warner, Langdon	1912	12	31	大正1年				無	朝河夫妻を自宅に招待する。		Boston	
1319	E-434-2	Warner, Langdon	1912	11	23	大正1年				無	Warnerのペンシルベニア博物館館長時代。イエール大学で何か講演をしてもよいと述べる。		Philadelphia, Penn.	
1320	E-434-3	Warner, Langdon	1922	5	17	大正11年				無	Warnerのペンシルベニア博物館館長時代。朝河に対し自著 <i>Japanese Sculpture of the Suiko Period</i> (『推古彫刻』)への序文を依頼する。	ハーヴァード大学教授	Philadelphia, Penn.	
1321	E-434-4	Warner, Langdon	1930	20	29	昭和5年				無	朝河にAmerican Council of Learned Societiesへの協力を要請する。		Cambridge, Mass.	
1322	E-434-5	Warner, Langdon	1946	9	26	昭和21年				無	6か月の日本滞在から帰って来たことを伝える。		Cambridge, Mass.	

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
1323	E-434-6	Warner, Langdon		3	8					無	Warnerのペンシルベニア博物館館長時代。朝河からの励ましに感謝する。	同上	Philadelphia, Penn.	
1324	E-434-7	Warner, Langdon		3	28					無	朝河からの論文送付に感謝する。		Boston	
1325	E-434-8	Warner, Langdon		4	3					無	旅先のニューヨークから近況を述べる。		Boston	
1326	E-434-9	Warner, Langdon		4	20					無	朝河に助言を与える。		Boston	
1327	E-434-10	Warner, Langdon		4	24					無	イエール大学に来たが朝河と会えなかったことを残念に思う。		Cambridge, Mass.	
1328	E-434-11	Warner, Langdon		5	22					無	書物を送ってくれたことに感謝する。		Boston	
1329	E-434-12	Warner, Langdon		5	24					無	Warnerのペンシルベニア博物館館長時代。彫刻について自身が書いた論文のことを語る。		Philadelphia, Penn.	
1330	E-434-13	Warner, Langdon		6	10					無	Warnerのペンシルベニア博物館館長時代。ポストン近郊に来たら連絡するようにと述べる。		Philadelphia, Penn.	
1331	E-434-14	Warner, Langdon		8	23					無	Warnerのペンシルベニア博物館館長時代。朝河の書簡に感謝し、ニューヘブンに行くことを述べる。		Philadelphia, Penn.	
1332	E-435-1	Warner, Loraine d'O		7	5					無	Warnerの消息について伝える。		Langdon Warner夫人	Essex, Mass.
1333	E-435-2	Warner, Loraine d'O								無	朝河と会食の約束をする。	Boston		
1334	E-436-1	Warren, Charles M.	1912	9	27	大正1年				無	イエール大学滞在中の朝河の好意に感謝し、日本から挨拶を送る。	日本で布教活動を行った宣教師。	鳥取	
1335	E-436-2	Warren, Charles M.	1913	5	22	大正2年	1913	5	24	無	日本での近況を述べる。		中津	
1336	E-436-3	Warren, Charles M.	1913	8		大正2年				無	日本での近況を述べる。		御殿場	
1337	E-436-4	Warren, Charles M.	1913	11	6	大正2年	1913	11	6	無	日本での近況を述べる。		京都	
1338	E-436-5	Warren, Charles M.	1913	11	12	大正2年				無	朝河の妻ミアムの死を悼む。		京都	
1339	E-436-6	Warren, Charles M.	1914	7	1	大正3年				無	日本での近況を述べる。		宮崎	
1340	E-436-7	Warren, Charles M.	1920	6	14	大正9年				無	朝河からの書簡に感謝を述べる。			
1341	E-437	Warren, Estella C.				[木曜日]				無	朝河からの書簡に感謝を述べる。		Charleston	
1342	E-438	Warren, G.M.	1918	5	12	大正7年				無	周囲の友人たちの近況について述べる。			
1343	E-439-1	Warren, Gretchen	1916	1	14	大正5年				無	Diana Wattsが自分のところに来て、朝河のことを話していたと述べる。	ボストン在住の詩人、作家。実業家Fiske Warrenの夫人。E-428「G.W」と同一人物。		
1344	E-439-2	Warren, Gretchen	1940	7	9	昭和15年	1940	7	10	有	判読不能			
1345	E-439-3	Warren, Gretchen	1946	5	25	昭和21年				無	日々疲れるばかりで、世界は混沌としている。人間の生活から安定というものがまるでなくなってしまったようだ、と述べる。[E-428-6のオリジナル版]			
1346	E-439-4	Warren, Gretchen	1946	11	30	昭和21年				無	朝河の素晴らしい書簡に返事をするのが楽しみであることを述べる。Ruys Broeck(中世の神秘主義者)の抜粋を送ることも言う。[rec.7 XIIと朝河の書き込みがある。12月7日に受け取ったという意味だろう。E-428-7のオリジナル版]			
1347	E-439-5	Warren, Gretchen	1947	4	13	昭和22年				無	朝河がClarkに送った書簡を繰り返し読んでいることを伝える。			
1348	E-439-6	Warren, Gretchen	1947	4	23	昭和22年				無	判読不能			
1349	E-439-7	Warren, Gretchen	1947	7	8	昭和22年				無	判読不能			
1350	E-439-8	Warren, Gretchen		5	7					無	判読不能			
1351	E-440-1	Webb, Elizabeth H.		2	18					無	朝河の書簡への返事			
1352	E-440-2	Webb, Elizabeth H.		3	2					無	朝河の書簡への返事			
1353	E-440-3	Webb, Elizabeth H.		3	13					無	朝河が写真を送ってくれたことに感謝する。			
1354	E-440-4	Webb, Elizabeth H.								無	朝河の書簡への返事			
1355	E-440-5	Webb, Elizabeth H.								無	近況を述べる。			

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
1356	E-440-6	Webb, Elizabeth H.								無	朝河が日本食の食事に招待してくれたことに感謝する。			
1357	E-441	Webb, Ulys	1910	12	22	明治43年				無	日本の経済発展に関する卒論を書きたいというオクラホマ大学の学生からの問い合わせ			
1358	E-442	Wendte, Chas. W.	1914	3	31	大正3年				無	Free Religious Association of Americaの年次大会への招待。	Free Religious Association of Americaの会長		
1359	E-443	Westerfield, Ray B.	1939	8	2	昭和14年				無	中国人留学生Ling Tungを紹介し、イエール大学で何か仕事がないか尋ねる。			
1360	E-444-1	Westermayr, Arthur J.	1912	9	19	大正1年				無	自著 <i>Rudra, A Romance of Ancient India</i> を朝河に送ったことを伝える。	Fellow member of the Oriental Society		
1361	E-444-2	Westermayr, Arthur J.	1913	3	28	大正2年				無	朝河の書評へのお礼			
1362	E-445	Wheeler, Alice Gilman	1913	3	11	大正2年				無	近況を述べる。			
1363	E-446	Wheeler, Everett P.	1911	1	27	明治44年				無	朝河の著書 <i>The Russo-Japanese Conflict</i> (『日露衝突』) 寄贈のお礼			
1364	E-447	Wheeler, Lydia	1942	3	17	昭和17年				無	朝河からの贈り物へのお礼			
1365	E-448	Wheeler, Mellicent Ticknor	1908	11	29	明治41年				無	近況を述べる。			
1366	E-449-1	Wheeler, W.E.	1933	10	21	昭和8年				無	近況を述べる。			
1367	E-449-2	Wheeler, W.E.	1935	1	10	昭和10年				無	近況を述べる。			
1368	E-449-3	Wheeler, W.E.	1935	5	12	昭和10年				無	近況を述べる。			
1369	E-449-4	Wheeler, W.E.	1936	11	26	昭和11年				無	近況を述べる。			
1370	E-449-5	Wheeler, W.E.	1937	9	22	昭和12年				無	近況を述べる。			
1371	E-450-1	Whitcomb, J.A.	1917	3	7	大正6年				無	日米関係について述べる。			
1372	E-450-2	Whitcomb, J.A.	1920	12	23	大正9年				無	近況を述べる。			
1373	E-451-1	Wigmore, John H.	1912	11	17	大正1年				無	近況を述べる。			
1374	E-451-2	Wigmore, John H.	1912	12	7	大正1年				無	近況を述べる。			
1375	E-451-3	Wigmore, John H.	1915	2	9	大正4年				無	近況を述べる。			
1376	E-451-4	Wigmore, John H.	1920	2	7	大正9年				無	近況を述べる。			
1377	E-451-5	Wigmore, John H.	1927	11	8	昭和2年				無	近況を述べる。			
1378	E-451-6	Wigmore, John H.								無	近況を述べる。			
1379	E-452-1	Willcox, William	1942	10	17	昭和17年				無	近況を述べる。			
1380	E-452-2	Willcox, William	1942	12	18	昭和17年				無	近況を述べる。			
1381	E-452-3	Willcox, William								無	新年の挨拶			
1382	E-453-1	Williams, Anne J.	1934	2	1	昭和9年				無	近況を述べる。			
1383	E-453-2	Williams, Anne J.	1937	8	23	昭和12年				無	近況を述べる。			
1384	E-454-1	Williams, F.W.	1921	1	14	大正10年				無	近況を述べる。			
1385	E-454-2	Williams, F.W.		1	18					無	近況を述べる。			
1386	E-455	Williams, Frances	1945	7	28	昭和20年				無	近況を述べる。			
1387	E-456	Williston, Dorothy		2	23					無	朝河夫人の写真を送ることを伝える。			
1388	E-457	Winkler, Alexander W.	1946	2	22	昭和21年				無	朝河のクリスマスプレゼントへのお礼			
1389	E-458	Winkler, Frances H.	1946	7	1	昭和21年				無	朝河の書簡へのお礼			
1390	E-459	Wogel, James	1947	7	26	昭和22年				無	近況を述べる。			
1391	E-460	Wolf, Henry M.	1934	9	25	昭和9年				無	近況を述べる。			
1392	E-461-1	Wolfer, Doris	1935	4	26	昭和10年				無	自分に電話してほしいと述べる。			
1393	E-461-2	Wolfer, Doris								無	近況を述べる。			
1394	E-461-3	Wolfer, Doris	1940	3	21	昭和15年				無	朝河に招待のお礼を述べる。			
1395	E-461-4	Wolfer, Doris	1940	5	27	昭和15年				無	朝河にお礼を述べる。			

# 朝河受信書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者詳細	発信地	他資料掲載
1396	E-461-5	Wolfer, Doris								無	朝河にお礼を述べる。			
1397	E-461-6	Wolfer, Doris								無	朝河に食事のお礼を述べる。			
1398	E-462	Woudbine, George E.	1946	6	15	昭和21年				無	近況を述べる。			
1399	E-463	Woods, James H.	1913	12	31	大正2年				無	朝河に招待のお礼を述べる。			
1400	E-464	Woolett, A.	1916	5	19	大正5年				無	面会を楽しみにしていると述べる。			
1401	E-465-1	Worden, Eugene C.	1910	11	12	明治43年				無	The Japan Society of New Yorkへの加入について	The Japan Society of New Yorkの秘書		
1402	E-465-2	Worden, Eugene C.	1911	3	14	明治44年				無	The Japan Society of New Yorkへの加入について			
1403	E-466	Wylie, Matt								無	新年の挨拶			
1404	E-467-1	Yanaga, Chitoshi [弥永千利]	1938	8	1	昭和13年				無	姉崎から朝河と連絡を取り、助言を受けるように言われたことを述べる。	朝河の後任としてイェール大学図書館東アジア・コレクション部長となった人物		
1405	E-467-2	Yanaga, Chitoshi [弥永千利]	1939	5	9	昭和14年				無	朝河からの返事にお礼を述べる。			
1406	E-467-3	Yanaga, Chitoshi [弥永千利]	1939	5	23	昭和14年				無	8月終わりか9月初めにはニューヘブンに行くことを伝える。			
1407	E-467-4	Yanaga, Chitoshi [弥永千利]	1939	6	21	昭和14年				無	朝河の書簡に感謝する。			
1408	E-467-5	Yanaga, Chitoshi [弥永千利]	1945	9	24	昭和20年				無	イェール大学から客員講師としての招聘があったことを述べる。			
1409	E-468	Yerrington, Margaret J.	1945	1	7	昭和20年				無	近況を述べる。	朝河の大学院での教え子		
1410	E-469	Yerrington, Margaret J.	1947	4	22	昭和22年				無	朝河のロシア人の心性についての解釈が興味深いと述べる。			
1411	E-470	Yoshihashi, Takehiko	1938	10	19	昭和13年				無	近況を述べる。			
1412	E-472	Young, Mary G.	1912	10	3	大正1年	1912	10	3	無	近況を述べる。[ミリアム夫人宛]			
1413	E-473	Young, Thos. A.	1927	6	2	昭和2年				無	明日ニューヘブンから東京に向かうことを伝える。			
1414	E-474-1	Yust, Walter	1943	11	15	昭和18年				無	<i>Encyclopedia Britannica</i> の日本の項目について改訂を依頼する。	<i>Encyclopedia Britannica</i> の編集者		
1415	E-474-2	Yust, Walter	1943	11	22	昭和18年				無	朝河の問い合わせに返事する。			
1416	E-475	Zulkowski, Helen	1940	8	17	昭和15年				無	近況を述べる。			
1417	E-476-1	Indian Research Society	1908	2	27	明治41年				無	<i>Research Review</i> を送付したことを述べる。			
1418	E-476-2	(氏名不明)				大正1年	1912	5	15	無	挨拶の葉書。送信者不詳。			
1419	E-476-3	Relt	1916	4	10	大正5年				無	E.K.Hall氏宛書簡の複写。			
1420	E-476-4	Librairie Ancienne Edouard Champion				大正14年	1925	1	15	無	[書物の代金の受領書か]			
1421	E-476-5	[C.S.Lea...wortt] (氏名不明)	1932	2	9	昭和7年				無	Hartmut Piperの書物を教えてもらったことに感謝する。			
1422	E-476-6	[Yonesbrai ?] (氏名不明)	1943	3	7	昭和18年				無	近況を述べる。			
1423	E-476-7	[Filver No...] (氏名不明)	1946	7	17	昭和21年				無	朝河の書簡へのお礼			
1424	E-476-8	(氏名不明)	1935	6	26	昭和10年				無	送信者の身に起こった不幸について			



# その他の書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者について	注記
1	F-1-1	A.J.R.	Okubo,Toshitake [大久保利武]	1926	6	29	昭和1年				無	[写、朝河教授のために]		
2	F-1-2	A.J.R.	Okubo,Toshitake [大久保利武]	1927	2	19	昭和2年				無	[Keogh氏及朝河教授のためのコピー]		
3	F-2	AMERICAN EXPRESS COMPANY	斎藤金太郎	1950	6	20	昭和25年	1950	6	20	有	朝河の遺産の支払い		
4	F-3	Dunham Jr.,William H.	斎藤金太郎	1948	10	11	昭和23年	1948	10	14	有	イエール大学の歴史学部が作成した朝河の追悼文を送付する。	イエール大学教授	
5	F-4	Hayden, J.R.	Nambara Shigeru [南原繁]	1927	12	8	昭和2年				無	自身の手違いで南原繁教授のアメリカ史学会加入が遅れたことを詫げる。		
6	F-5	(朝河貫一) (Jameson J.Franklin)	Adams, George B.	1913	11	18	大正2年				無	朝河の論文を送ってもらったことに感謝する。		
7	F-6	Kozai	Day, Geo.Parmly	1928	3	28	昭和3年				無	提供の申し出のあったアメリカの劇映画について、東京帝大としては受入困難であると謝絶する。		
8	F-7	Okubo,T.T.[大久保利武]	Angell, James R.	1926	10	25	昭和1年				無	日本イエール協会がイエール大学に贈った寄贈品に関して述べる。	日本イエール協会会長	
9	F-8	Onozuka, K.	Day, Geo.Parmly	1928	7	2	昭和3年				無	アメリカの劇映画の記録の複製を提供する申し出に対する回答が遅延したが漸く、受入が決定したことを述べる。		
10	F-9-1	Simpson, Hartley	斎藤金太郎	1948	8	31	昭和23年				無	朝河のイエール大学での経歴について説明する。	イエール大学教授	
11	F-9-2	Simpson, Hartley	斎藤金太郎	1948	9	22	昭和23年				無	斎藤金太郎の手紙への返事		
12	F-9-3	Simpson, Hartley	斎藤金太郎	1948	10	5	昭和23年				無	朝河の遺品の整理について述べる。		
13	F-9-4	Simpson, Hartley	斎藤金太郎	1949	7	12	昭和24年				無	朝河の遺品の整理について述べる。		
14	F-10	Spreyer, Frederick C.	斎藤金太郎	1949	8	16	昭和24年				有	東京にいるが斎藤金太郎に直接、会うことができないことを詫げる。	Raynham Townshendの友人	
15	F-11-1	Takagi, Yasaka [高木八尺]	Day Geo.Parmly	1928	5	25	昭和3年				無	東大当局はアメリカ劇映画の寄贈を受けることを決めたことを述べる。		
16	F-11-2	Takagi, Yasaka [高木八尺]	Day Geo.Parmly	1928	8	23	昭和3年				無	G.P.Dayからの書簡へのお礼		
17	F-12-1	Takagi, Yasaka [高木八尺]	Hayden, J.R.	1926	8	12	昭和1年				無	南原繁教授をアメリカ政治学会の会員に推挙したい旨伝える。		
18	F-12-2	Takagi, Yasaka [高木八尺]	Hayden, J.R.	1927	12	6	昭和2年				無	南原繁教授のアメリカ史学会員申込が、いまだ許諾されないことに対し苦情を述べる。		
19	F-13-1	Takagi, Yasaka [高木八尺]	Mrs.Ladd, George T.	1925	10	15	大正14年				無	故Ladd博士の資料の保存に、東京帝国大学が最適の場であることを述べる。		
20	F-13-2	Takagi, Yasaka [高木八尺]	Mrs.Ladd, George T.	1926	6	3	昭和1年				無	故Ladd博士の資料の東京帝国大学へ寄贈の件について、手続きを公式に進めてほしいと述べる。		
21	F-14-1	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1948	9	24	昭和23年				無	朝河の遺産の相続人についての問い合わせ		
22	F-14-2	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1948	9	27	昭和23年				有	斎藤金太郎からの返事に対するお礼		
23	F-14-3	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1948	10	26	昭和23年	1948	10	26	有	朝河の遺産の相続人についての問い合わせ		
24	F-14-4	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1948	12	6	昭和23年	1948	12	7	有	朝河の遺産の相続人についての問い合わせ		
25	F-14-5	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1949	3	10	昭和24年				無	朝河の遺産の相続人についての問い合わせ		
26	F-14-6	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1949	5	25	昭和24年	1949	5	25	有	朝河の遺産の相続人による相続について		
27	F-14-7	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1949	5	26	昭和24年	1949	5	26	有	朝河の遺産の相続人についての問い合わせ		
28	F-14-8	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1949	6	22	昭和24年	1949	6	22	有	朝河の遺産の相続人についての問い合わせ		
29	F-14-9	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1949	7	6	昭和24年	1949	7	6	有	斎藤金太郎からの返事に対するお礼		
30	F-14-10	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1949	8	2	昭和24年	1949	8	2	有	斎藤金太郎からの書簡への返事		
31	F-14-11	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1949	8	31	昭和24年	1949	8	31	有	斎藤金太郎からの書簡への返事		
32	F-14-12	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1950	1	11	昭和25年	1950	1	11	有	斎藤金太郎からの書簡への返事		
33	F-14-13	Townshend, Raynham	星ハナ子	1950	5	3	昭和25年				無	星ハナ子からの書簡への返事		

## その他の書簡(欧文)

ID	整理記号	送信者	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	送信者について	注記
34	F-14-14	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1950	9	11	昭和25年	1950	9	11	有	斎藤金太郎からの書簡への返事	同上	
35	F-14-15	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1950	10	16	昭和25年	1950	10	16	有	相続人への遺産の配分額を知らせる。		
36	F-14-16	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1950	12	21	昭和25年	1950	12	22	有	遺産の送金を知らせる。		
37	F-14-17	Townshend, Raynham	斎藤金太郎	1951	3	9	昭和26年	1951	3	9	有	斎藤金太郎からの書簡への返事		
38	F-15	Univ.Yale	Kitagawara ko-kai	1921	4	9	大正10年				無	書物の寄贈のお礼	[受信者]奈良・東大寺図書館の司書	

# 朝河貫一略年譜

西暦	和暦	年齢	出来事
1873	明治6	0歳	12月22日 福島県安達郡二本松町根崎下ノ町(現在の二本松市)で、父朝河正澄(旧二本松藩士)、母ウタの長男として生まれる。
1874	明治7	1歳	7月25日 伊達郡立子山村小学校(現在の福島市立立子山小学校)が開校され、父正澄が校長格として赴任する。 8月7日 両親と共に立子山村に移り住み、天正寺庫裡に住居とした。
1876	明治9	3歳	1月19日 母ウタが死去し、二本松市真行寺に埋葬される。
1877	明治10	4歳	6月 父が後妻エヒ(伊達郡梁川町神宮 関根備の妹)を迎える。
1879	明治12	6歳	4月 立子山小学校 初等科に入学する。
1886	明治19	13歳	川俣高等小学校(現在の伊達郡川俣町立川俣小学校)に転校。蒲生義一から英語を学ぶ。
1888	明治21	15歳	4月11日 福島県尋常中学校に入学する。同校はのちに郡山へ移転し、安積中学校(現在の福島県立安積高等学校)と改称。
1889	明治22	16歳	<b>2月 大日本帝国憲法発布</b>
1890	明治23	17歳	4月1日 英国人トーマス・エドワード・ハリファックスが英語教師として同中学校に着任。その教えを受ける。
1892	明治25	19歳	3月24日 同中学校第4回首席卒業、英語で卒業生総代としての答辞を述べる。 5-8月 郡山町の郡山尋常小学校(現在の郡山市立金透小学校)の代用教員(英語教授の嘱託)を勤める。 9月 上京して東京専門学校(早稲田大学の前身)文学科に入学する。 11月 母校英語教師ハリファックスの留任嘆願書を福島県議会に送る。
1893	明治26	20歳	6月2日 本郷教会において横井時雄により洗礼をうけ、キリスト教徒となる。
1894	明治27	21歳	<b>8月 日清戦争勃発(～1895)</b>
1895	明治28	22歳	7月20日 東京専門学校を首席卒業する。 12月7日 横浜港より出航し米国に向かう。大西祝・大隈重信・徳富蘇峰・勝海舟・渡辺弥七らが彼の渡航費を援助する。
1896	明治29	23歳	正月 ニューハンブシャー州ハノーヴァーに着き、ダートマス大学の1年に編入する。
1899	明治32	26歳	6月 ダートマス大学を卒業。 9月 コネチカット州ニューヘブーン市にあるイエール大学大学院歴史学科に入学する。
1902	明治35	29歳	<b>1月 日英同盟締結</b> 6月16日 学位論文“The Reform of 645:An Introduction to the Study of the Origin of Feudalism in Japan”により博士号(Ph・D)を授与される。 9月 母校ダートマス大学の講師(Instructor)となり東西交渉史などを講義する。
1903	明治36	30歳	<i>The Early Institutional Life of Japan:A Study in the Reform of 645 A.D.</i> 出版。
1904	明治37	31歳	<b>2月10日 日露国交断絶。日露戦争勃発(～1905)</b> 夏まで米国各地で講演し、論文を発表して戦争の原因を説く。 11月 <i>The Russo-Japanese Conflict:Its Causes and Issues</i> を英米において刊行し、日本の正義を英米国民に説く。
1905	明治38	32歳	8月 日露講和会議の日本側オブザーヴァーとしてポーツマスに2週間滞在。 10月13日 ミリアム・J・キャメロン・ディングウォールと結婚。
1906	明治39	33歳	1月 ダートマス大学を辞し、イエール大学図書館及び米国議会図書館より日本における日本関係図書の収集を依頼される。 2月16日 横浜港に到着する(第1回帰朝)。父正澄は二本松より横浜に出て10年ぶりに朝河と対面する。 9月20日 父正澄が腸捻転で急死し、真行寺で葬儀を営み、二本松町向山墓地に埋葬する。
1907	明治40	34歳	8月7日 横浜港を出航し、帰米。米国議会図書館に日本書籍9,000余冊をもたらす、同館東洋部の中に初めて日本コレクションの基礎を築く。 9月 イエール大学講師(Instructor,History of Japanese Civilization)となり、日本文化史を担当する。 11月 同大学図書館の東アジアコレクション部長を兼任。
1909	明治42	36歳	6月 実業之日本社から『日本の禍機』を出版。

1910	明治43	37歳	5月 同大学大学院の日本文化史助教授(Assistant Professor,History of Japanese Civilization)に任命される。 <b>8月 日韓併合</b>
1913	大正2	40歳	2月4日 妻ミリアムがバセドー氏病手術後の経過が悪く、死亡。
1914	大正3	41歳	<b>7月 第一次世界大戦(～1918)</b>
1915	大正4	42歳	6月-9月 イタリア・フランス・イギリス3国の調査旅行に出発し、カプリ島のダイアナ・ワッツの別荘で1か月間過ごす。
1917	大正6	44歳	7月5日 横浜港に着く。(第2回帰朝)日本古典籍収集と日本中世史研究のため東京帝国大学史料編纂掛(後の史料編纂所)に留学。
1919	大正8	46歳	6月8-16日 鹿児島県薩摩郡入来村に滞在し、7月20日に帰京する。 9月13日 横浜港で乗船し、帰米。
1923	大正12	50歳	<b>9月1日 関東大震災</b> 9月 イェール大学大学院で西欧中世の封建制の演習と講義を担当するようになる。 9月7日 関東大震災につき駐米日本大使に東大及びその図書館の被災状況の詳報を求める。 10-11月の間米国議会図書館長その他に対し、図書などの寄贈方について努力する。
1929	昭和4	56歳	5月 <i>The Documents of Iriki</i> (『入来文書』)を、イェール大学出版会とオックスフォード大学出版会より出版。
1930	昭和5	57歳	7月 イェール大学の歴史学准教授(Associate Professor,History)に昇進する。
1931	昭和6	58歳	7月 ダートマス大学より名誉文学博士の称号を贈られる。 <b>9月 満州事変勃発</b>
1932	昭和7	59歳	2月21日 満州事変へのアメリカ国民の非難を大久保利武に伝える。
1933	昭和8	60歳	<b>3月 日本、国際連盟を脱退</b> 7月 歴史学研究員(Research Associate,History,教授待遇)となる。
1934	昭和9	61歳	セイブルック・カレッジの準フェロー(評議員)となり、そこに移り住む。
1937	昭和12	64歳	<b>7月 日中戦争(～1945)</b> 7月 イェール大学 歴史学教授(Professor,History)に就任する。
1939	昭和14	66歳	<b>第二次世界大戦(～1945)</b> 10月23日 日本の東亜新秩序論の狂想ぶりを村田勤への手紙で非難する。これらの手紙は村田によって識者たちへ回覧された。
1940	昭和15	67歳	1月28日 鳩山一郎に対して、「新秩序」を批判し、日本は広く自己の客観的な姿を見るよう忠告する。 <b>9月 日独伊三国軍事同盟条約調印</b>
1941	昭和16	68歳	1月19日 村田勤へ日独伊三国の敗北を予言する。 10月12日 日本の大改革を金子堅太郎へ要請する。 11月23日 昭和天皇へのルーズベルト大統領親書案を書き終え、発案者の旧友ラングドン・ウォーナーへ送る。 <b>12月8日 日米開戦(～1945)</b> 12月8日 イェール大学総長とFBIが戦中の朝河の自由と生活庇護を約束。
1942	昭和17	69歳	6月 定年で名誉教授(Professor,Emeritus)就任。セイブルック・カレッジからイェール大学大学院塔の9階に移り住む。蔵書約5,000冊を図書館に寄贈。
1945	昭和20	72歳	<b>8月 広島・長崎に原爆投下 ポツダム宣言を受諾、降伏</b>
1948	昭和23	74歳	8月11日 バーモント州ウエスト・ワーズボロの避暑地の山荘で死去(74歳)
1965	昭和40		遺稿集『莊園研究』(Land and Society in Medieval Japan)が日本学術振興会より刊行。

参考資料:『最後の「日本人」朝河貫一の生涯』(阿部善雄／著, 岩波書店, 1983), 『朝河貫一書簡集』(朝河貫一書簡編集委員会／編, 朝河貫一書簡集刊行会, 1991), 『朝河貫一と四人の恩師』(武田 徹／編著責任, 朝河貫一博士顕彰協会, 2011)

福島県立図書館所蔵  
朝河貫一資料目録 改訂版

平成31年1月18日 発行

編集兼  
発行者

福島県立図書館

〒960-8003 福島県福島市森合字西養山1番地  
TEL. 024(535)3218 FAX. 024(536)4787

編集

甚野 尚志 (早稲田大学文学学術院教授)

印刷・製本

株式会社 プロセス印刷

〒960-8003 福島県福島市森合字屋敷下6-1  
TEL. 024(559)1991 FAX. 024(559)1997

本書に記載されている写真・目録類の無断掲載、転載を禁じます。

